前項ノ規定ハ現役ニ適スル者ニシテ未タ徴收順序定マラサル者ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ徴集ヲ延期セラレタル者ハ其ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徴兵檢査ヲ行フ

第四十條　徴兵檢査ヲ受ケタル者現役兵トシテ徴集セラルルニ因リ家族（戸主ヲ含ミ本人ト世帶ヲ同シクスル者ニ限ル）カ生活ヲ爲スコト能ハサルニ至ルヘキ確證アル場合ニ於テハ二年間徴集ヲ延期ス但シ故意ニ其ノ事故ヲ作爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ徴集ヲ延期セラレタル者其ノ延期期間内ニ於テ其ノ事由止ムトキハ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徴兵檢査ヲ行フ

第一項ノ規定ニ依リ徴集ヲ延期セラレタル者其ノ延期期間ヲ過キ尙其ノ事由止マサルトキハ之ヲ過キタル年ノ翌年ニ於テ徴兵檢査ヲ行フ但シ現役兵又ハ第一補充兵トシテ徴集スルコトナシ

第一項ノ延期期間ハ徴兵檢査ヲ受ケタル年ノ十二月一日ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條　中學校又ハ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムル學校ニ在學スル者ニ對シテハ本人ノ願ニ依リ學校ノ修業年限ニ應シ年齡二十七年ニ至ル迄徴集ヲ延期ス

前項ニ規定スル認定及年齡ノ區分ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ規定ニ依リ徴集ヲ延期セラレタル者ハ在學ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徴兵檢査ヲ行フ但シ一ノ學校卒業ノ日ヨリ六月以内ニ他ノ學校ニ入學スル者ニ付テハ徴集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス

第二項ノ年齡ノ區分ニ基ク最高年齡ニ達スルモ在學ノ事由尙止マサル者ハ最高年齡ニ達シタル年又ハ其ノ翌年ニ於テ徴兵檢査ヲ行フ

第四十二條　徴兵適齡及其ノ前ヨリ帝國外ノ地ニ在ル者（勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク）ニ對シテハ本人ノ願ニ依リ徴集ヲ延期ス

前項ノ規定ニ依リ徴集ヲ延期セラレタル者ハ其ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徴兵檢査ヲ行フ

第四十三條　前條第一項ノ規定ニ依リ徴集ヲ延期セラレタル者ニシテ直系尊屬若ハ妻子ノ死亡若ハ重態ノ爲又ハ官廳ノ命ニ依リ一時帝國内ニ歸還スル者ハ徴集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス但シ歸還後ノ滯在期間九十日ヲ超ユルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ規定スル場合ヲ除クノ外前條第一項ノ規定ニ依リ徴收ヲ延期セラレタル者ニシテ一時帝國内ニ歸還スル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ在留地ノ遠近ニ應シ一年間一回滯在期間九十日ヲ超エサル場合ニ限リ徴集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス

前二項ノ規定ニ該當スル者ニシテ歸還後ノ滯在間ニ於テ疾病其ノ他避クヘカラサル事故生シ前二項ニ規定スル期間内ニ出發シ難キ者アルトキハ其ノ滯在期間ヲ延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ延長シタル期間徴集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス

第四十四條　前二條ノ規定ハ帝國外ノ地ヲ往復スル帝國船舶ノ船員ニ之ヲ準用ス

第四十五條　家族（戸主ヲ含ミ本人ト世帶ヲ同シクスル者ニ限ル）二人以上現役兵トシテ同時ニ在營スル爲家事上ノ支障ヲ生スヘキトキハ一人ノ在營間他ノ者ノ入營ヲ延期スルコトヲ得

第十七條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ入營ヲ延期セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第四十六條　現役兵トシテ入營スヘキ者疾病其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ入營スヘキ期日ニ入營シ難キトキ又ハ第三十九條第一項各號ノ一ニ該當スルトキハ三十一日以内入營ヲ延期スルコトヲ得

現役兵トシテ入營スヘキ者ニシテ前項ニ規定スル入營ヲ延期シ得ヘキ期

間内ニ入營シ難キ者ニ對シテハ更ニ徴兵檢査ヲ行フ但シ第十三條ニ規定スル兵種ニ屬スル者ニ在リテハ更ニ徴兵檢査ヲ行フコトナク次ノ入營スヘキ期日ニ入營セシムルコトヲ得

第四十七條　現役兵トシテ入營スヘキ者入營ノ際行フ身體檢査ニ於テ疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニ因リ三十一日以内ニ治癒ノ見込ナク且勤務ニ堪ヘスト認ムル者ナルトキハ之ヲ歸鄕セシメ第二十一條ノ規定ノ適用ヲ受クル者ヲ除クノ外更ニ徴兵檢査ヲ行フ

前條第二項但書ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ歸鄕セシメラレタル者ニ之ヲ準用ス

第四十八條　現役兵ニ闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ服役第一年次ノ第一補充兵ヲ以テ其ノ徴集順序ニ從ヒ之ヲ補闕スルコトヲ得

第二十七條及第二十八條ノ規定ハ前項ニ規定スル補闕ニ之ヲ準用ス

第四十九條　左ニ掲クル者（第一號、第二號、第五號及第六號ノ者ニ在リテハ徴兵適齡ヲ過キタル者ニ限ル）徴集セラルル場合ニ於テハ第三十三條第一項ニ規定スル抽籤ニ加ヘサルモノトス但シ二人以上アルトキハ其ノ者ノミニ付抽籤ヲ行ヒ徴集順序ヲ定ム

一　第四十一條第三項又ハ第四項ノ規定ニ該當スル者

二　第四十二條第二項又ハ第四十四條ノ規定ニ該當スル者

三　第四十六條第二項ノ規定ニ該當スル者

四　第四十七條ノ規定ニ該當スル者

五　第六十六條第一項ノ規定ニ該當スル者

六　第六十七條ノ規定ニ該當スル者

七　第七十四條ニ規定スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者

八　第七十六條ニ規定スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者

前項ニ掲クル者ノ徴集順序ハ第三十三條第一項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタル者ノ上位トシ同條第四項ノ規定ニ依リ徴集セラルヘキ者ノ徴集順序ハ前項ニ掲クル者ノ上位トス

第五十條　第七十四條又ハ第七十六條ニ規定スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者ニ對シテハ第四十條乃至第四十二條、第四十四條及第四十五條ノ規定ニ依ル延期ヲ爲サス

第五十一條　戸籍ノ記載ノ抹消又ハ遺漏其ノ他ノ事由ニ因リ戸籍ニ記載セラレサル爲本籍ヲ有セサル者ニシテ徴兵檢査ヲ受クヘキ者ヲ發見シタルトキハ發見ノ年又ハ其ノ翌年ニ於テ徴兵檢査ヲ行フ戸籍ノ記載ノ錯誤ノ爲徴兵檢査ヲ受クヘキ者ニシテ之ヲ受ケサリシモノヲ發見シタルトキ亦同シ

徴兵檢査ヲ受ケタル者戸籍ニ記載セラレアル出生年月日ノ訂正ニ因リ徴兵適齡又ハ徴兵適齡未滿ト爲リタルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ除クノ外更ニ徴兵檢査ヲ行フ

一　現役中ノ者又ハ現役ヲ終リタル者

二　補充兵ニシテ教育ノ爲召集中ノ者又ハ其ノ召集ヲ終リタル者

三　第三十七條ノ規定ニ依リ兵役ヲ免除セラレタル者

第五十二條　戸籍法ノ適用ヲ受ケサル者ニシテ徴兵適齡ヲ過キ戸籍法ノ適用ヲ受クル者ノ家ニ入リタル者ニ對シテハ徴集ヲ免除ス

前項ノ規定ハ徴兵適齡ヲ過キ帝國ノ國籍ヲ取得シ又ハ回復シタル者ニ之ヲ準用ス

第五十三條　第三十條、第三十六條、第三十九條第三項、第四十條第二項若ハ第三項、第四十一條第三項若ハ第四項、第四十二條第二項、第四十四條、第四十六條第二項、第四十七條、第五十一條第一項、第六十六條第一項又ハ第六十七條ノ規定ニ依リ徴兵檢査ヲ受クヘキ者年齡三十七年ヲ過キタルトキハ徴集ヲ免除ス

前項ノ年齢ハ第十七條第一項又ハ第二項ニ規定スル現役又ハ補充兵役ノ起算ノ日ニ於ケル年齢トス

第四章　召集

第五十四條　歸休兵、豫備兵、後備兵、補充兵又ハ國民兵ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ニ應シ之ヲ召集ス

第五十五條　歸休兵ハ在營兵ノ補闕其ノ他必要アル場合ニ之ヲ召集スルコトヲ得

服役第一年次ノ豫備兵ハ警備其ノ他ノ必要ニ因リ歸休兵ヲ召集スルモ尚兵員ヲ要スル場合ニ之ヲ召集スルコトヲ得

第五十六條　豫備兵及後備兵ハ勤務演習ノ爲豫備役及後備兵役ヲ通シ五回以内之ヲ召集スルコトヲ得

前項ニ規定スル召集ハ一年一回トシ一回ノ日數ハ陸軍ニ在リテハ三十五日以内、海軍ニ在リテハ七十日以内トス

第五十七條　第一補充兵ハ教育ノ爲百二十日以内之ヲ召集スルコトヲ得

第五十八條　補充兵ニシテ軍隊ニ於テ教育ヲ受ケタル者ハ勤務演習ノ爲之ヲ召集スルコトヲ得

第五十六條ノ規定ハ前項ニ規定スル召集ニ之ヲ準用ス

第五十九條　勤務演習ニ召集セラレタル者召集中犯罪ノ爲又ハ正當ノ事由ナク勤務演習ヲ闕キタルトキハ其ノ闕キタル日數又ハ回數ヲ勤務演習ノ日數又ハ回數ニ算入セス正當ノ事由ナク召集ノ期日ニ後レタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ教育ノ爲召集セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第六十條　歸休兵、豫備兵、後備兵及補充兵ニ對シテハ每年一回簡閲點呼ヲ行フコトヲ得

第六十一條　歸休兵、豫備兵、後備兵又ハ補充兵ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ勤務演習召集又ハ簡閲點呼ヲ免除スルコトヲ得

一　餘人ヲ以テ代フヘカラサル職ニ在ル官吏又ハ官吏待遇者

二　市町村長、助役、收入役其ノ他之ニ準スヘキ職ニ在ル者

三　帝國議會、府縣會、市町村會其ノ他之ニ準スヘキモノノ議員但シ其ノ會期中ニ限ル

四　帝國外ノ地ニ旅行又ハ在留スル者

五　帝國外ノ地ヲ往復スル帝國船舶ノ船員

第六十二條　召集セラレタル者疾病其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ召集ニ應シ難キトキハ十日以内召集ヲ延期スルコトヲ得

召集セラレタル者第三十九條第一項各號ノ一ニ該當シ召集期ニ召集ニ應シ難キトキ又ハ前項ノ規定ニ依リ召集ヲ延期セラレタル者其ノ延期期間内ニ召集ニ應シ難キトキハ召集期日又ハ召集年次ヲ變更ス

前二項ノ規定ハ簡閲點呼ニ參會ヲ命セラレタル者ニ之ヲ準用ス

召集セラレタル者入營ノ際行フ身體檢査ニ於テ疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニ因リ勤務ニ堪ヘスト認ムル者ナルトキハ召集ヲ免除ス

第六十三條　召集セラレタル者召集ニ因リ家族（戸主ヲ含ミ本人ト世帶ヲ同シクスル者ニ限ル）カ生活ヲ爲スコト能ハサルノ確證アル場合ニ於テハ召集ヲ免除ス但シ故意ニ其ノ事故ヲ作爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五章　雜則

第六十四條　第一補充兵ニシテ第四十八條ノ規定ニ依リ現役兵ノ補闕ニ充テラレ現役ニ服スルニ至リタル者ノ既ニ服シタル第一補充兵役ノ期間ハ之ヲ現役ノ期間ニ通算ス

第六十五條　第四十六條ノ規定ニ依リ後レテ入營シタル者又ハ第四十八條第一項ノ規定ニ依リ補闕トシテ後レテ入營シタル者ト雖モ其ノ在營期間ノ計算ニ關シテハ後レシテ入營シタルモノト看做ス但シ犯罪ノ爲又ハ正當ノ事由ナクシテ後レテ入營シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第六十一條第一項ノ規定ニ依リ召集ヲ延期セラレタル者ニシテ其ノ延期期間内ニ召集ニ應シタル者ニ之ヲ準用ス

第六十六條　志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニシテ兵籍ヨリ除カルルニ至リタル者勅令ノ定ムル期間服役セサル者ナルトキハ更ニ徵兵檢査ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ徵兵檢査ヲ受ケタル者現役兵トシテ徵集セラレタル場合ニ於ケル現役期間ノ計算ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第六十七條　短期現役兵トシテ現役ヲ終リタル者年齢二十八年迄ノ間ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ更ニ徵兵檢査ヲ行フ此ノ場合ニ於テ現役兵トシテ徵集セラレタルトキハ前ノ現役期間ヲ後ノ現役期間ニ、前ニ在營シタル期間ヲ後ニ在營スヘキ期間ニ通算ス但シ第十三條ノ規定ニ該當スル現役兵トシテ徵集セラレタルトキハ前ニ在營シタル期間ヲ後ニ在營スヘキ期間ニ通算セス

一　小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ失ヒタルトキ

二　現役ヲ終リタル日ヨリ六月ヲ經過シタル日及其ノ後ニ於テ小學校ノ教職ニ在ラサルトキ

前項ノ規定ハ短期現役兵トシテ現役中小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ失ヒタル者ニ之ヲ準用ス

（參照）昭和六年官報兵役法第六十七條第一項第二號ノ小學校ノ教職中ニ代用教員ヲ含ムヤ否ヤノ件

第六十八條　本法ニ規定スルモノノ外兵役ニ關シ必要ナル屆出テニ付ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十九條　市町村長ハ兵役（第二國民兵役ヲ除ク）ニ在ル者ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ戸籍ノ欄外ニ兵役ノ略符號ヲ附スヘシ

戸籍法第三條ノ規定ハ前項ニ規定スル事務ニ之ヲ準用ス

第七十條　本法中本人ヨリ願出ヲ爲スヘキ場合ニ於テ本人事故アルトキハ戸主之ヲ爲スコトヲ得

第七十一條　本法中戸主ニ關スル規定ハ戸主未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ戸主ノ法定代理人ニ、戸主若ハ戸主ノ法定代理人未タ決定セサルトキ又ハ避クヘカラサル事故アルトキハ家族中家事ヲ擔當スル者ニ之ヲ適用ス

第七十二條　本法中市長ニ關スル規定（第六十一條ノ規定ヲ除ク）ハ區長ヲ以テ戸籍ニ關スル事務ヲ管掌スル者ト爲シタル市ニ在リテハ區長ニ之ヲ適用ス

本法中町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキ者ニ之ヲ適用ス

第七十三條　本法ニ規定スル學校中ニハ帝國外ノ地ニ在リテ帝國臣民ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ指定シタルモノヲ包含ス

第六章　罰則

第七十四條　兵役ヲ免ルル爲逃亡シ若ハ潛匿シ又ハ身體ヲ毀傷シ若ハ疾病ヲ作爲シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第七十五條　現役兵トシテ入營スヘキ者正當ノ事由ナク入營ノ期日ニ後レ十日ヲ過キタルトキハ六月以下ノ禁錮ニ處シ戰時ニ在リテ五日ヲ過キタルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ規定ハ志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレ服役スル者ニ之ヲ準用ス

第七十六條　正當ノ事由ナク徵兵檢査ヲ受ケサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條　第二十四條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲ササル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十八條　前四條ノ規定ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ其ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

附　則

本法ハ昭和二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際現ニ豫備役ニ在ル者ノ服役期間ハ尚從前ノ規定ニ依ル此ノ場合ニ於テハ第五十五條第二項ノ規定ヲ適用セス

本法施行ノ際現ニ補充兵役ニ在ル者ハ第一補充兵役ニ服スルモノトス

本法施行ノ際現ニ徵兵令第二十三條ノ規定ニ依リ入營ヲ延期セラレ居ル者ニ付テハ尚從前ノ例ニ依ル其ノ徵集セラルル場合ニ於ケル徵集順序ニ關シテハ第四十九條ノ例ニ依ル

刑法施行法第二十六條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二　削除

附　則（昭和十年法律第二十一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十年勅令第三十九號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

本法施行前青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ト認メラレタル訓練ヲ修了シタル者ノ在營期間短縮ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

●兵役法第六十七條第一項第二號ノ「小學校ノ教職」中ニ代用教員ヲ含ムヤ否ヤノ件

昭和六年五月二十八日
官報

本件ニ關スル島根縣兵事官ヨリ照會ニ對シ本月二十六日陸營第二三〇一號ヲ以テ右ハ一ノ學校ヨリ他ノ學校ニ轉職スル等ノ際ニ於テ大正十二年ノ「文官又ハ官吏待遇者ニシテ自己ノ都合又ハ病氣ニ因リ退官若ハ退職シ又ハ事務ノ都合ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ハ爾後三ケ月以上經過スルニ非サレハ之ヲ採用セサル」旨ノ閣議決定ノ制限ヲ受ケ再就職マテ一時代用教員ノ職ニ就クノ止ムヲ得サル者ニ限リ特ニ教職ニ在ル者トシテ取扱フコトニ定メラレアル旨陸軍省副官ヨリ回答セリ

●兵役法施行令（抄錄）

昭和二年十一月三十日
勅令第三百三十號

沿革略ス

第二十五條　短期現役兵ハ軍事上ノ必要ニ依リ陸軍又ハ海軍ニ於テ服役セシム但シ本人ノ希望ヲ參酌スルコトヲ得

兵役法第十條第一項但書ノ規定ニ該當スル者ハ之ヲ海軍ニ於テ服役セシムルコトナシ

第二十六條　短期現役兵ノ服役スベキ部隊ニ關シテハ主務大臣之ヲ定ム

第二十七條　短期現役兵ハ之ヲ陸軍ニ在リテハ步兵科、海軍ニ在リテハ兵科ニ屬セシム

第二十八條　短期現役兵ハ陸軍ニ在リテハ入營後概ネ二月ノ後之ニ一等兵ヲ、概ネ四月ノ後之ニ上等兵ヲ命ジ現役滿期ノ際之ヲ伍長ニ任ジ海軍ニ在リテハ入營後概ネ一月半ノ後之ニ三等水兵ヲ、概ネ三月ノ後之ニ二等水兵ヲ、概ネ四月半ノ後之ニ一等水兵ヲ命ジ現役滿期ノ際之ヲ三等兵曹ニ任ズ

兵役法第十條第一項但書ノ規定ニ該當スル者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ入營後概ネ四月ノ後之ニ一等兵ヲ、概ネ六月ノ後之ニ上等兵ヲ命ジ現役滿期ノ際之ヲ伍長ニ任ズ

前二項ノ規定ニ依ル進級及任官ハ陸軍ニ在リテハ聯隊長、海軍ニ在リテハ進級ハ所轄長、任官ハ鎭守府司令長官之ヲ行フ

短期現役兵ニシテ在營間其ノ成績不良ナル者ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル進級ノ一部若ハ全部又ハ任官ヲ爲サシムルコトナシ

第二十九條　短期現役兵ニシテ兵役法第六十七條第二項ノ規定ニ該當スル者アルトキハ其ノ等級ヲ免ジ短期現役兵ノ兵籍ヨリ之ヲ除クベシ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ行フ處分ニ之ヲ準用ス

第三款　在營期間ノ短縮

第三十一條　兵役法第十一條ノ規定ニ依ル在營期間ノ短縮ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル檢定ニ合格シタル者ニ付之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ步兵科ノ兵（戰車兵ヲ除ク）ニ在リテハ六月、其ノ他ノ陸軍兵（第三十三條ニ揭グル兵種ヲ除ク）及海軍兵ニ在リテハ當該兵種ノ本務ニ應ジ六十日以內トス

前項ノ檢定ニ合格シタル者ト雖モ在營間其ノ成績不良ナルトキハ其ノ者ニ付前項ノ規定ニ依ル短縮ヲ行ハズ

兵役法第十一條第二項ニ規定スル課程ノ修得ノ程度ニ關シテハ陸軍大臣、同項ニ規定スル認定ニ關シテハ陸軍大臣及文部大臣之ヲ定ム

第三十二條　兵役法第十二條ノ規定ニ依ル在營期間ノ短縮ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付主務大臣ニ於テ軍事上妨ゲナシト認ムルトキニ限リ之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ概ネ四十日トス

一　青年學校ノ課程又ハ陸軍大臣及文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ト認定シタル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得セザル者

二　前號ニ規定スル陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ前條第一項ノ檢定ニ合格セザルモノ

三　前條第二項ノ規定ニ該當スル者

第三十三條　兵役法第十三條ノ規定ニ依リ在營期間ヲ短縮スベキ兵種ハ輜重兵特務兵及陸軍衞生部ノ兵トス其ノ在營期間左ノ如シ

一　輜重兵特務兵　　概ネ二月

二　看護兵及磨工兵　一年六月但シ陸軍補充令第八十八條ノ二ノ規定ニ依リ看護兵ヲ命ゼラレタル者ノ在營期間ハ入營ノ日ヨリ之ヲ起算シ一年六月トス

三　補助看護兵　　三月

第三章　徵集

第八款　徵集延期

第百條　左ニ揭グルモノハ兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依ル中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムル學校トス

一　師範學校、實業學校（尋常小學校卒業ヲ入學程度トスル修業年限五年又ハ之ト同等以上ノモノニ限ル）、高等學校、大學令ニ依ル大學豫科、專門學校、高等師範學校、大學令ニ依ル大學學部、臨時教員養成所、實業學校教員養成所及青年學校教員養成所但シ研究科、選科等ノ別科ヲ除ク

二　宮內大臣、文部大臣以外ノ各省大臣、朝鮮總督、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使又ハ樺太廳長官ノ所轄學校ニシテ前號ニ揭グル學校

ニ準ズルモノ但シ研究科、還科等ノ別科ヲ除ク

三　前二號ニ揭グル以外ノ學校又ハ前二號ニ揭グル學校ノ別科ニシテ陸軍大臣及文部大臣ニ於テ認定ヲ爲シタルモノ

第百一條　兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ學校ニ在學スル者ニ付徵集ヲ延期シ得ベキ最高年齡左ノ如シ

學校ノ區分	最高年齡
中學校 高等學校尋常科 前條第一號ニ揭グル實業學校	年齡二十二年
師範學校 高等學校高等科及專攻科 大學令ニ依ル大學豫科 修業年限三年又ハ四年ノ專門學校 高等師範學校（專攻科ヲ除ク） 前條第一號ニ揭グル教員養成所	年齡二十五年
修業年限五年以上ノ專門學校 高等師範學校專攻科 大學令ニ依ル大學學部	年齡二十七年

前條第二號又ハ第三號ニ該當スル學校ニ在學スル者ニ付徵集ヲ延期シ得ベキ最高年齡ハ其ノ入學資格及修業年限ニ應ジ前項ノ規定ニ準ジ陸軍大臣之ヲ定ム

第百三條　兵役法第四十三條第二項ノ規定ニ依ル滯在期間左ノ如シ

一　滿洲國（南滿洲鐵道附屬地ヲ除ク）、直隸省、山東省、江蘇省、浙江省、安徽省、福建省、廣東省、廣西省、香港、澳門又ハ沿海州ニ在留スル者ニシテ徵集延期中ノ者　四十日

二　「サガレン」州、「ザバイカル」州以東「シベリア」（沿海州ヲ除ク）、內蒙古、山西省、河南省、湖北省、湖南省又ハ江西省ニ在留スル者ニシテ徵集延期中ノ者　六十日

三　其ノ他ノ地方ニ在留スル者ニシテ徵集延期中ノ者　九十日

第九款　短期現役兵ニ關スル特例

第百四條　短期現役兵徵集ノ爲ノ聯隊區徵兵官ハ聯隊區內道府縣每ニ聯隊區司令官及兵事官（北海道廳及樺太廳ニ在リテハ之ニ相當スル者）ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官ヲ首座トシ當該事務ヲ執行ス

第百五條　短期現役兵ノ身體檢査ニ付テハ聯隊區徵兵副署官ヲ置カザルコトヲ得

第百六條　短期現役兵徵集ノ事務ヲ行フベキ聯隊區徵兵署ハ第六十一條ノ規定ニ拘ラズ便宜ノ地ニ之ヲ設ク

前項ノ聯隊區徵兵署ハ地方長官之ヲ設置ス

第百七條　短期現役兵トシテ服役スベキ者ニ對スル徵兵檢査ハ徵兵適齡又ハ其ノ後ニ於テ師範學校ヲ卒業スル者ニ對シテハ卒業ノ年又ハ其ノ翌年ニ於テ、徵兵適齡前ニ於テ師範學校ヲ卒業シタル者ニ對シテハ徵兵適齡ノ年ニ於テ之ヲ行フ但シ師範學校卒業後引續キ兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラルル者ニ對シテハ其ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ之ヲ行フ

前項ニ規定スル徵兵檢査ノ時期、短期現役兵トシテ服役スヘキ者ノ調查及徵兵檢査通達書ノ交付ニ關シテハ陸軍大臣之ヲ定ム

第百八條　短期現役兵トシテ服役スヘキ者ニシテ朝鮮、臺灣、關東州及南滿洲鐵道附屬地、樺太又ハ第百三條第一號ニ揭クル地域ニ在ル者ノ調查

ハ朝鮮總督府道知事、臺灣總督府總務長官、關東局總長、樺太廳長官又ハ領事官（明治三十二年法律第七十號第十九條ニ規定スル領事官ヲ謂フ以下之ニ同シ）ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第五章　雜則

第百三十九條　兵役法第七十三條ノ規定ニ依ル指定ハ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ陸軍大臣ハ文部大臣及大使ト協議シ其ノ他ノ地ニ在リテハ海軍大臣ハ外務大臣及文部大臣ト協議シテ之ヲ告示ス

附　則　（昭和十年勅令第四十號）

本令ハ昭和十年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス　（昭和十年四月一日ヨリ施行）

本令施行前青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ト認メラレタル訓練ヲ修了シタル者ノ在營期間短縮ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

●兵役法施行規則（抄錄）

昭和二年十一月三十日
陸軍省令第二十四號

追錄　昭和四年三月陸軍省令第三號、九月第一三號、六年二月第三號、八年一月第一號、四月第一三號、一一月第三一號、一〇年三月第三號、六月第六號、九月第一四號、一一月第二〇號、一一年七月第一七號改正

兵役法施行規則左ノ通定ム

兵役法施行規則

兵役法施行規則

第三編　服役

第一章　短期現役兵

第四十六條　陸軍ニ於ケル短期現役兵ノ服役スヘキ部隊ハ左ノ各號ノ區分ニ依ル

一　內地ニ在ル者　卒業シタル師範學校所在地又ハ教職ニ在ル地ノ師管內ニ於テ當該師團長ノ指定スル歩兵聯隊但シ第一師管內歩兵聯隊ニ於テ服役スヘキ人員ノ概ネ半數ハ近衛師團長ノ指定スル近衛師團歩兵聯隊

二　朝鮮又ハ間島（吉林省中延吉、和龍、汪淸及琿春ノ四縣竝ニ奉天省中撫松及安圖ノ二縣ヲ謂フ以下同シ）ニ在ル者　卒業シタル師範學校所在地又ハ教職ニ在ル地ニ從ヒ江原道、咸鏡南道、咸鏡北道及間島ニ在リテハ第十九師團長ノ指定スル同師團歩兵聯隊其ノ他ニ在リテハ第二十師團長ノ指定スル同師團歩兵聯隊但シ教育等ノ關係上必要アルトキハ此ノ區分ヲ變更スルコトアルヘシ

三　臺灣ニ在ル者　臺灣軍司令官ノ指定スル臺灣歩兵聯隊

四　關東州、滿洲國（間島ヲ除ク）又ハ其ノ地附近ニ在ル者　第二十師團長ノ指定スル同師團歩兵聯隊

五　支那ニ在ル者　第十二師團長ノ指定スル同師團歩兵聯隊

六　其ノ他ノ地ニ在ル者　內地ニ在ル者ニ準ス

前項第一號但書ノ規定ニ依リ近衛師團ニ於テ服役セシムヘキ者ニ關シテハ第一師團長ハ近衛師團長ト協議ノ上之ヲ定ムヘシ

第四十七條　短期現役兵トシテ現役中小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ失ヒタル者アルトキハ左ノ如ク取扱フヘシ

一　地方長官ハ其ノ人名及事由ヲ本人ノ服役スル軍隊所管ノ師團長又ハ鎭守府司令長官ニ通知ス

二　師團長前號ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ本人ノ服役スル聯隊長ニ通知ス

三　聯隊長又ハ鎭守府司令長官ハ令第二十九條ノ規定ニ依リ處分シタルトキハ本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知シ聯隊長ニ在リテハ別ニ師團長ニ報告ス

第二章　在營期間ノ短縮

第五十一條　令第三十一條第一項ノ規定ニ依リ歩兵、衛生部及輜重兵特務兵以外ノ陸軍兵ニ付短縮スヘキ在營期間ハ四十日トス

第五十二條　令第三十一條第二項ノ規定ニ依リ在營期間ヲ短縮スヘカラサル者アルトキハ中隊長又ハ之ニ準スル隊長ハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル部隊長ノ認可ヲ受ケ之ヲ本人ニ告達スヘシ

第五十二條ノ二　法第十一條ノ規定ニ依ル在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ノ修得程度左ノ如シ

一　青年學校又ハ昭和十年外務省令第七號在外青年學校令ニ依ル在外青年學校ノ本科又ハ本科及研究科ニ四年以上在學シ其ノ課程ニ付修身及公民科百時、普通學科及職業科ヲ通シ二百五十時、教練科三百五十時以上ヲ修メタルコト

二　地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程、昭和四年朝鮮總督府令第八十九號青年訓練所規程第十五條ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ於テ同規程ニ依ル青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メタル課程、滿洲國駐劄特命全權大使若ハ關東州廳長官ニ於テ昭和十年勅令第九十一號ニ依ル青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程又ハ樺太青年訓練所規程第九條ノ規定ニ依リ樺太廳長官ニ於テ同規程ニ依ル青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メタル課程ヲ年齢十四年（毎年三月三十一日ヲ基準トス）以上ニ於テ四學年以上修了シ教練三百五十時以上ヲ修メタルコト

三　昭和四年朝鮮總督府令第八十九號青年訓練所規程ニ依ル青年訓練所ノ課程（同規程第十三條第二項ノ規定ニ依ルモノヲ除ク）、昭和六年臺灣總督府令第七十三號ニ依ル公立ノ青年訓練施設ノ課程若ハ臺灣總督ニ於テ之ト同等以上ト認メタル課程又ハ樺太青年訓練所規程ニ依ル青年訓練所ノ課程ニ付概ネ四年以上訓練ヲ受ケ修身及公民科百時、普通學科及職業科ヲ通シ二百五十時、教練科三百五十時以上ヲ修メタルコト

四　現役將校ヲ配屬シタル尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ノ第四學年（高等小學校第二學年修了程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第二學年其ノ他之ニ準ス）修了程度以上ノ教練ヲ修メタルコト

五　現役將校ヲ配屬セサル尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル公立商船學校ノ第四學年（高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第二學年其ノ他之ニ準ス）修了程度以上ノ課程ヲ修メタルコト

六　陸軍大臣及文部大臣ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上トシテ指定シタル學校ニ付陸軍大臣ニ於テ告示シタル程度ノ課程ヲ修メタルコト

七　前各號ニ掲クル課程ニ付其ノ二以上ノ課程ヲ修メタル期間ヲ通算シ概ネ四年以上ニ達シ其ノ間ニ於テ第一號ノ科目ニ該當スル科目ニ付各同號ニ規定スル時數以上ヲ修メタルコト

第五十二條ノ三　前條ニ規定スル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ在營期間ヲ短縮セラルヘキモノハ當該課程ノ修得ニ關シ學校長又ハ之ニ準スヘキ者ノ署名捺印シタル證明書ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ前條第四號ノ教練ヲ修メタル者ニ在リテハ當該學校ノ配屬將校（陸軍現役將校學校配屬令又ハ大正十四年勅令第二百四十六號ニ依リ學校ニ配屬シタル現役將校ヲ謂フ以下同シ）ノ署名捺印シタルモノトス

第五十三條　現役兵ノ退營期日ハ附表第一ニ依ル

第四編　徴集

第八章　聯隊區徴兵署ヘノ出頭

第百十六條　徴兵檢査ヲ受クヘキ者通達書又ハ徴兵檢査ノ通知ヲ受ケタルトキハ通達書ヲ携ヘ指定ノ日時ニ徴兵署ニ出頭スヘシ但シ通知ヲ受ケタル者ニシテ通達書ノ交付ヲ受クル爲到著遲延ノ虞アル場合ニ在リテハ通達書ヲ携フルコトヲ要セス

第百十七條　聯隊區徴兵署ニ出頭ヲ命セラレタル者ニシテ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程修得ニ關スル證明書又ハ學業其ノ他醫師、齒科醫師、藥劑師、獸醫師、自動車運轉手、航空機乘員等ノ職業ニ關スル卒業證書、修業證書、免許證、技倆證明書等ヲ有スル者ハ聯隊區徴兵署ニ出頭ノ際之ヲ携行スヘシ

第十六章　現役兵入營

第二款　現役兵ノ交付及受領

第二百三十五條　左記上欄ニ掲クル兵員ハ先ツ其ノ下欄ノ地ニ集合セシメ受領員引率シテ入營部隊ニ到ラシム但シ第二百五十二條ニ規定スル單獨入營ノ手續ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス

第十九師團、朝鮮軍司令官直轄部隊又ハ飛行第九聯隊ニ入營スル兵員	大阪
第二十師團又ハ旅順重砲兵聯隊ニ入營スル兵員	神戸
臺灣若ハ支那ニ在ル部隊又ハ飛行第六聯隊ニ入營スル兵員	門司又ハ下關
關東州又ハ滿洲國ニ在ル部隊（師團及本表中別ニ定ムル部隊ヲ除ク）ニ入營スル兵員	廣島

沖繩聯隊區ヨリ徴集スル兵員ハ第二百五十二條ニ規定スル單獨入營ノ手續ヲ爲シタル者ヲ除クノ外之ヲ那覇ニ集合セシメタル後前條ノ規定ニ依リ之ヲ交付ス

現役兵ノ受領員ニ付テハ附表第三ニ依ル

第四款　青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メタル者及在外部隊入營者ノ特別心得

第二百五十條　現役兵（補闕入營者ヲ含ム）トシテ入營スヘキ者ハ入營ノ際左ノ書類ヲ携行スヘシ

一　青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ニ付陸軍大臣ノ定ムル程度ノ課程ヲ修得シタル者ハ其ノ證明書

二　學校教練ノ檢定ニ合格シタル者ハ當該學校ノ配屬將校ノ交付スル合格證明書（陸軍補充令施行規則第七十九條第一項ノ規定ニ依リ聯隊區司令官ニ合格證明書ヲ差出シタル者ヲ除ク）

第二百五十一條　朝鮮、臺灣、關東州、滿洲國又ハ支那ニ在ル部隊ニ於テ服役スルコトヲ希望スル者ハ本籍地ノ聯隊區司令官ニ宛テタル左ノ樣式ノ願書ヲ身體檢査ヲ受クヘキ徴兵署ニ在ル聯隊區司令官又ハ令第八十一條ノ規定ニ依ル檢査員ニ差出スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ八月十五日迄ニ本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

（用紙適宜）

在外部隊服役願

左記部隊ニ於テ服役致度候ニ付及願出候也

左記

何　隊（朝鮮ニ在ル部隊等）

本籍地　府縣郡市區町村番地

現在地　何々

年　月　日　　本人氏　　名印

同　（本人志願ノトキ年齢二十年未滿ノ者ニ限ル）　戸主氏　　名印

同　（同右）　親權者又ハ後見人氏　　名印

何聯隊區司令官殿

第二百五十二條　第二百三十五條ノ規定ニ依リ集合地ニ集合スヘキ兵員ニシテ入營地附近ニ居住スル爲集合地ニ到ルヲ不便トスル者ハ集合スルコトナク直ニ入營スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ集合地到著期日概ネ十四日前迄ニ單獨入營屆ヲ本籍地ノ市町村長ヲ經テ現役兵證書ヲ交付セラレタル聯隊區司令官ニ差出スヘシ其ノ屆書ノ樣式左ノ如シ

（用紙適宜）

單獨入營屆

本籍地　府縣郡市區町村字番地
現在地　何　々
何兵第何聯（大）隊入營者　氏　名
右單獨入營可致候ニ付及屆出候也
年　月　日
右本人　氏　名印
何聯隊區司令官殿

前項ノ屆書ヲ受理シタル聯隊區司令官ハ單獨入營者ノ本籍地、現在地及氏名ヲ入營期日迄ニ入營スヘキ部隊長ニ通知スヘシ

第二十章　徵集延期

第五款　在學ノ爲ノ徵集延期

第三百十四條　令第百條第二號ニ規定スル學校ニシテ中學校令、師範教育令、實業學校令、高等學校令、專門學校令又ハ大學令ニ依ルモノト爲シタル學校ニ於ケル修業年限ト徵集ヲ延期シ得ヘキ最高年齡ノ關係ニ付テハ令第百一條第一項ニ規定スルモノニ同シ

前項ニ規定スル學校以外ノ學校ニ於ケル徵集ヲ延期シ得ヘキ最高年齡ハ別ニ之ヲ公示ス

第三百十五條　法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ在學ノ爲ヲ以テ初メテ徵集ノ延期ヲ願ハントスル者ハ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ宛テタル左ノ樣式ノ願書ニ學校長之ニ準スル者ヲ含ム）ノ在學證明書ヲ添ヘ其ノ年四月十五日迄ニ到著スル如ク本籍地ノ市町村長ニ差出スヘシ但シ四月十五日迄ニ在學證明書ヲ差出シ難キ者ハ願書ニ其ノ旨ヲ附記シテ差出シ置キ在學證明書ハ之ヲ五月十五日迄ニ差出スコトヲ得

（用紙適宜）

在學徵集延期願

一　本　人　氏名及出生年月日
二　本　籍　地　府縣郡市區町村字番地
三　現　住　地　何　々
四　在學スル學校　何學校第　學年
五　入學ノ年月日　何年何月何日
右ノ通在學中ニ付兵役法第四十一條第一項ニ依リ徵集延期相成度候也
年　月　日　本人　氏　名印
何聯隊區徵兵官殿

市町村長ハ前項ノ願書ヲ受ケタルトキハ之ニ奥書證印ヲ爲シ聯隊區徵兵官ニ差出スヘシ

第三百十六條　前條ノ在學證明書ハ左ノ事項ヲ記載シ學校長（之ニ準スル者ヲ含ム）ニ於テ其ノ發行ノ年月日ヲ記入シ署名捺印シタルモノナルコトヲ要ス

一　本人ノ本籍地、現住地、氏名及出生年月日

二　願出ノ時本人ノ屬スル學科（學部等ヲ含ム）及學年
三　入學ノ年月日
四　本人ノ修學ノ概況（修學ノ實アリヤ否ヲ簡明ニ記ス）
五　本人ノ卒業又ハ修了豫想ノ年月日

第三百十七條　法第四十一條ノ規定ニ依リ既ニ徵集ヲ延期セラレタル者引續キ法第四十一條及令第百條ニ揭クル學校ニ在學スルトキハ每年新ニ在學スル學校長ノ在學證明書（前條ニ規定スルモノニ準シ爾後ノ在學ヲ證明シタルモノトス）ノ交付ヲ受ケ四月十五日迄ニ到著スル如ク本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ差出スヘシ

正當ノ事由ナク前項ニ規定スル在學證明書ヲ差出ササル者ハ法第四十一條ノ規定ニ依ル徵集延期願出ノ意思ナキ者ト看做シ取扱フ

第三百十八條　法第四十一條及令第百一條竝ニ第三百十五條ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレ居ル者其ノ事由止ミタルトキハ（一時事故止屆ヲ差出シタル後全ク事故止ミタル者ヲ含ム）十四日以內ニ書面ヲ以テ本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ屆出ツヘシ其ノ屆書ノ樣式ハ第三百三十四條ニ規定スルモノニ準ス

市町村長前項ノ屆書ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ聯隊區徵兵官ニ差出スト共ニ法第四十一條第三項、同第四項及第四百一條ノ規定ニ依リ徵兵檢査ヲ受ケシムヘキ手續ヲ爲スヘシ

第三百二十條　法第四十一條第三項但書ノ規定ニ該當スル者ハ一時事故止屆ヲ四月十五日迄（四月以後卒業スル者ニ在リテハ卒業ノ日ヨリ十四日以內）ニ本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ差出スヘシ但シ四月十五日迄ニ第三百十五條及第三百十六條ニ規定スル書類ヲ差出ス者ハ該書類ニ前學校長ノ卒業證明書（卒業年月日ヲ明ニスルヲ要ス）ヲ添ヘ差出シ一時事故止屆ハ之ヲ差出スコトヲ要セス

前項ノ一時事故止屆ノ樣式左ノ如シ

（用紙適宜）

一時事故止屆

一　本　人　氏名及出生年月日
二　本籍地　府縣郡市區町村字番地
三　現住地　何　々
四　卒業學校名及卒業年月日
五　入學希望學校、入學試驗期日、豫定入學期日
右一時事故止ミタルニ付及屆出候也
年　月　日
本人　氏　名印
何聯隊區徵兵官殿

前項ノ屆書ニハ卒業シタル學校長ノ證明書及入學セントスル學校長ヨリ願書受理ニ關スル證明書ノ交付ヲ受ケ之ヲ添附スヘシ

第三百二十一條　前條ノ規定ニ依リ一時事故止屆ヲ差出シタル者法第四十一條第三項但書ニ規定スル期間內ニ他ノ學校ニ入學シタルトキハ入學ノ日ヨリ十四日以內ニ第三百十五條及第三百十六條ニ規定スル書類ヲ差出スヘシ

第三百二十二條　在學ニ因ル徵集延期ノ事由ハ法第四十一條第三項但書ノ規定ニ該當スル場合ヲ除クノ外轉校ニ因リ消滅ス但シ轉校カ十四日以內ニ行ハレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ規定ニ該當スル者ハ轉校ヲ終リタル日ヨリ十四日以內ニ左ノ樣式ノ轉校屆ニ新設學校長ノ入學及退學ニ關スル證明書ヲ添ヘ本籍地ノ

市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ差出スヘシ　（用紙適宜）

轉校届

一　本人　氏名及出生年月日
二　本籍地　府縣郡市區町村字番地
三　現住地　何　々
四　初メテ徵集ヲ延期セラレタル年　何年
五　退學　何年何月何日何學校退學
六　入學　何年何月何日何學校入學

右ノ通轉校シタルニ付及届出候也

年　月　日

本人　氏　　名印

何聯隊區徵兵官殿

第三百二十三條　法第四十一條ニ規定スル學校ニ學籍ヲ有スルモ修學ノ實ナキ者ニ對シテハ法第四十一條第一項ノ規定ニ依ル徵集延期ヲ爲スノ限ニ在ラサルモノトス

第三百二十四條　法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ徵集延期ヲ許可シタル者ニ對シテハ其ノ年徵兵檢査ヲ行ハス

第三百二十五條　市町村長ハ法第四十一條ノ規定ニ依ル徵集延期者ニ付徵集延期者名簿（一人一葉トス）ヲ調製シ市役所又ハ町村役場ニ備置クヘシ

前項ノ名簿ハ市町村長聯隊區徵兵署ニ携行シ聯隊區徵兵官ノ閱覽ニ供スヘシ

第一項ノ徵集延期者名簿ノ樣式左ノ如シ

法第四十一條徵集延期者名簿

本籍地	現住地	氏名	出生年月日	延期ノ狀況			摘要
				延期年月日	在學スル學校		
				年　月　日	何學校		
				年　月　日	何學校	前學校卒業後六月以內ニ入學	
				年　月　日	何學校	年月日何學校退學同日入學	

（用紙適宜）

第六款　帝國外ノ地ニ在ル爲ノ徵集延期

第三百三十四條　法第四十二條ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者徵集延期ノ事由止ミタルトキハ十四日以內ニ徵集延期事故止届ヲ本籍地ノ市町村長ニ差出スヘシ其ノ届書ノ樣式左ノ如シ

（用紙適宜）

在帝國外徵集延期事故止届

何年何月何日ヲ以テ兵役法第四十二條ニ依ル徵集延期ノ事由止ミタルニ付及届出候也

本籍地　府縣郡市區町村字番地

年　月　日　　本人　氏　　名印

年月日生

何聯隊區徵兵官殿

第一款　徵兵檢査

第三百六十八條　短期現役兵トシテ服役スヘキ者ノ徵兵檢査ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ行フ

一　徵兵適齡又ハ其ノ後ニ於テ師範學校ヲ卒業スル者ハ卒業スル年（四月以後卒業スル者ハ翌年）ノ二月上旬

二　徵兵適齡前ニ於テ師範學校ヲ卒業シタル者ハ徵兵適齡年ノ二月上旬

三　師範學校卒業後引續キ法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラルル者ハ其ノ事由止ム年（四月以後事由止ム者ハ翌年）ノ二月上旬

四　前各號ニ該當セサル者ニシテ徵兵檢査ヲ受クヘキモノハ徵兵檢査ヲ受クヘキ年ノ二月上旬

第三百六十九條　短期現役兵徵集ノ事務ヲ行フヘキ聯隊區徵兵署ハ聯隊區內道府縣每ニ師範學校所在地ニ之ヲ設ク但シ必要アル場合ニ於テハ聯隊區內ノ他ノ便宜ノ地ニ之ヲ設クルコトヲ得

朝鮮、臺灣、關東州、南滿洲鐵道附屬地又ハ令第百三條第一號ニ揭クル地域ニ在ル者ニシテ短期現役兵トシテ服役スヘキ者ノ身體檢査ノ爲ニハ聯隊區徵兵署ヲ設クルコトナク第百八十一條ノ規定ニ依リ身體檢査ヲ統轄スル區域每ニ師團司令部又ハ軍司令部所在地ニ檢査場ヲ設ク但シ必要アル場合ニ於テハ師團司令部又ハ軍司令部所在地以外ノ地ニ之ヲ設クルコトヲ得

前項ノ檢査場ハ第百八十一條ノ規定ニ依リ身體檢査ヲ統轄スル師團長又ハ軍司令官之ヲ設備ス

第三百七十條　短期現役兵徵集ノ事務ヲ行フヘキ聯隊區徵兵署開設ノ日割ハ聯隊區徵兵官ニ於テ之ヲ公示シ且關係アル官廳及學校長ニ通知スヘシ

前條第二項ニ規定スル檢査場ノ開設日割ハ第百八十一條ノ規定ニ依リ身體檢査ヲ統轄スル師團長又ハ軍司令官之ヲ定メ其ノ隷下ノ檢査員ニ之ヲ指示シ且關係アル官廳及學校長ニ通知スヘシ

第三百七十一條　朝鮮、臺灣、關東州、南滿洲鐵道附屬地又ハ令第百三條第一號ニ揭クル地域ニ於テ行フ短期現役兵徵集ノ爲身體檢査ヲ爲スヘキ檢査員及之ニ屬スル職員ノ任命其ノ他之ニ關スル事項ニ付テハ第百九十四條、第百九十七條第一項及第二百四條ノ規定ヲ準用ス

第三百七十二條　短期現役兵トシテ徵集スヘキ者ノ身體檢査ハ本籍ノ如何ヲ問ハス第三百六十九條ニ規定スル聯隊區徵兵署又ハ檢査場開設ノ區域每ニ當該區域內ニ居住スル者ニ對シ同條ニ規定スル聯隊區徵兵署又ハ檢査場ニ於テ之ヲ行フ

第三百七十三條　短期現役兵トシテ服役スヘキ者ノ聯隊區徵兵署ヘノ出頭ハ第三百六十九條第一項ニ規定スル聯隊區徵兵署開設ノ區域每ニ地方長官之ヲ命ス但シ必要アル場合ニ於テハ市町村長又ハ師範學校長ヲシテ之ヲ傳達セシムルコトヲ得

內地以外ノ地ニ於ケル短期現役兵トシテ服役セシムヘキ者ノ檢査場ヘノ出頭ハ第三百八十三條ノ規定ニ依リ調査シタル者之ヲ命ス

第三百七十四條　前條ノ規定ニ依リ出頭ヲ命セラレタル者疾病其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ身體檢査ニ出頭シ難キ場合ニ於ケル願届ハ直接聯隊區徵兵官又ハ檢査員宛之ヲ爲スヘシ

第三百七十五條　短期現役兵トシテ服役スヘキ者ニシテ海軍ニ於テ服役センコトヲ希望スル者又ハ服役部隊ニ付希望アル者ハ身體檢査ノ際聯隊區司令官又ハ檢査員ノ携行スル短期現役兵服役部隊希望者名簿（其ノ樣式ハ適宜トス）ニ自ラ署名捺印スヘシ

前項ノ規定ニ依リ海軍ニ於テ服役スルコトヲ希望スル者所要人員ヲ超過シタルトキハ抽籤ニ依リ其ノ人員ヲ定ム其ノ抽籤ノ方法ハ適宜トス

第二款　調査及名簿

第三百七十六條　市町村長ハ毎年十二月一日調ヲ以テ左ノ人員ヲ調査スヘシ

一　當該市町村内ノ小學校ノ教職ニ在ル者ニシテ其ノ翌年短期現役兵トシテノ徴兵檢査ヲ受クヘキ者（當該市町村ニ本籍ヲ有スルト否トヲ問ハス）

二　當該市町村ニ本籍ヲ有シ徴兵適齡前師範學校ヲ卒業シ小學校ノ教職ニ在ラサル者ニシテ其ノ翌年第三百六十八條第二號ノ規定ニ依リ短期現役兵トシテノ徴兵檢査ヲ受クヘキ者

三　當該市町村ニ本籍ヲ有シ前各號ニ該當セサル者ニシテ其ノ翌年短期現役兵トシテノ徴兵檢査ヲ受クヘキモノ但シ小學校ノ教職ニ在ル者及師範學校ニ在學スル者ヲ除ク

前項第二號又ハ第三號ニ該當スル者ハ徴兵檢査ヲ受クヘキ年ノ前年十一月中ニ第二號ニ該當スル者ニ在リテハ徴兵適齡届ニ準スル届ヲ、第三號ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ現住地ノ届ヲ本籍地ノ市町村長ニ差出スヘシ在留者ニ在リテハ同時ニ第三百八十三條第一號ノ規定ニ依リ調査スル諸官ニモ亦差出スモノトス

第三百七十八條　地方長官ハ毎年十二月一日調ヲ以テ當該管内ノ師範學校ニ在學スル者ニシテ其ノ翌年徴兵檢査ヲ受クヘキモノヲ調査スヘシ

第四款　入營

第三百九十條　短期現役兵トシテ服役スヘキ者ノ入營期日ハ徴兵檢査ヲ受ケタル年（四月一日以後師範學校ヲ卒業スル者ハ卒業ノ年ノ翌年）ノ四月一日トス

第三百九十一條　海軍ニ於テ服役セシムヘキ短期現役兵ノ人員ハ海軍大臣ノ移牒ニ基キ毎年陸軍大臣之ヲ各師管ニ配當シ師團長ハ師管ニ配當セラレタル人員ヲ聯隊區ニ配當ス

第三百九十二條　師團長ハ短期現役兵ヲ入營セシムヘキ隷下ノ歩兵隊ヲ定メ毎年一月十五日迄ニ他ノ各師團長ニ通知スヘシ

前項ノ通知ニ當リテハ本人ノ居住スル聯隊區又ハ在留地ト服役部隊トノ關係及入營時刻ヲ明示スヘシ

臺灣軍司令官ハ前二項ノ規定ニ準シ各師團長ニ通知スヘシ

第三百九十三條　師團長ハ各師團短期現役兵服兵部隊表ヲ作リ毎年一月三十一日迄ニ之ヲ聯隊區司令官ニ交付スヘシ

第三百九十四條　本籍地ノ聯隊區司令官ハ短期現役兵徴集ノ處分ヲ爲シタルトキハ第四十六條ノ規定及前條ノ表ニ基キ本人ノ希望ヲ參酌シ短期現役兵證書ニ所要ノ記入ヲ爲シ地方長官又ハ令第百八條ニ揭クル諸官ニ送付スヘシ

地方長官及令第百八條ニ揭クル諸官ハ短期現役兵證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第三百九十五條　聯隊區司令官ハ短期現役兵トシテ徴集シタル者ノ人名ヲ本籍地ノ市町村長ニ通知スヘシ

市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ身上明細書及戸籍抄本ヲ調製シ三月二十日迄ニ通知ヲ受ケタル聯隊區司令官ニ送付スヘシ

短期現役兵壯丁名簿ハ短期現役兵證書調製後成ルヘク速ニ、身上明細書及戸籍抄本ハ其ノ入營期日迄ニ聯隊區司令官ヨリ本人ノ服役スル部隊ノ長ニ送付スヘシ

第五款　短期現役兵トシテノ服役ト一般服役トノ關係

第三百九十六條　師範學校ヲ卒業シ引續キ他ノ上級ノ學校ニ在學スル者ニ對シテハ法第四十一條ノ規定ニ依リ徴集ヲ延期スルコトヲ妨ケス徴兵適齡前師範學校ヲ卒業シ徴兵適齡ノ年現ニ他ノ上級ノ學校ニ在學シ居ル者ニ付亦同シ

第三百九十七條　前條ノ規定ニ依リ徴集ヲ延期セラレタル者ト雖モ法第十條ニ規定スル資格ヲ具フル者ハ短期現役兵トシテ服役セシムルモノトス

第三百九十八條　法第六十七條第一項第一號ノ規定ニ該當スル者アルトキハ地方長官又ハ令第百八條ニ揭クル諸官ハ速ニ之ヲ本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

法第六十七條第一項第二號ノ規定ニ該當スル者ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ十四日以内ニ其ノ旨本籍地ノ市町村長ニ届出ツヘシ

法第六十七條第一項第二項ノ規定ニ該當スル者ハ更ニ教職ニ就クト雖モ徴兵檢査ヲ行ヒ一般徴兵トシテノ徴否ヲ定ムルモノトス但シ現役免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三百九十九條　小學校ノ教職ニ在リテ休職ト爲リ居ル者ハ其ノ休職間兵役上ニ關シテハ教職ニ在ル者トシテ取扱フ

短期現役兵トシテ現役ヲ終リタル日ヨリ六月ヲ經過シタル後ニ於テ一ノ小學校ヨリ他ノ小學校ニ轉職スルトキハ其ノ轉職カ同一日ニ於テ行ハルルカ又ハ勝日ヲ連續シテ行ハルルニ非サレハ法第六十七條第一項ノ規定ノ適用ヲ受クルモノトス

第四百條　短期現役兵トシテ服役スル者ト雖モ法令ノ定ムル資格ヲ有スル者ハ本人ノ志願ニ依リ陸海軍ノ他ノ兵籍ニ編入スルコトヲ得

第五編　補則及罰則

第四百一條　徴集ヲ延期セラレタル者、更ニ徴兵檢査ヲ受クヘキ者又ハ徴兵處分未濟ノ者徴集セラルヘキ身分ト爲リタル場合ニ於テハ其ノ年徴兵檢査開始前又ハ徴兵檢査期間内ナルトキハ其ノ年徴兵檢査ヲ爲シ其ノ年

徴兵檢査期間ヲ過キタル後ナルトキハ其ノ翌年徴兵檢査ヲ爲スヘシ

附　則（昭和十年陸軍省令第六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ト認メラレタル訓練ヲ修了シタル者ノ取扱ハ仍從前ノ例ニ依ル

青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修ムル以前ニ於テ青年訓練所若ハ昭和二年勅令第百三十八號ニ依ル關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ト認ムル訓練ヲ受ケタル者ノ當該訓練期間及訓練時數竝ニ昭和十年陸軍省令第一號ニ依リ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ同令公布以前ニ修得シタル者ノ當該修得期間及時數ハ之ヲ第五十二條ノ二ニ規定スル期間及時數ニ通算ス

昭和十年三月三十一日ニ於テ年齡十五年以上ノ者ニシテ青年學校ノ本科又ハ研究科ノ課程ヲ修ムルモノ竝ニ昭和十年三月三十一日ニ於テ年齡十七年以上ノ者ニシテ實業補習學校後期卒業者及尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第三學年修了程度（高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第一學年修了程度其ノ他之ニ準ス）以上ノ學力アルモノノ中第五十二條ノ二第三號ニ規定スル課程ヲ修ムルモノニ付テノ第五十二條ノ二ニ規定スル課程修得ノ程度ニ關シテハ別ニ之ヲ告示ス

附　則（抄錄）（昭和十年陸軍省令第十四號）

本令ハ昭和十年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條ノ二第一號ニ規定スル在外青年學校ノ課程修得程度ハ當分ノ内其ノ一部ヲ減スルモノトシ別ニ之ヲ告示ス

●在學入營延期者暫行規程

昭和二年十一月三十日
陸軍省令第二十六號

在學入營延期者暫行規程左ノ通定ム

在學入營延期者暫行規程

第一條　兵役法附則第四項ノ規定ニ依ル入營延期ハ本人ノ願ニ依リ之ヲ爲スモノトス

前項ノ規定ニ依リ願出ヲ爲サントスル者ハ毎年八月十五日迄ニ入營延期願（附錄第一樣式）ニ學校長ノ在學證明書（附錄第二樣式）ヲ添ヘ本籍地ノ市町村長ニ提出スベシ

願書提出期日ニ於テ入營ヲ延期セラルベキ學校ニ入學ヲ許可セラレ未ダ在學スルニ至ラザル者ハ學校長ノ入學許可ニ關スル證明書ノ交付ヲ受ケ前項ノ願書ニ添附シ置キ入學シタルトキハ直ニ前項ノ在學證明書ヲ提出スベシ

第二條　市町村長前條ノ願書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ願書ニ奥書證印ヲ爲シ之ヲ受ケタル日ヨリ十五日以內ニ本籍地ノ聯隊區司令官ニ提出スベシ

第三條　聯隊區司令官前條ノ願書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ正當ト認ムル者ニ對シテハ入營延期證書（附錄第三樣式）ヲ本人ニ交付スベシ但シ第一條第三項ニ規定スル入學許可ニ關スル證明書ヲ提出シタル者ニ付テハ更ニ在學證明書ヲ提出シタル後之ヲ交付スベシ

第四條　兵役法附則第四項ノ規定ニ依ル入營延期ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ許可スルコトヲ得ザルモノトス

一　入營延期ヲ願出ヅル年ノ九月三十日以前ニ入營ヲ延期シ得ル資格アル學校ニ在學セザル者

二　入營ヲ延期シ得ル資格アル學校ニ在籍スルモ修學ノ實ナキ者

第五條　兵役法附則第四項ノ規定ニ基キ尙從前ノ例ニ依リ取扱ヲ受クル者ハ從前ノ徵兵令第二十五條ノ二第二項ノ規定ニ依リ入營延期ノ事由止ミタル場合ノ屆出ヲ爲スヲ要ス此ノ場合ニ於テ屆出ヲ爲サザルトキハ從前ノ徵兵令第三十條ノ二ノ規定ノ適用ヲ受クルモノトス

前項ノ規定ニ依ル屆書ノ樣式ハ附錄第四樣式ニ依ル

市町村長前項ノ屆書ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ本籍地ノ聯隊區司令官ニ提出スベシ

第六條　兵役法附則第四項ノ規定ニ依リ入營ヲ延期セラレタル者轉校（第八條ニ規定スル場合ヲ除ク）ヲ爲シタルトキハ轉校ヲ終リタル日ヨリ十四日以內ニ本籍地ノ聯隊區司令官ヘ屆出ヅベシ此ノ場合ニ於テハ新舊學校長ノ入學及退學ニ關スル證明書ノ交付ヲ受ケ其ノ屆書ニ添附スベシ

第七條　兵役法附則第四項ニ依リ入營ヲ延期セラレタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一時事故止屆（附錄第五樣式）ヲ前學校ヲ去リタル日ヨリ二十日以內ニ本籍地ノ聯隊區司令官ニ提出スベシ

一　一ノ學校ヲ退學シ其ノ年他ノ上級ノ學校ニ入學ヲ許可セラルベキ者ニシテ未ダ入學ノ許可ヲ受ケザル者

二　一ノ學校ヲ退學シ其ノ年入學試驗ヲ受ケ他ノ上級ノ學校（入學セントスル者ニシテ未ダ入學ノ許否決定セザル者

前項各號ノ一ニ該當スル者入學ノ許否決定シタルトキハ所定ノ期日迄ニ入營延期又ハ入營ニ關スル手續ヲ爲スベシ

第八條　兵役法附則第四項ノ規定ニ依リ入營ヲ延期セラレタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ入營延期ノ事由繼續スル者ト看做シテ取扱フ

一　前條第一項ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲シタル者

二　大學令ニ依ル大學ノ豫科ノ課程ヲ修了シ引續キ直ニ其ノ學部ニ入學スル者

三　高等學校高等科ノ課程ヲ修了シ引續キ直ニ其ノ專攻科ニ入學スル者

四　專門學校ノ豫科ノ課程ヲ修了シ引續キ直ニ其ノ本科ニ入學スル者

五　其ノ他一ノ學校ノ課程ヲ修了シ引續キ直ニ他ノ上級ノ學校ニ入學スル者

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ尙入營延期ノ資格アル者ハ再ビ入營延期ヲ願出ヅルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ第一條第二項ノ規定ニ準ジ再ビ入營延期ノ事由生ジタル日ヨリ七日以內ニ其ノ願ヲ爲スコトヲ要ス

一　第五條ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲シタル者ニシテ未ダ入營セズ且入營延期ノ事由止ミタル年ノ九月三十日迄ニ再ビ就學シタル者

二　第十一條第一項第一號ノ書類ヲ提出シタル者（第十二條ノ規定ニ依リ書類ヲ提出シタル者ヲ含ム）ニシテ入營期日ニ至ルモ入營延期ノ事由尙止マザル者又ハ入營ヲ延期セラルベキ資格ガ新ニ生ジタル者

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ入營延期ノ事由止ミタル者ト看做シ之ヲ取扱フベシ

一　第一條ノ規定ニ依リ學校長ノ入學許可ニ關スル證明書ヲ提出シ入營延期ノ願出ヲ爲シタル者ニシテ入學期日後十四日以內ニ學校長ノ在學證明書ヲ提出セザル者

二　第七條ノ規定ニ依リ一時事故止屆ヲ提出シタル者ニシテ九月三十日迄ニ爾後ノ手續ヲ爲サザル者

三　在學ノ故ヲ以テ入營ヲ延期セラレタル者ニシテ其ノ年所定ノ期日迄ニ更ニ別段ノ手續ヲ爲サザル者

四　第六條ノ規定ニ依リ轉校ヲ爲シタル者ニシテ舊校ヲ去リタル日ヨリ十四日以內ニ新校ニ在學セザル者

第十一條　兵役法附則第四項ノ規定ニ依リ入營ヲ延期セラレタル者入營ヲ爲サントスルトキノ手續及取扱左ノ如シ

一　入營セントスル者ハ左ノ書類ヲ入營ノ年（一月入營ノ者ハ其ノ前年）ノ八月十五日迄ニ本籍地ノ市町村長ニ提出スベシ

（イ）入營屆（附錄第六樣式）

（ロ）戸籍謄本（屆出ノ際交付ヲ受ケタルモノ）但シ一年志願兵願提出後戸籍ニ異動ナキ者ハ提出スルニ及バズ

（ハ）學校長ノ卒業證明書（鐵道隊、電信隊若ハ飛行隊ニ屬スル幹部候補生又ハ經理部、衛生部若ハ獸醫部ノ幹部候補生タルコトヲ志願スル者ニ限ル）

二　市町村長前號ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ屆出期日前迄ニ他師管ニ全戸寄留シ又ハ外地ニ在留スル者ニシテ其ノ地附近ノ軍隊ニ入營スルコトヲ希望スル者ノ屆書ニハ其ノ者ノ住居ニ關スル證明ヲ爲シ屆書類ヲ八月三十一日迄ニ本籍地ノ聯隊區司令官ニ提出スヘシ

第十二條　入營延期ノ事由止ミ第五條ノ規定ニ依リ其ノ旨ヲ屆出ヅル者ハ其ノ屆書ト共ニ前條第一號ノ書類ヲ提出スヘシ

第十三條　陸軍補充令第百二十五條ノ規定ニ依リ幹部候補生ト爲スヘキ者ニ對スル入營ノ取扱竝ニ身上異動ニ關シテハ陸軍補充令施行規則中幹部候補生ノ入營竝ニ身上異動ニ關スル規定ヲ準用ス但シ入營ノ命令ハ陸軍補充令施行規則第九十七條ノ規定ニ準ズル幹部候補生入營命令書ニ依ルモノトス

附　則

本令ハ昭和二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附錄第一樣式　（用紙適宜）

在學入營延期願

一　本人　氏名及出生年月日
二　本籍地　府縣郡市區町村字番地
三　現住地　何々
四　在學スル學校　何學校第　學年
五　入學ノ年月日　何年何月何日

右ノ通在學中ニ付兵役法附則第四項ノ規定ニ依リ入營延期相成度候也

年　月　日　本人　氏　名印

何聯隊區司令官殿

右ノ通相違無キコトヲ證ス

年　月　日　府縣郡市區町村長　氏　名職印

附錄第二樣式　（用紙適宜）

在學證明書

一　本人　氏名及出生年月日
二　本人ノ屬スル學科　學部等ヲ含ム）及學年
三　入學ノ年月日
四　本人ノ修學ノ概況（修學ノ實アリヤ否ヲ簡明ニ記ス）

年　月　日　何學校長　氏　名印

附錄第三樣式　（用紙厚紙）

（表）　十二糎

在學入營延期證書

何聯隊區
府縣郡市區町村字番地
戸主某「長（二）男」兄（弟）」本人戸主ナルトキハ戸主ト記スヘシ
氏　名

右兵役法附則第四項ニ依リ入營ヲ延期ス

年　月　日　何聯隊區司令官　職印

（裏）　十五糎

心得

一　本證書ハ翌年裁決ノ前日迄其ノ效力ヲ有ス但シ翌年裁決前ト雖モ入營延期ノ事由止ムトキハ同時ニ效力ヲ失フ

註記

一　本用紙ハ聯隊區司令部ニ於テ調製スヘシ
二　裏面記載事項ハ適宜增加スルコトヲ得

附錄第四樣式　（用紙適宜）

在學入營延期事故止屆

何年何月何日ヲ以テ兵役法附則第四項ニ依ル入營延期ノ事由止ミタルニ付及屆出候也

本籍地　府縣郡市區町村字番地
年　月　日　本人　氏　名印
年月日生

何聯隊區司令官殿

附錄第五樣式　（用紙適宜）

在學入營延期一時事故止屆

一　本人　氏名
二　本籍地　府縣郡市區町村字番地
三　現住地　何々
四　卒業又ハ退校學校名及卒業又ハ退校年月日
五　入學希望學校、入學試驗期日、豫定入學期日

右一時事故止ミタルニ付及屆出候也

年　月　日　本人　氏　名印

何聯隊區司令官殿

附錄第六樣式　（用紙美濃白紙）

入營屆

本籍地　府縣郡市區町村字番地
現住地　何々
氏　名
年月日生

右ノ者兵役法附則第四項ニ依リ入營延期相成居候處入營致度ニ付及屆出候也

追テ希望事項其ノ他左ノ通ニ有之候

左記

一　希望兵科部　（第一）　何兵　（第二）　何部
二　希望入營部隊　何兵第何聯（大）隊
三　卒業又ハ修了シタル學校名及學科名　何年　月　日　何校卒業　何年　月　日何校卒業何學年修了

年　月　日　右　氏　名印

何聯隊區司令官殿

右吉ハ年月日以來何師管（何地）ニ全戸寄留（在留）ヲ爲スコトヲ證ス

年　月　日　何市區町村長　氏　名職印

註記

陸軍補充令施行規則附錄第二樣式註記第二號乃至第六號ノ規定ハ本屆ノ記載ニ之ヲ準用ス

●徴集ヲ延期シ得ヘキ最高年齢

昭和三年五月十六日
陸軍省告示第十二號

追加　昭和五年四月陸軍省告示第一四號、六年四月第一六號、八月第二八號、七年五月第一五號、八年四月第一三號、五月第一七號、六月第二九號、一〇月第四一號、第四五號、九年一月第三號、三月第一二號、四月第二一號、第二三號、第二四號、七月第三〇號、八月第三四號、一〇年二月第四號、第七號、四月第二〇號、第二二號、一二月第四七號、一一年四月第一六號、第一九號、第二四號、八月第三八號改正

兵役法施行令第百條第二號ニ該當スル學校ニシテ兵役法施行規則第三百十四條第一項ニ掲クル學校以外ノ學校又ハ兵役法施行令第百條第三號ニ該當スル學校ニ在學スル者ニ付徴集ヲ延期シ得ヘキ最高年齢左ノ如シ

學校ノ區分	最高年齢
私立明治學院中學部	年齢二十二年
私立慶應義塾普通部	
私立青山學院中學部	
世田谷中學	
明倫中學	
立正中學	
同志社中學	
東寺中學	
聖峰中學	
兩洋中學	
關東學院中學部	
私立關西學院中學部	
讓西學院中學部	
私立有恒學舍	
高田中學	
私立東北學院中學部	
梅檀中學	
山口縣多多良中學	
高野山中學	
西南學院中學部	
私立九州學院	
比叡山中學	
麻布夜間中學	
松本夜間中等學校	
東京市立九段中學	
兵庫縣立第一神戸夜間中學	
兵庫縣立第二神戸夜間中學	
兵庫縣立御影夜間中學	
兵庫縣立姫路夜間中學	
長崎市立夜間中學	
南都正強中學	
東京府立四中夜間中學	
東京府立七中夜間中學	
山形縣立山形夜間中學	
福岡縣福岡夜間中學	
福岡縣八幡夜間中學	
東京市立上野中學	
昌平中學	

佐世保市立夜間中學	
大阪府立市岡夜間中學	
東京府立三中夜間中學	
東京府立五中夜間中學	
東京府立六中夜間中學	
大阪府立高津夜間中學	
修道學校	
天理中等學校	
岐阜縣岐阜夜間中學	
青森市立青森夜間中學	
德島縣立德島夜間中學	
札幌夜間中學	
松山高等商業學校別科	
東京高等蠶絲學校養蠶實科	
東京高等工藝學校木材工藝別科	
盛岡高等農林學校農學實科	
長崎高等商業學校貿易別科	
桐生高等工業學校別科	
京都高等蠶絲學校蠶業實科	
山口高等商業學校貿易別科	
彦根高等商業學校別科	
横濱高等商業學校貿易別科	
岐阜高等農林學校實務科	
東奥義塾	
神宮皇學館普通科	
鐵道局教習所普通部	
朝鮮教育令ニ依ル高等普通學校	
朝鮮教育令ニ依ル師範學校專常科	
朝鮮教育令ニ依ル師範學校講習科（師範學校規程第百一條第二項ノ規定ニ基ク昭和六年朝鮮總督府告示第二百十二號及昭和九年朝鮮總督府告示第三百十七號ノ講習科）	
朝鮮總督府遞信局海員養成所本科及練習科	
朝鮮總督府鐵道從事員養成所本科	
臺灣教育令ニ依ル師範學校講習科（臺灣總督府師範學校規則第四十五條第一號ニ依ル師範學校講習科）	
日本體育會體操學校高等師範科	年齢二十五年
愛知專學校 高等科	
帝國美術學校（本科第一部及師範科ニ限ル）	
神宮皇學館本科	
遞信官吏練習所	
鐵道局教習所專門部	
農林省所管水產講習所本科	
長崎高等商業學校海外貿易科	
山口高等商業學校支那貿易科	
名古屋高等商業學校商工經營科但シ選修生及委託生ヲ除ク	
朝鮮教育令ニ依ル師範學校（專常科及講習科ヲ除ク）	

臺灣ニ於ケル教育令ニ依ル師範學校（講習科ヲ除ク）
樺太廳中學校附設小學校教員講習所
農林省所管水產講習所（本科ヲ除ク）　　年齡二十七年

●實業學校第二部ノ徵集延期ノ資格ニ關スル件

昭和六年五月二十九日
官報

工業學校規程、農業學校規程、商業學校規程及水產學校規程中ニ夫々規定セラレアル第二部ハ徵集延期ノ資格ヲ有スルヤ否ヤニ關スル文部省實業學務局長ヨリノ照會ニ對シ一昨二十七日陸普第二三二〇號ヲ以テ右ハ何レモ年齡二十二年マテ資格アル旨陸軍省副官ヨリ回答セリ

●盲學校及聾唖學校初等部ノ教職ニ在ル者ノ兵役ニ關スル件

昭和三年八月二十三日
官報

文部次官ヨリ陸軍次官宛左ノ通照會アリタルニ對シ見解ノ通取扱フ旨回答セリ

盲學校及聾唖學校ノ初等部ハ其ノ目的、修業年限、入學資格等尋常小學校ト略同一ニシテ又兒童就學ニ關シテハ小學校令ニ依リ市町村立尋常小學校ト同視スルコト相成居ルニ付テハ之カ教職ニ在ル者ニシテ短期現役兵トシテ現役ヲ終リ年齡二十八年未滿ノ者ハ小學校ノ教職ニ在ル者ト同樣ニ兵役法第六十七條ノ適用セラレサル儀ト存スルモ念ノ爲貴省ノ御意見承知致度

●徵兵令（抄錄）

明治二十二年一月二十二日
法律第一號

注意　本法ハ昭和二年三月法律第四十七號ヲ以テ改正セラレタルモ參考ノタメ仍當分之ヲ存置ス
沿革略

豫徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

徵兵令

第十三條　左ニ揭クル者ニシテ陸軍豫備役後備役將校同相當官タルノ希望ヲ有スル滿十七歲以上二十一歲未滿ノモノハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得此場合ニ於テハ其現役中ノ食料被服裝具等ノ費用ハ自辨トス但費用ノ一部ヲ官給スルコトアル可シ

第一　官立學校小學科及選科等師範學校又ハ中學校ヲ卒業シタル者

第二　勅令ノ定ムル所ニ依リ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムル學校ヲ卒業シ又ハ學校ノ課程ヲ修了シタル者

前項ニ揭クル學校ニ在學スル者ニシテ二十二歲未滿迄ニ卒業又ハ修了シ入營スルコトヲ得ルモノ亦前項ニ同シ

前項ニ依リ志願ヲ爲シタル者ハ卒業又ハ修了迄入營ヲ延期ス

第二項　揭クル者滿二十二歲以上ニ非サレハ卒業又ハ修了シ入營スルコトヲ得サルニ至リタルトキハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第一項又ハ第二項ニ依リ現役ニ服スル者ハ其服役中之ヲ一年志願兵ト稱ス

六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

一年志願兵ノ現役ヲ終リタル者ノ豫備役後備役期間ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　二十歲未滿ニシテ師範學校ヲ卒業シタル者又ハ滿二十歲以上ニシテ師範學校ニ在學シ滿二十三歲迄ニ之ヲ卒業スヘキ者ハ一箇年間陸軍現役ニ服セシム

前項ニ依リ現役ニ服スル者ハ其現役中之ヲ一年現役兵ト稱ス

第一項ノ場合ニ於テ師範學校在校中ノ者ハ卒業迄入營ヲ延期ス

一年現役兵ノ現役ヲ終リタル者ハ直ニ第一國民兵役ニ服セシム

一年現役兵トシテ現役ニ服スヘキ者、其現役中ノ者又ハ其現役ヲ終リタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ徵集ス但滿二十一歲以上ノ者ノ徵集ハ抽籤ノ法ニ依ラサルモノトス

第一　滿二十三歲迄ニ師範學校ヲ卒業セサルニ至リタルトキ

第二　師範學校卒業ノ年ニ入營シタル者其現役ヲ終リタル日ヨリ六箇月ヲ經過シタル後ニ於テ小學校ノ教職ニ在ラサルコトアルトキ

第三　師範學校卒業ノ年ニ入營セサル者卒業ノ日ヨリ二箇年ヲ經過シタル後ニ於テ小學校ノ教職ニ在ラサルコトアルトキ

第四　小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ有セサルニ至リタルトキ

一年現役兵ノ現役ヲ終リタル者前項ニ依リ徵集セラレタルトキハ一箇年現役期間ヲ短縮ス

第五項第二號乃至第四號ハ滿二十八歲ヲ過キタル後小學校ノ教職ヲ退キタル者ニ付テハ之ヲ適用セス

第二十三條　一年志願兵トシテ服役スヘキ者ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ修業年限一箇年以上ノ專門學校若クハ之ト同等以上ト認ムル學校又ハ高等學校ニ在校スルモノニ對シテハ本人ノ願ニ由リ其學校ノ修業年限ニ應シ滿二十七歲迄入營ヲ延期ス

一年志願兵トシテ服役スヘキ者其服役ヲ爲ササルトキハ之ヲ徵集ス但滿二十一歲以上ノ者ノ徵集ハ抽籤ノ法ニ依ラサルモノトス

第二十三條ノ二　第七條ノ二第二項ニ依リ兵役ニ服スヘキ者又ハ第十四條第五項若クハ前條第二項ニ依リ徵集セラルヘキ者ニシテ滿二十七歲迄ノモノハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得此場合ニ於テハ第十三條ヲ適用ス

前項ニ依リ志願ヲ爲シタル者ニ對シテハ第二十三條第一項ニ依ル延期ヲ爲サス

附　則（大正十年法律第二十四號）

本法ハ大正八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二項（省略）

本法施行ノ際舊法第二十三條第一項ノ規定ニ依リ徵集猶豫中ノ者ノ其ノ事故ニ依ル徵集猶豫及其ノ事故止ミタル場合ニ於ケル屆出ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

本法施行ノ際舊法第二十三條第一項ノ規定ニ依リ徵集猶豫中ノ者又ハ從前ノ規定ニ依リ一年志願兵タルノ資格ヲ有スル者ノ一年志願兵ノ志願ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

前項ニ揭クル者ノ外本法施行ノ際徵集猶豫ヲ受クルコトヲ得ル學校ニ在校中ノ者ノ其ノ事故ニ依ル徵集猶豫及其ノ事故止ミタル場合ニ於ケル屆出竝一年志願兵ノ志願ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

前二項ノ規定ニ依リ一年志願兵ヲ志願シタル者ハ本法ニ依リ一年志願兵ヲ志願シタル者ト看做ス

本法施行ノ際師範學校ニ在校中ノ者又ハ從前ノ規定ニ依リ六週間現役兵タル資格ヲ有スル者ハ仍從前ノ規定ニ依リ之ヲ六週間陸軍現役ニ服セシム

前項ノ規定ニ依ル六週間陸軍現役ヲ終リタル者又ハ其ノ服役中教職ヲ罷メ

タル者ノ服役ニ付テハ仍従前ノ規定ニ依ル

本法施行ノ際一年志願兵若ハ六週間現役兵タル者又ハ其ノ服役ヲ終リタル者ノ服役ニ關シテハ仍従前ノ規定ニ依ル

六週間陸軍現役中ノ者又ハ其ノ服役ヲ終リタル者満二十八歳迄ニ教職ヲ罷ムルトキハ十四日内ニ本籍ノ市町村長ニ届出ツヘシ

前項ノ市町村長ニ付テハ第二十九條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第三項、第五項又ハ第十項ノ届出ヲ爲ササル者ノ罰第三十條ノ二ニ同シ

従前ノ規定ニ依リ徴集ヲ猶豫セラレタル者ヲ徴集スル場合ニ於テハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徴集ス

末項　省略）

●昭和十年ニ於ケル徴募事務ノ特例ニ關スル件

昭和十年二月十五日
陸軍省令第一號

昭和十年ニ於ケル徴募事務ノ特例ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　兵役法施行規則（以下規則ト稱ス）第二十九條第三號ニ規定スル期日ハ之ヲ九月二十日迄トス

第二條　規則第百三條第一項ニ規定スル聯隊區徴兵署ノ事務執行期間ハ之ヲ四月二十五日ヨリ八月二十六日迄トス

規則第九十七條第一號ニ規定スル期日ハ之ヲ八月二十六日迄、同條第二號ニ規定スル期日ハ之ヲ三月二十五日迄トス

第三條　規則第百四十八條第一項ニ規定スル抽籤執行期日ノ終期ハ之ヲ九月二十日トス

第四條　左ノ各號ニ掲クル書類ノ取扱期日ハ之ヲ各其ノ下段ニ規定スル期日トス

一　規則第百五條第一號ニ規定スル聯隊區徴兵署開設日割表ノ差出（通知）期日　……三月五日迄

二　規則第百五條第三號ニ規定スル聯隊區徴兵署開設日割表及師管内徴兵署開設日割表ノ差出期日　……三月二十日迄

三　規則第二百十三條表中ニ規定スル現役兵壯丁名簿ノ送付期日　……十二月中ニ入營スヘキ者ニ付テハ十二月三十一日迄、昭和十一年一月以後入營スヘキ者ニ付テハ十二月五日迄

四　規則第二百二十七條第一項ニ規定スル戸籍抄本ノ差出期日　……十二月中ニ入營スヘキ者ニ付テハ十一月十日迄、昭和十一年一月以後入營スヘキ者ニ付テハ十二月十日迄

五　規則第二百二十七條第二項ニ規定スル戸籍謄本ノ送付期日　……十二月中ニ入營スヘキ者ニ付テハ十一月二十日迄、昭和十一年一月以後入營スヘキ者ニ付テハ十二月二十五日迄

第五條　規則第二百五十一條但書ニ規定スル在外部隊服役願ノ差出期日ハ之ヲ九月十五日迄トス

第六條　規則第二百九十七條第二項及規則第三百四十二條第一項ニ規定スル期日中「八月三十一日」ヲ「九月二十日」トス

第七條　陸軍諸學校生徒採用規則第百三十五條第三項ニ規定スル陸軍戸山學校軍樂生徒志願者ノ身體檢査ハ七月三十一日迄ニ之ヲ執行スルモノトス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍補充令（抄錄）

昭和二年十一月三十日
勅令第三百三十一號

追錄　昭和六年四月勅令第四〇號、七年五月第七五號、八年四月第七一號、九年一〇月第二九二號、一〇年九月第二六四號、一二月第三二六號、一一年七月第二三三號改正

陸軍補充令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍補充令

第一章　現役士官ノ補充

第一款　各兵科士官

第一條　歩、騎、砲、工、航空、輜重兵科現役士官ハ士官候補生又ハ少尉候補者ニシテ少尉ニ任ゼラルルノ資格ヲ具フル者ヲ以テ之ヲ補充ス

第三條　士官候補生ハ陸軍士官學校豫科生徒ノ課程ヲ卒業シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

第二款　技術將校

第十九條　技術將校タルヘキ各兵科士官

技術將校タルヘキ各兵科士官ハ見習士官ニシテ中尉ニ任ゼラルルノ資格ヲ具フル者ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第二十條　前條ノ見習士官ハ大學令ニ依ル大學ノ工學部又ハ理學部ニ於テ工學又ハ理學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者ニシテ年齡三十年未滿ノ者ヨリ銓衡ノ上之ヲ採用ス

禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、破産ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得ザル者又ハ身體檢査ニ合格セザル者ハ之ヲ採用スルコトヲ得ズ

第一項ニ規定スル年齡ハ採用スル年ノ三月三十一日ニ於ケル年齡トス

見習士官ノ人員ハ陸軍大臣毎年之ヲ定ム

第二十一條　見習士官ハ陸軍大臣之ヲ命ジ便宜ノ軍隊ニ配當シ概ネ二月間所屬隊及陸軍技術本部ニ於テ技術將校タルヘキ士官ノ勤務ヲ習得セシム

見習士官ノ身分ハ曹長ノ階級トス

第三款　經理部士官

第二十四條　經理部現役士官ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ヲ補充ス

一　經理部士官候補生ニシテ三等主計ニ任ゼラルルノ資格ヲ具フル者

二　三等主計候補者ニシテ三等主計ニ任ゼラルルノ資格ヲ具フル者

三　見習主計ニシテ二等主計ニ任ゼラルルノ資格ヲ具フル者

第二十五條　經理部士官候補生ハ陸軍經理學校豫科生徒ノ課程ヲ卒業シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條ノ二　經理部士官候補生ハ陸軍大臣之ヲ命ジ師團司令部所在地ノ歩兵聯隊ニ配當シ概ネ五月間所屬隊ニ於テ當該兵科士官候補生ニ準スル勤務及軍事學ヲ習得セシム

第二十五條ノ三　經理部士官候補生ハ入營ノ後直ニ上等兵ノ階級ヲ與ヘ概ネ二月ノ後三等計手ノ階級ニ、概ネ四月ノ後二等計手ノ階級ニ進ム

第二十五條ノ四　經理部士官候補生第二十五條ノ二ニ規定スル勤務及學術ヲ習得シタルトキハ陸軍大臣ハ陸軍經理學校ニ本科生徒トシテ之ヲ入學セシム

第二十五條ノ五　戰時又ハ事變ニ際シ經理部士官ノ補充上必要アルトキハ第二十五條ノ二及前條ノ規定ニ拘ラズ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ經理部士官候補生ヲ陸軍經理學校ニ本科生徒トシテ入學セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二十五條ノ三ノ規定ヲ準用ス

第二十五條ノ六　經理部士官候補生陸軍經理學校本科生徒ノ課程ヲ卒業シ歸隊シタルトキハ一等計手ノ階級ニ進メ見習主計ヲ命ジ概ネ二月間所屬隊及當該師團經理部ニ於テ其ノ本務ニ必要ナル勤務ヲ習得セシム

第二十五條ノ七　見習主計ヲ命セラレタル經理部士官候補生ヲ經理部士官

ト爲スノ可否ハ所屬隊所在地ニ於ケル當該師團軍醫部所管一等主計以上ノ者ヲ以テ組織スル經理部士官銓衡會議ニ於テ之ヲ決ス

前項ノ會議ニ於テ可決セラレタル者ハ三等主計ニ任ゼラルルノ資格ヲ具フルモノトス

第二十五條ノ八　經理部士官候補生ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ經理部士官候補生ヲ免ズ

一　軍紀ヲ紊リ若ハ風法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ見込ナキ者

二　經理部士官タルノ才能ニ乏シキ者

三　諸勤務ノ習得充分ナラズ又ハ疾病其ノ他身體若ハ精神ノ異常ニ因リ一般ノ入學時期ヨリ一月後ニ非サレハ陸軍經理學校ニ本科生徒トシテ分遣シ得サル者

四　陸軍經理學校令ノ定ムル所ニ依リ退校處分ヲ命ゼラレタル者

五　經理部士官銓衡會議ニ於テ否決セラレタル者

六　疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニ因リ現役ノ服役ニ堪ヘザル者

七　前各號ニ揭グル者ノ外經理部士官タルニ適セズト認メタル者

第二十五條ノ九　前條第三號ニ該當スル者又ハ陸軍經理學校令第二十八條第三號若ハ第四號ニ該當シ退校處分ヲ命セラレタル者ノ中尚望アル者ハ前條ノ規定ニ拘ラズ一回ヲ限リ更ニ指定スル入學時期迄所屬隊ニ止ラシムルコトヲ得

第三十條　第二十四條第三號ノ見習主計ハ大學令ニ依ル大學ノ法學部、經濟學部又ハ商學部ノ學課ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者ニシテ年齡三十年未滿ノモノヨリ銓衡ノ上之ヲ採用ス

第二十條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ見習主計ノ採用ニ之ヲ準用ス

第三十一條　第二十四條第三號ノ見習主計ハ陸軍大臣之ヲ命ジ師團司令部所在地ノ步兵聯隊ニ配當シ概ネ二月間所屬隊及當該師團經理部ニ於テ經理部士官ノ勤務ヲ習得セシム

第三十二條　見習獸醫官ニシテ二等獸醫ニ任セラルルノ資格ヲ具フル者

二　三等獸醫候補者ニシテ三等獸醫ニ任セラルルノ資格ヲ具フル者

第四十條　見習獸醫官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ銓衡ノ上之ヲ採用ス

一　陸軍獸醫部依託學生ト爲リ當該學部ノ學課ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者

二　陸軍獸醫部依託生徒ト爲リ當該學校ノ課程ヲ卒業シタル者

三　獸醫部幹部候補生

四　前各號ニ揭クル者ノ外獸醫師法第一條第二項各號ノ一ニ該當スル者ニシテ年齡三十年未滿ノ者

第二十條第二項及第三項ノ規定ハ見習獸醫官ニ之ヲ準用ス

第四十一條　見習獸醫官ハ陸軍大臣之ヲ命ジ便宜ノ步兵聯隊ニ配當シ概ネ二月間所屬隊及當該師團經理部ニ於テ經理部士官ノ勤務ヲ習得セシム

第四十二條　見習獸醫官又ハ見習藥劑官ノ身分ハ一等計手ノ階級トス

第四款　衛生部士官

第四十三條　衛生部現役士官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ以テ之ヲ補充ス

一　見習醫官ニシテ二等軍醫又ハ三等軍醫ニ任セラルルノ資格ヲ具フル者

二　見習藥劑官ニシテ二等藥劑官又ハ三等藥劑官ニ任セラルルノ資格ヲ具フル者

三　三等看護官候補者ニシテ三等看護官ニ任セラルルノ資格ヲ具フル者

第四十四條　見習醫官又ハ見習藥劑官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ銓衡ノ上之ヲ採用ス

一　陸軍衛生部依託學生ト爲リ當該學部ノ學課ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者

二　陸軍衛生部依託生徒ト爲リ當該學校ノ課程ヲ卒業シタル者

三　衛生部幹部候補生

四　前各號ニ揭クル者ノ外醫師法第一條第一項各號ノ一ニ該當スル者又ハ藥劑師法第二條第二項各號ノ一ニ該當スル者ニシテ年齡三十二年未滿ノ者

第二十條第二項及第三項ノ規定ハ見習醫官及見習藥劑官ノ採用ニ之ヲ準用ス

第四十五條　見習醫官又ハ見習藥劑官ハ陸軍大臣之ヲ命シ便宜ノ步兵聯隊ニ配當シ概ネ二月間所屬隊及衛戍病院ニ於テ衛生部士官ノ勤務ヲ習得セシム

第四十六條　見習醫官又ハ見習藥劑官ノ身分ハ一等看護長ノ階級トス

第四十七條　見習獸醫官ヲ獸醫部士官ト爲スノ可否ハ師團獸醫部所在地ニ於ケル當該師團獸醫部所管一等獸醫以上ヲ以テ組織スル衛生部士官銓衡會議ニ於テ之ヲ決ス

前項ノ會議ニ於テ可決セラレタル者ハ大學令ニ依ル大學ノ醫學部ニ於テ獸醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者及外國ノ獸醫學校ヲ卒業シ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニ在リテハ二等獸醫ニ、其ノ他ノ者ニ在リテハ三等獸醫ニ任セラルルノ資格ヲ具フルモノトス

第四十八條　三等獸醫候補者ハ陸軍獸醫部派遣生トシテ實業學校令ニ依ル獸醫學校ノ課程ヲ卒業シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

獸醫部派遣學生ハ年齡三十八年未滿ノ現役ノ上等蹄鐵工長又ハ一等蹄鐵工長中身體强健、人格成績共ニ優秀且家庭良好ナル者ニシテ所管獸醫部長ノ選拔シタル者ノ中ヨリ試驗ノ上陸軍大臣之ヲ定ム

獸醫部派遣學生ノ人員ハ陸軍大臣每年之ヲ定ム

獸醫部派遣學生ノ年齡ノ計算、試驗ノ方法及修學ニ關スル規則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第六款　軍樂部士官

第四十九條　軍樂部現役士官ハ樂長補トシテ三年以上現役ニ服シ軍樂部士官タルニ適スル者ヲ以テ之ヲ補充ス

第二章　豫備役士官ノ補充

第五十條　各兵科幹部候補生（技術ニ從事スヘキ者ヲ除ク）ハ左ニ揭クル資格ヲ具ヘ幹部候補生タルコトヲ志願スル者ノ中人格成績共ニ優秀且家庭良好ニシテ陸軍大臣ノ定ムル銓衡ニ合格シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　豫備役及後備役ノ士官又ハ下士官タルノ希望ヲ有スル者

二　現役兵トシテ概ネ三月以上在營シタル者

三　左ノ各號ノ一ニ該當スル者但シ（イ）乃至（ハ）ノ各號ノ一ニ該當スル

習得シタル步兵聯隊所在地ニ於ケル當該師團軍醫部所管一等軍醫以上、一等藥劑官以上及一等看護官ヲ以テ組織スル衛生部士官銓衡會議ニ於テ之ヲ決ス

前項ノ會議ニ於テ可決セラレタル者ハ大學令ニ依ル大學ノ醫學部ニ於テ醫學又ハ藥學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者及外國ノ醫學校又ハ藥學校ヲ卒業シ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニ在リテハ二等軍醫又ハ三等藥劑官ニ任セラルルノ資格ヲ具フルモノトス

第五款　獸醫部士官

第四十三條　獸醫部現役士官ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ヲ補充ス

一　見習獸醫官ニシテ二等獸醫又ハ三等獸醫ニ任セラルルノ資格ヲ具フル者

二　三等獸醫候補者ニシテ三等獸醫ニ任セラルルノ資格ヲ具フル者

第四十四條　見習獸醫官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ銓衡ノ上之ヲ採用ス

一　陸軍獸醫部依託學生ト爲リ當該學部ノ學課ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者

二　陸軍獸醫部依託生徒ト爲リ當該學校ノ課程ヲ卒業シタル者

三　獸醫部幹部候補生

四　前各號ニ揭クル者ノ外獸醫師法第一條第二項各號ノ一ニ該當スル者ニシテ年齡三十年未滿ノ者

第二十條第二項及第三項ノ規定ハ見習獸醫官ニ之ヲ準用ス

第四十五條　見習獸醫官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ銓衡ノ上之ヲ採用ス

一　陸軍獸醫部依託學生ト爲リ當該學部ノ學課ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者

二　陸軍獸醫部依託生徒ト爲リ當該學校ノ課程ヲ卒業シタル者

三　獸醫部幹部候補生

四　前各號ニ揭クル者ノ外獸醫師法第一條第二項各號ノ一ニ該當スル者ニシテ年齡三十年未滿ノ者

第二十條第二項及第三項ノ規定ハ見習獸醫官ニ之ヲ準用ス

第四十六條　見習獸醫官ハ陸軍大臣之ヲ命シ便宜ノ步兵聯隊ニ配當シ概ネ二月間所屬隊及當該師團經理部ニ於テ經理部士官ノ勤務ヲ習得セシム

第四十七條　見習獸醫官又ハ見習藥劑官ハ陸軍大臣之ヲ命シ便宜ノ步兵聯隊ニ配當シ概ネ二月間所屬隊及當該師團經理部ニ於テ經理部士官ノ勤務ヲ習得セシム

第四十八條　見習獸醫官又ハ見習藥劑官ノ身分ハ一等看護長ノ階級トス

第四十九條　見習獸醫官ヲ獸醫部士官ト爲スノ可否ハ師團獸醫部所在地ニ於ケル當該師團獸醫部所管一等獸醫以上ヲ以テ組織スル獸醫部士官銓衡會議ニ於テ之ヲ決ス

前項ノ會議ニ於テ可決セラレタル者ハ大學令ニ依ル大學ノ農學部ニ於テ獸醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者及外國ノ獸醫學校ヲ卒業シ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニ在リテハ二等獸醫ニ、其ノ他ノ者ニ在リテハ三等獸醫ニ任セラルルノ資格ヲ具フルモノトス

第五十條　三等獸醫候補者ハ陸軍獸醫部派遣生トシテ實業學校令ニ依ル獸醫學校ノ課程ヲ卒業シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

獸醫部派遣學生ハ年齡三十八年未滿ノ現役ノ上等蹄鐵工長又ハ一等蹄鐵工長中身體强健、人格成績共ニ優秀且家庭良好ナル者ニシテ所管獸醫部長ノ選拔シタル者ノ中ヨリ試驗ノ上陸軍大臣之ヲ定ム

獸醫部派遣學生ノ人員ハ陸軍大臣每年之ヲ定ム

獸醫部派遣學生ノ年齡ノ計算、試驗ノ方法及修學ニ關スル規則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第六款　軍樂部士官

第五十一條ノ二　軍樂部現役士官ハ樂長補トシテ三年以上現役ニ服シ軍樂部士官タルニ適スル者ヲ以テ之ヲ補充ス

第二章　豫備役士官ノ補充

第五十三條　各兵科幹部候補生（技術ニ從事スヘキ者ヲ除ク）ハ左ニ揭クル資格ヲ具ヘ幹部候補生タルコトヲ志願スル者ノ中人格成績共ニ優秀且家庭良好ニシテ陸軍大臣ノ定ムル銓衡ニ合格シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　豫備役及後備役ノ士官又ハ下士官タルノ希望ヲ有スル者

二　現役兵トシテ概ネ三月以上在營シタル者

三　左ノ各號ノ一ニ該當スル者但シ（イ）乃至（ハ）ノ各號ノ一ニ該當スル

者ニ在リテハ當該學校ノ配屬將校（陸軍現役將校學校配屬令又ハ大正十四年勅令第二百四十六號ニ依リ配屬シタル將校ヲ謂フ以下之ニ同シ）ノ行フ教練ノ檢定ニ合格シタル者ナルコトヲ要ス

（イ）配屬將校ヲ附シタル學校（研究科、選科等ノ別科ヲ除ク）ヲ卒業シタル者

（ロ）配屬將校ヲ附シタル高等學校高等科又ハ大學令ニ依ル大學豫科ノ第一學年ノ課程ヲ修了シタル者

（ハ）配屬將校ヲ附シタル學校ニシテ陸軍大臣ニ於テ高等學校高等科ト同等以上ト認ムルモノノ第一學年ノ課程ヲ修了シタル者

（ニ）陸軍士官學校豫科生徒若ハ陸軍經理學校豫科生徒ノ第一學年ノ課程又ハ海軍兵學校、海軍機關學校若ハ海軍經理學校ノ第一學年ノ課程ヲ修了シタル者

（ホ）文部省直轄商船專門學校ノ席上課程ヲ修了シタル者

教練ノ檢定ニ關スル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第五十四條　技術ニ從事スヘキ各兵科幹部候補生及各部幹部候補生ハ前條ニ規定スル資格ノ外尚在ニ揭クル資格ヲ具ヘ幹部候補生タルコトヲ志願スル者ノ中人格成績共ニ優秀且家庭良好ニシテ陸軍大臣ノ定ムル銓衡ニ合格シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　技術ニ從事スヘキ各兵科幹部候補生　大學令ニ依ル大學ノ工學部若ハ理學部ニ於テ工學若ハ理學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ主トシテ工業ニ關スル學科ヲ教授スル專門學校（研究科、選科等ノ別科ヲ除ク）ヲ卒業シタル者

二　經理部幹部候補生　法律、經濟又ハ商業ニ關スル學科ヲ教授スル專門學校又ハ陸軍大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校ヲ卒業シタル者

三　衛生部幹部候補生　醫師免許證ヲ有スル者

第五十五條　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者ハ幹部候補生タルコトヲ得ズ

第五十六條　幹部候補生ノ人員ハ各兵科部毎ニ陸軍大臣毎年之ヲ定ム

第五十七條　幹部候補生ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ軍隊、學校又ハ官衙ニ於テ其ノ本務ニ必要ナル勤務及軍事學ヲ習得セシム

第五十八條　幹部候補生ハ採用後概ネ三月ノ後左ノ如ク區分ス

一　豫備役士官タルヘキ幹部候補生（甲種幹部候補生ト稱ス）

二　豫備役下士官タルヘキ幹部候補生（乙種幹部候補生ト稱ス）

前項ノ區分ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第五十九條　幹部候補生ノ修業期間ハ現役兵ノ入營期日ヨリ起算シ一年ニ滿ツル日迄トス

第六十條　第五十三條第一項第二號及前二條ノ期間ハ戰時又ハ事變ノ際其ノ他必要アル場合ニ於テハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ短縮スルコトヲ得

第六十二條　甲種幹部候補生ニ對シテハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ修業期間ノ終ニ於テ終末試驗ヲ行ヒ其ノ成績ト平素ニ於ケル勤務ノ成績トヲ參酌シ合格不合格ヲ決定ス

疾病其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ前項ノ終末試驗ヲ受クルコトヲ得サル者ハ逐次次年ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得

第六十二條ノ二　前條ノ終末試驗ニ合格シタル者ヲ將校同相當官ト爲スノ可否ハ銓衡會議ニ於テ之ヲ決ス

前項ノ銓衡會議（技術ニ從事スヘキ各兵科幹部候補生ノ銓衡會議ヲ除ク）ハ當該兵科部ノ士官ニ任セラルルノ資格ヲ具フルモノトス

各兵科幹部候補生		少尉
經理部幹部候補生		三等主計
衛生部幹部候補生	醫師免許證ヲ有スル者	三等軍醫
	藥劑師免許證ヲ有スル者	三等藥劑官
獸醫部幹部候補生		三等獸醫

第六十二條ノ五　幹部候補生ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ幹部候補生ヲ免ス

一　他ノ兵籍ニ編入セラレタル者

二　軍紀ヲ紊リ若ハ屢法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ見込ナキ者

三　成績不良ニシテ修業ノ見込ナキ者

四　疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニ因リ修業ノ見込ナキ者

五　前各號ニ揭クル者ノ外豫備役ノ幹部タルニ適セズト認メタル者

幹部候補生ニ採用セラレタル者本人ニ依ルニ非サレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故ヲ生シタルトキハ本人ノ願ニ依リ幹部候補生ヲ免スルコトヲ得

第六十二條ノ六　第五十八條ノ規定ニ依リ區分ヲ爲シタル後ニ於テモ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ本人ノ成績ヲ參酌シ甲種幹部候補生ヲ乙種幹部候補生ト爲シ乙種幹部候補生ヲ甲種幹部候補生ト爲スコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ甲種幹部候補生ヲ乙種幹部候補生ト爲シタル場合ニ於テ現ニ軍曹同相當官又ハ伍長同相當官ノ階級ヲ有スル者ハ之ヲ上等兵（衛生部ニ在リテハ上等看護兵）ノ階級ト爲ス

第六十二條ノ七　操縱候補生ハ左ニ揭クル資格ヲ具ヘ操縱候補生タルコト

ノ組織ニ關シテハ第十條、第二十五條ノ七、第三十八條又ハ第四十七條ノ例ニ依ル

技術ニ從事スヘキ各兵科幹部候補生ノ銓衡會議ハ技術教育ニ任ジタル部除ノ將校ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十二條ノ三　前條ノ銓衡會議ニ於テ可決セラレタル者ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ本人ノ現役起算ノ日ノ屬スル年ノ翌翌年ニ於テ之ヲ召集シ士官ノ勤務ニ服セシム其ノ期間左ノ如シ

一　左ニ揭クル學校ヲ卒業シ且當該學校ニ於テ配屬將校ノ行フ教練ノ檢定ニ合格シタル者ニ在リテハ概ネ一月

（イ）大學令ニ依ル大學ノ學部若ハ豫科又ハ高等學校高等科

（ロ）專門學校、高等師範學校又ハ陸軍大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校

（イ）中學校卒業ヲ入學程度トスル修業年限二年以上ノ學校

二　陸軍士官學校豫科生徒若ハ陸軍經理學校豫科生徒ノ課程ヲ卒業シタル者、海軍兵學校、海軍機關學校若ハ海軍經理學校ヲ卒業シタル者又ハ文部省直轄商船專門學校ノ軍事學練習ヲ了リタル者ニ在リテハ概ネ一月

三　前二號ニ揭クル以外ノ者ニ在リテハ概ネ二月

疾病其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ前項ノ召集ニ應シ得サル者ハ逐次次年ニ於テ之ヲ召集ス

前二項ノ規定ニ依リ召集セラレタル者ハ豫備役見習士官ヲ命ス但シ各部ニ在リテハ豫備役ノ見習主計、見習醫官、見習藥劑官又ハ見習獸醫官ヲ命ズルモノトス

前項ニ揭クル者ノ身分取扱ハ現役見習士官ニ準ス

第六十二條ノ四　前條ノ士官ノ勤務ヲ了リタル幹部候補生ハ左ノ區分ニ依

ヲ志願スル者ノ中人格成績共ニ優秀且家庭良好ニシテ陸軍大臣ノ定ムル銓衡ニ合格シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　飛行機操縦ニ従事スヘキ豫備役及後備役ノ士官又ハ下士官タルノ希望ヲ有スル者

二　派遣將校（昭和十年勅令第二百六十七號ニ依リ派遣シタル將校ヲ謂フ以下之ニ同シ）ノ行フ飛行機操縦ノ檢定ニ合格シタル者又ハ飛行機操縦士免狀ヲ有スル者

三　第六十二條ノ三第一項第一號ニ掲クル學校ヲ卒業シ且當該學校ニ於テ配屬將校ノ行フ教練ノ檢定（第五十三條第一項第三號ノ檢定ヲ謂フ）ニ合格シタル者

四　年齢二十八年未滿ノ者

前項第四號ニ規定スル年齢ハ採用スル年ノ三月三十一日ニ於ケル年齢トス

飛行機操縦ノ檢定ニ關スル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第六十二條ノ十一　第五十五條乃至第五十七條及第六十二條ノ五ノ規定ハ操縦候補生ニ之ヲ準用ス

第六十二條ノ十二　第五十三條第一項第二號、第五十八條第一項、第五十九條、第六十一條第二項、第六十二條ノ三第一項第一號乃至第三號、第六十二條ノ八及第六十二條ノ九ニ規定スル期間ハ戰時又ハ事變ノ際其ノ他必要アル場合ニ於テハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ短縮スルコトヲ得

第四章　豫備役及後備役

第八十條　各兵科部豫備役及後備役下士官ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ヲ補充ス

一　乙種幹部候補生ニシテ其ノ修業ヲ了リタル者

二　甲種幹部候補生ニシテ終末試驗ニ合格セサル者及銓衡會議ニ於テ可決セラレタル者

三　下士官適任證書ヲ有スル者

四　派遣將校ノ行フ飛行機操縦ノ檢定（第六十二條ノ七第一項第二號ノ檢定ヲ謂フ）ニ合格シ又ハ飛行機操縦士免狀ヲ有スル年齢二十五年未滿ノ者ニシテ豫備役及後備役ノ航空兵科下士官ヲ志願シ下士官タルニ適スト認メタル者

五　豫備役又ハ後備兵役ノ各兵科上等兵又ハ之ト同等級ノ者ニシテ平時部隊ニ於テ勤務シ其ノ成績優秀ナル者

六　豫備役ニ在ル幹部候補生ニシテ豫備役士官ニ任セラレサリシ者ノ中下士官タルニ適スト認メタル者

七　操縦候補生ニシテ銓衡會議ニ於テ可決セラレサリシ者ノ中下士官タルニ適スト認メタル者

前項第三號ニ該當スル者ニシテ其ノ有スル下士官適任證書ノ種類ニ依リ兵科部ノ變更ヲ爲スヲ要スル者ハ之ヲ當該兵科部ニ轉セシム

第一項第四號ニ規定スル年齢ハ任官ノ年ノ十二月一日ニ於ケル年齢トス

第七章　平時ニ於ケル特別補充

第百五條　現役准士官又ハ部隊編入中ノ豫備役若ハ後備役准士官ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ現役ヲ退ク際、召集解除ノ際、解職ノ際又ハ危篤ニ陷リタル際之ヲ以テ士官ヲ補充スルコトヲ得

一　拔群ノ功績アル者

二　准士官ニシテ四年以上現役ニ服シ功績顯著ナル者

第百六條　豫備役又ハ後備役准士官ニシテ軍人ノ龜鑑タリ且ツ士官タルノ技倆ヲ有スト認メタル者ハ特ニ之ヲ以テ士官ヲ補充スルコトヲ得

第百七條　現役ノ上等兵若ハ之ト同等級ノ兵又ハ部隊編入中ノ豫備役若ハ後備兵役ノ上等兵若ハ之ト同等級ノ兵ニシテ功績顯著ナル者ハ退營ノ

際、現役ヲ離ルル際、解職ノ際又ハ危篤ニ陷リタル際之ヲ以テ下士官ヲ補充スルコトヲ得

第百八條　豫備役又ハ後備兵役ノ上等兵又ハ之ト同等級ノ兵ニシテ軍人ノ龜鑑タリ且下士官タルノ技倆ヲ有スト認メタル者ハ特ニ之ヲ以テ下士官ヲ補充スルコトヲ得

第百九條　前二條ノ場合ニ於テ兵科部ノ變更ヲ要スル者ニ付テハ第八十條第二項ノ例ニ依ル

第百十條　現役又ハ部隊編入中ノ豫備役、後備兵役若ハ補充兵役ノ輜重兵特務兵又ハ補助看護兵ニシテ功績アル者ハ國民兵役ニ入ル際、兵役ヲ免除セラルル際又ハ危篤ニ陷リタル際特ニ之ニ輜重兵一等兵又ハ一等看護兵ヲ命スルコトヲ得

附　則　（昭和八年勅令第七十一號）

第百九條　前二條ノ場合ニ於テ兵科部ノ變更ヲ要スル者ニ付テハ第八十條第二項ノ例ニ依ル

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

當分ノ內經理部士官候補者ニ關スル從前ノ規定ハ仍之ヲ置カレタルモノトシ經理部士官候補者ヲ以テ經理部現役士官ヲ補充スルコトヲ得

●陸軍補充令施行規則（抄錄）

昭和二年十一月三十日
陸軍省令第二十七號

陸軍補充令施行規則

第一條　本令ニ於テ令トハ陸軍補充令ヲ謂フ

第二條　本令中左記上欄ノモノニ關スル規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外左記下欄ノモノニ之ヲ適用ス

一　師團長又ハ師團司令部	軍司令官若ハ航空兵團長又ハ當該司令部
二　師團經理部長又ハ師團經理部	軍經理部長又ハ軍經理部
三　師團獸醫部長又ハ師團獸醫部	軍軍醫部長又ハ軍軍醫部
四　師團獸醫部長又ハ師團獸醫部	軍獸醫部長又ハ軍獸醫部
五　聯隊長	聯隊長ト同等ノ權ヲ有スル部隊長
六　衞戍病院長又ハ衞戍病院	支那駐屯軍病院長又ハ支那駐屯軍病院

第八十八條　聯隊長ハ幹部候補生檢查委員ヲ編成シ現役兵入營後概ネ二月

ノ後幹部候補生志願者全員ニ就キ所要ノ檢定ヲ行ハシメ同委員ノ報告及本人所屬ノ中隊長ノ意見書ニ基キ第一種、第二種幹部候補生選拔序列名簿ヲ作リ檢定ニ關スル書類及中隊長ノ意見書ヲ添ヘ之ヲ師團長ニ提出スヘシ但シ技術ニ從事スヘキ各兵科幹部候補生タルノ資格アル者ニ付テハ選拔序列名簿ニ其ノ旨記註スヘシ

前項ノ第一種、第二種幹部候補生選拔序列名簿ハ左ノ區分ニ依ル

（イ）第一種幹部候補生選拔序列名簿　本人最終學校（陸軍現役將校學校配屬令ニ依リ現役將校ヲ配屬シ得ヘキ學校以外ノ學校及別ニ定ムル學校ヲ除ク）ノ最終學年ニ於ケル當該配屬將校ノ行フ教練ノ檢定ニ合格シタル者及令第五十三條第一項第三號（ニ）又ハ（ホ）ニ該當スル者ニ關スルモノ

（ロ）第二種幹部候補生選拔序列名簿　其ノ他ノ者ニ關スルモノ

第一項ノ檢定委員ハ佐官ヲ長トスル佐尉官五名（本人所屬ノ中隊長及初年兵教育掛將校ヲ除ク）ヲ標準トシテ之ヲ編成ス

各部幹部候補生志願者ニ關シテハ各其ノ區分ニ從ヒ更ニ前三項ノ例ニ依リ檢定ヲ行ヒ第一種、第一種幹部候補生選拔序列名簿ヲ作リ檢定ニ關スル書類ヲ添ヘ之ヲ師團長ニ提出スヘシ但シ此ノ場合ニ於ケル檢定委員ニハ各部ノ區分ニ從ヒ師團各部長ノ指名スル將校相當官二名ヲ含ムモノトス

檢定ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

師團長ハ技術ニ從事スヘキ各兵科幹部候補生採用豫定者ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ陸軍造兵廠長官又ハ陸軍航空技術學校長ニ通知スヘシ

第九十一條　令第五十三條第一項第三號（イ）乃至（ハ）ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ幹部候補生ニ採用スルニハ本人最終學校（陸軍現役將校學校配屬令ニ依リ現役將校ヲ配屬シ得ヘキ學校以外ノ學校及別ニ定ムル學校ヲ除ク）ノ最終學年ニ於ケル當該學校ノ配屬將校ノ教練ノ檢定ニ合格シタル者ヲ以テ概ネ之ヲ先順位トス

●陸軍補充令第五十三條第一項第三號（ハ）號ニ依リ高等學校高等科ト同等以上ト認定ノ學校

昭和三年六月一日
陸軍省告示第十六號

左ニ揭クル學校ハ陸軍補充令第五十三條第一項第三號（ハ）號ニ依リ高等學校高等科ト同等以上ト認ム

大學令ニ依ル大學ノ學部
學習院高等科
農林省所管水產講習所

●陸軍補充令ニ依リ法律、經濟又ハ商業ニ關スル學科ヲ教授スル專門學校ト同等以上ト認ムル學校

昭和五年八月十八日
陸軍省告示第十九號

備考　昭和七年一〇月陸軍省告示第二七號、八年六月第二八號改正

陸軍補充令第五十四條第二號ノ規定ニ依リ法律、經濟又ハ商業ニ關スル學科ヲ教授スル專門學校ト同等以上ト認ムル學校左ノ如シ

東京帝國大學　法學部、經濟學部、農學部（農業經濟學科）
京都帝國大學　法學部、經濟學部、農學部（農林經濟學科）
東北帝國大學　法文學部（法學士若ハ經濟學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ之ト同種ノ學課ヲ修メタル者ニ限ル）
九州帝國大學　法文學部（法學士若ハ經濟學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ之ト同種ノ學課ヲ修メタル者ニ限ル）
北海道帝國大學　農學部（農業經濟學科）
東京商科大學　商學部、商業教員養成所
神戸商業大學　商學部
大阪商科大學　商學部
慶應義塾大學　經濟學部、法學部
早稻田大學　法學部、商學部、政治經濟學部
明治大學　法學部、商學部、政治經濟學部
法政大學　法文學部（法律學科、政治學科）、經濟學部
中央大學　法學部、經濟學部、商學部
日本大學　商學部、法文學部（法律學科、政治學科）
同志社大學　法學部
專修大學　法學部、經濟學部
立教大學　經濟學部、元商學部
立命館大學　法經學部、元法學部
關西大學　法文學部（法律學科、政治學科）經濟學部
拓殖大學　商學部
上智大學　商學部
東亞同文書院
哈爾濱學院（專修科ヲ除ク）
京城帝國大學　法文學科（法學科）
臺北帝國大學　文政學部（政學科）

●經理部幹部候補生採用資格學校及學科一覽

昭和七年十月四日
陸普第五八五三號陸軍省副官通牒

備考　昭和八年六月陸普第三五四三號改正

各師團參謀長等宛

經理部幹部候補生採用資格學校及學科ハ別紙一覽表ノ通ニ付承知相成度追テ昭和五年八月十八日陸普第三五八二號ハ自然消滅ノ義ト承知セラレ度爲念申添フ

經理部幹部候補生採用資格學校及學科一覽表

名稱	摘要
東京帝國大學	法學部、經濟學部、農學部（農業經濟學科）
京都帝國大學	法學部、經濟學部　農學部（農林經濟學科）
東北帝國大學	法文學部
九州帝國大學	法文學部
北海道帝國大學	農學部　農業經濟學科）
東京商科大學	商學部、商學專門部、商業教員養成所
神戸商業大學	商學部、元商學專門部
元神戸高等商業學校	本科
大阪商科大學	商學部、高等商業部
元大阪市立高等商業學校	
慶應義塾大學	經濟學部、法學部
早稻田大學	法學部　商學部、政治經濟學部、專門部（政治經濟科、法律科、商科）
明治大學	法學部、商學部、政治經濟學部、專門部（法科、政治經濟科、元經濟科　商科）
法政大學	法文學部（社律學科、政治學科）、經濟學部（經濟科、高等商業科、法律科、政治科、元法政經濟科）

法學士若ハ經濟學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ之ト同種ノ學課ヲ修メタル者ニ限ル

法學士若ハ經濟學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ之ト同種ノ學課ヲ修メタル者ニ限ル

商學部ハ昭和四年三月開校、元商學專門部ハ昭和四年四月元神戸高等商業學校ノ改設サレタルモノニテ昭和七年三月廢校

昭和四年三月廢校

高等商業部ハ昭和三年三月元大阪市立高等商業學校ヲ改設シタルモノ

昭和三年三月廢校

專門部ハ第一種生ニ限ル

專門部ハ本科（元正科）ニ限ル但シ（元正科）ハ昭和五年三月本科ト改稱、元經濟科ハ昭和六年十二月政治經濟科ニ合併同時ニ廢止

專門部ハ正科ニ限ル、元法政經濟科ハ昭和四年二月政治經濟科ト改稱同時ニ廢止

中央大學	法學部、經濟學部、商學部、專門部（法學科、經濟學科、商學科）
日本大學	商學部、法文學部（法律學科、政治學科）、專門部（法律科、政治科、商科、經濟科　高等師範部）
同志社大學	法學部
專修大學	法學部、經濟學部、專門部（經濟科、計理科　法律科、商業科）
立教大學	經濟學部、元商學部
立命館大學	法經學部、元法學部、專門學部（法律科、經濟科　商學科）
關西大學	法文學部（法律學科、政治學科）經濟學部、專門部（法律學科、經濟學科、商業學科）
拓殖大學	商學部、專門部（商科、法律科、拓殖科）
上智大學	商學部　元商科、專門部（經濟科、商科、法科）
長崎高等商業學校	本科
山口高等商業學校	本科
小樽高等商業學校	
名古屋高等商業學校	本科
福島高等商業學校	
大分高等商業學校	
彥根高等商業學校	本科

學門部ハ正科ニ限ル

專門部ハ本科（元正科）ニ限ル但シ（元正科）ハ昭和四年三月本科ト改稱同時ニ廢止、高等師範部ハ修身法制經濟科ノ本科ニ限ル

專門部ハ正科ニ限ル

元商學部ハ昭和五年十二月廢止同日經濟學部ヲ新設

專門部ハ本科ニ限ル、元法學部ハ昭和二年十二月廢止

專門部ハ本科（元正科）ニ限ル但シ（元正科）ハ昭和五年三月本科ト改稱同時ニ廢止

專門部ハ正科ニ限ル

商學部ハ昭和四年開設、元商科ハ昭和六年三月廢止、專門部ハ昭和七年四月新校、元商科及專門部ハ本科ニ限ル

和歌山高等商業學校			
橫濱高等商業學校	本科		
高松高等商業學校	本科		
高岡高等商業學校			
私立高千穗高等商業學校			
大倉高等商業學校	本科		
東鴨高等商業學校			
橫濱市立橫濱商業專門學校			
兵庫縣立神戶高等商業學校			
松山高等商業學校			
鹿兒島高等商業學校			
同志社高等商業學校			
宇都宮高等農林學校	農政經濟學科		
明治學院	高等商業部		
元明治學院高等學部	商業科		
慶應義塾高等部	本科		
東北學院	高等學部（商科）	昭和七年四月開校	
		昭和六年四月開校	
		大正十一年四月開校	
		昭和三年二月開校	
		本科ニ限ル、昭和三年二月明治學院高等商業部ト改稱	
		昭和四年九月開校	

元東北學院專門部	商科	昭和四年九月東北學院高等學部（商科）ト改稱	
青山學院專門部	高等學部（商科）		
元青山學院高等學部	商科	本科ニ限ル、昭和四年五月青山學院專門部（高等學部、商科）ト改稱	
早稻田大學附屬早稻田專門學校	政治經濟科、法律科、商科	第一種生ニ限ル	
同志社專門學校	政治經濟部、元高等商業部	本科ニ限ル、元高等商業部ハ昭和六年三月廢止	
關東學院	高等商業部		
關西學院專門部	高等商業學部	昭和七年四月開校、元私立關西學院ヲ改設シタルモノ	
元私立關西學院	高等商業學部	昭和七年三月廢校	
西南學院高等學部	商科		
日本大學專門學校	法律科、商科、元政治經濟科	正科ニ限ル、元政治經濟科ハ昭和四年一月廢止	
橫濱專門學校	法學科、高等商業科、貿易科、元商業理財科	本科ニ限ル、昭和五年八月元商業理財科ヲ廢シ高等商業科及貿易科ヲ新設ス	
東亞同文書院	商務科		
哈爾濱學院		專修科ヲ除ク	
京城帝國大學	法文學部（法學科）		
京城法學專門學校		本科ニ限ル	
京城高等商業學校		本科ニ限ル	
臺北帝國大學	文政學部（政學科）		

臺北高等商業學校	本科ニ限ル
元臺南高等商業學校	昭和四年三月臺北高等商業學校ノ分校トナリ昭和五年三月廢校

●陸軍補充令ニ依ル指定學校

昭和八年六月六日
陸軍省告示第二十七號

追加　昭和一一年一月陸軍省告示第四號改正

昭和八年勅令第七十一號附則第三條ノ規定ニ依リ指定スル學校左ノ如シ

開城公立商業學校（昭和十年以前ノ卒業者ニ限ル）
公州公立高等普通學校（昭和十年以前ノ卒業者ニ限ル）
礪山公立農業學校
釜山第二公立商業學校（昭和十年以前ノ卒業者ニ限ル）
海州公立高等普通學校（昭和十年以前ノ卒業者ニ限ル）
沙里院公立農業學校
平壤公立農業學校
義州公立農業學校（昭和十年以前ノ卒業者ニ限ル）
春川公立高等普通學校（昭和十年以前ノ卒業者ニ限ル）
春川公立農業學校（昭和十年以前ノ卒業者ニ限ル）
咸興公立高等普通學校（昭和十年以前ノ卒業者ニ限ル）
會寧公立商業學校（昭和十年以前ノ卒業者ニ限ル）

●陸軍補充令施行規則第八十八條第二項及第九十一條ニ規定スル最終學校ヨリ除外スベキ學校中別ニ定ムル學校

昭和十一年一月二十四日
陸軍省告示第三號

左ニ揭クル學校ハ陸軍補充令施行規則第八十八條第二項及第九十一條ニ規定スル最終學校ヨリ除外スヘキ學校中別ニ定ムル學校トス

大學令ニ依ル大學ノ研究科（大學院ヲ含ム）

●陸軍諸學校生徒採用規則

昭和八年四月二十八日
陸軍省令第十五號

追加　昭和九年二月陸軍省令第一號、一〇年九月第一五號、一二年一月第一號、五月第一〇號改正

陸軍諸學校生徒採用規則左ノ通改正ス

陸軍諸學校生徒採用規則

第一章　陸軍士官學校豫科生徒

第一條　陸軍士官學校豫科生徒ヲ志願シ得ヘキ者ノ年齡左ノ如シ

一　現役下士官ヨリノ志願者　二十六年未滿
二　幹部候補生、操縱候補生又ハ現役兵ヨリノ志願者（願書ヲ差出ストキ未タ入營セサル者及歸休シ居ル者ヲ除ク）　二十五年未滿
三　陸軍部外ヨリノ志願者　十六年以上二十年未滿

前項ニ規定スル年齡ハ入校年ノ三月三十一日ニ於ケル年齡トス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ採用セス

一　要アル者
二　破產ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者
三　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
四　素行修マラサル者

第三條　志願者ノ差出スヘキ願書類、其ノ差出期日及差出先左ノ如シ

陸軍部外ヨリノ志願者　志願票（第一樣式）　身上申告書（第一樣式）　九月三十日迄ニ到著スル如ク教育總監ニ
陸軍部內ヨリノ志願者　志願票（第一樣式）　八月三十一日迄ニ所屬部隊長ニ

志願票用紙ハ本人ノ請求ニ依リ教育總監部、陸軍士官學校又ハ聯隊區司令部（朝鮮ニ在リテハ師團司令部、臺灣、關東州、滿洲國又ハ支那ニ在リテハ軍司令部）ニ於テ之ヲ交付ス

志願票ヲ差出シタル後現役兵トシテ入營シタル者ハ直ニ所屬部隊長ニ受檢ノ許可ヲ願出ツヘシ

前項ノ受檢ヲ許可シタル者ニ付テハ爾後陸軍部內ヨリノ志願者トシテ之ヲ取扱ヒ志願票ヲ差出シタル後退營シタル者ニ付テハ爾後陸軍部外ヨリノ志願者トシテ之ヲ取扱ヒ（志願者ノ年齡ニ付テハ陸軍部內ヨリノ志願者ニ同シ）部隊長ハ各其ノ旨ヲ速ニ關係諸官ニ通知スヘシ

第四條　志願票ヲ差出シタル後其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ志願者ハ速ニ其ノ旨ヲ教育總監ニ屆出ツヘシ但シ檢查前ニ在リテハ希望スル檢查場所管ノ師團長ニ亦其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

陸軍部內ヨリノ志願者ノ志願票記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所屬部隊長ヨリ速ニ其ノ旨ヲ關係諸官ニ通知スヘシ

第五條　志願者ヲ採用スル爲檢查ヲ行フ

前項ノ檢查ハ身體檢查及學科試驗ニ分チ學科試驗ハ身體檢查合格者ニ付之ヲ行フ

檢查ノ期日左ノ如シ

身體檢查　十一月下旬ヨリ十二月三日迄ノ間ニ於テ師團長ノ指定ス

ル日

學科試驗　十二月四日ヨリ概ネ四日間

檢查ノ日時及場所ハ檢查開始七日前迄ニ檢查場所管ノ師團長ヨリ之ヲ本人ニ通達スルト共ニ檢查場所在地ノ市役所、區役所、町村役場（朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ之ニ準スルモノ）、聯隊區司令部（聯隊區司令部ナキ場所ニ在リテハ最高陸軍官衙又ハ軍隊）等ニ檢查開始五日前迄ニ之ヲ揭示ス

第六條　檢查場ハ左ノ各地ニ之ヲ設ク但シ身體檢查場ニ限リ各所管毎ニ適宜集合シ之ヲ設クルコトアルヘシ

第一師管	東京	橫須賀	千葉	甲府	
第二師管	仙臺	若松	高田	新發田	
第三師管	名古屋	岐阜	豐橋	靜岡	
第四師管	大阪	和歌山			
第五師管	廣島	濱田	福山	山口	
第六師管	熊本	鹿兒島	都城	大分	那覇
第七師管	札幌	旭川	函館	釧路	
第八師管	弘前	山形	秋田	盛岡	
第九師管	金澤	鯖江	富山		
第十師管	姬路	岡山	松江	鳥取	
第十一師管	善通寺	高知	松山	德島	
第十二師管	小倉	福岡	久留米	佐賀	大村
	鵜知				
第十四師管	宇都宮	水戶	松本	高崎	
第十六師管	京都	津	奈良	福知山	
朝鮮	京城	平壤	大邱	羅南	咸興
臺灣	臺北	臺南			
關東州及滿洲國	旅順	新京	奉天		
支那	天津				

陸軍部外ヨリノ志願者ハ便宜ノ檢查場ヲ選定スヘシ但シ志願票ヲ差出シタル後ニ於テハ檢查場ヲ變更スルコトヲ得ス

受檢當時幹部候補生、操縱候補生又ハ現役兵トシテ在營スヘキ者ハ其ノ部隊號ヲ志願票表面差出年月日ノ下ニ記載スヘシ

陸軍部內ヨリノ志願者ハ檢查場ヲ選定スルコトヲ得ス但シ受檢當時退營シ居ルヘキ者ハ適宜檢查場ヲ選定スルコトヲ得

身體檢查場ハ志願者ノ選定シタルモノニ拘ラス時宜ニ依リ之ヲ指定スルコトアルヘシ

第七條　陸軍部內ヨリノ志願者ニシテ受檢ノ際退營シ居ル者又ハ陸軍部外ヨリノ志願者ハ新ニ撮影シタル「カビネ」形ノ寫眞一枚ヲ身體檢查ノ際檢查醫官ニ差出スヘシ

前項ノ寫眞ハ單獨半身脫帽トシ其ノ表面裏紙ノ餘白ニ本人ノ本籍地及氏名ヲ、其ノ裏面ニ受檢中ノ宿所ヲ記入スヘシ

第一項ノ寫眞ハ身體檢查ニ不合格ト爲リタル場合ヲ除クノ外之ヲ返戻セス

第八條　學科試驗ハ概ネ中學校第四學年第二學期修業ノ程度ニ於テ左ノ科目ニ付之ヲ行フ但シ外國語ハ英、佛、獨、露、支那語ノ中志願者ノ希望スル一種ニ付試驗ス

國語　漢文　作文　外國語　數學　地理　歷史　理科

前項ノ試驗科目ノ範圍ハ之ヲ告示ス

學科試驗ノ際ハ「ペン」、黑又ハ靑「インク」、吸取紙（新シキ無地ノモノ）、鉛筆、小刀、消「ゴム」、圖引具（三角定規共）ヲ携行スルモノトス

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ檢查ヲ停止ス

一　檢查ノ際不正ノ所爲アリタル者

二　試驗室ニ規定以外ノ物品ヲ携ヘタル者

三　檢查ニ臨席又ハ遲刻シタル者

四　言語所爲眞面目ヲ缺ク者

第十條　檢查ノ全部ヲ終リタル者ハ直ニ現在修學ノ學校長又ハ最終修學ノ學校長ニ成績證明ヲ願出ツヘシ

第十一條　部隊長陸軍部內ヨリノ志願者ヨリ志願票ヲ受ケタルトキハ志願者ノ適否ヲ判定シ其ノ受檢ヲ許可スヘキ者ニ付テハ志願票ニ證印シ之ヲ九月十五日迄ニ部隊所在地所管ノ師團長（近衞師團長ヲ除ク本章中以下同シ）ニ差出スヘシ

師團長前項ノ志願票ヲ受ケタルトキハ志願者ノ檢查場ヲ決定シ志願票ニ記入ノ上之ヲ九月三十日迄ニ教育總監ニ差出スヘシ

第十二條　教育總監ハ志願者ヨリ差出シタル志願票ヲ審查シ之ヲ檢查場毎ニ區分シ試驗問題等ト共ニ檢查場所管ノ師團長ニ送付ス

第十三條　師團長ハ檢查場ヲ選定シ將校生徒試驗臨時委員及身體檢查醫官（高級醫官ハ陸軍二、三等軍醫正又ハ陸軍一等軍醫トス）ヲ命シ之ニ志願票及試驗問題ヲ下付シ且試驗ニ關スル必要ノ指示ヲ爲スヘシ

近衞師團長、陸軍士官學校長又ハ陸軍幼年學校長ハ第一師團長ヨリ前項ノ職員編成ノ爲所要ノ人員ノ援助ニ付請求アリタルトキハ之ニ便宜ヲ與フルコトヲ要ス

師團長ハ市町村長、聯隊區司令官等ヲシテ第五條第四項ニ規定スル揭示ヲ爲サシムヘシ

第十四條　師團長ハ試驗臨時委員ヲシテ檢查場一般ノ管理（身體檢查ノ實施ニ關スル事項ヲ除ク）及所要ノ調查ニ任セシメ身體檢查醫官ヲシテ身體檢查ヲ行ハシムヘシ

第十五條　身體檢查醫官身體檢查ヲ終リタルトキハ志願票ニ所要ノ記入ヲ爲シ合格者ノ寫眞ト共ニ之ヲ試驗臨時委員ニ差出スヘシ

試驗臨時委員ハ陸軍部外ヨリノ志願者ニシテ身體檢查ニ合格シタル者ノ本籍地及氏名ヲ速ニ本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知シ聯隊區司令官ハ之ヲ本籍地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第十六條　試驗臨時委員試驗ヲ終リタルトキハ志願票ニ所要ノ記入ヲ爲シ答解書及寫眞ト共ニ之ヲ教育總監ニ差出シ試驗實施報告ヲ師團長ニ差出スヘシ

師團長ハ之ニ意見ヲ附シ速ニ教育總監ニ差出スヘシ

第十七條　學校長第十條ノ願出ヲ受ケタルトキハ證明書（第二樣式）ヲ作リ之ヲ一月十日迄ニ本籍地ノ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第十八條　市町村長ハ本籍地ノ聯隊區司令官ヨリ身體檢查合格者ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ身上明細書（第三樣式）ヲ作リ之ニ戶籍謄本（臺灣ニ本籍ヲ有スル者ニ付テハ之ニ準スルモノ以下同シ）ヲ添ヘ十二月二十五日迄ニ本籍地ノ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第十九條　教育總監ハ試驗臨時委員ヨリ差出シタル志願票ヲ調查シ陸軍部外ヨリノ志願者ニシテ檢查ノ全部ヲ終リタル者ノ分ハ之ヲ本籍地ノ聯隊區司令官ニ送付ス

第二十條　本籍地ノ聯隊區司令官ハ市町村長及學校長ヨリ送付シタル書類ニ付前條ノ志願票ト對照調查シ檢查ノ全部ヲ終リタル者ニ關スルモノヲ志願票ト共ニ一月二十五日迄ニ教育總監ニ差出スヘシ

第二十一條　部隊長ハ陸軍部內ヨリノ志願者ニシテ檢查ノ全部ヲ終リタル者ニ付身上明細書（第三樣式）ヲ作リ之ニ戶籍謄本ヲ添ヘ一月十日迄ニ部隊所在地所管ノ師團長ニ差出スヘシ

師團長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ一月二十五日迄ニ之ヲ教育總監ニ差出スヘシ

第二十二條　教育總監採用豫定者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨ヲ著校期日ト共ニ本人ニ（陸軍部内ヨリノ志願者ニ付テハ所屬部隊長ヲ經由シ）通達シ且其ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第二十三條　陸軍士官學校長ハ採用豫定者著校後三日以内ニ身體檢査ヲ行ヒ生徒タルニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ之ヲ歸鄉又ハ歸隊セシメ且其ノ旨ヲ教育總監ニ報告スヘシ

第二十四條　教育總監採用者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨ヲ本人ニ通達シ且陸軍部外ヨリノ志願者ニ付テハ本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ、陸軍部内ヨリノ志願者ニ付テハ本人所屬ノ部隊長ニ通知ス

第二十五條　無屆ニテ著校セサル者、自己ノ不注意ニ因リ著校期日ニ遲レタル者又ハ第二十六條ニ規定スル手續ヲ了セサル者ハ之ヲ除名ス

著校期日ヨリ二十日以内ニ到著セサル者ハ之ヲ除名スルコトアルヘシ

第二十六條　採用ノ達ヲ受ケタル者ハ保證人ヲ定メ入校後直ニ其ノ者ヲシテ保證書（第四樣式ノ一）ヲ陸軍士官學校長ニ差出サシムヘシ

第二十七條　採用豫定者ニハ其ノ學科試驗受驗當時ノ現住地ヨリ學校所在地迄ノ里程ニ應シ入校後（陸軍部内ノ者ニ在リテハ出發ノ際）陸軍旅費規則ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二十三條ノ規定ニ依リ歸鄉又ハ歸隊セシメタル者ニハ前項ノ規定ニ準シ其ノ復歸ノ爲旅費ヲ支給ス

第二章　陸軍幼年學校生徒

第二十八條　陸軍幼年學校生徒ヲ志願シ得ヘキ者ノ年齡ハ十三年以上十五年未滿トス

前項ニ規定スル年齡ハ入校年ノ三月三十一日ニ於ケル年齡トス

第二十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ採用セス

一　破産ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者

二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三　素行修マラサル者

第三十條　志願者ノ差出スヘキ願書類、其ノ差出期日及差出先左ノ如シ

志願票（第一樣式）　十月三十一日迄ニ到著スル如ク教育總監ニ

身上申告書（第一樣式）　十月三十一日迄ニ到著スル如ク本籍地ノ市町村長ニ

志願票用紙ハ本人ノ請求ニ依リ教育總監部、陸軍幼年學校又ハ聯隊區司令部（朝鮮ニ在リテハ師團司令部、臺灣、關東州、滿洲國又ハ支那ニ在リテハ軍司令部）ニ於テ之ヲ交付ス

第三十一條　志願票ヲ差出シタル後其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ志願者ハ速ニ其ノ旨ヲ教育總監ニ屆出ツヘシ但シ檢査前ニ在リテハ希望スル檢査場所管ノ師團長ニ亦其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三十二條　志願者ヲ採用スル爲檢査ヲ行フ

前項ノ檢査ハ身體檢査及學科試驗ニ分チ學科試驗ハ身體檢査合格者ニ付之ヲ行フ

檢査ノ期日左ノ如シ

身體檢査　一月中旬ヨリ同月二十四日迄ノ間ニ於テ師團長ノ指定スル日

學科試驗　一月二十五日ヨリ概ネ三日間

檢査ノ日時及場所ハ檢査開始七日前迄ニ檢査場所管ノ師團長ヨリ之ヲ本人ニ通達スルト共ニ檢査場所在地ノ市役所、區役所、町村役場（朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ之ニ準スルモノ）、聯隊區司令部、聯隊區司令部ナキ場所ニ在リテハ最高陸軍官衙又ハ軍隊）等ニ檢査開始五日前迄ニ之ヲ掲示

ス

第三十三條　檢査場ハ第六條ニ規定スル陸軍士官學校豫科生徒ノモノニ同シ

志願者ハ便宜ノ檢査場ヲ選定スヘシ但シ志願票ヲ差出シタル後ニ於テハ檢査場ヲ變更スルコトヲ得ス

身體檢査場ハ志願者ノ選定シタルモノニ拘ラス時宜ニ依リ之ヲ指定スルコトアルヘシ

第三十四條　志願者ハ新ニ撮影シタル「カビネ」形ノ寫眞一枚ヲ身體檢査ノ際檢査醫官ニ差出スヘシ

前項ノ寫眞ハ單獨半身脫帽トシ其ノ表面臺紙ノ餘白ニ本人ノ本籍地及氏名ヲ、其ノ裏面ニ受檢中ノ宿所ヲ記入スヘシ

第一項ノ寫眞ハ身體檢査ニ不合格ト爲リタル場合ヲ除クノ外之ヲ返戻セス

第三十五條　學科試驗ハ概ネ中學校第一學年第二學期修業ノ程度ニ於テ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

國語　作文　數學　地理　歷史　理科

學科試驗ノ際ハ「ペン」、黑又ハ青「インク」、吸取紙（新シキ無地ノモノ）、鉛筆、小刀、消「ゴム」、三角定規ヲ携行スルモノトス

第三十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ檢査ヲ停止ス

一　檢査ノ際不正ノ所爲アリタル者

二　試驗室ニ規定以外ノ物品ヲ携ヘタル者

三　檢査ニ臨席又ハ遲刻シタル者

四　言語所爲眞面目ヲ缺ク者

第三十七條　檢査ノ全部ヲ終リタル者ハ直ニ現在修學ノ學校長又ハ最終修學ノ學校長ニ成績證明ヲ願出ツヘシ

第三十八條　第十二條乃至第十六條ノ規定ハ陸軍幼年學校生徒ノ採用ニ關シ之ヲ準用ス

第三十九條　學校長第三十七條ノ願出ヲ受ケタルトキハ證明書（第五樣式）ヲ作リ二月十日迄ニ本籍地ノ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第四十條　市町村長ハ本籍地ノ聯隊區司令官ヨリ身體檢査合格者ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ身上明細書（第三樣式）ヲ作リ之ニ戸籍謄本ヲ添ヘ二月十日迄ニ本籍地ノ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第四十一條　第十九條及第二十條ノ規定ハ陸軍幼年學校生徒志願者ノ取扱ニ關シ之ヲ準用ス但シ書類差出期日ハ二月末日迄トス

第四十二條　教育總監採用豫定者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨ヲ著校期日ト共ニ本人ニ通達シ且其ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第四十三條　陸軍幼年學校長ハ採用豫定者著校後三日以内ニ身體檢査ヲ行ヒ生徒タルニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ之ヲ歸鄉セシメ且其ノ旨ヲ教育總監ニ報告スヘシ

第四十四條　教育總監採用者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨ヲ本人ニ通達シ且本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知ス

第四十五條　無屆ニテ著校セサル者、自己ノ不注意ニ因リ著校期日ニ遲レタル者又ハ第四十六條ニ規定スル手續ヲ了セサル者ハ之ヲ除名ス

著校期日ヨリ二十日以内ニ到著セサル者ハ保證人ヲ定メ入校後直ニ其ノ者ヲシテ保證書（第四樣式ノ二）ヲ陸軍幼年學校長ニ差出サシムヘシ

第四十六條　採用ノ達ヲ受ケタル者ハ保證人ヲ定メ入校後直ニ其ノ者ヲシテ保證書（第四樣式ノ二）ヲ陸軍幼年學校長ニ差出サシムヘシ

第四十七條　生徒ノ入校後每月納ムヘキ金額左ノ如シ

半特待生　十圓

自費生　二十圓

第四十八條　採用豫定者トシテ通達ヲ受ケタル者ニシテ陸軍幼年學校令第

十六條ノ規定ニ該當スル者ハ速ニ願書ヲ教育總監ニ差出スヘシ但シ同令第十六條第一號又ハ第二號ノ規定ニ該當スル者ハ恩給證書寫ヲ、同條第三號又ハ第四號ノ規定ニ該當スル者ハ恩給證書寫ヲ、同條第四號ノ規定ニ該當スル者（現役將校同相當官ノ子ヲ除ク）ハ恩給證書寫及父ノ履歴書ヲ之ニ添附スヘシ

第四十九條　入校當月ノ納金ハ入校後十日以內ニ、爾後每月ノ納金ハ其ノ前月二十八日迄ニ當該學校ニ之ヲ納付スヘシ但シ便宜二月以上ノ納金ヲ前納スルコトヲ得

前項ノ納金ハ當該學校ニ於テ歲入納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十條　第四十七條ニ規定スル納金ハ之ヲ實費ト看做シ追徵又ハ還付セス待遇變更ノ場合ニ在リテハ其ノ變更ノ翌月ヨリ新待遇ノ額ヲ納付セシメ退校又ハ死亡ノ場合ニ在リテハ其ノ退校又ハ死亡ノ日以後ニ係ル既納金額ヲ拂戾ス

疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニ因リ自宅療養又ハ轉地療養ヲ許可セラレタル者ハ其ノ翌月ヨリ歸校ノ前月迄納金ヲ免除ス

第五十一條　特待生又ハ半特待生ニシテ自己ノ便宜ヲ以テ退校ヲ願出ツル者アルトキハ其ノ事情ニ依リ自費生ノ納金額ニ準シ在校中ノ費用ヲ納メシムルコトアルヘシ

第二章ノ二　陸軍經理學校豫科生徒

第五十一條ノ二　陸軍經理學校豫科生徒ヲ志願シ得ヘキ者ノ年齡左ノ如シ

一　現役下士官ヨリノ志願者　二十六年未滿

二　幹部候補生、操縱候補生又ハ現役兵ヨリノ志願者（願書ヲ差出ストキ未ダ入營セサル者及歸休シ居ル者ヲ除ク）　二十五年未滿

三　陸軍部外ヨリノ志願者　十六年以上二十年未滿

前項ニ規定スル年齡ハ入校年ノ三月三十一日ニ於ケル年齡トス

第五十一條ノ三　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ採用セス

一　妻アル者

二　破產ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者

三　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四　素行修マラサル者

第五十一條ノ四　志願者ノ差出スヘキ願書類、其ノ差出期日及差出先左ノ如シ

陸軍部外ヨリノ志願者　志願票（第一樣式ノ二）　十月十五日迄ニ到著スル如ク陸軍經理學校長ニ

身上申告書（第一樣式ノ二）　十月十五日迄ニ到著スル如ク本籍地ノ市町村長ニ

陸軍部內ヨリノ志願者　志願票（第一樣式ノ二）　九月十五日迄ニ所屬部隊長ニ

志願票用紙ハ本人ノ請求ニ依リ陸軍經理學校又ハ聯隊區司令部（朝鮮ニ在リテハ師團司令部、臺灣、關東州、滿洲國又ハ支那ニ在リテハ軍司令部）ニ於テ之ヲ交付ス

志願票ヲ差出シタル後現役兵トシテ入營シタル者ハ直ニ所屬部隊長ニ受檢ノ許可ヲ願出ツヘシ

第三條第四項ノ規定ハ陸軍經理學校豫科生徒志願者ノ取扱ニ關シ之ヲ準用ス

第五十一條ノ五　志願票ヲ差出シタル後其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ志願者ハ速ニ其ノ旨ヲ陸軍經理學校長ニ屆出ツヘシ但シ檢査前ニ在リテハ希望スル檢査場所管ノ師團長ニ亦其ノ旨屆出ツヘシ

陸軍部內ヨリノ志願者ノ志願票記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所屬部隊長ヨリ速ニ其ノ旨ヲ陸軍經理學校長ニ通知スヘシ

第五十一條ノ六　志願者ヲ採用スル爲檢査ヲ行フ前項ノ檢査ハ身體檢査及學科試驗ニ分チ學科試驗ハ身體檢査合格者ニ付之ヲ行フ

檢査ノ期日左ノ如シ

身體檢査　十一月下旬ヨリ十二月三日迄ノ間ニ於テ師團長ノ指定スル日

學科試驗　十二月四日ヨリ概ネ四日間

第五條第四項ノ規定ハ陸軍經理學校豫科生徒志願者ノ採用檢査ニ關シ之ヲ準用ス

第五十一條ノ七　檢査場ハ第六條ニ規定スル陸軍士官學校豫科生徒ノモノニ同シ

陸軍部外ヨリノ志願者ハ便宜ノ檢査場ヲ選定スヘシ但シ志願票ヲ差出シタル後ニ於テハ檢査場ヲ變更スルコトヲ得ス

受檢當時幹部候補生、操縱候補生又ハ現役兵トシテ在營スヘキ者ハ其ノ部隊號ヲ志願票表面差出年月日ノ下ニ記載スヘシ

陸軍部內ヨリノ志願者ハ檢査場ヲ選定スルコトヲ得ス但シ受檢當時退營シ居ルヘキ者ハ適宜檢査場ヲ選定スルコトヲ得

身體檢査場ハ志願者ノ選定シタルモノニ拘ラス時宜ニ依リ之ヲ指定スルコトアルヘシ

第五十一條ノ八　陸軍部內ヨリノ志願者ニシテ受檢ノ際退營シ居ル者又ハ陸軍部外ヨリノ志願者ハ新ニ撮影シタル「カビネ」形ノ寫眞一枚ヲ身體檢査ノ際檢査醫官ニ差出スヘシ

前項ノ寫眞ハ單獨半身脫帽トシ其ノ表面臺紙ノ餘白ニ本人ノ本籍地及氏名ヲ、其ノ裏面ニ受檢中ノ宿所ヲ記入スヘシ

除長ヨリ速ニ其ノ旨ヲ關係諸官ニ通知スヘシ

第五十一條ノ六　志願者ヲ採用スル爲檢査ヲ行フ前項ノ檢査ハ身體檢査及學科試驗ニ分チ學科試驗ハ身體檢査合格者ニ付之ヲ行フ

檢査ノ期日左ノ如シ

身體檢査　十一月下旬ヨリ十二月三日迄ノ間ニ於テ師團長ノ指定スル日

學科試驗　十二月四日ヨリ概ネ四日間

第五條第四項ノ規定ハ陸軍經理學校豫科生徒志願者ノ採用檢査ニ關シ之ヲ準用ス

第五十一條ノ七　檢査場ハ第六條ニ規定スル陸軍士官學校豫科生徒ノモノニ同シ

陸軍部外ヨリノ志願者ハ便宜ノ檢査場ヲ選定スヘシ但シ志願票ヲ差出シタル後ニ於テハ檢査場ヲ變更スルコトヲ得ス

受檢當時幹部候補生、操縱候補生又ハ現役兵トシテ在營スヘキ者ハ其ノ部隊號ヲ志願票表面差出年月日ノ下ニ記載スヘシ

陸軍部內ヨリノ志願者ハ檢査場ヲ選定スルコトヲ得ス但シ受檢當時退營シ居ルヘキ者ハ適宜檢査場ヲ選定スルコトヲ得

身體檢査場ハ志願者ノ選定シタルモノニ拘ラス時宜ニ依リ之ヲ指定スルコトアルヘシ

第五十一條ノ八　陸軍部內ヨリノ志願者ニシテ受檢ノ際退營シ居ル者又ハ陸軍部外ヨリノ志願者ハ新ニ撮影シタル「カビネ」形ノ寫眞一枚ヲ身體檢査ノ際檢査醫官ニ差出スヘシ

前項ノ寫眞ハ單獨半身脫帽トシ其ノ表面臺紙ノ餘白ニ本人ノ本籍地及氏名ヲ、其ノ裏面ニ受檢中ノ宿所ヲ記入スヘシ

第一項ノ寫眞ハ身體檢査ニ不合格ト爲リタル場合ヲ除クノ外之ヲ返戾セス

第五十一條ノ九　學科試驗ハ概ネ中學校第四學年第二學期修業ノ程度ニ於テ左ノ科目ニ付之ヲ行フ但シ外國語ハ英、佛、獨、露、支那語ノ中志願者ノ希望スル一種ニ付試驗ス

國語　漢文　作文　外國語　數學　地理　歷史　理科

前項ノ試驗科目ノ範圍ハ之ヲ告示ス

學科試驗ノ際ハ「ペン」、黑又ハ青「インク」、吸取紙（新シキ無地ノモノ）、鉛筆、小刀、消「ゴム」、圖引具（三角定規共）ヲ携行スルモノトス

第五十一條ノ十　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ檢査ヲ停止ス

一　檢査ノ際不正ノ所爲アリタル者

二　試驗室ニ規定以外ノ物品ヲ携ヘタル者

三　檢査ニ臨席又ハ遲刻シタル者

四　言動所爲軍面目ヲ缺ク者

第五十一條ノ十一　檢査ノ全部ヲ終リタル者ハ直ニ現在修學ノ學校長又ハ最終修學ノ學校長ニ成績證明ヲ願出ツヘシ

第五十一條ノ十二　部隊長陸軍部內ヨリノ志願者ヨリ志願票ヲ受ケタルトキハ志願者ノ適否ヲ判定シ其ノ受檢ヲ許可スヘキ者ニ付テハ志願票ニ證印シ之ヲ九月三十日迄ニ部隊所在地所管ノ師團長（近衞師團長ヲ除ク本章中以下同シ）ニ差出スヘシ

師團長前項ノ志願票ヲ受ケタルトキハ志願者ノ檢査場ヲ決定シ志願票ニ記入ノ上之ヲ十月十五日迄ニ陸軍經理學校長ニ送付スヘシ

第五十一條ノ十三　陸軍經理學校長ハ志願者ヨリ差出シタル志願票ヲ審査シ之ヲ檢査場每ニ區分シ試驗問題等ト共ニ檢査場所管ノ師團長ニ送付スヘシ

第五十一條ノ十四　志願者ノ檢査（身體檢査ノ實施ニ關スル事項ヲ除ク）ハ師團長ノ指命スル其ノ隷下ノ將校又ハ同相當官之ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ檢査ヲ行フ者ヲ檢査官ト稱ス

第五十一條ノ十五　師團長ハ檢査場ヲ選定シ檢査官及身體檢査醫官（高級醫官ハ陸軍二、三等軍醫正又ハ陸軍一等軍醫トス）ヲ命シ之ニ志願票及試驗問題ヲ下付シ且試驗ニ關スル必要ノ指示ヲ爲スヘシ

近衞師團長、陸軍士官學校長、陸軍經理學校長又ハ陸軍幼年學校長ハ第一師團長ヨリ前項ノ職員編成ノ爲所要ノ人員ノ援助ニ付請求アリタルトキハ之ニ便宜ヲ與フルコトヲ要ス但シ第一師團長ヨリ陸軍士官學校長又ハ陸軍幼年學校長ニ請求スルハ身體檢査醫官ニ限ルモノトス

師團長ハ市町村長、聯隊區司令官等ヲシテ第五十一條ノ六第四項ノ規定ニ依リ準用シタル第五條第四項ノ揭示ヲ爲サシムヘシ

第五十一條ノ十六　師團長ハ檢査官ヲシテ檢査場一般ノ管理（身體檢査ノ實施ニ關スル事項ヲ除ク）及所要ノ調査ニ任セシメ身體檢査醫官ヲシテ身體檢査ヲ行ハシムヘシ

第五十一條ノ十七　身體檢査醫官身體檢査ヲ終リタルトキハ志願票ニ所要ノ記入ヲ爲シ合格者ノ寫眞ト共ニ之ヲ檢査官ニ差出スヘシ

檢査官ハ陸軍部外ヨリノ志願者ニシテ身體檢査ニ合格シタル者ノ本籍地及氏名ヲ速ニ本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知シ聯隊區司令官ハ之ヲ本籍地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第五十一條ノ十八　檢査官試驗ヲ終リタルトキハ志願票ニ所要ノ記入ヲ爲シ答解書及寫眞ト共ニ之ヲ陸軍經理學校長ニ送付シ試驗實施報告ヲ師團長ニ差出スヘシ

師團長ハ前項ノ規定ニ依ル報告ニ意見ヲ附シ速ニ陸軍經理學校長ニ送付スヘシ

第五十一條ノ十九　學校長第五十一條ノ十一ノ願出ヲ受ケタルトキハ證明書（第二樣式）ヲ作リ之ヲ一月十日迄ニ本籍地ノ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第五十一條ノ二十　市町村長ハ本籍地ノ聯隊區司令官ヨリ身體檢査合格者ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ身上明細書（第三樣式）ヲ作リ之ニ戶籍謄本ヲ添ヘ十二月二十五日迄ニ本籍地ノ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第五十一條ノ二十一　陸軍經理學校長ハ檢査官ヨリ差出シタル志願票ヲ調査シ陸軍部外ヨリノ志願者ニシテ檢査ノ全部ヲ終リタル者ノ分ハ之ヲ本籍地ノ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第五十一條ノ二十二　本籍地ノ聯隊區司令官ハ市町村長及學校長ヨリ送付シタル書類ニ付前條ノ志願票ト對照調査シ檢査ノ全部ヲ終リタル者ニ關スルモノヲ志願票ト共ニ一月末日迄ニ陸軍經理學校長ニ送付スヘシ

第五十一條ノ二十三　部隊長ハ陸軍部內ヨリノ志願者ニシテ檢査ノ全部ヲ終リタル者ニ付身上明細書（第三樣式）ヲ作リ之ニ戶籍謄本ヲ添ヘ一月十五日迄ニ部隊所在地所管ノ師團長ニ差出スヘシ

師團長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ一月三十一日迄ニ之ヲ陸軍經理學校長ニ送付スヘシ

第五十一條ノ二十四　陸軍經理學校長採用豫定者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨ヲ著校期日ト共ニ本人ニ（陸軍部內ヨリノ志願者ニ付テハ所屬部隊長ヲ經由シ）通達スヘシ

採用豫定者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第五十一條ノ二十五　陸軍經理學校長ハ採用豫定者著校後三日以內ニ身體檢査ヲ行ヒ生徒タルニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ之ヲ歸鄉又ハ歸隊セシムヘシ

第五十一條ノ二十六　陸軍經理學校長採用者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨ヲ本人ニ通達シ且陸軍部外ヨリノ志願者ニ付テハ本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ、陸軍部內ヨリノ志願者ニ付テハ本人ノ部隊長ニ通知スヘシ

第五十一條ノ二十七　無屆ニテ著校セサル者、自己ノ不注意ニ因リ著校期日ニ遲レタル者又ハ第五十一條ノ二十八ニ規定スル手續ヲ了セサル者ハ之ヲ除名ス

著校期日ヨリ二十日以內ニ到著セサル者ハ之ヲ除名スルコトアルヘシ

第五十一條ノ二十八　採用ノ達ヲ受ケタル者ハ保證人ヲ定メ入校後直ニ其ノ者ヲシテ保證書（第四樣式ノ一）ヲ陸軍經理學校長ニ差出サシムヘシ

第五十一條ノ二十九　採用豫定者ニハ其ノ學科試驗受驗當時ノ現住地ヨリ學校所在地迄ノ里程ニ應シ入校後（陸軍部內ノ者ニ在リテハ出發ノ際）陸軍旅費規則ニ依リ旅費ヲ支給ス

第五十一條ノ二十五ノ規定ニ依リ歸鄉又ハ歸隊セシメタル者ニハ前項ノ規定ニ準シ其ノ復歸ノ爲旅費ヲ支給ス

第三章　陸軍工科學校生徒

第五十二條　陸軍工科學校生徒ヲ志願シ得ヘキ者ノ年齡左ノ如シ

一　現役兵ヨリノ志願者（願書ヲ差出ストキ未タ入營セサル者及歸休シ居ル者ヲ除ク）　二十三年未滿

二　陸軍部外ヨリノ志願者　十七年以上二十年未滿

前項ニ規定スル年齡ハ入校年ノ三月三十一日ニ於ケル年齡トス

第五十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ採用セス

一　妻アル者

二　破產ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者

三　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四　素行修マラサル者

第五十四條　志願者ノ差出スヘキ願書類、其ノ差出期日及差出先左ノ如シ

志願票（第六樣式）

五月三十一日迄ニ到著スル如ク希望スル檢査地所管ノ聯隊區司令官（朝鮮、臺灣、關東州、滿洲國又ハ支那ニ於テ檢査ヲ受ケントスル者ニ在リテハ師團長又ハ軍司令官本章中以下同シ）ニ

- 戶籍謄本（新ニ交付ヲ受ケタルモノ）　右ニ同シ
- 志願票（第六樣式）　六月十日迄ニ所屬部隊長ニ

陸軍部內ヨリノ志願者

- 戶籍謄本（新ニ交付ヲ受ケタルモノ）　右ニ同シ

志願票用紙ハ本人ノ請求ニ依リ陸軍技術本部、陸軍工科學校又ハ聯隊區司令部（朝鮮ニ在リテハ師團司令部、臺灣、關東州、滿洲國又ハ支那ニ在リテハ軍司令部）ニ於テ之ヲ交付ス

志願票ヲ差出シタル後現役兵トシテ入營シタル者ハ直ニ所屬部隊長ニ受檢ノ許可ヲ願出ツヘシ

前項ノ受檢ヲ許可シタル者ニ付テハ爾後陸軍部內ヨリノ志願者トシテ之ヲ取扱ヒ志願票ヲ差出シタル後退營シタル者ニ付テハ爾後陸軍部外ヨリノ志願者トシテ之ヲ取扱ヒ（志願者ノ年齡ニ付テハ現役兵ヨリノ志願者ニ同シ）部隊長ハ各其ノ旨ヲ速ニ陸軍工科學校長ニ通知スヘシ

第五十五條　志願票ヲ差出シタル後其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ志願者ハ速ニ其ノ旨ヲ志願票差出先ノ諸官ヲ經テ陸軍工科學校長ニ屆出ツヘシ但シ檢査後ニ在リテハ直接陸軍工科學校長ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

陸軍部內ヨリノ志願者ノ志願票記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所屬部隊長ヨリ速ニ其ノ旨ヲ陸軍工科學校長ニ通知スヘシ

第五十六條　志願者ヲ採用スル爲檢査ヲ行フ

前項ノ檢査ハ身體檢査及學科試驗ニ分チ學科試驗ハ身體檢査合格者ニ付之ヲ行フ

檢査ノ期日左ノ如シ但シ身體檢査ニ限リ其ノ開始期日ヲ繰上クルコトアルヘシ

身體檢査　九月十三日

學科試驗　九月十四日ヨリ概ネ三日間

檢査ノ日時及場所ハ第五十八條ニ規定スル檢査官ヨリ之ヲ本人ニ通達スルト共ニ檢査場所在地ノ市役所、區役所、町村役場（朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ之ニ準スルモノ）、聯隊區司令部（聯隊區司令部ナキ場所ニ在リテハ最高陸軍官衙又ハ軍隊）等ニ檢査開始五日前迄ニ之ヲ揭示ス

第五十七條　檢査場ハ左ノ各地ニ之ヲ設ク但シ各所管毎ニ適宜集合シテ之ヲ設クルコトアルヘシ

第一師管	東京	横須賀	千葉	甲府	
第二師管	仙臺	若松	高田	新發田	
第三師管	名古屋	岐阜	豊橋	靜岡	
第四師管	大阪	和歌山			
第五師管	廣島	濱田	福山	山口	
第六師管	熊本	鹿兒島	都城	大分	那覇
第七師管	札幌	旭川	函館	釧路	
第八師管	弘前	山形	青森	秋田	盛岡
第九師管	金澤	鯖江	富山		
第十師管	姫路	岡山	松江	鳥取	
第十一師管	善通寺	高知	松山	徳島	
第十二師管	小倉	福岡	久留米	佐賀	大村
鎮守府	横須賀	吳	佐世保	舞鶴	
第一師管	宇都宮	水戸	松本	高崎	
第十四師管	宇都宮	水戸	松本	高崎	
第十六師管	京都	津	奈良	福知山	
朝鮮	京城	平壤	大邱	羅南	咸興
臺灣	臺北	臺南			
關東州及滿洲國	旅順	新京	奉天		
支那	天津				

陸軍部外ヨリノ志願者ハ便宜ノ檢査場ヲ選定スヘシ但シ志願票ヲ差出シタル後檢査場ノ變更ヲ望ム者ハ新舊檢査場、新舊住所、氏名及生年月日ヲ記載シタル願書ヲ七月二十日迄ニ陸軍工科學校長ニ差出スヘシ

受檢當時在營スヘキ者ハ其ノ部隊號ヲ受檢希望地欄ニ記載スヘシ

陸軍部内ヨリノ志願者ハ檢査場ヲ選定スルコトヲ得ス但シ受檢當時退營シ居ルヘキ者ハ適宜檢査場ヲ選定スルコトヲ得

第五十八條　志願者ノ檢査　身體檢査ノ實施ニ關スル事項ヲ除ク）ハ廳布又ハ本郷聯隊區管内ニ於テ受檢セントスル者又ハ東京衛戍地ニ在ル軍隊ニ屬スル者ニ在リテハ陸軍工科學校長、其ノ他ノ者ニ在リテハ檢査地所管ノ當該聯隊區司令官又ハ師團長ノ指名スル其ノ隷下ノ將校之ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ檢査ヲ行フ諸官ヲ檢査官ト稱ス

第五十九條　陸軍部内ヨリノ志願者ニシテ受檢ノ際退營シ居ル者又ハ陸軍部外ヨリノ志願者ハ新ニ撮影シタル手札形ノ寫眞一枚ヲ身體檢査ノ際檢査醫官ニ差出スヘシ

前項ノ寫眞ハ單獨半身脫帽トシ其ノ表面臺紙ノ餘白ニ本人ノ本籍地及氏名ヲ、其ノ裏面ニ受檢中ノ宿所ヲ記入スヘシ

第一項ノ寫眞ハ身體檢査ニ不合格ト爲リタル場合ヲ除クノ外之ヲ返戻セス

第六十條　學科試驗ハ高等小學校卒業ノ程度ニ於テ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

國語　作文　數學　地理歷史　理科

學科試驗ノ際ハ「ペン」、黑又ハ青「インク」、吸取紙（新シキ無地ノモノ）、鉛筆、小刀、消「ゴム」、三角定規ヲ携行スルモノトス

第六十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ檢査ヲ停止ス

一　檢査ノ際不正ノ所爲アリタル者

二　試驗室ニ規定以外ノ物品ヲ携ヘタル者

三　檢査ニ臨席又ハ遲刻シタル者

四　言語所爲眞面目ヲ缺ク者

第六十二條　部隊長陸軍部内ヨリノ志願者ヨリ願書類ヲ受ケタルトキハ志願者ノ適否ヲ判定シ其ノ受檢ヲ許可スヘキ者ニ付テハ志願票ニ參考ト爲ルヘキ事項（賞罰、特有ノ技能等）及志願者ノ檢査場ヲ記入證印シ之ヲ六月三十日迄ニ陸軍工科學校長ニ送付スヘシ

聯隊區司令官陸軍部外ヨリノ志願者ヨリ願書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ六月三十日迄ニ陸軍工科學校長ニ送付スヘシ

第六十三條　陸軍工科學校長ハ志願者ヨリ差出シタル志願票ヲ審査シ之ヲ檢査場毎ニ區分シ學科試驗問題、同日割等ト共ニ八月十日迄ニ師團長ヲ經テ檢査官ニ送付スヘシ

第六十四條　檢査官ハ第五十六條第三項ノ規定ニ依リ身體檢査ノ期日ヲ定メ之ヲ師團長ニ報告スルト共ニ其ノ檢査ノ期日及場所ヲ志願者ニ通達シ且第五十六條第四項ニ規定スル揭示ヲ爲スヘシ但シ陸軍工科學校長ハ檢査ノ期日ヲ陸軍技術本部長ニ報告スルモノトス

師團長（近衞師團長ヲ除ク、又ハ陸軍工科學校長ハ身體檢査醫官（高級醫官ハ陸軍二、三等軍醫正又ハ陸軍一等軍醫トス）ヲ命シ身體檢査ヲ行ハシムヘシ

近衞師團長ハ第一師團長ヨリ、近衞又ハ第一師團長ハ陸軍工科學校長ヨリ身體檢査醫官編成ノ爲所要ノ人員ノ援助ニ付請求アリタルトキハ之ニ便宜ヲ與フルコトヲ要ス身體檢査醫官檢査ヲ終リタルトキハ志願票ニ所要ノ記入ヲ爲シ合格者ノ寫眞ト共ニ檢査官ニ差出スヘシ

第六十五條　檢査官檢査ヲ終リタルトキハ答解書、願書類及寫眞ヲ取纏メ速ニ陸軍工科學校長ニ送付スヘシ

第六十六條　陸軍工科學校長採用豫定者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨ヲ著校期日ト共ニ本人（陸軍部内ヨリノ志願者ニ付テハ所屬部隊長ヲ經由シ）ニ通達シ且陸軍技術本部長ニ報告スヘシ

採用豫定者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第六十七條　陸軍工科學校長ハ著校後三日以内ニ身體檢査ヲ行ヒ生徒タルニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ之ヲ歸鄉又ハ歸隊セシムヘシ

第六十七條ノ二　陸軍工科學校長採用者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨陸軍技術本部長ニ報告シ且本人ニ通達スルト共ニ別ニ陸軍部外ヨリノ志願者ニ付テハ本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ、陸軍部内ヨリノ志願者ニ付テハ本人所屬ノ部隊長ニ通知スヘシ

第六十八條　無屆ニテ著校セサル者、自己ノ不注意ニ因リ著校期日ニ遲レタル者又ハ第六十九條ニ規定スル手續ヲ了セサル者ハ之ヲ除名ス

著校期日ヨリ二十日以内ニ到著セサル者ハ之ヲ除名スルコトアルヘシ

第六十九條　採用ノ達ヲ受ケタル者ハ保證人ヲ定メ入校後直ニ其ノ者ヲシテ保證書（第四樣式ノ一）ヲ陸軍工科學校長ニ差出サシムヘシ

第七十條　採用豫定者ニハ其ノ受檢當時ノ現住地ヨリ學校所在地迄ノ里程ニ應シ入校後（陸軍部内ノ者ニ在リテハ出發ノ際）陸軍旅費規則ニ依リ旅費ヲ支給ス

第六十七條ノ規定ニ依リ歸鄉又ハ歸隊セシメタル者ニハ前項ノ規定ニ準シ其ノ復歸ノ爲旅費ヲ支給ス

第七十一條　生徒ヲ編入スヘキ工科ハ入校後若干日ノ後陸軍大臣ノ配當ニ基キ校長之ヲ定ム

第四章　熊谷陸軍飛行學校操縱生徒

第七十二條　熊谷陸軍飛行學校操縱生徒ヲ志願シ得ヘキ者ノ年齢左ノ如シ

一　現役兵ヨリノ志願者（願書ヲ差出ストキ未タ入營セサル者及歸休シ居ル者ヲ除ク）　二十年未滿

二　陸軍部外ヨリノ志願者　十七年以上十九年未滿

前項ニ規定スル年齢ハ入校年ノ三月三十一日ニ於ケル年齢トス

第七十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ採用セス

一　妻アル者

二　破產ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者

三　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四　素行修マラサル者

第七十四條　志願者ノ差出スヘキ願書類、其ノ差出期日及差出先左ノ如シ

陸軍部外ヨリノ志願者
- 志願票（第七樣式）　五月三十一日迄ニ到著スル如ク希望スル檢查地所管ノ聯隊區司令官（朝鮮、臺灣、關東州、滿洲國又ハ支那ニ於テ檢查ヲ受ケントスル者ニ在リテハ師團長又ハ軍司令官本章中以下同シ）ニ
- 戶籍謄本（新ニ交付ヲ受ケタルモノ）　右ニ同シ

陸軍部內ヨリノ志願者
- 志願票（第七樣式）　六月十日迄ニ所屬部隊長ニ
- 戶籍謄本（新ニ交付ヲ受ケタルモノ）　右ニ同シ

志願票用紙ハ本人ノ請求ニ依リ陸軍航空本部、熊谷陸軍飛行學校又ハ聯隊區司令部（朝鮮ニ在リテハ師團司令部、臺灣、關東州、滿洲國又ハ支那ニ於テハ最高陸軍官衙又ハ軍隊）等ニ檢查開始五日前迄ニ之ヲ揭

第七十七條　第一次檢查場ハ左ノ各地ニ之ヲ設ク但シ各所管每ニ適宜集合シテ之ヲ設クルコトアルヘシ

第一師管	東京	横須賀	千葉	甲府	
第二師管	仙臺	若松	高田	新發田	
第三師管	名古屋	岐阜	豊橋	靜岡	
第四師管	大阪	和歌山			
第五師管	廣島	濱田	福山	山口	
第六師管	熊本	鹿兒島	都城	大分	那覇
第七師管	札幌	旭川	函館	釧路	
第八師管	弘前	山形	青森	秋田	盛岡
第九師管	金澤	鯖江	富山		
第十師管	姫路	岡山	松江	鳥取	
第十一師管	善通寺	高知	松山	德島	
第十二師管	小倉	福岡	久留米	佐賀	大村
	鷄知				
第十四師管	宇都宮	水戸	松本	高崎	
第十六師管	京都	津	奈良	福知山	
朝鮮	京城	平壤	大邱	羅南	咸興
臺灣	臺北	臺南			
關東州及滿洲國	旅順	新京	奉天		
支那	天津				

陸軍部外ヨリノ志願者ハ便宜ノ檢查場ヲ選定スヘシ但シ志願票ヲ差出シタル後檢查場ノ變更ヲ望ム者ハ新舊檢查場、新舊住所、氏名及生年月日ヲ記載シタル願書ヲ七月二十日迄ニ陸軍航空本部長ニ差出スヘシ

第七十八條　志願者ノ第一次檢查（身體檢查ノ實施ニ關スル事項ヲ除ク）ハ檢查地所管ノ當該聯隊區司令官又ハ師團長ノ指名スル其ノ隷下ノ將校之ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ檢查ヲ行フ諸官ヲ第一次檢查官ト稱ス

第七十九條　陸軍部內ヨリノ志願者ニシテ受檢ノ際退營シ居ル者又ハ陸軍部外ヨリノ志願者ハ新ニ撮影シタル手札形ノ寫眞一枚ヲ第一次身體檢查ノ際檢查醫官ニ差出スヘシ

前項ノ寫眞ハ單獨半身脫帽トシ其ノ表面臺紙ノ餘白ニ本人ノ本籍地及氏名ヲ、其ノ裏面ニ受檢中ノ宿所ヲ記入スヘシ

第一項ノ寫眞ハ第一次身體檢查ニ不合格ト爲リタル場合ヲ除クノ外之ヲ返戻セス

第八十條　學科試驗ハ高等小學卒業ノ程度ニ於テ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

國語　作文　數學　地理歷史　理科

學科試驗ノ際ハ「ペン」、黑又ハ靑「インク」、吸取紙（新シキ無地ノモノ）、鉛筆、小刀、消「ゴム」、三角定規ヲ携行スルモノトス

第八十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ檢查ヲ停止ス

一　檢查ノ際不正ノ所爲アリタル者

二　試驗室ニ規定以外ノ物品ヲ携ヘタル者

三　檢查ニ關席又ハ遲刻シタル者

四　言語所爲眞面目ヲ缺ク者

第八十二條　部隊長陸軍部內ヨリノ志願者ヨリ願書類ヲ受ケタルトキハ志

願者ノ適否ヲ判定シ其ノ受檢ヲ許可スヘキ者ニ付テハ志願票ニ參考ト爲ルヘキ事項（賞罰、特有ノ技能等）及志願者ノ檢査場ヲ記入證印シ之ヲ六月十五日迄ニ陸軍航空本部長ニ送付スヘシ

聯隊區司令官陸軍部外ヨリノ志願者ヨリ願書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ六月十五日迄ニ陸軍航空本部長ニ送付スヘシ

第八十三條　陸軍航空本部長ハ志願者ヨリ差出シタル志願票ヲ審査シ之ヲ第一次檢査場毎ニ區分シ學科試驗問題、同日割等ト共ニ八月二十日迄ニ師團長ヲ經テ第一次檢査官ニ送付スヘシ

第八十四條　第一次檢査官ハ第七十六條第三項ノ規定ニ依リ第一次身體檢査ノ期日ヲ定メ之ヲ師團長ニ報告スルト共ニ其ノ檢査ノ期日及場所ヲ志願者ニ通達シ且第七十六條第四項ニ規定スル揭示ヲ爲スヘシ

師團長（近衛師團長ヲ除ク）ハ第一次身體檢査醫官（高級醫官ハ陸軍二、三等軍醫正又ハ陸軍一等軍醫トス）ヲ命シ第一次身體檢査ヲ行ハシムヘシ

近衛師團長ハ第一師團長ヨリ第一次身體檢査醫官編成ノ爲所要ノ人員ノ援助ニ付請求アリタルトキハ之ニ便宜ヲ與フルコトヲ要ス

第一次身體檢査醫官前項ノ檢査ヲ終リタルキハ志願票ニ所要ノ記入ヲ爲シ合格者ノ寫眞ト共ニ之ヲ第一次檢査官ニ差出スヘシ

第八十五條　第一次檢査官第一次檢査ヲ終リタルトキハ答解書、願書類及寫眞ヲ取纏メ速ニ陸軍航空本部長ニ送付スヘシ

第八十六條　陸軍航空本部長採用豫定者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨ヲ第二次檢査ノ日時及場所ト共ニ本人（陸軍部内ヨリノ志願者ニ付テハ所屬部隊長ヲ經由シ）ニ通達スヘシ

採用豫定者ノ氏名竝ニ第二次檢査ノ日時及場所ハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第八十七條　採用豫定者ハ保證人ヲ定メ第二次檢査ノ期日迄ニ其ノ者ヲシテ保證書（第四樣式ノ一）ヲ熊谷陸軍飛行學校長ニ差出サシムヘシ

前項ニ規定スル手續ヲ了セサル者ハ第二次檢査ヲ停止ス

第八十八條　陸軍航空本部長ハ第二次檢査委員ヲ命シ且檢査ニ關シ必要ナル指示ヲ爲シ檢査場一般ノ管理（身體檢査ノ實施ニ關スル事項ヲ除ク）及志願者ノ試問ニ任セシムヘシ

第八十九條　陸軍航空勤務者身體檢査委員ハ第二次身體檢査ヲ行ヒ其ノ結果ヲ志願者ノ寫眞ト共ニ第二次檢査委員ニ交付スヘシ

第九十條　第二次檢査委員檢査ヲ終リタルトキハ其ノ結果ヲ陸軍航空本部長ニ報告スヘシ

第九十一條　陸軍航空本部長採用者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨ヲ入校期日ト共ニ本人ニ通達シ且陸軍部外ヨリノ志願者ニ付テハ本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ、陸軍部内ヨリノ志願者ニ付テハ本人所屬ノ部隊長ニ通知スヘシ

採用者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第九十二條　採用豫定者ニハ其ノ第一次檢査受檢當時ノ現住地ヨリ學校所在地迄ノ里程ニ應シ入校後（陸軍部内ノ者ニ在リテハ出發ノ際）陸軍旅費規則ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二次檢査ニ合格セサル爲歸鄉又ハ歸隊セシメタル者ニハ前項ノ規定ニ準シ其ノ復歸ノ爲旅費ヲ支給ス

第四章ノ二　陸軍航空技術學校技術生徒

第九十三條　陸軍航空技術學校技術生徒ヲ志願シ得ヘキ者ノ年齡左ノ如シ

一　現役兵ヨリノ志願者（願書ヲ差出ストキ未タ入營セサル者及歸休シ居ル者ヲ除ク）　二十年未滿

二　陸軍部外ヨリノ志願者　十五年以上十八年未滿

前項ニ規程スル年齡ハ入校年ノ三月三十一日ニ於ケル年齡トス

第九十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ採用セス

一　妻アル者

二　破產ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者

三　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四　素行修マラサル者

第九十五條　志願者ノ差出スヘキ願書類、其ノ差出期日及差出先左ノ如シ

陸軍部外ヨリノ志願者	志願票（第六樣式）	五月三十一日迄ニ到著スル如ク希望スル檢査地所管ノ聯隊區司令官（朝鮮、臺灣、關東州、滿洲國又ハ支那ニ於テ檢査ヲ受ケントスル者ニ在リテハ師團長又ハ軍司令官本章中以下同シ）ニ
	戶籍謄本（新ニ交付ヲ受ケタルモノ）	右ニ同シ
陸軍部内ヨリノ志願者	志願票（第六樣式）	六月十日迄ニ所屬部隊長ニ
	戶籍謄本（新ニ交付ヲ受ケタルモノ）	右ニ同シ

志願票用紙ハ本人ノ請求ニ依リ陸軍航空本部、陸軍航空技術學校又ハ聯隊區司令部（朝鮮ニ在リテハ師團司令部、臺灣、關東州、滿洲國又ハ支那ニ在リテハ軍司令部）ニ於テ之ヲ交付ス

志願票ヲ差出シタル後現役兵トシテ入營シタル者ハ直ニ所屬部隊長ニ受檢ノ許可ヲ願出ツヘシ

前項ノ受檢ヲ許可シタル者ニ付テハ爾後陸軍部内ヨリノ志願者トシテ之ヲ取扱ヒ志願票ヲ差出シタル後退營シタル者ニ付テハ爾後陸軍部外ヨリノ志願者トシテ之ヲ取扱ヒ（志願者ノ年齡ニ付テハ現役兵ヨリノ志願者ニ同シ）部隊長ハ各其ノ旨ヲ速ニ陸軍航空本部長ニ通知スヘシ

第九十六條　志願票ヲ差出シタル後其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ

志願者ハ速ニ其ノ旨ヲ志願票差出先ノ諸官ヲ經テ陸軍航空本部長ニ屆出ツヘシ但シ檢査後ニ在リテハ直接陸軍航空本部長ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

陸軍部内ヨリノ志願者ノ志願票記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所屬部隊長ヨリ速ニ其ノ旨ヲ陸軍航空本部長ニ通知スヘシ

第九十七條　志願者ヲ採用スル爲檢査ヲ行フ

前項ノ檢査ハ身體檢査及學科試驗ニ分チ學科試驗ハ身體檢査合格者ニ付之ヲ行フ

檢査ノ期日左ノ如シ但シ身體檢査ニ限リ其ノ開始期日ヲ繰上クルコトアルヘシ

身體檢査	九月二十二日
學科試驗	九月二十三日ヨリ概ネ二日間

檢査ノ日時及場所ハ第九十九條ニ規定スル檢査官ヨリ之ヲ本人ニ通達スルト共ニ檢査場所在地ノ市役所、區役所、町村役場（朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ之ニ準スルモノ）、聯隊區司令部（聯隊區司令部ナキ場所ニ在リテハ最高陸軍官衙又ハ軍隊）等ニ檢査開始五日前迄ニ之ヲ揭示ス

第九十八條　檢査場ハ左ノ各地ニ之ヲ設ク但シ各所管每ニ適宜集合シテ之ヲ設クルコトアルヘシ

第一師管	東京	橫須賀	千葉	甲府	
第二師管	仙臺	若松	高田	新發田	
第三師管	名古屋	岐阜	豐橋	靜岡	
第四師管	大阪	和歌山			
第五師管	廣島	濱田	福山	山口	
第六師管	熊本	鹿兒島	都城	大分	那覇
第七師管	札幌	旭川	函館	釧路	

第八師管　弘前　山形　青森　秋田　盛岡
第九師管　金澤　鯖江　富山
第十師管　姫路　岡山　松江　鳥取
第十一師管　善通寺　高知　松山　德島
第十二師管　小倉　福岡　久留米　佐賀　大村
鴛知

第十四師管　宇都宮　水戸　松本　高崎
第十六師管　京都　津　奈良　福知山
朝鮮　京城　平壤　大邱　羅南　咸興
臺灣　臺北　臺南
關東州及滿洲國　旅順　新京　奉天
支那　天津

第百一條　學科試驗ハ高等小學校卒業ノ程度ニ於テ左ノ科目ニ付之ヲ行フ
國語　作文　數學　地理歷史　理科
學科試驗ノ際ハ「ペン」、黑又ハ青「インク」、吸取紙（新シキ無地ノモノ）、鉛筆、小刀、消「ゴム」、三角定規ヲ携行スルモノトス

第百二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ檢查ヲ停止ス
一　檢查ノ際不正ノ所爲アリタル者
二　試驗室ニ規定以外ノ物品ヲ携ヘタル者
三　檢查ニ關席又ハ遲刻シタル者
四　言語所爲眞面目ヲ缺ク者

第百三條　部隊長陸軍部內ヨリノ志願者ヨリ願書類ヲ受ケタルトキハ志願者ノ適否ヲ判定シ其ノ受檢ヲ許可スヘキ者ニ付テハ志願票ニ參考ト爲ルヘキ事項（賞罰、特有ノ技能等）及志願者ノ檢查場ヲ記入證印シ之ヲ六月三十日迄ニ陸軍航空本部長ニ送付スヘシ
聯隊區司令官陸軍部外ヨリノ志願者ヨリ願書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審查シ六月三十日迄ニ陸軍航空本部長ニ送付スヘシ

第百四條　陸軍航空本部長ハ志願者ヨリ差出シタル志願票ヲ審查シ之ヲ檢查場毎ニ區分シ學科試驗問題、同日割等ト共ニ八月二十日迄ニ師團長ヲ經テ檢查官ニ送付スヘシ

第百五條　檢查官ハ第九十七條第三項ノ規定ニ依リ身體檢查ノ期日ヲ定メ之ヲ師團長ニ報告スルト共ニ其ノ檢查ノ期日及場所ヲ志願者ニ通達シ且第九十七條第四項ニ規定スル揭示ヲ爲スヘシ

前項ノ寫眞ハ單獨半身脫帽トシ其ノ表面臺紙ノ餘白ニ本人ノ本籍地及氏名ヲ、其ノ裏面ニ受檢中ノ宿所ヲ記入スヘシ
第一項ノ寫眞ハ身體檢查ニ不合格ト爲リタル場合ヲ除クノ外之ヲ返戾セス

前項ノ規定ニ依リ檢查ヲ行フ諸官ヲ檢查官ト稱ス

第百條　陸軍部內ヨリノ志願者ニシテ受檢ノ際退營シ居ル者又ハ陸軍部外ヨリノ志願者ハ新ニ撮影シタル手札形ノ寫眞一枚ヲ身體檢查ノ際檢查官ニ差出スヘシ

第九十九條　志願者ノ檢查（身體檢查ノ實施ニ關スル事項ヲ除ク）ハ檢查地所管ノ當該聯隊區司令官又ハ師團長ノ指名スル其ノ隷下ノ將校之ヲ行フ

第九十八條　志願者ノ檢查ハ第一師團長ヨリ身體檢查醫官編成ノ爲所要ノ人員ノ援助ニ付請求アリタルトキハ之ニ便宜ヲ與フルコトヲ要ス
身體檢查醫官前項ノ檢查ヲ終リタルトキハ志願票ニ所要ノ記入ヲ爲シ合格者ノ寫眞ト共ニ檢查官ニ差出スヘシ

第九十七條　檢查官ハ第一師團長ヨリ身體檢查醫官（高級醫官ハ陸軍二、三等軍醫正又ハ陸軍一等軍醫トス）ヲ命シ身體檢查ヲ行ハシムヘシ
近衞師團長ハ第一師團長ヨリ身體檢查醫官編成ノ爲所要ノ人員ノ援助ニ付請求アリタルトキハ之ニ便宜ヲ與フルコトヲ要ス

第九十六條　檢查官ハ檢查ヲ終リタルトキハ答解書、願書類及寫眞ヲ取纏メ連ニ陸軍航空本部長ニ送付スヘシ

第九十五條　陸軍航空本部長ハ志願者ニ付テハ本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ、陸軍部內ヨリノ志願者ニ付テハ本人所屬ノ部隊長ニ通知スヘシ

第九十四條　陸軍航空本部長ハ豫定數ノ二倍ヲ超ユル志願者ヲ採用スルモノトス
前項ノ豫定數ハ陸軍航空本部長ニ於テ之ヲ定ム

第九十三條　陸軍航空本部長ハ採用豫定者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨ヲ本人ニ通達シ且陸軍部外ヨリノ志願者ニ付テハ本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ、陸軍部內ヨリノ志願者ニ付テハ本人所屬ノ部隊長ニ通知スヘシ

第九十二條　採用豫定者ニハ其ノ受檢當時ノ現住地ヨリ學校所在地迄ノ里程ニ應シ入校後（陸軍部內ノ者ニ在リテハ出發ノ際）陸軍旅費規則ニ依リ旅費ヲ支給ス

第九十一條　採用豫定者ノ入校後（陸軍部內ノ者ニ在リテハ出發ノ際）陸軍旅費規則ニ依リ旅費ヲ支給ス

第九十條　採用豫定者ニハ其ノ受檢當時ノ現住地ヨリ學校所在地迄ノ里程ニ應シ入校後（陸軍部內ノ者ニ在リテハ出發ノ際）陸軍旅費規則ニ依リ旅費ヲ支給ス

第八十九條　採用豫定者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第八十八條　陸軍航空技術學校長ハ著校後三日以內ニ身體檢查ヲ行ヒ生徒タルニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ之ヲ歸鄉又ハ歸隊セシメ且其ノ旨ヲ陸軍航空本部長ニ報告スヘシ

第八十八條ノ二　陸軍航空本部長採用者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨ヲ本人ニ通達シ且陸軍部外ヨリノ志願者ニ付テハ本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ、陸軍部內ヨリノ志願者ニ付テハ本人所屬ノ部隊長ニ通知スヘシ

第八十九條　無屆ニテ著校セサル者、自己ノ不注意ニ因リ著校期日ニ遲レタル者又ハ第百十條ニ規定スル手續ヲ了セサル者ハ之ヲ除名ス
著校期日ヨリ二十日以內ニ到著セサル者ハ之ヲ除名スルコトアルヘシ

第九十條　採用ノ達ヲ受ケタル者ハ保證人ヲ定メ入校後直ニ其ノ者ヲシテ保證書（第四樣式ノ一）ヲ陸軍航空技術學校長ニ差出サシムヘシ

第九十一條　採用豫定者ニハ其ノ受檢當時ノ現住地ヨリ學校所在地迄ノ里程ニ應シ入校後（陸軍部內ノ者ニ在リテハ出發ノ際）陸軍旅費規則ニ依リ旅費ヲ支給ス

第九十二條　生徒ヲ編入スヘキ工科ハ入校後若干日ノ後陸軍大臣ノ配當ニ基キ校長之ヲ定ム

第五章　陸軍通信學校生徒

第九十三條　陸軍通信學校生徒ヲ志願シ得ヘキ者ノ年齡ハ十五年以上十八年未滿トス
前項ニ規定スル年齡ハ入校年ノ三月三十一日ニ於ケル年齡トス

第九十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ採用セス
一　妻アル者
二　破產ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者
三　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
四　素行修マラサル者

第九十五條　志願者ノ差出スヘキ願書類、其ノ差出期日及差出先左ノ如シ

志願票（第六樣式）　五月三十一日迄ニ到著スル如ク希望スル檢查地所管ノ聯隊區司令官（朝鮮、臺灣、關東州、滿洲國又ハ支那ニ於テ檢查ヲ受ケントスル者ニ在リテハ師團長又ハ軍司令官本章中以下同シ）ニ

戶籍謄本（新ニ交付ヲ受ケタルモノ）　右ニ同シ

志願票用紙ハ本人ノ請求ニ依リ教育總監部、陸軍通信學校又ハ聯隊區司令部（朝鮮ニ在リテハ師團司令部、臺灣、關東州、滿洲國又ハ支那ニ在リテハ軍司令部）ニ於テ之ヲ交付ス

第九十六條　志願票ヲ差出シタル後其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ

志願者ハ速ニ其ノ旨ヲ志願票差出先ノ諸官ヲ經テ陸軍通信學校長ニ屆出ツヘシ但シ第一次檢査後ニ在リテハ直接陸軍通信學校長ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第百十七條　志願者ヲ採用スル爲檢査ヲ行フ

前項ノ檢査ハ二次ニ之ヲ行ヒ第一次檢査ハ第一次身體檢査及學科試驗ニ分チ學科試驗ハ身體檢査合格者ニ付之ヲ行フ第二次檢査ハ第二次身體檢査及適性檢査ニ分チ第一次檢査合格者ニ付之ヲ行フ

檢査ノ期日左ノ如シ但シ第一次身體檢査ニ限リ其ノ開始期日ヲ繰上クルコトアルヘシ

第一次檢査（第一次身體檢査　九月十三日
　學科試驗　九月十四日ヨリ概ネ二日間）
第二次檢査　十一月三十日

第一次檢査ノ日時及場所ハ第百十九條ニ規定スル第一次檢査官ヨリ之ヲ本人ニ通達スルト共ニ檢査場所在地ノ市役所・區役所・町村役場（朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ之ニ準スルモノ、聯隊區司令部（聯隊區司令部ナキ場所ニ在リテハ最高陸軍官衙又ハ軍隊）等ニ檢査開始五日前迄ニ之ヲ掲示ス

第百十八條　第一次檢査場ハ左ノ各地ニ之ヲ設ク但シ各所管毎ニ適宜集合シテ之ヲ設クルコトアルヘシ

第一師管	東京	横須賀	千葉	甲府	
第二師管	仙臺	若松	高田	新發田	
第三師管	名古屋	岐阜	豊橋	靜岡	
第四師管	大阪	和歌山			
第五師管	廣島	濱田	福山	山口	
第六師管	熊本	鹿兒島	都城	大分	那覇
第七師管	札幌	旭川	函館	釧路	
第八師管	弘前	山形	青森	秋田	盛岡
第九師管	金澤	鯖江	富山		
第十師管	姫路	岡山	松江	鳥取	
第十一師管	善通寺	高知	松山	德島	
第十二師管	小倉	福岡	久留米	佐賀	大村
	鶏知				
第十四師管	宇都宮	水戸	松本	高崎	
第十六師管	京都	津	奈良	福知山	
朝鮮	京城	平壤	大邱	羅南	咸興
臺灣	臺北	臺南			
關東州及滿洲國	旅順	新京	奉天		
支那	天津				

志願者ハ便宜ノ檢査場ヲ選定スヘシ但シ志願票ヲ差出シタル後檢査場ノ變更ヲ望ム者ハ新舊檢査場・新舊住所、氏名及生年月日ヲ記載シタル願書ヲ七月二十日迄ニ陸軍通信學校長ニ差出スヘシ

第二次檢査ハ陸軍通信學校ニ於テ之ヲ實施ス

第百十九條　志願者ノ第一次檢査（身體檢査ノ實施ニ關スル事項ヲ除ク）ハ麻布又ハ本郷聯隊區管内ニ於テ受檢セントスル者ニ在リテハ陸軍通信學校長・其ノ他ノ者ニ在リテハ檢査地所管ノ當該聯隊區司令官又ハ師團長ノ指名スル其ノ隷下ノ將校之ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ檢査ヲ行フ諸官ヲ第一次檢査官ト稱ス

第百二十條　志願者ハ新ニ撮影シタル手札形ノ寫眞一枚ヲ第一次身體檢査ノ際檢査醫官ニ差出スヘシ

前項ノ寫眞ハ單獨半身脫帽トシ其ノ表面疊紙ノ餘白ニ本人ノ本籍地及氏名ヲ、其ノ裏面ニ受檢中ノ宿所ヲ記入スヘシ

第一項ノ寫眞ハ第一次身體檢査ニ不合格ト爲リタル場合ヲ除クノ外之ヲ返戻セス

第百二十一條　學科試驗ハ高等小學校卒業ノ程度ニ於テ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

國語　作文　數學　地理歷史　理科

學科試驗ノ際ハ「ペン」、黑又ハ青「インク」、吸取紙（新シキ無地ノモノ）、鉛筆、小刀、消「ゴム」、三角定規ヲ携行スルモノトス

第百二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ檢査ヲ停止ス

一　檢査ノ際不正ノ所爲アリタル者
二　試驗室ニ規定外ノ物品ヲ携ヘタル者
三　檢査ニ闕席又ハ遲刻シタル者
四　言語所爲眞面目ヲ缺ク者

第百二十三條　聯隊區司令官志願者ヨリ願書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ六月三十日迄ニ陸軍通信學校長ニ送付スヘシ

第百二十四條　陸軍通信學校長ハ志願者ヨリ差出シタル志願票ヲ審査シ之ヲ第一次檢査場毎ニ區分シ學科試驗問題、同日割等ト共ニ八月十日迄ニ師團長ヲ經テ第一次檢査官ニ送付スヘシ

第百二十五條　第一次檢査官ハ第百十七條第三項ノ規定ニ依リ第一次身體檢査ノ期日ヲ定メ之ヲ師團長ニ報告スルト共ニ其ノ檢査ノ期日及場所ヲ志願者ニ通達シ且第百十七條第四項ニ規定スル掲示ヲ爲スヘシ但シ陸軍通信學校長ハ檢査ノ期日ヲ教育總監ニ報告スルモノトス

師團長（近衛師團長ヲ除ク）又ハ陸軍通信學校長ハ第一次身體檢査醫官（高級醫官ハ陸軍二、三等軍醫正又ハ陸軍一等軍醫トス）ヲ命シ第一次身體檢査ヲ行ハシムヘシ

近衛師團長ハ第一師團長ヨリ、近衛又ハ第一師團長ハ陸軍通信學校長ヨリ第一次身體檢査醫官編成ノ爲所要ノ人員ノ援助ニ付請求アリタルトキハ之ニ便宜ヲ與フルコトヲ要ス

第一次身體檢査醫官前項ノ檢査ヲ終リタルトキハ志願票ニ所要ノ記入ヲ爲シ合格者ノ寫眞ト共ニ第一次檢査官ニ差出スヘシ

第百二十六條　第一次檢査官第一次檢査ヲ終リタルトキハ答解書、願書類及寫眞ヲ取纏メ速ニ陸軍通信學校長ニ送付スヘシ

第百二十七條　陸軍通信學校長採用豫定者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨ヲ第二次檢査ノ日時及場所ト共ニ本人ニ通達シ且教育總監ニ報告スヘシ

採用豫定者ノ氏名竝ニ第二次檢査ノ日時及場所ハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第百二十八條　採用豫定者ハ保證人ヲ定メ第二次檢査期日迄ニ其ノ者ヲシテ保證書（第四樣式ノ一）ヲ陸軍通信學校長ニ差出サシムヘシ

前項ノ手續ヲ了セサル者ハ第二次檢査ヲ停止ス

第百二十九條　陸軍通信學校長ハ第二次檢査ヲ行ヒ採用者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨ヲ教育總監ニ報告シ且本人ニ通達スルト共ニ別ニ本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

近衛又ハ第一師團長ハ陸軍通信學校長ヨリ第二次檢査醫官編成ノ爲所要ノ人員ノ援助ニ付請求アリタルトキハ之ニ便宜ヲ與フルコトヲ要ス

採用者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第百三十條　採用豫定者ニハ其ノ第一次檢査受檢當時ノ現住地ヨリ學校所在地迄ノ里程ニ應シ入校後陸軍旅費規則ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二次檢査ニ合格セサル爲歸郷セシメタル者ニハ前項ノ規定ニ準シ其ノ復路ノ爲旅費ヲ支給ス

第六章　陸軍戸山學校軍樂生徒

第百三十一條　陸軍戸山學校軍樂生徒ヲ志願シ得ヘキ者ノ年齡ハ十六年以上二十年未滿トス

前項ニ規定スル年齢ハ入校年ノ三月三十一日ニ於ケル年齢トス

第百三十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ採用セス

一　妻アル者

二　破産ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者

三　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四　素行修マラサル者

第百三十三條　志願者ノ差出スヘキ願書類、其ノ差出期日及差出先左ノ如シ

志願票（第六樣式）　二月末日迄ニ到著スル如ク本人ノ希望スル身體檢査地所管ノ聯隊區司令官（朝鮮、臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ於テ身體檢査ヲ受ケントスル者ニ在リテハ師團長又ハ軍司令官本章中以下同シ）ニ

戶籍謄本（新ニ交付ヲ受ケタルモノ）　右ニ同シ

志願票用紙ハ本人ノ請求ニ依リ教育總監部、陸軍戶山學校又ハ聯隊區司令部（朝鮮ニ在リテハ師團司令部、臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ在リテハ軍司令部）ニ於テ之ヲ交付ス

第百三十四條　志願票ヲ差出シタル後其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ志願者ハ速ニ其ノ旨ヲ志願票差出先ノ諸官（身體檢査後ニ在リテハ陸軍戶山學校長）ニ屆出ツヘシ

第百三十五條　志願者ヲ採用スル爲檢査ヲ行フ

前項ノ檢査ハ身體檢査及學科試驗ニ分チ學科試驗ハ身體檢査合格者ニ付之ヲ行フ

身體檢査ハ徵兵檢査ノ際志願者ノ便宜ノ檢査場ニ於テ之ヲ行フ

學科試驗ハ概ネ九月之ヲ行フ

檢査ノ開始日時及場所ハ聯隊區司令官又ハ陸軍戶山學校長ヨリ本人ニ之ヲ通達ス

第百三十六條　學科試驗場ハ陸軍戶山學校長ノ定ムル所ニ依リ各師管每ニ之ヲ設ク但シ志願者ノ人員僅少ナル師管ニ在リテハ試驗場ヲ設ケス最寄師管ノ試驗場ニ於テ試驗ヲ行フコトヲ得

第百三十七條　學科試驗ハ高等小學校卒業ノ程度ニ於テ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

國語　作文　數學　地理歷史　唱歌

前項ノ外普程ノ判別竝ニ音樂ニ關スル素質ノ程度ヲ檢ス

學科試驗ノ際ハ「ペン」、黑又ハ青「インク」、吸取紙（新シキ無地ノモノ）、鉛筆、小刀、消ゴム、三角定規ヲ携行スルモノトス

第百三十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ檢査ヲ停止ス

一　檢査ノ際不正ノ所爲アリタル者

二　試驗室ニ規定以外ノ物品ヲ携ヘタル者

三　檢査ニ臨席又ハ遲刻シタル者

四　言語所爲眞面目ヲ缺ク者

第百三十九條　聯隊區司令官志願者ヨリ願書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ徵兵檢査ノ際志願者ヲ便宜ノ檢査場ニ呼出シ檢査醫官ヲシテ身體檢査ヲ行ハシメ合格者ノ志願票ハ所要ノ記入及證印ヲ爲シ直ニ之ヲ陸軍戶山學校長ニ送付スヘシ

第百四十條　陸軍戶山學校長ハ學科試驗區域ヲ定メ一試驗區域每ニ樂長又ハ樂長補一人ヲ試驗官ト爲シ之ニ樂手一人宛ヲ附屬シ試驗ヲ行ハシムヘシ

第百四十一條　試驗官ハ試驗ノ成績ヲ調査シ試驗成績表ヲ作リ十月十五日迄ニ陸軍戶山學校長ニ差出スヘシ

第百四十二條　陸軍戶山學校長採用豫定者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨ヲ著

校期日ト共ニ本人ニ通達シ且教育總監ニ報告スヘシ

採用豫定者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第百四十三條　陸軍戶山學校長ハ著校後三日以內ニ身體檢査ヲ行ヒ生徒タルニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ之ヲ歸鄉セシムヘシ

第百四十三條ノ二　陸軍戶山學校長採用者ヲ決定シタルトキハ其ノ旨ヲ教育總監ニ報告シ且本人ニ通達スルト共ニ別ニ本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百四十四條　無屆ニテ著校セサル者、自己ノ不注意ニ因リ著校期日ニ遲レタル者又ハ第百四十五條ニ規定スル手續ヲ了セサル者ハ之ヲ除名ス

著校期日ヨリ二十日以內ニ到著セサル者ハ之ヲ除名スルコトアルヘシ

第百四十五條　採用ノ達ヲ受ケタル者ハ保證人ヲ定メ入校後直ニ其ノ者ヲシテ保證書（第四樣式ノ一）ヲ陸軍戶山學校長ニ差出サシムヘシ

第百四十六條　採用豫定者ニハ其ノ學科試驗受驗當時ノ現住地ヨリ學校所在地迄ノ里程ニ應シ入校後陸軍旅費規則ニ依リ旅費ヲ支給ス

第百四十三條ノ規定ニ依リ歸鄉セシメタル者ニハ前項ノ規定ニ準シ其ノ復歸ノ爲旅費ヲ支給ス

第七章　雜則

第百四十七條　本令中特ニ示スモノノ外師團長トアルハ臺灣ニ在リテハ臺灣軍司令官、關東州及滿洲國ニ在リテハ關東軍司令官、支那ニ在リテハ支那駐屯軍司令官、本籍地ノ聯隊區司令官トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ本籍ヲ有スル者ニ在リテハ師團長又ハ軍司令官、市長トアルハ東京市、京都市、大阪市、名古屋市、橫濱市及神戶市ニ在リテハ區長、市町村長トアルハ市町村長ニ準スヘキ者トス

第百四十八條　每年採用スヘキ人員及一時本令ニ依ラサル事項ニ付テハ之ヲ告示ス

附　則

本令ハ昭和八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和八年度ニ於テ陸軍工科學校生徒ヲ志願シ得ヘキ者ノ年齡ハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則　（昭和十年陸軍省令第十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第五十七條、第六十條、第九十八條、第百一條、第百十八條、第百二十一條及第百三十七條ノ改正規定竝ニ熊谷陸軍飛行學校ニ關スル改正規定ハ昭和十年十二月一日、第六條ノ改正規定ハ昭和十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前所謂陸軍飛行學校操縱生徒又ハ同校技術生徒タルコトヲ志願シタル者ハ之ヲ熊谷陸軍飛行學校操縱生徒又ハ陸軍航空技術學校技術生徒タルコトヲ志願シタルモノト看做ス

第一樣式（表面）

七　糎

部隊長證印

（甲）

陸軍生徒志願票

氏名（フリガナ）印	生年月日	本籍地（フリガナ）	現住所（フリガナ）（何某方迄モ詳記スベシ）	在學學校名（卒業者ニ在リテハ最後ニ在學シタル學校）	檢査場	入校後學修希望外國語學英、支、獨、佛、露（幼年學校ニ在リテハ獨、佛、露）語ノ中
○	○	○	○	○	身體檢査 ○　學科試驗 ○	第一希望 ○ 語　第二希望 語
	年　月　日	番地　方	番地　方	府（縣）　郡（市）　學校	豫科生徒志願者ノ受驗外國語學 ○ 語	入校希望幼年學校 ○

親權者（後見人）住所氏名印	幼年學校生徒志願者中本人ノ父ガ戰死シ又ハ公務ニ起因スル傷痍疾病ノ爲死亡シタルモノナルトキハ父ノ官氏名ヲ記シ戰死、公傷（病死）ト附記スベシ	臨時委員記載欄		學科試驗場別整理番號
○	○	身體檢査	事故　合否　委員印	教育總監部整理番號
		學科試驗	事故　濟否　概評　委員印	本籍地聯隊區名 ○ 聯隊區

○ 年　月　日差出

約二十糎

七　糎

○

（乙）

陸軍生徒志願票

氏名（フリガナ）印	生年月日	本籍地（フリガナ）	現住所（フリガナ）（何某方迄モ詳記スベシ）	檢査場		本籍地聯隊區名
○	○	○	○	身體檢査 ○	學科試驗 ○	○ 聯隊區
	年　月　日	番地　方	番地　方	豫科生徒志願者ノ受驗外國語學 ○ 語	入校後學修希望外國語學英、支、獨、佛、露（幼年學校ニ在リテハ獨、佛、露）語ノ中 第一希望 ○ 語　第二希望 語	入校希望幼年學校 ○

整理番號
學年　學年　學年
100　100　100

線

署名捺印	年　月　日

票　願　志　徒　生

乙

切……取

(丙)

軍　隊			甲	折
幾	教	在	學	學
學科試驗 ○	學科試驗 ○	學校名（在學ノ者ハ最後ニ在リシ學校ノ名ヲ記入スルコト） ○	現住所 ○	署名捺印　年　月　日
學校配屬將校ヨリ受ケタル期間　年　月　自　年　月　至 ○		原籍（郡）市（郡）町（村）番地 ○		
身體檢查 ○	身體檢查 ○			

線

←……欄　七……→

(丁)

○

陸軍　○　生徒志願者身上申告書

本籍地 ○	現住所（何某方迄モ詳記スベシ） ○	父母、兄弟、姉妹	續柄及氏名	年齢	身分、職業、主ナル經歷
		父（養父母、繼父母、繼母アル者ハ各別ニ記） ○			
		兄姉（十二歳以下ノ者ハ記載スルニ及ハズ） 弟妹 ○			

氏名印 ○

在學學校名（卒業者ニ在リテハ最後ニ在リタル學校） ○　府（縣）郡（市）　學校

(丁)

○

本籍地	青森縣上北郡六戸村字野中一番地	氏名印	石川次郎㊞
現住所（何某方迄モ詳記スベシ）	東京府東京市麹町區麹町四丁目五番地 池田太郎方	在學學校名（卒業者ニ在リテハ最後ニ在學シタル學校）	東京府（縣）東京（市）府立第一中學校

記載例

父母、兄弟、姉妹	續柄及氏名	年齢	身分、職業、主ナル經歷
養父	石川正一	五一	沖繩縣首里市縣立第一中學校長
養母（亡）	あき		無職
繼母	ナツ	四五	無職
實父（亡）	池田一郎		陸軍歩兵少佐（戰死）
實母	ハル	五〇	東京府東京市麹町區麹町ニ於テ文房具商ヲ營ム
兄	池田太郎	二一	第一高等學校在學中
姉	山尾フユ	二〇	正金銀行大連支店員山尾保ニ嫁ス
弟	井上三郎	一七	山形縣米澤市呉服商井上喜兵衛ニ養子目下縣立米澤中學校ニ在學中
妹	池田花子	一四	東京市麹町區日本女學校在學中

注意

一　志願者ハ本書ヲ志願票ヨリ切離シ所要ノ記入ヲナシ豫科生徒志願者ハ九月三十日迄ニ、幼年學校生徒志願者ハ十月三十一日迄ニ本籍地ノ市（區）町村長ニ差出スヘシ

二　本書ヲ受領シタル市（區）町村長ハ豫ノ身上明細書（陸軍諸學校生徒採用規則第三樣式）作製ノ爲諸調査ヲ完了シ聯隊區司令官ヨリ身體檢査合格者氏名ノ通報ヲ受クレハ直ニ之ニ對スル身上明細書ヲ作リ戸籍謄本ヲ添ヘ豫科生徒志願者ノ分ハ十二月二十五日迄ニ、幼年學校生徒志願者ノ分ハ二月十日迄ニ本籍地聯隊區司令官ニ差出スヘシ

（丙）

志願票取扱上ノ注意

一、甲、乙、丙、丁各票共○ヲ附シタル箇所ハ凡テ志願者ニ於テ記入スヘシ

二、イ　甲、乙、丙票ハ折目以上ニ折リ疊ムコトナク本人ノ住所氏名ヲ記入シタル官製「はがき」（受付ノ濟否通知用）ト共ニ大封筒ニ封入シ其ノ封筒表面ニ豫科志願票又ハ幼年志願票ト側書シ左記ニ宛差出スヘシ

東京市麹町區代官町教育總監部内　將校生徒試驗常置委員

ロ　丁票（身上申告書）ハ本籍地ノ市（區）町村長宛差出スヘシ

三　陸軍部内ヨリノ志願者ハ所屬部隊號ヲ現住所欄ニ記入シ官等ヲ氏名ノ右肩上部ニ細書スヘシ

四　陸軍部外ヨリノ志願者ニシテ受驗當時現役兵トシテ在營スヘキコト判明セル者ハ必ス其ノ隊號ヲ志願票表面差出年月日ノ下ニ記載スヘシ

五　本票ノ受付期日

士官學校豫科生徒志願者ハ　九月三十日迄

幼年學校生徒志願者ハ　十月三十一日迄

志願者ノ履歷

○

履歷欄ノ記載例

一　何年何月何小學校卒業

一　何年何月何中學校入校

一　何年何月何學校何學年ヨリ何學校何學年ニ轉校

一　現在何學年在學又ハ何年何月何中學校卒業

一　現在何高等學校（師範學校ノ）在學

一　賞罰アラハ記入スヘシ

注意

（乙）票ニモ本欄ノモノト同一事項ヲ記載スヘシ

(甲)

身體檢查票								
合否判定	身長	胸圍	呼吸伸縮差	體重	構造	關節運動	摘要	
○								
氏名 ○	米	米	米	瓦				
生年月日 ○年月日	聽能	聽器	鼻口咽腔	視力 右 左	辨色力	視器	身體檢查場 ○	
檢查時年齡	言語精神	胸部			其ノ他各部		檢查官官氏名印	
滿年月	○							

年　月　日檢查濟

(乙)

志願者ノ履歷
○

履歷ノ記載例

(丙)票ノモノニ同シ

第一樣式ノ二（表面）

（甲）

八糎

部隊長證印

○年月日差出

約十九糎

陸軍經理學校豫科生徒志願票

- （フリガナ）氏名　印　○
- 生年月日　○　年　月　日
- （フリガナ）本籍地　○　地方　番地
- （フリガナ）現住所（何某方迄モ詳記スヘシ）　○　地方　番地
- 在學學校名（卒業者ニ在リテハ最後ニ在學シタル學校）　○　府縣　郡市　學校
- 檢查場
  - 身體檢查　○
  - 學科試驗　○
  - 受驗外國語學　○　語
- 入校後學修希望外國語學英、支、獨、佛、露語ノ中
  - 第一希望　○　語
  - 第二希望　語

- 親權者（後見人）住所氏名印　○

檢查官記載欄

- 身體檢查：事故　合否　委員印
- 學科試驗：事故　濟否　概評　委員印

學科試驗場別整理番號

經理學校整理番號

本籍地聯隊區名　○　聯隊區

（乙）

八糎

○

陸軍經理學校豫科生徒志願票

- （フリガナ）氏名　印　○
- 生年月日　○　年　月　日
- （フリガナ）本籍地　○　地方　番地
- （フリガナ）現住所（何某方迄モ詳記スヘシ）　○　地方　番地
- 檢查場
  - 身體檢查　○
  - 受驗外國語學　○　語
  - 學科試驗　○
  - 入校後學修希望外國語學英、支、獨、佛、露語ノ中
    - 第一希望　○　語
    - 第二希望　語
- 本籍地聯隊區名　○　聯隊區

整理番號

學年	學年	學年
100	100	100

（丙）

陸軍經理學校豫科生徒志願票

甲

檢查場	身體檢查	○
	學科試驗	○
學校配屬將校ヨリ教練ヲ受ケタル期間	自　年　月 至　年　月	○
在學學校名（中等學校卒業者ニ在リテハ最後ニ在學シタル中學校名）	○	
府縣 郡市 學校		
現住所		
氏名	○	
署名證印		
年月日		

乙

科生徒志願票

署名證印	
年月日	

八糎

○

（丁）

陸軍經理學校豫科生徒志願者身上申告書

本籍地	○		氏名印	○
現住所（何某方迄モ詳記スヘシ）	○		在學學校名（卒業者ニ在リテハ最後ニ在學シタル學校）	○ 府郡縣市學校
父母、兄弟、姉妹	續柄及氏名	年齢	身分、職業、主ナル經歷	
父母（養父母、繼父母、嫡母アル者ハ各別ニ記スヘシ）	○			
兄弟姉妹（十二歳以下ノ者ハ記載スルニ及ハス）	○			

第一樣式ノ二（裏面）

八糎

○

（丁）

記載例

本籍地	青森縣上北郡六戸村字野中一番地		氏名印	石川次郎㊞
現住所（何某方迄モ詳記スヘシ）	東京府東京市麹町區麹町四丁目五番地 池田太郎方		在學學校名（卒業者ニ在リテハ最後ニ在學シタル學校）	東京府縣東京市 府立第一中學校
父母、兄弟、姉妹	續柄及氏名	年齢	身分、職業、主ナル經歷	
父母（養父母、繼父母、嫡母アル者ハ各別ニ記スヘシ）	養父 石川正一	五一	沖繩縣首里市縣立第一中學校長	
	養母（亡） あき		無職	
	繼母 ナツ	四五	無職	
	實父（亡） 池田一郎		陸軍歩兵少佐（戰死）	
	實母 ハル	五〇	東京府東京市麹町區麹町ニ於テ文房具商ヲ營ム	
兄弟姉妹（十二歳以下ノ者ハ記載スルニ及ハス）	兄 池田太郎	二一	第一高等學校在學中	
	姉 山尾フユ	二〇	正金銀行大連支店員山尾保ニ嫁ス	
	弟 井上三郎	一七	山形縣米澤市吳服商井上喜兵衛ニ養子目下縣立米澤中學校在學中	
	妹 池田花子	一四	東京市麹町區日本女學校在學中	

注意

一 志願者ハ本書ヲ志願票ヨリ切リ離シ所要ノ記入ノナシ十月十五日迄ニ本籍地ノ市（區）町村長ニ差出スヘシ

二 本書ヲ受領シタル市（區）町村長ハ豫メ身上明細書（陸軍諸學校生徒採用規則第三樣式）作製ノ爲諸調査ヲ完了シ聯隊區司令官ヨリ身體檢査合格者氏名ノ通報ヲ受クレハ直ニ之ニ對スル身上明細書ヲ作リ戸籍謄本ヲ添ヘ十二月二十五日迄ニ本籍地聯隊區司令官ニ差出スヘシ

十七

（丙）

志願票取扱上ノ注意

一、甲、乙、丙、丁各票共○ヲ附シタル箇所ハ凡テ志願者ニ於テ記入スヘシ

二、イ　甲、乙、丙票ハ折目以上ニ折リ曇ムコトナク本人ノ住所氏名ヲ記入シタル官製「はがき」（受付ノ濱否通知用）ト共ニ大封筒ニ封入シ其ノ封筒表面ニ陸軍經理學校豫科志願票ト側記シ左記ニ宛差出スヘシ

東京市牛込區若松町二十一番地陸軍經理學校長

ロ　丁票（身上申告書）ハ本籍地ノ市（區）町村長宛差出スヘシ

三　陸軍部内ヨリノ志願者ハ所屬部隊號ヲ現住所欄ニ記入シ官等ヲ氏名ノ右肩上部ニ細書スヘシ

四　陸軍部外ヨリノ志願者ニシテ受驗當時現役兵トシテ在營スヘキコト判明セル者ハ必ス其ノ隊號ヲ志願票表面差出年月日ノ下ニ記載スヘシ

五　本票ノ受付期日　十月十五日迄

志願者ノ履歴

○

履歴欄ノ記載例

一　何年何月何小學校卒業
一　何年何月何中學校入校
一　何年何月何學校何學年ヨリ何學校何學年ニ轉校
一　現在何學年在學又ハ何年何月何中學校卒業
一　現在何高等學校（師範學校）在學
一　賞罰アラハ記入スヘシ

注　意

（乙）票ニモ本欄ノモノト同一事項ヲ記載スヘシ

（乙）

志願者ノ履歴
○

（丙）履歴欄ノ記載例
票ノモノニ同シ

（甲）

身體檢査票								
合否判定	身長	胸圍	呼吸ノ差	體重	構造	關節運動	摘要	
氏名 ○	米 聽能	米 聽器	米 鼻口咽腔	瓩 視力	辨色力	視器	身體檢査場	
生年月日 ○年月日				右 左			○	
檢査時年齡 滿 年 月	言語精神	胸部			其ノ他各部		檢査醫官官氏名印	

（調製上ノ注意）
表面裏面共ニ欄外上部ニ幅五粍ノ青色横線ヲ劃スルモノトス

年　月　日檢査濟

第二樣式

陸軍士官學校豫科生徒志願者成績證明書

本籍地		氏名		本籍地所管聯隊區司令部名	
本籍	地			聯隊區	
日下ノ學年又ハ卒業・退校ノ年月		入學年月及學年			

成績																		性質及操行	修學狀態	備考
學年	國語	漢文	作文	外國語	地理	歷史	數學科 代數	幾何	三角	物理	化學	教練	序列（何人中何番）							
第　學年																				
第　學年																				
第　學年																				

將校生徒タルヘキ資質ニ關スル配屬將校ノ所見

賞罰

將校生徒志願者トシテノ將來ノ見込

年　月　日

何學校長　氏　　名印

（調製上ノ注意）

一、在學者ニ在リテハ最近學年成績及現學年第二學期末迄ノ綜合成績ヲ、卒業者ニ在リテハ卒業成績及其ノ前學年成績ヲ記入スルモノトス

二、轉校又ハ下級學校ヨリ入校後一學年以上ヲ經過セサル者ニ在リテハ前學校ノ成績ヲモ併記シ、在學日淺キ者ニ在リテハ前學校ノ成績ノミヲ記シ其ノ旨備考欄ニ記入スルモノトス

三　各科目ノ成績ハ成ルヘク點數ニテ記入シ其ノ滿點數ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

四　成績ヲ甲、乙、丙等ニテ記入スル場合ニハ其ノ標準ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

五　修學狀態ノ欄ニハ特ニ出缺ノ景況ヲ記入スルモノトス

六　本證明書ハ一月十日迄ニ到著スル如ク志願者ノ本籍地聯隊區司令官ニ送付スルモノトス

七　陸軍經理學校豫科生徒志願者ニ關スルモノニ在リテハ樣式中「陸軍士官學校」ヲ「陸軍經理學校」ト、「將校生徒」ヲ「陸軍經理學校生徒」ト爲スモノトス

第三樣式

何志願者（氏名）身上明細書

一　父母（養父母、繼父母、嫡母アル者ハ各別ニ記入スヘシ）　氏名、官職、職業ノ種類（官職、職業ハ具體的ニ例ヘハ父何某歩兵第何聯隊附歩兵中佐、何縣何中學校長、何小學校訓導、何縣屬、菓子製造業、呉服商、農業兼雜貨販賣業、縣會議員等ノ如ク詳記スヘシ）、住所、死者ニ付亦同シ

一　兄弟姉妹（十二歳以上ノ者ニ限ル）　氏名、官職、職業ノ種類（戸籍ヲ異ニスル者ヲモ記入スヘシ例ヘハ姉某呉服商某ニ嫁ス等ノ如シ）、在學學校種、住所（父母ト同居セサル者ニ限ル）

一　賞罰（本人、父母、兄弟等ニ付）　爵、位、勳、功、褒賞等

一　財産（父母又ハ直接扶養者等ニシテ學資負擔者ノ分）　不動產、動產見積總價額
所得年額（恩給ヲ有スル者ハ其ノ種類、金額ヲ別記スルコト）

一　家庭狀況　家政ヲ司ル者
家庭ノ整否
地方ニ於ケル地位風評

年　月　日

府縣郡市町村長　氏　　名印

注意　陸軍部內志願者ニ在リテハ本人考科大要、出身前ノ學歷及成績ノ二項ヲ加ヘ市町村長氏名ノ部ニ部隊長氏名ヲ記入スルモノトス

第四樣式ノ一（半紙白紙）

保證書

右ハ今般御校ニ入校ヲ命セラレ候ニ就テハ御規則嚴守セシムヘキハ勿論本人ノ身上ニ關シテハ何事ニ限ラス親權者（後見人）保證人連帶保證致候也

年　月　日

本籍地
現住地
職　業（官職等）
親權者（後見人）　氏　　名印

陸軍士官學校長氏　　名殿

注意

一　熊谷陸軍飛行學校操縱生徒採用豫定者及陸軍通信學校生徒採用豫定者ニ在リテハ「入校ヲ命セラレ候ニ就テハ」ヲ「入校ヲ命セラレ候節ハ」ト爲スヘシ

二　宛名ハ陸軍經理學校豫科生徒ニ在リテハ陸軍經理學校長、陸軍工科學校生徒ニ在リテハ陸軍工科學校長、熊谷陸軍飛行學校操縱生徒採用豫定者ニ在リテハ熊谷陸軍飛行學校長、陸軍航空技術學校技術生徒ニ在リテハ陸軍航空技術學校長、陸軍通信學校生徒採用豫定者ニ在リテハ陸軍通信學校長、陸軍戸山學校軍樂生徒ニ在リテハ陸軍戸山學校長ト爲スヘシ

第四樣式ノ二（半紙白紙）

保證書

參錢收入印紙

右ハ今般御校ニ入校ヲ命セラレ候ニ就テハ御規則嚴守セシムヘキハ勿論在校中ノ費用ハ御規定ノ通納金可仕親權者（後見人）保證人連帶保證致候也

年　月　日

本籍地
現住地
職　業（官職等）
親權者（後見人）　氏　　名印

東京（廣島）陸軍幼年學校長氏　　名殿

保證人　氏　　名印

第五樣式

陸軍幼年學校生徒志願者成績證明書

本籍地所管聯隊區司令部名												
本籍地	氏名	目下ノ學年又ハ卒業退校ノ年月	入學年月及學年	成績	學年	國語	作文	外國語	數學	地理歴史	理科	序列（何人中何番）	備考
					第　學年								

聯隊區	性質及操行		
	賞罰		
教練（小學校在學者ニ在リテハ體操）修習ノ狀況ヨリ觀タル所見	修學狀態		
將校生徒志願者トシテノ將來ノ見込			

年　月　日

何學校長　氏　　名印

（調製上ノ注意）

一　在學者ニ在リテハ最近學年成績及現學年第二學期末迄ノ綜合成績ヲ、卒業者ニ在リテハ卒業成績及其ノ前學年成績ヲ記入スルモノトス

二　轉校又ハ下級學校ヨリ入校後一學年以上ヲ經過セサル者ニ在リテハ前學校ノ成績ヲモ併記シ、在學日淺キ者ニ在リテハ前學校ノ成績ノミヲ記シ其ノ旨備考欄ニ記入スルモノトス

三　各科目ノ成績ハ成ルヘク點數ニテ記入シ其ノ滿點數ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

四　成績ヲ甲、乙、丙等ニテ記入スル場合ニハ其ノ標準ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

五　修學狀態ノ欄ニハ特ニ出缺ノ景況ヲ記入スルモノトス

六　本證明書ハ二月十日迄ニ到著スル如ク志願者ノ本籍地聯隊區司令官ニ送付スルモノトス

第六樣式（表面）

約十九糎

年　月　日差出

部隊長印證

（甲）

陸軍工科學校生徒志願票
（陸軍航空技術學校學術技術生徒）
（陸軍通信學校生徒）
（陸軍戸山學校軍樂生徒）

戸主トノ續柄 職業 氏名　印	生年月日	本籍地	現住地	希望工科 第一	希望工科 第二	受檢希望地	本籍地聯隊區名
○	○	○	○	○	○	○	○

檢査官ノ意見

十糎

（乙）

陸軍工科學校學生徒志願票
（陸軍航空技術學校學術生徒）
（陸軍通信學校學生徒）
（陸軍戸山學校軍樂生徒）

戸主トノ續柄 職業 氏名	生年月日	本籍地	現住地	希望工科 第一	希望工科 第二
○	○	○	○	○	○

受檢希望地	本籍地聯隊區名
○	○

注意

一　陸軍通信學校生徒又ハ陸軍戸山學校軍樂生徒ノモノニ在リテハ希望工科ノ欄ヲ削除ス

二　陸軍通信學校生徒志願者ノモノニ在リテハ檢査官ノ意見第一次檢査官ノ意見ヲ記入スルモノトス

三　陸軍部内ヨリ陸軍工科學校生徒又ハ陸軍航空技術學校技術生徒ヲ志願スル者ニ付本人所屬部隊長ノ記入スヘキ事項ハ（甲）（甲中檢査官ノ意見欄ニ記入スルモノトス但シ檢査官ノ意見記入ノ爲除白ヲ存スルモノトス

第六樣式（裏面）

（甲）

摘要	檢査場	合否判定	生年月日	檢査時年齡	身體檢査 身長	胸圍	呼吸張縮ノ差	體重	構造	關節運動
	○	氏名 ○	○年月日	滿年月	米 聽能	米 聽器	米 鼻口咽腔	瓩 視力 左右	辨色力	視器

檢査官氏名印	言語精神	胸部	其ノ他各部

年　月　日檢査濟

（乙）

履歴

注意事項欄

第七樣式（表面）

十糎

部隊長證印

（甲）

年　月　月差出

約十九糎

熊谷陸軍飛行學校操縱生徒志願票

戸主トノ續柄	職業	氏名印	生年月日	本籍地	現住地	受檢希望地
			○	○	○	○

本籍地聯隊區名
○

第一次檢査官意見

注意　陸軍部內ヨリノ志願者ニ付本人所屬部隊長ノ記入スヘキ事項ハ第一次檢査官ノ意見欄ニ記入スルモノトス但シ檢査官ノ意見記入ノ爲餘白ヲ存スルモノトス

十糎

（乙）

熊谷陸軍飛行學校操縱生徒志願票

戸主トノ續柄	職業	氏名	生年月日	本籍地	現住地	受檢希望地
○	○	○	○	○	○	○

本籍地聯隊區名
○

二十糎

（丙）

熊谷陸軍飛行學校操縱

氏名	遺傳及既往症		一般檢査		內臟			視器	
	遺傳的素因	既往症	身長	體重	循環器	呼吸器	其ノ他ノ內臟	視力	眼筋平衡
○			米	瓩				右左	
生年月日			胸圍	握力				眼球運動	辨色力
○			米	右左					
受檢時年齢			呼吸縮張ノ差	關節運動			尿檢査	屈折機	視器
滿年月			米					右左	

生徒第一次身體檢査票

聽器		鼻咽喉腔	均衡機		摘要	判定	檢査年月日	檢査場
聽力	呀語	鼻腔 副鼻腔	兩脚直立	直線的步行運動			年月日	
右・m ( )( )・m ( )( )	左・m ( )( )・m ( )( )							
聽器		咽喉腔	單脚直立				檢査醫官	官氏名印

第七樣式（裏面）

十糎

（甲）

志願者ノ履歷

○

約十九糎

（乙）

注意事項

●海軍生徒採用規則

大正六年十一月八日
海軍省令第六號

追加　大正七年一〇月海軍省令第一二號、八年一一月第二二號、九年一〇月第二三號、一一月第二三號、一〇年八月第一六號、一一年七月第二〇號、一二年四月第六號、一三年七月第五號、一四年七月第九號、一五年七月第一四號、昭和二年六月第一二號、三年五月第一三號、一二月第一九號、四年七月第五號、五年六月第三號、六年六月第五號、七年六月第五號、八年四月第三號、九年四月第四號、一〇年四月第三號、一一年四月第二號改正

海軍生徒採用規則左ノ通改ム

海軍生徒採用規則

第一條　本規則ハ海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒ノ志願手續身體檢査學術試驗竝其ノ採用ニ關シ海軍兵學校令、海軍機關學校令、海軍經理學校令、各學校規則及海軍出身志願者身體檢査規則ニ規定サレタル以外ノ事項ヲ規定ス

第二條　採用試驗ヲ分チテ身體檢査、學術試驗及口頭試驗トシ學術及口頭試驗ハ身體檢査合格者ニ就キ之ヲ行フ

採用試驗ハ海軍生徒採用試驗委員之ヲ實施ス

第三條　採用試驗場ヲ左ノ各地ニ設ク

札幌	青森	山形	仙臺	宇都宮	東京　橫須賀　新潟
金澤	長野	名古屋	新舞鶴	大阪	鳥取　岡山　吳
山口	松山	高知	大分	福岡	佐賀　佐世保　熊本
鹿兒島					

前項試驗場ハ狀況ニ依リ之ヲ減スルコトヲ得

第四條　志願者未成年ナルトキハ豫メ親權ヲ行フ父、母又ハ後見人ノ承認ヲ得ルヲ要ス

志願者海軍下士官兵ナルトキハ前項ノ規定ニ依ルノ外所轄長ノ承認ヲ得ルヲ要ス

第五條　志願者ハ承認者ノ連署セル志願票（第一號書式）二通（海軍下士官兵タル志願者ニ在リテハ所轄長ノ承印ヲ受ク）ニ戸籍謄本一通ヲ添ヘ書留郵便其ノ他確實ナル方法ヲ以テ當該志願校ノ海軍生徒採用試驗委員ニ差出スヘシ

志願票身元明細欄中ニ記入スヘキ父母、兄弟姉妹戸主ハ養子ニ在リテハ養家及實家ノモノトシ分家シタル戸主ニ在リテハ自家及本家ノモノトス

志願票ニ添附スヘキ戸籍謄本亦同シ

志願票用紙ハ請求ニ因リ當該志願校ノ海軍生徒採用試驗委員之ヲ交付ス

第六條　志願者ハ海軍兵學校海軍機關學校及海軍經理學校ノ內一校ヲ志願スルモノトス

海軍機關學校志願者ハ前項ノ規定ニ拘ラス別ニ海軍兵學校又ハ海軍經理學校ヲ志願スルコトヲ得但シ海軍機關學校ノ採用試驗ニ合格シ海軍生徒採用豫定者トシテ公表セナレタルトキハ其ノ志願ヲ取消スニ非サレハ海軍兵學校又ハ海軍經理學校ノ學術試驗ニ應スルコトヲ得ス

第七條　志願者ハ海軍生徒採用前ニ於テハ採用試驗ノ前後ヲ問ハス其ノ志願ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニハ速ニ當該志願校ノ海軍生徒採用試驗委員又ハ採用試驗場ニ臨場ノ試驗委員ニ屆出ツヘシ

第八條　志願者ハ志願票ヲ差出シタル後ニ於テモ志願書提出期限迄ハ其ノ志願校ヲ變更スルコトヲ得

海軍兵學校及海軍機關學校志願者ハ身體檢査ノ結果ニ依リ試驗場ニ於テ海軍經理學校ヲ志願スルコトヲ得

第九條　志願者受驗地ヲ變更セントスルトキハ志願書提出期限經過後十日以内ニ當該志願校ノ海軍生徒採用試驗委員ニ届出ツヘシ但シ海軍下士官兵タル志願者ハ勤務艦船ノ行動等ニ依リ海軍機關學校志願者ニ在リテハ十月一日迄海軍兵學校又ハ海軍經理學校志願者ニ在リテハ十二月一日迄受驗地ヲ變更スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所轄長ノ證明書ヲ添ヘ當該志願校ノ海軍生徒採用試驗委員ニ届出ツヘシ

第十條　志願者又ハ承認者ノ本籍住所若ハ身上ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ本人ヨリ當該志願校ノ海軍生徒採用試驗委員ニ届出ツヘシ但シ海軍下士官兵タル志願者ニ在リテハ所轄長住所異動ハ之ヲ經由スヘシ

第十一條　志願者ノ教育ヲ擔任シタル中學校又ハ之ト同程度以上ノ學校長等（二校以上ニ在校シタルコトアル者ハ最近又ハ現在在校ノ學校長及最長ク在校セル學校長、家庭教育ヲ受ケタル者ハ其ノ教師）ハ試驗委員ノ要求ニ應シ第二號書式ニ依リ所見表一通ヲ作製シ速ニ當該志願校ノ海軍生徒採用試驗委員ニ差出スヘシ

但シ志願者ニシテ當該學校等ヲ離レタル後ノ年月久シキ爲其ノ現狀ヲ知悉セサルトキハ其ノ旨ヲ記入シ所見表中ノ記事ヲ適宜省略スルコトヲ得

第十一條ノ二　海軍下士官兵タル志願者ノ所轄長ハ試驗委員ノ要求ニ應シ第三號書式ニ依リ所見表一通ヲ作製シ速ニ當該志願校ノ海軍生徒採用試驗委員ニ送付スヘシ

第十二條　身體檢査ハ學術試驗ニ先チ七月下旬又ハ八月上旬之ヲ行フ其ノ日割ハ七月二十日迄ニ各學校ノ海軍生徒採用試驗委員長ヨリ志願者（海軍部内志願者ニ在リテハ所轄長）ニ豫告ス

第十三條　志願者ハ身體檢査ノ際新ニ（檢査年三月以後）撮影セル寫眞單獨半身裸體ノ寫紙附ニシテ表面餘白ニ本籍氏名ヲ自書シタルモノ）一葉ヲ携帶シ檢査官ニ差出スヘシ但シ海軍機關學校志願者ニシテ別ニ海軍兵學校又ハ海軍經理學校ヲ志願シタル者ハ二葉差出スモノトス

第十四條　學術試驗及口頭試驗ハ海軍兵學校及經理學校志願者ニ在リテハ十二月下旬又ハ一月上旬、海軍機關學校志願者ニ在リテハ十月下旬之ヲ行フ學術試驗ノ科目左ノ如シ但シ狀況ニ依リ取捨スルコトヲ得

學術試驗

代數（自數、整數式、最大公約數、最小公倍數、分數式、方程式、冪法及開法、比例、級數）

幾何（平面幾何全部）　英語（英文和譯、和文英譯及英文法）

國語漢文　作文　日本歷史　物理（物性、熱、音、光、磁氣、電氣）　化學（無機化學主ナル非金屬元素及其ノ化合物、主ナル金屬元素及其ノ化合物、化學量論ノ諸定律　分子量及原子量、化學式及化學方程式、酸、鹽基及鹽、溶液、電解及電離）　地理（日本及外國）

試驗ハ中學校第四學年第二學期修了程度ヲ標準トス

試驗ノ成績著シク不良ナルトキハ爾後ノ受驗ヲ停止ス

第十五條　志願者自身ノ事情ヲ以テ所定ノ時日ヲ變更シテ檢査試驗ヲ行フコトナシ

第十六條　志願者受驗地ヘノ往復旅費滯在費等ハ一切自辨トス

第十六條ノ二　所轄長ハ部下ノ下士官兵タル志願者ニ對シ受驗ノ爲必要ナル期間特ニ休暇ヲ許スモノトス

海軍生徒採用豫定者ニシテ當該學校ニ入校ノ爲旅行スル場合亦前項ニ同シ

第十七條　生徒ヲ命スルニハ先ツ其ノ採用豫定者ヲ海軍兵學校及經理學校志願者ニ在リテハ二月下旬官報ニテ告示シ三月下旬、海軍機關學校志願者ニ在リテハ十二月上旬官報ニテ告示シ三月下旬各學校ニ召集シ再ヒ身體檢査ヲ行ヒタル後ニ於テ其ノ不合格者ハ之ヲ採用セス

採用豫定者ヲ召集スルニハ海軍生徒採用試驗委員長之ヲ本人ニ示達ス

第十八條　前條ノ召集ヲ受ケタルモノハ保證人二名ヲ定メ（一家ヲ爲シ身元確實ナル者ニシテ内一名ハ臺灣、樺太又ハ外國ニ居住セサル者）其ノ連署セル誓約書（第四號書式）一通ヲ携帶シ海軍生徒採用試驗委員ヨリ交付ノモノ二通）ニ署名捺印シ之ヲ提出スヘシ

第一號書式（用紙海軍生徒採用試驗委員ヨリ交付ノモノ二通）

注意（志願者及承認者ノ本籍住所氏名ニハ振假名ヲ附シ其ノ讀方ヲ明ニスヘシ）

昭和　年度　海軍（志願ノ學校名）生徒志願票

志願者	氏名	戸主トノ續柄	印
	何某		㊞
	本籍	道廳府縣名　市郡區町村名　番地號	
	住所		

承認者	氏名	族稱	印
	何某	華士族　志願者トノ續柄	㊞
	本籍	本籍地管轄市區町村役場名及其ノ所在地名	
	住所		

上記志願校以外ノ海軍志願校名　海軍　學校

色

受驗地	
海軍兵學校	白
海軍機關學校	赤
海軍經理學校	藍

所見表提出校名及其ノ所在地名	何立何學校　道府縣市郡區町村
本籍地管轄	憲兵隊
現住地管轄	憲兵隊

別

氏ノ片假名ノ字

ナ

志願者生年月日	大正　年　月　日	入校ノ年ノ四月ニ於ケル年齢滿年月	
志願者ノ從事シタル職業及經歷	自己ノ從事シタルモノ又ハ從事シツツアル職業ノ種類		

志願者學歷	中學校程度以上ノ學校ノ名、入校、退學、卒業ノ年月日、在學中ノ者ハ其ノ學年終了又ハ卒業豫定年月等 高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者ハ其ノ年月及受驗中學校名

志願者經歷	召募年度	兵學校	機關學校	經理學校	其ノ他明年三月迄ノ受驗學校
	年	第一回			……高等學校一回
	年				高等商船學校二回
	年	第二回	第一回		大阪高等工業學校一回

身元	志願者	海軍下士官兵タルヘキ志願者
	職業ノ種類等經歷ノ概要	
父母	一、氏名、官職、職業ノ種類等經歷ノ概要 二、死亡者ハ生前ノ經歷ヲ略記シ戰死者及公務死亡者ニ在リテハ何レノ役何レノ場所ニテ戰死又ハ死亡シタルカヲ明記ス 三、處刑、處罰ノ有無及犯行ノ種類 養父母、繼父母アルモノハ實父母ト各別ニ記載ス	
兄弟姉妹	父母ノ例ニ準ス但シ成年以上ノモノノミヲ記載ス	
戶主	前記以外ノ者戶主ナルトキハ父母ノ例ニ準シ戶主ニ就キ記載ス	
細明		
元		
所轄長官名印	（海軍下士官兵タル志願者ニノミ適用）	
志願票提出年月日		

第二號書式（用紙美濃紙半截一通）

（　　）號番理受票願志（　　）地驗試

海軍　學校生徒志願者所見表

所見	大正　年　月　日生	年學在	年學業卒	年學在	年學修了	年學在	年學修了
	年　月　日	年（月）學在	年（月）和昭卒業	年（月）學在	年（月）和昭修了	年（月）學在	年（月）和昭修了
	幹才及行性						
	體育運動ノ得修程度						
	武道						
	水泳						
	體技						
	資格キヘルタル生徒ノ將校ニ對スル配屬ノ關係見込ヲ海軍ニ質スノ所						
	情況又ハ卒業後ノ習修						
	本人ノ長所及短所						
	身體發育ノ概評						
	疾病其ノ他ノ異狀						
	備考						

學校長　　印

名	氏
學年	學科
身	修
國語及漢文	
英語	
史	歷
理	地
數	學
物	博
理	物
學	化
濟經及制法	
畫	圖
操	體
均	平
中人何番何	席次
事	記
數日	席缺
數時	課缺

第三號書式（用紙半紙二ツ折一通）

海軍考課表規則ニ準シ記註スヘシ

所見表

志願者官職氏名	
調製上ノ所信	
現官拜命年月日	
現役滿期年月日	
身上雜件	
特技章	
武技體技修得ノ程度	
勤務	

言態動	性	質	賞罰	人物總評
語度作	操行	服從調和統御		

所見

第四號書式（用紙美濃紙二ツ折一通）〔注意　保證人ノ本籍住所氏名ニハ振假名ヲ附シ其ノ讀方ヲ明ニスヘシ〕

誓約書

某（生徒ノ名）儀今般海軍兵（又ハ機關經理）學校生徒ニ採用相成候ニ付テハ在學中其ノ身上ハ保證人ニ於テ之ヲ保證ス

年　月　日

第一保證人
本　籍
現住所
本人トノ續柄及職業　氏　名㊞

第二保證人
本　籍
現住所
本人トノ續柄及職業　氏　名㊞

海軍大臣　氏　名殿

●陸軍依託學生依託生徒規則

昭和三年三月八日
陸軍省令第四號

陸軍依託學生依託生徒規則左ノ通定ム

備考　昭和六年三月陸軍省令第三號改正

陸軍依託學生依託生徒規則

第一章　採用

第一條　依託學生又ハ依託生徒ハ左ニ掲グル年齢二十七年（衛生部依託學生ニ在リテハ二十八年）未滿ノ者ニシテ陸軍經理部、衛生部又ハ獸醫部ノ現役士官タルコトヲ志願シ身體檢査ニ合格シタル者ノ中ヨリ銓衡ノ上之ヲ採用ス

一　經理部依託學生　大學令ニ依ル大學ノ法學部、經濟學部又ハ商學部學生

二　衛生部依託學生　大學令ニ依ル大學ノ醫學部醫學科又ハ藥學科學生

三　獸醫部依託學生　大學令ニ依ル大學ノ學部ニ於テ獸醫學ヲ修ムル學生

四　衛生部依託生徒　官立、公立若ハ醫師法第一條第一項第一號ノ規定ニ依リ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校醫學科ノ生徒又ハ官立、公立ノ藥學專門學校、醫科大學附屬藥學專門部、醫學專門學校藥學科若ハ藥劑師法第二條第二項第一號ノ規定ニ依リ文部大臣ノ指定シタル學校ノ生徒

五　獸醫部依託生徒　東京帝國大學農學部獸醫學實科生徒又ハ官立、公立ノ專門學校若ハ獸醫師法第一條第二項第一號ノ規定ニ依リ文部大臣ノ指定シタル學校ニ於テ獸醫學ヲ修ムル生徒

前項ニ規定スル年齢ハ出願ノ年ノ三月三十一日ニ於ケル年齢トス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ依託學生又ハ依託生徒ニ採用セズ

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　破産ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得ザル者

三　素行修マラザル者

第三條　依託學生又ハ依託生徒ノ人員ハ召募ノ都度官報ヲ以テ告示スルノ外第一條第一項各號ニ掲グル學校ノ大學長學部長又ハ學校長ニ通知シ之ヲ召募ス

第四條　志願者ハ前條ノ告示ニ指定スル期日迄ニ志願票（陸軍補充令施行規則附錄第一樣式ノモノニ準ズ）ニ在學スル學校ノ大學長、學部長又ハ學校長ノ證印ヲ受ケ戸籍謄本（志願ノ際交付ヲ受ケタルモノ）ヲ添ヘ之ヲ經理部依託學生志願者ニ在リテハ學校所在地所管ノ經理部長ニ、衛生部ノ依託學生又ハ依託生徒志願者ニ在リテハ同軍醫部長（東京帝國大學醫學部、千葉醫科大學、日本醫科大學又ハ日本大學專門部醫學科ニ於ケル志願者ニ在リテハ近衛師團軍醫部長）ニ、獸醫部ノ依託學生又ハ同依託生徒志願者ニ在リテハ同獸醫部長ニ差出スベシ

前項ノ志願票ノ用紙ハ志願者ノ請求ニ依リ當該學校ニ於テ之ヲ交付ス

第五條　志願票差出後其ノ記載事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ速ニ前條ノ經理部長、軍醫部長又ハ獸醫部長ニ屆出ツヘシ

第六條　經理部長、軍醫部長又ハ獸醫部長ハ第四條ノ志願票及戸籍謄本ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ志願者現住地最寄ノ部隊長ト協議ノ上志願者ヲシテ其ノ部隊附軍醫ノ身體檢査ヲ受ケシムベシ

前項ノ身體檢査ニ關スル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第七條　經理部長、軍醫部長又ハ獸醫部長ハ前條ノ規定ニ依ル身體檢査ニ合格シタル者ノ學力、志操、性行、家庭ノ狀況等ヲ調査シ意見ヲ附シ志願票其ノ他ノ書類ヲ取纏メ師團長又ハ軍司令官ニ差出シ師團長又ハ軍司

令官ハ之ヲ陸軍大臣ニ差出スベシ

第八條　依託學生又ハ依託生徒ノ志願ノ採否決定シタルトキハ陸軍大臣ハ當該學校所在地所管ノ師團長又ハ軍司令官（東京帝國大學醫學部、千葉醫科大學、日本醫科大學又ハ日本大學專門部醫學科ニ於ケル志願者ニ係ルモノハ近衛師團長）及當該學校ノ大學長、學部長又ハ學校長ヲ經テ之ヲ本人ニ達シ且採用シタル者ノ人名ヲ公示ス

第九條　前條ノ規定ニ依リ採用ノ達ヲ受ケタル者ハ速ニ附錄樣式ニ依リ保證書ヲ差出スベシ

第十條　第十四條第一項ノ規定ニ依リ依託學生又ハ依託生徒ヲ免ジタル場合ニ於テハ其ノ年ノ志願者中ヨリ臨時之ヲ補缺スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第二章　採用後ノ取扱

第十一條　依託學生及依託生徒ハ經理部ノ者ニ在リテハ之ヲ陸軍省經理局長ノ、衛生部ノ者ニ在リテハ之ヲ陸軍省醫務局長ノ、獸醫部ノ者ニ在リテハ之ヲ陸軍省軍務局長ノ監督ニ服セシメ第一條ニ掲クル學校ニ於テ當該學校ノ修學ニ關スル規定ニ從ヒ各其ノ專門ノ學術ヲ修メシム

第十二條　陸軍省經理局長、醫務局長及軍務局長ハ依託學生又ハ依託生徒ノ在學スル學校最寄ノ部隊ニ在職スル經理部、衛生部又ハ獸醫部將校相當官中ヨリ依託學生又ハ依託生徒取締ヲ命シ依託學生又ハ依託生徒ノ取締ニ任セシムヘシ

依託學生又ハ依託生徒ノ在學スル學校ノ配屬將校ハ依託學生又ハ依託生徒ノ修學ノ狀況ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ隨時所管ノ局長又ハ取締ニ通知スヘシ

第十三條　陸軍省經理局長、醫務局長及軍務局長ハ依託學生又ハ依託生徒ノ學業ノ成績其ノ他修學ノ狀況ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第十四條　依託學生又ハ依託生徒ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ依託學生又ハ依託生徒ヲ免ス

一　志操中正ヲ缺キ又ハ品行不良若ハ怠慢ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者

二　學業ノ成績不良ナル者

三　疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニ因リ士官トシテノ現役ノ役務ニ堪ヘスト認ムル者

四　前各號ニ掲クル者ノ外士官タルニ適セスト認ムル者

第八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ依託學生又ハ依託生徒ヲ免シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　陸軍省經理局長、醫務局長又ハ軍務局長ハ依託學生又ハ依託生徒ニシテ前條第一項ノ規定ニ該當スル者アルトキハ速ニ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第三章　雜則

第十六條　依託學生及依託生徒ハ情願ヲ以テ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第十七條　依託學生及依託生徒ニハ陸軍給與令ノ定ムル所ニ依リ手當金ヲ給ス

前項ノ手當金ノ請求書ハ每月十ヵ日迄ニ到著スル如ク其ノ在學スル學校所在地所管ノ經理部長（第一師管ニ在リテハ近衛師團經理部長）ニ差出スヘシ

第十四條第一項第一號ニ該當シ依託學生又ハ依託生徒ヲ免シタルトキハ既ニ給シタル手當金ヲ償還セシム

第十八條　陸軍省經理局長、醫務局長又ハ軍務局長ハ其ノ所部ノ依託學生又ハ依託生徒ニシテ之ヲ免セラレタル者アルトキハ速ニ前條第二項ノ

理部長ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第十九條　依託學生及依託生徒ハ之ニ採用セラレタル日ヨリ十四日以内ニ其ノ宿所ヲ依託學生取締又ハ依託生徒取締ニ届出ツヘシ轉居シタルトキ又ハ一月以上ノ休學若ハ一週間以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキ亦之ニ準ス

第二十條　依託學生若ハ依託生徒ニ達シ又ハ依託學生若ハ依託生徒ヨリ差出ス書類（第十七條第二項ノ請求書ヲ含ム）ハ依託學生取締又ハ依託生徒取締又所管經理部長、軍醫部長又ハ獸醫部長ヲ經由スヘシ依託學生取締又ハ依託生徒取締ニ達シ又ハ同取締ヨリ差出ス書類ニ付亦之ニ準ス

第二十一條　依託學生及依託生徒ノ召募ニ關シ一時本令ニ依ラサルモノアルトキハ之ヲ告示ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ依託學生又ハ依託生徒ニ採用セラレ居ル者ハ本令ニ依リ採用セラレタル者ト看做ス

附錄樣式（半紙白紙）

三錢收入印紙（印）

保證書

氏名

經理部（衛生部又ハ獸醫部）依託學生（生徒）被命候後陸軍依託學生依託生徒規則第十七條第二項ニ依リ手當金ノ償還ヲ被命候節ハ所命ノ通償還可仕保證人ハ本人ト連帶シテ其ノ責ニ任シ可申候

年　月　日

本籍地

現住地

職業（官職等）　志願者　氏　名印

本籍地

現住地

職業（官職等）　保證人　氏　名印

同　保證人　氏　名印

陸軍省經理局長　殿

注意

一　保證人カ親權者又ハ後見人ナルトキハ保證人ノ下ニ括弧ヲ附シ其ノ旨記入スヘシ

二　宛名ハ衛生部依託學生又ハ同依託生徒ニ在リテハ陸軍省醫務局長ニ、獸醫部依託學生又ハ同依託生徒ニ在リテハ陸軍省軍務局長ニ作ルヘシ

●陸軍法務官試補ト爲ルヘキ依託學生採用規則

大正八年五月二十四日
陸軍省令第十七號

追加　大正八年一一月陸軍省令第四六號、一三年三月第五號改正

陸軍法務官試補ト爲ルヘキ依託學生採用規則左ノ通定ム

陸軍法務官試補ト爲ルヘキ依託學生採用規則

第一條　陸軍ニ陸軍法務官試補ト爲ルヘキ學生ヲ置キ東京帝國大學及京都帝國大學ノ法學部ニ依託ス

第二條　依託學生ハ陸軍大臣東京帝國大學法學部長及京都帝國大學法學部長ニ通牒シ東京帝國大學又ハ京都帝國大學ノ法學部法律學科學生ノ志願者中ヨリ之ヲ採用ス

第三條　志願者ハ年齡三十年未滿ニシテ身體强健從軍ニ妨ケナキ者タルコトヲ要ス

第四條　左ノ各號ノ一ニ該ル者ハ之ヲ採用セス

一　本人又ハ父若ハ戸主家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者

二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三　品行不正又ハ家庭不良ナル者

第五條　志願者ハ獨立ノ生計ヲ營ミ身元確實ナル者ヲ以テ保證人ト爲シ願書第一樣式ニ戸籍謄本、履歷書第二樣式、身上申告書第三樣式及證書第四樣式ヲ添ヘ當該法學部長ノ證印ヲ得テ本籍地市町村長ニ差出スヘシ

出願當時二十歲未滿ノ志願者ニ在リテハ保證人ハ親權者又ハ後見人ナルコトヲ要ス

第六條　市町村長ハ前條ノ書類ヲ調査シ證印ヲ爲シ身上申告書ヲ參酌シ身上明細書第五樣式ヲ作リ之ニ添附シ陸軍大臣ニ差出スヘシ

第七條　陸軍大臣ハ志願者中採用スヘキ者ヲ定メ當該法學部長ヲ經テ本人ニ達シ且之ヲ公示ス

第八條　依託學生ハ當該法學部一般ノ規程ニ從ヒ修學セシム

第九條　陸軍大臣ハ依託學生ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ル者アルトキハ依託學生ヲ免シ當該法學部長ヲ經テ本人ニ達シ且之ヲ公示ス

一　品行不正、學業懈怠又ハ規則違反等ノ故ヲ以テ東京帝國大學又ハ京都帝國大學ニ於テ退學又ハ放學ノ處分ヲ爲スヘキ者

二　成業ノ目途ナキ者

三　傷痍又ハ疾病ニ罹リ治癒ノ見込ナキ者

第九條ノ二　陸軍大臣ハ依託學生ニシテ當該法學部ヲ卒業シタル者ノ中左ノ各號ノ一ニ該ル者アルトキハ依託學生ヲ免シ本人ニ達シ且之ヲ公示ス

一　品行不正、學業懈怠ニシテ陸軍法務官試補ト爲ルニ適當ナラスト認ムル者

二　成業ノ目途ナキ者

三　傷痍又ハ疾病ニ罹リ治癒ノ見込ナキ者

第十條　依託學生ニハ授業其ノ他一切ノ費用ニ充ツル爲月額三十圓ヲ支給ス

依託學生ニシテ當該法學部卒業ノ年ニ陸軍法務官試補ト爲ラサル者ニ在リテハ其ノ年ノ高等試驗令試驗合格者氏名公告ノ日限リ前項金額ノ支給ヲ止ム

第十一條　依託學生ニシテ第九條第一號及第九條ノ二第一號ニ依リ依託學生ヲ免セラレタル者又ハ自己ノ便宜ニ依リ依託學生ヲ辭シタル者ハ其ノ翌月當日迄ニ依託學生間前條ニ依リ支給シタル金額ヲ返納セシム

第十二條　依託學生ノ身上其ノ他戸籍ニ異動ヲ生シタルトキハ本人又ハ保證人ヨリ最初願出ノ順序ニ依リ之ヲ陸軍大臣ニ届出ヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一樣式（用紙美濃白紙）

陸軍法務官試補ト爲ルヘキ依託學生願

第十八章　兵役

陸軍法務官試補ト爲ルヘキ依託學生志願ニ付御許可被成下度御採用ノ上ハ規則嚴重ニ相守リ自己ノ便宜ヲ以テ猥ニ依託學生ヲ辭シ申ス間敷誓テ陸軍ニ從事可仕候仍テ保證人連署ヲ以テ奉願候也

年　月　日

氏名儀

本籍地　府(縣)郡(市)町(村)番地
現住地　府(縣)郡(市)町(村)番地
戶　主　戶主ニ非サルトキハ弟族稱職業
誰　子　氏　名印　年月日生

本籍地　府(縣)郡(市)町(村)番地
現住地　府(縣)郡(市)町(村)番地
族稱職業(官職等)
保證人　氏　名印

第二樣式（用紙美濃白紙）

履歷書

一何年何月何學校ヘ入學何年月日同校卒業
一何年何月何學校何學年ヨリ何學校何學年ニ入學何年月日同校卒業
一何年月日何處ニ於テ何研究
一何年月日何ニ從事ス
一何年月日何ニ依リ賞(罰)等
（右ノ例ニ依リ履歷ニ關スル概要ヲ記スヘシ）
右ノ通相違無之候也

年　月　日

本　人　氏　名印
保證人　氏　名印

第三樣式（用紙美濃白紙）

身上申告書

陸軍法務官試補ト爲ルヘキ依託學生志願者　氏　名

父（養父、繼父アルモノハ各別ニ記入スヘシ）	氏名、官職（官公吏ニ在リテハ何官何職ナルコトヲ明記ス）職業ノ種類（成ルヘク細部ノ職業ヲ記スルモノトス例ヘハ單ニ商ト記セスシテ呉服商、菓子商等ト記スルカ如シ）ヲ記入スヘシ　死者ニ付亦同シ
母（養母、繼母、嫡母アルモノハ各別ニ記入スヘシ）	右ニ準ス
戶主	右ニ準ス
兄弟姉妹	氏名、官職、職業等他家ニ在ル者ヲモ記入スヘシ
財產及所得	不動產見積價格　本人竝直接扶養義務者ニ屬スルモノ　戶主ニ屬スルモノ
	動產見積價格　右ニ準ス
	所得年額　右ニ準ス
扶養者（戶籍ヲ異ニスル者又ハ團體）	戶籍ヲ異ニスル者又ハ團體ヨリ扶養ヲ受クル場合ニ限リ扶養者ノ氏名、名稱、官職、職業、財產及所得ヲ記スヘシ
戶主及本人ノ宗教	

右之通相違無之候也

年　月　日

保證人　氏　名印

第四樣式（用紙美濃白紙）

證書（收入印紙貼用）

陸軍法務官試補ト爲ルヘキ依託學生採用規則第十一條ニ依リ納金ヲ被命候節ハ規定ノ通納金可仕保證人ハ本人ト連帶シテ其ノ責ニ任シ可申候

本籍地　府（縣）郡（市）町（村）番地

現住地　府（縣）郡（市）町（村）番地

族稱職業

本人　氏　名印

年　月　日

本籍地　府（縣）郡（市）町（村）番地

現住地　府（縣）郡（市）町（村）番地

族稱職業（官職等）

保證人　氏　名印

陸軍大臣閣下氏名殿

注意

保證人ハ願書ニ記載シタル保證人ト同一ノ者ナルコトヲ要ス

第五樣式（用紙美濃白紙）

陸軍法務官試補ト爲ルヘキ依託學生志願者某身上明細書

本人ノ品行

父（養父、繼父アル者ハ各別ニ記入スヘシ）	氏名、官職（官公吏ニ在リテハ何官、何職ナルコトヲ明記ス）、職業ノ種類（成ルヘク細部ノ職業ヲ記スルモノトス例ヘハ單ニ商ト記セスシテ呉服商菓子商等ト記スヘシ）ヲ記入スヘシ 死者ニ付亦同シ
母（養母、繼母、嫡母アル者ハ各別ニ記入スヘシ）	右ニ準ス
戸主	右ニ準ス
妻	學業、品行、實家ノ資產職業等ヲ記入スヘシ
兄弟姉妹	氏名、官職、職業等他家ニ在ル者ヲモ記入スヘシ
財產及所得	不動產見積價格 本人竝直接扶養義務者ニ屬スルモノ 戸主ニ屬スルモノ 動產見積價格 右ニ準ス 所得年額 右ニ準ス
刑罰（拘留科料ヲ除ク）	本人、父母、兄弟　姉妹ニ付犯罪ノ種類及刑罰等ヲ記入ス 死者ニ付亦同シ
扶養者（戸籍ヲ異ニスル者又ハ團體）	戸籍ヲ異ニスル者又ハ團體ヨリ扶養ヲ受クル場合ニ限リ扶養者ノ氏名、名稱、官職、職業、財產及所得ヲ記入スヘシ
家庭ノ狀況	家庭ノ整否 教育ノ狀態 戸主及本人ノ宗教 地方ニ於ケル地位及風評 家計ノ狀態

右之通調査證明候也

年　月　日

府（縣）郡（市）町（村）長　氏　名印

●海軍軍醫中尉海軍軍醫少尉海軍藥劑中尉海軍藥劑少尉任用規則

大正八年三月六日
海軍省令第三號

追加　大正一〇年四月海軍省令第九號、一四年一〇月第一二號、昭和三年二月第三號改正

海軍軍醫中尉海軍軍醫少尉海軍藥劑中尉海軍藥劑少尉任用規則左ノ通定ム

海軍軍醫中尉海軍軍醫少尉海軍藥劑中尉海軍藥劑少尉任用規則

第一條　海軍武官任用令及海軍軍醫科及藥劑科士官現役期間特例ニ依リ海軍軍醫中尉軍醫少尉藥劑中尉藥劑少尉ヲ募集スルトキハ出願期日、身體檢查期日、學術試驗期日及身體檢查場所ヲ豫メ告示ス

第二條　志願者ハ願書ニ履歷書、戸籍謄本及身元證明書ヲ添ヘ海軍省人事局ニ差出スヘシ

第三條　海軍武官任用令第二十七條ニ依ル志願者ニ對シ行フヘキ學術試驗科目左ノ如シ

軍醫科士官

一學說　內科學　外科學
二實地　臨床診斷
三外國語　英獨佛ノ內

藥劑科士官

一學說　藥化學
二實地　分析術　藥品鑑定及調劑術

學術試驗ハ身體檢查ニ合格シタル者ニ對シ之ヲ行フ

第四條　學術試驗ノ合格ハ海軍武官任用委員之ヲ議定ス

第五條　願書、履歷書及身元證明書式左ノ如シ

願書式（用紙美濃紙二ツ折一通）

本籍
現住所　官位勳　氏　名㊞

年　月　日

海軍大臣宛

海軍軍醫中尉軍醫少尉藥劑中尉藥劑少尉任用願

私儀海軍軍醫中尉軍醫少尉藥劑中尉藥劑少尉志願ニ付任用相成度右出願ス

身體檢查場所名、、
現役期間二年（海軍軍醫科及藥劑科士官現役期間特例ニ依ル志願者ニ限ル）
受驗外國語　、、（海軍武官任用令第二十七條ニ依ル志願者ニ限ル）

（終）

（履歷書、戸籍謄本竝身元證明書添）

履歷書式（用紙同上）

履歷書

族籍
戸主又ハ戸主トノ續柄
氏　名
何年何月何日生
何年何箇月

一修學及卒業シタル學校名竝其ノ年月日、修業證書寫卒業證書寫
一醫師免許證寫、藥劑師免狀寫
一官廳會社等ノ職務ニ從事シタル者ハ其ノ辭令ノ全文
一現ニ官廳ニ奉職スル者ハ其ノ官廳名（所屬長官ノ受驗認可書ヲ添付スヘシ）

前書ノ通相違ナシ

右

年　月　日　氏　名㊞

身元證明書式

身元證明書

本籍
族稱　氏　名
何年何月何日生

一兵役ノ關係

兵役法第四十一條ニ依リ徵集延期中
兵役法第四十一條ニ依リ徵集延期中ノ處何年何月何日事故止ミ何年何月檢查ヲ受クヘキ者
何年徵集ノ現役兵若砲兵ハ何年徵集ノ第一補充兵歩兵幹部候補生出願中若ハ出願スヘキ者

一禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ
一破產又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ
一破產又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルモ復權ヲ得タリ

右ノ通相違ナシ

年　月　日　市（區）町（村）長　氏　名㊞

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十年海軍省令第九號ハ之ヲ廢止ス

●海軍主計中尉海軍主計少尉任用
海軍主計少尉候補生採用規則

第十八章　兵役

大正八年三月六日
海軍省令第四號

追加　大正一〇年四月海軍省令第一〇號、昭和三年二月第四號改正

海軍主計中尉海軍主計少尉任用海軍主計少尉候補生採用規則左ノ通定ム

海軍主計中尉海軍主計少尉任用海軍主計少尉候補生採用規則

第一條　海軍武官任用令ニ依リ海軍主計中尉、海軍主計少尉若ハ海軍主計少尉候補生ヲ募集スルトキハ出願期日、身體檢查期日、學術試驗期日及身體檢查場所ヲ豫メ告示ス

第二條　志願者ハ願書ニ履歷書、戸籍謄本及身元證明書ヲ添ヘ海軍省人事局ニ差出スヘシ

第三條　海軍武官任用令第二十七條ニ依ル志願者ニ對シ行フヘキ學術試驗科目左ノ如シ

一　筆記試驗　憲法　民法第一編第二編第三編
　　行政法　財政學　經濟學
　　國際公法　外國語英佛獨ノ內
二　口述試驗　口述試驗ハ前號ニ揭クル科目ノ中ニ就キ筆記試驗ニ合格シタル者ニ對シ之ヲ行フ

學術試驗ハ身體檢查ニ合格シタル者ニ對シ之ヲ行フ

第四條　學術試驗ノ合格ハ海軍武官任用委員之ヲ議定ス

第五條　願書、履歷書及身元證明書ノ書式左ノ如シ

願書式（用紙美濃紙二ツ折一通）

本籍
現住所　官位勳　氏　名㊞

年　月　日

海軍大臣宛

海軍主計中尉（主計少尉）任用願

私儀海軍主計中尉（主計少尉）志願ニ付任用相成度

右出願ス

身體檢查場所名　、、（海軍武官任用令第二十七條ニ依ル志願者ニ限ル）

（履歷書、戸籍謄本竝身元證明書添）

（履歷書、戸籍謄本竝身元證明書添）　（終）

願書式　用紙同上）

本籍

年　月　日　　現住所　　氏　　名㊞

官位勳

海軍大臣宛

海軍主計少尉候補生採用願

私儀海軍主計少尉候補生志願ニ付採用相成度

右出願ス

身體檢查場所名　、、

（履歷書、戸籍謄本竝身元證明書添）　（終）

履歷書式（用紙同上）

履歷書

族籍

戸主又ハ戸主トノ續柄

氏　　名

何年何月何日生

何年何箇月

一修學及卒業シタル學校名竝其ノ年月日、修業證書寫、卒業證書寫、合格證書寫

一法律學經濟學ノ教授ヲ受ケタル學衞名及其ノ年月日

一職業技藝

一官廳會社等ノ職務ニ從事シタル者ハ其ノ辭令全文

一現ニ官廳ニ奉職スル者ハ其ノ官廳名（所屬長官ノ受驗認可書ヲ添附スヘシ）

前書ノ通相違ナシ

右

年　月　日　　氏　　名㊞

身元證明書式

身元證明書

本籍

族稱　　氏　　名　　何年何月何日生

兵役法第四十一條ニ依リ徵集延期中

兵役法第四十一條ニ依リ徵集延期中ノ處何年何月事故止ミ

一兵役ノ關係

何年何月檢查ヲ受クヘキ者

何年徵集ノ現役兵砲兵若ハ何年徵集ノ補充兵歩兵幹部候補生出願中若ハ出願スヘキ者

一禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ

一破產又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ

一破產又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルモ復權ヲ得タリ

右ノ通相違ナシ

年　月　日　　市（區）町（村）長　氏　　名㊞

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年海軍省令第十號ハ之ヲ廢止ス

●海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒令

明治三十二年五月二十四日
勅令第二百十四號

改正　明治三十年十二月勅令第三一〇號、四一年九月第二三號、四九年七月第一四八號、大正四年一二月第二二八號、七年六月第二六五號、一〇年四月第一四三號改正

第一條　海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒ハ海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒ハ志願ニ依リ前條ノ專門學校又ハ學校ノ本科生徒ニシテ身體檢查ニ合格シタル者ノ中ヨリ之ヲ採用ス但シ海軍士官タル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒ハ海軍造船少尉候補生、造機少尉候補生、造兵少尉候補生及海軍技手補充ノ爲海軍ニ造船生徒、造機生徒及造兵生徒ヲ置キ造船、造機又ハ造兵ニ必要ナル學術技藝ヲ教授スル專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ指定ノ學科ヲ修メシム

第三條　左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒タルコトヲ得ス

一　徵兵令第二十八條ニ該ル者

二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三　復權ヲ得サル家資分散者又ハ破產者

第四條　海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒ハ自己ノ便宜ニ因リ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第五條　海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ生徒ヲ免ス

一　品行不良若ハ怠惰ナル者

二　學業進歩セスシテ卒業ノ目途ナキ者

三　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ前途職務ニ堪ヘ難シト認ムル者

四　前各號ニ揭クル者ノ外海軍士官又ハ海軍技術者タルニ不適當ナリト認ムル者

第六條　海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒ニシテ第一條ノ學科ヲ修了シタル者ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ十年間海軍ノ事務ニ服スル義務ヲ有ス但シ海軍士官タル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條　海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒ノ採用ニ關スル規則ハ海軍大臣之ヲ定ム

●海軍造船造機造兵生徒規則

大正七年六月二十六日
海軍省令第四號

改正　大正九年三月海軍省令第四號、一〇年四月第八號、一四年九月第一一號、昭和七年六月第七號、八年八月第六號、一〇年八月第八號改正

海軍造船造機造兵生徒規則左ノ通リ改正ス

海軍造船造機造兵生徒規則

第一條　海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒令第一條ニ依ル學校ハ熊本高等工業學校、名古屋高等工業學校、米澤高等工業學校、横濱高等工業學校、廣島高等工業學校、仙臺高等工業學校、福生高等工業學校、金澤高等工業學校、濱松高等工業學校、德島高等工業學校、長岡高等工業學校、福井高等工業學校、山梨高等工業學校、神戸高等工業學校、東京高等工藝學校、秋田鑛山專門學校、明治專門學校、京城高等工業學校、臺南高

等工業學校及日本大學トス

第二條　海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒志願者ハ當該學校長又ハ學長ヲ經由シ願書（書式一號）ニ履歷書（書式二號）及戸籍謄本ヲ添ヘ海軍艦政本部長ニ出願スヘシ但シ志願者海軍職工ナルトキハ所屬廳長ヲ經由出願スヘシ

第三條　海軍造船生徒、造機生徒又ハ造兵生徒ハ海軍艦政本部長當該學校長、學長又ハ海軍工作廳長ト協議シ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ命ス

第四條　海軍造船生徒、造機生徒又ハ造兵生徒ヲ命セラレタル者ハ當該學校長又ハ學長ヲ經由シ誓約書（書式三號）及身元引受證書（書式四號）ヲ海軍艦政本部長ニ差出スヘシ但シ海軍職工タリシ者ニ在リテハ前所屬廳長ヲ經由差出スヘシ

第五條　海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒ハ當該學校長又ハ學長ノ監督ヲ受ケ該校一般ノ規則ヲ遵守スヘシ

第六條　海軍造船生徒、造機生徒又ハ造兵生徒タリシ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒令第六條ノ義務ヲ免ス

一　刑法ノ宣告又ハ文官分限令第三條ニ依リ其ノ官ヲ免セラレタルトキ

二　文官分限令第四條又ハ第五條ニ依リ退官者トナリタルトキ

三　海軍大臣ノ至當ト認ムル事由アルトキ

書式一號（用紙美濃紙）

海軍造船造機造兵生徒採用願

海軍造船（造機）（造兵）生徒志願ニ付身體檢査ノ上御採用被成下度別紙履歷書竝戸籍謄本相添此段奉願候也

年　月　日

府（縣）郡（市）（區）町（村）番地華（士）族

氏　名印

府（縣）郡（市）（區）町（村）番地寄留

戸主（何男）（兄）（弟）（伯）（叔）（甥）（附籍）

氏　名

何年何月何日生

海軍艦政本部長氏名殿

書式二號（用紙美濃紙）

履歷書

府（縣）華（士）族

戸主（何男）（兄）（弟）（伯）（叔）（甥）（附籍）

氏　名

何年何月何日生

一學業

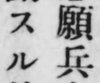
一賞罰

右之通相違無之候也

年　月　日

氏　名印

書式三號（用紙美濃紙）



誓約書

今般海軍（造船）（造機）造兵生徒被命候ニ付テハ御規則嚴重ニ可相守ハ勿論卒業（選科修了）ノ上ハ十年間誓テ海軍ニ從事可仕候仍テ誓約書及提出候也

年　月　日

某儀

府（縣）郡（市）（區）町（村）番地華（士）族

氏　名印

府（縣）郡（市）（區）町（村）番地寄留

府（縣）郡（市）（區）町（村）番地華（士）族

戸主（何男）（兄）（弟）（伯）（叔）（甥）（附籍）

氏　名印

何年何月何日生

海軍艦政本部長氏名殿

書式四號（用紙美濃紙）

身元引受證書

府（縣）郡（市）（區）町（村）番地華（士）族

戸主（何男）（兄）（弟）（伯）（叔）（甥）（附籍）

氏　名印

何年何月何日生

右者今般願ノ通海軍造船（造機）（造兵）生徒被命候ニ付本人誓約書ノ通相違無之候得共萬一本人ニ於テ海軍造船生徒造機生徒及造兵生徒令第五條ニ依リ右生徒被免候トキ又ハ本人卒業後（選科修了時）故意ニ若ハ官ニ於テ正當ト認メラルル理由ナク誓約ノ義務ヲ履行セサルトキハ海軍給與令第四十九條及海軍給與令施行細則第六十條ニ依リ本人ヨリ給與金全額返償可爲致若シ本人返償難致トキハ私共ヨリ辨償可仕其ノ他本人身上ノ儀ハ一切引受可申仍テ身元引受證書及提出候也

年　月　日

東京市區町番地居住

府（縣）華（士）族

身元引受人　氏　名印

府（縣）郡（市）（區）町（村）番地華（士）族

府（縣）郡（市）（區）町（村）番地寄留

●國際的運動競技會等ニ出場セムトスル一年志願兵志願者外國渡航許可願ニ關スル件

大正十三年四月二日

陸軍省令第十號

一年志願兵ヲ志願シ在學ノ爲入營延期中ノ者ニシテ帝國政府ノ認ムル國際的運動競技會等ニ出場ノ目的ヲ以テ在學ノ儘外國ニ渡航セムトスル者ハ學校長ノ證明書ヲ添ヘ別記樣式ニ依リ學校所在地所管ノ聯隊區司令官ヲ經テ陸軍大臣ニ願出テ其ノ許可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ渡航ヲ許可セラレタル者ニ付テハ一年志願兵條例施行細則第二十三條ノ規定ニ拘ラス入營延期ノ事故繼續スルモノト看做ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式）

外國渡航許可願

本籍地　府縣郡市區町村字番地
氏　名
年月日生

一　渡航ノ目的
一　渡航國名
一　渡航ノ期間

私儀何々學校何部何科第何學年ニ在學ノ故ヲ以テ入營延期中ノ處今般外國ヘ渡航致度候ニ付御許可相成度及願出候也

年　月　日　右　氏　名印

陸軍大臣氏名殿

●兵役法第七十三條及兵役法施行令第百三十九條ノ規定ニ依ル指定學校

昭和三年五月十五日
陸軍省告示第十一號

追加　昭和四年四月陸軍省告示第一二號、八年七月第三六號、一〇年三月第一四號、六月第一六號、一〇月第三八號、一一年九月第四二號改正

兵役法第七十三條及兵役法施行令第百三十九條ノ規定ニ依リ指定スル學校左ノ如シ

關東廳又ハ南滿洲鐵道株式會社ノ設立スル小學校其ノ他初等教育ヲ授クル學校、中學校及實業學校（尋常小學校卒業ヲ入學程度トスル修業年限五年又ハ之ト同等以上ノモノニ限ル）

南洋廳ノ設立スル小學校其ノ他初等教育ヲ授クル學校

日本居留民團、日本居留民會又ハ日本人會等ノ設立スル小學校其ノ他初等教育ヲ授クル學校

鹽大鐵業公司經營瀋川尋常高等小學校
東洋協會大連商業學校
青島日本中學校
青島學院商業學校
青島學院實業學校（專修科ヲ除ク）
東亞同文書院
哈爾濱學院（專修科ヲ除ク）
南滿洲工業專門學校
旅順工科大學
滿洲醫科大學
天津日本商業學校
上海居留民團立日本商業學校
昭和十年勅令第九十一號ニ依ル關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル青年學校
關東師範學校

●兵役法施行令第三十一條第三項ノ規定ニ依ル認定ニ關スル件

昭和十年六月五日
陸軍省令第一號
文部省令第一號

追加　昭和一〇年八月陸軍省令第一號、文部省令第一號改正

兵役法施行令第三十一條第三項ノ規定ニ依ル認定ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　左ノ各號ニ揭クルモノハ青年學校ノ課程ト同等以上ト認ムル課程トス

一　地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ノ課程ト認メタル課程

二　昭和四年朝鮮總督府令第八十九號青年訓練所規程ニ依ル青年訓練所ノ課程（同規程第十三條第二項ノ規定ニ依ルモノヲ除ク）及同規程第十五條ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ於テ之ト同等以上ト認メタル課程

三　昭和六年臺灣總督府令第七十三號ニ依ル公立ノ青年訓練施設ノ課程及臺灣總督ニ於テ之ト同等以上ト認メタル課程

四　滿洲國駐劄特命全權大使又ハ關東州廳長官ニ於テ昭和十年勅令第九十一號ニ依ル青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程

五　樺太青年訓練所規程ニ依ル青年訓練所ノ課程及同規程第九條ノ規定ニ依リ樺太廳長官ニ於テ之ト同等以上ト認メタル課程

六　昭和十年外務省令第七號ニ依ル在外青年學校ノ課程

七　現役將校ヲ配屬シタル學校ノ課程

八　現役將校ヲ配屬セサル官立又ハ公立ノ商船專門學校及商船學校ノ課程

九　陸軍大臣及文部大臣ニ於テ指定シタル學校ノ課程

第二條　前條各號ニ揭クル課程中地方長官、朝鮮總督、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使、關東州廳長官又ハ樺太廳長官ニ於テ認定シタルモノハ其ノ認定ニ關シ課程ノ認定ヲ受ケタル學校所在地所管ノ師團長、臺灣軍司令官又ハ關東軍司令官ニ協議シタルモノタルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

青年學校令施行前ニ於テ青年訓練所規程第八條ノ規定ニ依リ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ハ之ヲ本令第一條第一號ニ揭クル課程ト看做ス

昭和十年勅令第九十一號施行前ニ於テ關東州及南滿洲鐵道附屬地青年訓練所規則第八條ノ規定ニ依リ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ハ之ヲ本令第一條第四號ニ揭クル課程ト看做ス

●青年學校ノ課程ト同等以上ト認ムル學校指定

昭和十年十一月十三日
陸軍省
文部省告示第七號

昭和十年陸軍文部省令第一號第一條第九號ノ規定ニ依リ指定スルコト左ノ如シ

左ニ揭クル學校ノ課程ハ青年學校ノ課程ト同等以上ト認ムル課程トス

青島學院實業學校

●昭和十年陸軍文部省令第一號第一條第九號ニ依リ指定セラレタル學校ノ課程認定

昭和十一年十一月二十七日
陸軍省告示第四十七號

昭和十年陸軍文部省令第一號第一條第九號ノ規定ニ依リ指定セラレタル學校ノ課程ノ兵役法施行規則第五十二條ノ二第六號ニ規定スル程度左ノ如シ

學校	課程ノ程度
青島學院實業學校	年齡十四年（年齡ノ計算ハ毎年三月三十一日ヲ基準トス）以上ニ於テ四學年以上修了シ教練三百五十時以上ヲ修メタルコト

●昭和十年陸軍省令第六號附則第四項ニ規定スル者ノ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ノ修得程度ニ關スル件

昭和十年六月十日
陸軍省告示第二十七號

昭和十年六月陸軍省令第六號附則第四項ニ規定スル者ノ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ノ修得程度ニ關シテハ兵役法施行規則第五十二條ノ二ニ掲クル時數ニ拘ラス左ノ各號ニ依ルモノトス

一　年齢十五年　年齢ノ計算ハ昭和十年三月三十一日トス以下同シ）以上十六年未滿ノ者ノ兵役法施行規則（以下規則ト稱ス）第五十二條ノ二第一號又ハ第七號（規則第五十二條ノ二第一號ニ規定スル課程ヲ修メタル期間ヲ通算スル場合ニ限ル）ニ規定スル課程ノ修得程度左ノ如シ

修身及公民科	九十時以上
普通學科及職業科ヲ通シ	二百三十時以上
教練科	三百三十時以上

二　年齢十六年以上ノ者（課程ヲ修得シタル期間ハ概ネ四年トス）ノ規則第五十二條ノ二第一號又ハ第七號（規則第五十二條ノ二第一號ニ規定スル課程ヲ修メタル期間ヲ通算スル場合ニ限ル）ニ規定スル課程ノ修得程度左ノ如シ

修身及公民科	八十時以上
普通學科及職業科ヲ通シ	二百時以上
教練科	三百時以上

前項ニ規定スル普通學科及職業科ヲ通シ二百時中實業補習學校後期卒業者及尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第三學年修了程度（高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第一學年修了程度其ノ他之ニ準ス）以上ノ學力アル者ニ對シテハ規則第五十二條ノ二第三號又ハ第七號ニ掲クル普通學科及職業科ヲ通シ二百五十時中年齢十七年以上ノモノニ在リテハ百時以内、十八年以上ノモノニ在リテハ百五十時以内、十九年以上ノモノニ在リテハ二百五十時以内ヲ免除ス

三　規則第五十二條ノ二第三號ニ規定スル課程ヲ修メタル年齢十七年以上ノ者ノ中實業補習學校後期卒業者及尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第三學年修了程度（高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第一學年修了程度其ノ他之ニ準ス）以上ノ學力アル者ニ對シテハ規則第五十二條ノ二第三號又ハ第七號ニ掲クル普通學科及職業科ヲ通シ二百五十時中年齢十七年以上ノモノニ在リテハ百時以内、十八年以上ノモノニ在リテハ百五十時以内、十九年以上ノモノニ在リテハ二百五十時以内ヲ免除ス

參照

昭和十年陸軍省令第六號ハ兵役法施行規則中改正ノ件ナリ

第十九章　諸規程及官制

第十九章　諸規程及官制

●褒章條例

明治十四年十二月七日
太政官布告第六十三號

追章　明治二三年五月勅令第七二號、七月第一二六號、二七年一月第一號、大正七年九月第三四九號、九年一月第二四號、一〇年四月第一四七號、一四年六月第二二二號、昭和二年二月第六號、九年一二月第三九五號改正

褒章條例別紙ノ通相定來明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉　勅旨布告候事

（別紙）

褒章條例

第一條　凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者又ハ孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絕ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者又ハ學術技藝上ノ發明改良著述、教育衞生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水產ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者ヲ表彰スル爲メ左ノ四種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章
右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者ニ賜フモノトス

綠綬褒章
右孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絕ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者ニ賜フモノトス

藍綬褒章
右學術技藝上ノ發明改良著述、教育衞生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水產ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者ニ賜フモノトス

紺綬褒章
右公益ノ爲私財ヲ寄附シ功績顯著ナル者ニ賜フモノトス

第二條　本條例ニ依リ表彰セラルヘキ者團體ナルトキハ褒狀ヲ賜フ

第三條　已ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同樣ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ其都度飾版一箇ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス

前項ノ飾版五箇以上ニ達シタルトキハ五箇毎ニ別種ノ飾版一箇ヲ引替ヘ賜與ス

第四條　褒章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用スルコトヲ得

第五條　第一條ノ規定ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者ニハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓トヲ併セ賜フコトアルヘシ

第六條　第一條ノ規定ニ準スヘキ奇特ノ行爲アリタル者ニハ金銀木杯、金圓又ハ褒狀ヲ賜フコトアルヘシ

第七條　本條例ニ依リ表彰セラルヘキ者死亡シタルトキハ金銀木杯、金圓又ハ褒狀ヲ其遺族ニ賜ヒ之ヲ追賞ス

第八條　第六條ニ依ル行賞ニシテ金銀杯ノ賜與、二十圓ヲ超ユル金圓ノ賜與及千圓以上ノ寄附ニ對スル褒狀ノ賜與ハ賞勳局總裁之ヲ專行ス

第六條ニ依ル行賞ニシテ木杯ノ賜與、二十圓以下ノ金圓ノ賜與及千圓未滿ノ寄附ニ對スル褒狀ノ賜與ハ地方長官之ヲ專行ス

第九條　本條例中地方長官ニ屬スル職務ハ朝鮮、臺灣、關東州及南滿洲鐵道附屬地、樺太、南洋群島並外國ニ於テハ各朝鮮總督、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使、樺太廳長官、南洋廳長官、領事官之ヲ行フ

附　則　（大正九年一月勅令第二十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治十六年太政官布告第一號ハ之ヲ廢止ス

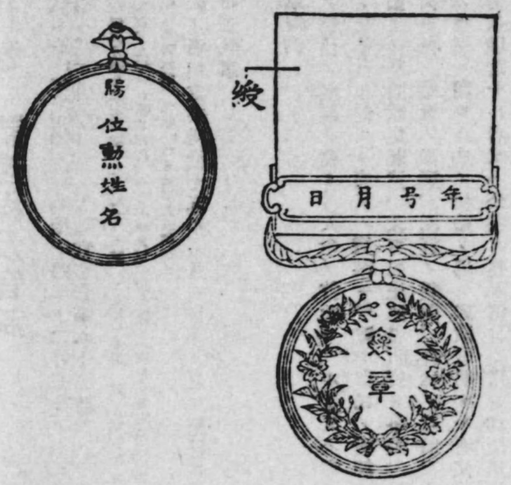
褒章ノ圖

章	銀櫻花紋圓形徑九分
鋲幷飾版	銀但シ第三條第二項ノ飾版ハ金トス
綬	幅一寸　種類ニヨリ紅綠藍紺四色ノ別アリ

備考　第三條第二項ノ飾版ヲ賜フトキハ褒章ノ裏面ニ引替ヘタル各飾版ノ賜與年月日ヲ記入ス

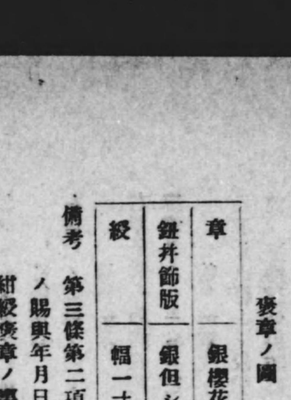
紺綬褒章ノ裏面ニハ前項ノ外文字ヲ記セス

表



裏

飾版



褒章ノ種類ニ依リ紅綠藍紺四色ノ別アリ

一褒章ハ左肋ノ邊ヘ佩フヘシ

但勲章及從軍記章ヲ有スル者ハ其章ノ左ヘ列シ帶フヘシ

●服忌令

明治七年十月十七日
太政官布告第百八號

服忌ノ儀追テ被　仰出ノ品モ可有之候得共差向京家ノ制武家ノ制兩樣ニ相成居候テハ法律上不都合有之ニ付自今京家ノ制被廢候條此旨布告候事

〔參考〕

明治七年十一月十八日（京都府伺）

服忌令ノ儀ハ追テ被仰出ノ品モ可有之云々本年第百八號ヲ以テ御布告相成右武家制服忌令ノ儀ハ元祿年中改正元文年中增補ノ別册相用ヒ可然哉爲念伺

（別册）

服忌令

一父母　忌五十日　服十三月〔閏月ヲカソヘス〕

一養父母　忌三十日　服百五十日

遺跡相續〔或ハ分地配當〕當ノ養子ハ實父母ノ如シ同姓ニテモ異姓ニテモ養方ノ親類實ノ如ク相互ニ服忌可受之實方ノ親類ハ父母ハ定式ノ服忌可受之祖父母伯叔父姑ハ半減ノ服忌可受之兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類ハ服忌無之遺跡相續セス〔或ハ分地配當〕セサル養子ハ同姓ニテモ異姓ニテモ養父母ハ定式ノ通忌服可受之養方ノ兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類服忌無之實方ノ親類ハ定式ノ通相互ニ服忌可受之

一嫡母　忌十日　服三十日

對面無之候ハヽ不可受服忌通路致シ候ハヽ對面無之共服忌可受之父死去ノ後他ヘ嫁シ或ハ父離別スルニ於テハ〔妾ノ子〕不可受服忌　但シ嫡母ノ親類ハ服忌無之

一繼父母　忌十日　服三十日

初メヨリ同居セサレハ無服忌

父死去ノ後繼母他ヘ嫁シ或ハ父離別スルニ於テハ不可受服忌　但シ繼父母ノ親類ニハ服忌無之

一離別之母　忌五十日　服十三月〔閏月ヲカソヘス〕
一夫　忌三十日　服十三月〔閏月ヲカソヘス〕
一妻　忌二十日　服九十日
一嫡子　忌二十日　服九十日
家督ト定メサル時ハ末子ノ服忌可受之女子ハ最初ニ生レテモ末子ニ准ス
一末子　忌十日　服三十日
養子ニ遣シ候テモ服忌差別ナシ家督ト定ムル時ハ嫡子ノ服忌可受之
一養子　忌十日　服三十日
家督ト定ムル時ハ嫡子ノ服忌可受之
一夫之父母　忌三十日　服百五十日
一祖父母　忌三十日　服百五十日
母方　忌二十日　服九十日
離別セラレ候祖母モ服忌無別儀
一曾祖父母　忌二十日　服九十日
母方ニハ服忌無之　但シ遠慮一日
一高祖父母　忌十日　服三十日
母方ニハ服忌無之　但シ遠慮一日
一伯叔父姑　忌二十日　服九十日
母方　忌十日　服三十日
父母種替リノ兄弟姉妹ハ半減ノ服忌可受之
一兄弟姉妹　忌二十日　服九十日
別腹タリトイフトモ服忌ニ無差別
一異父兄弟姉妹　忌十日　服三十日

一嫡孫　忌十日　服三十日
嫡孫承祖タル時ハ嫡子ノ服忌可受之祖父母死去ノ時モ嫡孫ノ方ヘモ五十日十三月ノ服忌可受之此外ノ親類服忌差別ナシ曾孫玄孫タリトイフトモ同例也
一末孫　忌三日　服七日
女子ハ最初ニ生レテモ末孫ニ准ス娘方ノ孫服忌同前
一曾孫玄孫　忌三日　服七日
娘方ニハ曾孫玄孫共ニ服忌無之
一従父兄弟姉妹　忌三日　服七日
父ノ姉妹ノ子並母方モ服忌同前
一甥姪　忌三日　服七日
姉妹ノ子モ服忌同前
異父兄弟姉妹ノ子ハ半減ノ服忌可受之
一七歳未満ノ小兒ハ無服忌
父母ハ三日遠慮其外ノ親類ハ同姓ニテモ異姓ニテモ一日遠慮日數過承候ハヽ追テ不及遠慮　但シ八歳ヨリ定式ノ服忌可受之
附七歳未満ノ小兒ノ方ヘモ服忌無之父母死去ノ時ハ五十日遠慮其外ノ親類ハ一日遠慮父母ハ年月ヲ經テ承候共聞付ル日ヨリ五十日遠慮スヘシ
一聞忌之事
遠國ニオヰテ死去年月ヲ經テ告來ルトイフトモ父母ハ聞付ル日ヨリ忌五十日服十三月　外ノ親類ハ聞付ル日ヨリ服忌殘ル日數可受之忌ノ日數過テ告來ラハ一日遠慮服明候トモ同前
一重ル服忌之事
父ノ服忌イマタ不明内母ノ服忌有之ハ母ノ死去ノ日ヨリ五十日十三月ノ

服忌可受之オモキ服忌ノ内カロキ服忌アリテ日數終ラハ追テ不及受服忌日數アマラハ殘ル服忌ノ日數可受之

〔穢之事〕

一〔産穢〕〔夫七日〕〔婦三十五日〕
〔遠國ヨリ告來七日過キ候ハヽ穢無之七日ノ内承リ候ハヽ殘ル日數ノ穢タル可シ血荒流産同斷尤モ妾ノ産穢ノ時モ同例〕
一〔血荒〕〔夫七日〕〔婦十日〕
一〔流産〕〔夫五日〕〔婦十日〕
〔形體有之ハ可爲流産形體無之ハ可爲血荒〕
一〔死穢〕〔一日〕
〔家ノ内ニテ人死候時一間ニ居合候ハヽ死穢可受之數居ヲ隔候ヘハ穢無之一間ニ居合候トモ不存候ヘハ穢無之二階ニテモ揚リ口數居ノ外ニ有之候ヘハ穢無之候家ナキ所ニ死人有之時ハ其儀有之地計リ穢候家主死去候テモ死穢ノ儀差別無之死後其所ヘ參リ候者ハ該有候共跼合ノ穢也〕
一〔跼合〕〔行水次第〕
一〔改葬〕〔遠慮一日〕
〔子ハ不殘遠慮　但シ不承候ハヽ追テ不及遠慮候忌掛リ候親類改葬ノ場ヘ出候者ハ遠慮ス可シ忌不掛親類ハ其場ヘ出候共不及遠慮候改葬ノ主ニナリ候ハヽ他人ニテモ一日遠慮ス可シ〕
〔附堀起シ候日ヨリ葬候迄日數有之候ハヽ子ハ不殘堀オコシ候日ト葬候日トニ日ノ遠慮ナリ他人ニテモ改葬ノ主ニナリ候者ハ同斷　但シ堀起シ候翌日ヨリ葬リ候前日マテハ幾日ニテハ不及遠慮候〕
〔改葬ノ儀遠所ニテ申付日限存候ハヽ其日遠慮スヘシ日限不存相濟候後承候ハヽ追テ不及遠慮候〕
元祿六年十二月二十一日

第十九章　諸規程及官制

追加

一養父死去以後養母同居セストイフトモ他ヘ不嫁候ヘハ服忌可受之他ヘ嫁スルニ於テハ服忌無之
一養父ノ妻養ハレサル以前ニ死去候ハヽ嫡母ニ准シ其親類服忌無之
一父ノ後妻ト通路イタシ候ハヽ對面無之トモ繼母ノ服忌可受之
一義絕ノ嫡子ノ服忌ハ末子ニ可准之此外ノ親類義絕トイフトモ服忌別儀ナシ
一女子婚儀以前ヨリ養ハレ或ハ入智ヲ取家督相續ノ時ハ養方ノ親類實ノ如ク相互ニ服忌可受之
一婚儀イマタ相調ハサル内ニテモ祝儀取カハシ候ヘハ夫婦相互ニ定式ノ忌ノ日數可遠慮　但シ服無之
一〔父ノ妾服忌無之〕
一〔妾ハ服忌無之　但シ子出生ニオイテハ三日遠慮凶荒流産有之計リニテハ妾死去ノ時遠慮無之〕
一遺跡相續セ〔ス或ハ分地配當セ〕サル養子養方ノ兄弟姉妹他家ヘ養ハルヽ者ニハ相互ニ服忌無之
一同姓ニテモ異姓ニテモ一人ヘ兩樣ノ續有之ハ重キ方ノ服忌可受之
一名字ヲ授候計ニテハ相互ニ服忌無之本姓ノ方ノ親類定式ノ通服忌可受之
一離別ノ女ハタトヒ實子有之他ヘ不嫁候トモ夫婦ノ緣キレ候故相互ニ服忌無之
一子無之死去候者名跡相續ノタメ新規ニ家督相續ノ時ハ養父ノ如ク服忌可受之死去候者ノ妻ハ養母ニ可准之死去候者七歳未滿ニ候ハヽ服忌無之五十日可遠慮死去候者ノ親類ハ相互ニ定式ノ服忌可受之實方ノ親類ハ父母ハ定式ノ服忌可受之祖父母伯叔父姑ハ半減ノ服忌可受之兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類服忌無之

一養子願書差出之〔老中〕請取之其以後死去候ハヽ家督不定内ニテモ養父母計リ五十日十ニ月ノ服忌可受之

一半減ノ日數三十日ハ十五日ナリ餘ハ准之

但シ七日ハ四日也三日ハ二日也

一一日ト有之ハ當夜ノ〔九ツ時〕ヨリ明ル夜ノ〔九ツ時〕マテ也

〔九ツ〕前ニ候ヘハタトヒ〔四ツ半〕過ニテモ一日ノ積也

右十六箇條元祿六年追加ノ内也

今般編省略而書載之

一妾腹ノ子、其父嫡母繼母ヲ以テ養母ニ定ムル時ハ忌五十日服十三月可受之母方ノ親類ノ服忌養實ノ差別家督相續ノ養子ノ如クタル可シ嫡母ノ子繼母ノ服忌ニ於テモ父ノ極メ次第右ニ同シ

但シ繼母方ノ親類ニハ服忌無之

一家督相續ノ養子タル者實名ノ養母嫡母繼母服忌無之〔分地配當セサル〕養子ハ右ノ服忌可受之

一養方ノ伯叔父姑兄弟姉妹人ニ養ハルヽ者ハ半減ノ服忌可受之實方ノ伯叔父姑兄弟姉妹他家ヨリ養ハルヽ者モ服忌無差別

一其身養子ニ參リ實方ノ伯叔父姑兄弟姉妹ノ内人ニ養ハルヽトイフトモ其儘半減ノ服忌タル可シ

一父養子ニテ其子人ノ養子ニ參リ候時ハ父ノ父母兄弟姉妹養實トモニ半減ノ服忌可受之或ハ父モ養子其身モ養子ノ時ハ養父ノ實方服忌無之若シ實方ニ付テ半減ノ服忌可受之ハ服忌可受之

一半減ノ服忌ニ祖父母伯叔父姑兄弟姉妹ト有之ハ母方ノ祖父母伯叔父姑異父兄弟姉妹モ同例

一嫡子ヲ人ノ養子ニ遣ハス時ハ服忌末子ノ如クタル可シ

右七箇條更增補之

元文元年九月十五日

（太政官指令）明治八年一月七日

伺之通

但產穢及ヒ混穢不及憚儀ハ明治五年第五十六號同六年第六十一號布告之通可相心得事

●各省官制通則

明治二十六年十月三十一日
勅令第百二十二號

追加　明治二九年一〇月勅令第三七號、三〇年四月第八四號、三一年一〇月第二五七號、三一年六月第二五四號、三三年四月第一八一號、三五年三月第六〇號、三六年一二月第二〇八號、四一年九月第二四四號、大正三年一〇月第二〇七號、九年五月第一四三號、一三年八月第一七六號、一二月第三一一號、一四年三月第三五號、昭和四年六月第一五一號改正

改各省官制通則ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

各省官制通則

第一條　本則ハ外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農林、商工、遞信、鐵道及拓務ノ各省ニ適用ス

第二條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ責ニ任ス

主任ノ明瞭ナラサル事務ニシテ兩省以上ニ關渉スルモノアルトキハ閣議ニ提出シテ其ノ主任ヲ定ム

第三條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定、廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘ閣議ニ提出スヘシ

第四條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ省令ヲ發スルコトヲ得

第五條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得

第六條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ヲ監督ス若シ警視總監、北海道廳長官、府縣知事ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第七條　各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

地方官廳奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ内務大臣之ヲ上奏ス

第八條　各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部ノ官吏ノ敍位敍勳ヲ上奏ス

地方官廳官吏ノ敍位敍勳ハ前條第二項ノ例ニ依ル

第九條　（削除）

第十條　各省ニ大臣官房ヲ置ク

大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密ニ屬スル事項

二　官吏ノ進退身分ニ關スル事項

三　大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項

四　公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項

五　統計報告ノ調製ニ關スル事項

六　公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項

七　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算、決算竝會計ニ關スル事項

八　會計ノ監査ニ關スル事項

九　本省所管ノ官有財產及物品ニ關スル事項

十　其ノ他各省官制ニ依リ特ニ大臣官房ノ所掌ニ屬セシムル事項

各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ハ各局ニ於テ又ハ特ニ局ヲ設ケテ之ヲ處理セシムルコトヲ得

第十一條　（削除）

第十二條　各省中省務ヲ分掌スル爲局ヲ置ク其ノ分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十三條　大臣官房及各局ノ分課ハ各省大臣ノ定ムル所ニ依ル

陸軍省海軍省中ノ分課ハ各其ノ省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十四條　各省ニ左ノ職員ヲ置ク

政務次官

次官
參與官
局長
秘書官
書記官
屬

第十四條ノ二　各省政務次官ハ一人勅任トス

第十四條ノ三　政務次官ハ大臣ヲ佐ケ政務ニ參畫シ帝國議會トノ交涉事項ヲ掌理ス

第十五條　各省次官ハ一人勅任トス

第十六條　次官ハ大臣ヲ佐ケ省務ヲ整理シ各局部ノ事務ヲ監督ス

第十七條　各省參與官ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ帝國議會トノ交涉事項其ノ他ノ政務ニ參與ス

第十八條　各局局長ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第十九條、第二十條　（削除）

第二十一條　祕書官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ機密事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ助ク

第二十二條　書記官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ各局ノ事務ヲ助ク

第二十三條　各省專任祕書官ハ一人トス

第二十四條　大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ高等官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ上官ニ承ケ課務ヲ掌理ス

陸軍省海軍省中ノ課長ハ各其ノ省官制ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條　屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十六條　（削除）

第二十七條　本則ニ揭クルモノノ、外各省特別ノ職員ヲ置クコトヲ要スルモノハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

書記官、屬及前項ノ規定ニ依ル職員ノ定員ハ各省官制ノ定ムル所ニ依ル

附則

第二十八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●文部省官制

明治三十一年十月二十二日
勅令第二百七十九號

沿革　明治三二年四月勅令第一四一號、三三年三月第一〇六號、五月第二〇八號、三五年三月第九五號、三六年三月第五九號、一一月第二二七號、三七年五月第一四九號、三八年三月第九二號、四一年三月第六七號、四三年三月第六〇號、四四年五月第一四四號、大正二年六月第一七三號、三年六月第一二號、一〇月第一四號、第二二號、五年六月第一六七號、九月第二一四號、七年九月第一九號、八年四月第一四六號、九年四月第一一一號、八月第二九〇號、一〇年六月第二七三號、一一年四月第二〇三號、一一年五月第二一〇號、一三年八月第一八三號、一〇月第二三〇號、一二月第三五六號、一四年一月第三一〇號、一五年三月第一九號、四年三月第一四號、七月第八二號、昭和二年九月第二一七號、五年五月第一〇七號、六月第一二一號、七年八月第二三二號、八年九月第一一六號、九年六月第一四七號、九月第二六八號、一〇年六月第一四九號、七月第二〇三號、一一年七月第一九三號改正

文部省官制

第一條　文部大臣ハ教育、學藝及宗教ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル

一　公立學校職員ニ關スル事項
二　建築營繕ニ關スル事項
三　褒賞ニ關スル事項
四　學校衛生ニ關スル事項

第三條　文部省專任書記官ハ十二人ヲ以テ定員トス

第四條　文部省ニ左ノ七局ヲ置ク

專門學務局
普通學務局
實業學務局
社會教育局
思想局
圖書局
宗教局

第五條　專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　大學及高等學校ニ關スル事項
二　專門學校ニ關スル事項
三　以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
四　在外研究員ノ海外派遣ニ關スル事項
五　傳染病研究所、航空研究所、金屬材料研究所、地震研究所、化學研究所、溫泉治療學研究所、微生物病研究所及美術研究所ニ關スル事項
六　天文臺氣象臺、測候所及緯度觀測所ニ關スル事項
七　學術技藝ノ奬勵及調査ニ關スル事項
八　測地學委員會、理學文書目錄委員會、航空評議會及震災豫防評議會ニ關スル事項
九　帝國學士院及帝國美術院ニ關スル事項
十　學術研究會議其ノ他ノ學術會ニ關スル事項
十一　學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項

第六條　普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　師範教育ニ關スル事項
二　中學校ニ關スル事項
三　小學校及幼稚園ニ關スル事項
四　高等女學校ニ關スル事項
五　盲學校及聾唖學校ニ關スル事項
六　以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
七　市町村義務教育費國庫負擔ニ關スル事項
八　教育會ニ關スル事項
九　學齡兒童ノ就學ニ關スル事項

第六條ノ二　實業學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　工業學校ニ關スル事項
二　農業學校ニ關スル事項
三　商業學校ニ關スル事項
四　商船學校ニ關スル事項
五　水產學校及前各號以外ノ實業教育ヲ爲ス學校ニ關スル事項
六　以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
七　實業教育國庫補助ニ關スル事項
八　實業學校教員ノ養成ニ關スル事項
九　航海練習所ニ關スル事項

第六條ノ三　社會教育局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　青少年團體ニ關スル事項
二　青年學校ニ關スル事項
三　青年學校教員ノ養成ニ關スル事項
四　青年教育費國庫補助ニ關スル事項
五　圖書館ニ關スル事項
六　博物館其ノ他觀覽施設ニ關スル事項
七　成人教育ニ關スル事項
八　社會教化團體ニ關スル事項
九　圖書ノ認定及推薦ニ關スル事項

十　其ノ他社會教育ニ關スル事項

第六條ノ四　思想局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　學校及社會教育團體ニ於ケル思想上ノ指導、監督及調査ニ關スル事項

二　其ノ他思想上ノ指導及調査ニ關スル事項

三　國民精神文化研究所ニ關スル事項

第六條ノ五　圖書局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　教科用圖書ノ編輯及發行ニ關スル事項

二　教科用圖書ノ調査、檢定及認可ニ關スル事項

三　國語ノ調査ニ關スル事項

第六條ノ六　宗教局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　神佛各派、寺院、宗教ノ用ニ供スル堂宇其ノ他宗教ニ關スル事項

二　國寶保存ニ關スル事項

三　僧侶及教師ニ關スル事項

四　史蹟名勝天然紀念物保存ニ關スル事項

第六條ノ七　文部省ニ文部事務官專任三人及文部理事官專任三人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第七條　文部省ニ專任督學官十七人ヲ置ク奏任トス但シ內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得學事ノ視察監督ヲ掌ル

第七條ノ二　文部省ニ社會教育官專任八人ヲ置ク奏任トス社會教育ノ指導監督ヲ掌ル

第八條　文部省ニ圖書事務官專任一人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ圖書ノ編輯及發行ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條ノ二　文部省ニ圖書監修官專任十三人ヲ置ク奏任トス教科用圖書ノ編修及審査ヲ掌ル

第八條ノ三　文部省ニ圖書監修官補專任十人ヲ置ク判任トス圖書監修官ノ事務ヲ助ク

第九條　文部省ニ專任技師一人ヲ置ク建築又ハ國寶保存ニ關スル技術ヲ掌ル

文部省ニ技手ヲ置ク技師ノ事務ヲ助ク

第十條　文部省ニ學校衛生官專任三人ヲ置ク奏任トス學校衛生ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條ノ二　文部省ニ學校衛生官補專任二人ヲ置ク判任トス學校衛生官ノ事務ヲ助ク

第十一條　屬及技手ハ通シテ專任百三人ヲ以テ定員トス

附　則

第十二條　本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

●文部省分課規程

大正二年六月十八日
官報

沿革　大正三年一月一日、五年六月一六日、八年六月一日、九年五月一三日、一〇年七月五日、一三年一二月二五日、一四年一一月一六日、一五年四月二九日、昭和三年五月八日、一〇月三一日、一二月四日、四年七月二日官報、五年六月一日發第一〇號、七年八月二五日、八年五月二二日、九年六月二日、一〇月九日、一〇年七月二〇日官報改正

文部省ニ於テ本月十三日分課規程ヲ左ノ通改正セリ

文部省分課規程

第一條　大臣官房ニ祕書課、文書課、會計課、建築課及體育課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム

祕書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　官吏ノ進退身分ニ關スルコト

二　官吏ノ恩給及退官賜金ニ關スルコト

三　公立學校職員ノ進退身分ニ關スルコト

四　履外國人ニ關スルコト

五　大臣次官ノ官印及省印ノ管守ニ關スルコト

六　褒賞ニ關スルコト

七　御眞影並勅語謄本ニ關スルコト

八　祝日祭日等ノ儀式ニ關スルコト

九　本省及所轄各部ノ處務規程ニ關スルコト

文書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スルコト

二　公文書類ノ編纂及保存ニ關スルコト

三　統計報告ノ調製竝官報揭載ニ關スルコト

四　報告書、年報等ノ編纂配賦ニ關スルコト

五　文書ノ飜譯ニ關スルコト

六　學校教員、學生生徒ニ對スル旅客運賃割引證ニ關スルコト

七　各局課ノ主管ニ屬セサル事務

會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算、決算竝會計ニ關スルコト

二　本省所管ノ官有財產及物品ニ關スルコト

三　會計ノ監査ニ關スルコト

四　本課主管ニ屬スル事件ニ就キテノ訴訟等ニ關スルコト

建築課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本省所轄ノ學校、圖書館、博物館等ノ營繕ニ關スルコト

二　本省使用建物ノ營繕ニ關スルコト

三　公立及私立諸學校、圖書館、博物館等ノ設計及圖案ノ調査ニ關スルコト

體育課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　官立、公立及私立諸學校ノ校地、建物、校具其ノ他ノ設備ノ衞生ニ關スルコト

二　教授衞生ニ關スルコト

三　體育運動ニ關スルコト

四　體育研究所ニ關スルコト

五　學校幼稚園等ニ於ケル身體檢査及體力檢査ニ關スルコト

六　學校ニ於ケル疾病ノ豫防及治療竝飮食物ニ關スルコト

七　身體虛弱又ハ精神薄弱ナル生徒兒童等ノ監督養護ニ關スルコト

八　法人ニ關スルコト

九　體育統計ニ關スルコト

十　其ノ他ノ體育ニ關スルコト

第二條　專門學務局ニ學務課及學藝課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム

學務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　大學ニ關スルコト

二　高等學校ニ關スルコト

三　專門學校及之ニ準スヘキ各種學校ニ關スルコト

四　天文臺、傳染病研究所、航空研究所、金屬材料研究所、地震研究所、化學研究所、溫泉治療學研究所及微生物病研究所ニ關スルコト

五　在外研究員ニ關スルコト

六　高等學校教員ノ檢定及免許ニ關スルコト

七　育英事業ニ關スルコト

八　支那留學生ニ關スルコト

九　法人ニ關スルコト（學校法人ニ限ル）

十　公立學校職員年功加俸國庫補助ニ關スルコト

十一　大學ノ教練及配屬將校ニ關スルコト
學藝課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　帝國學士院ニ關スルコト
二　帝國美術院ニ關スルコト
三　學術研究會議其ノ他ノ學術會ニ關スルコト
四　科學研究奬勵ニ關スルコト
五　學位及稱號ニ關スルコト
六　氣象臺、測候所及緯度觀測所ニ關スルコト
七　航空評議會、測地學委員會、理學文書目錄委員會及震災豫防評議會ニ關スルコト
八　法人ニ關スルコト（學校法人ヲ除ク）
九　他課ニ屬セサル事務

第三條　普通學務局ニ學務課及庶務課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム
學務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　小學校及學齡兒童ノ就學ニ關スルコト
二　師範學校、高等師範學校、女子高等師範學校及臨時教員養成所ニ關スルコト
三　中學校ニ關スルコト
四　高等女學校ニ關スルコト
五　盲學校、聾唖學校其ノ他特殊教育ヲ爲ス學校ニ關スルコト
六　幼稚園ニ關スルコト
七　以上ノ諸學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スルコト
八　在外指定學校ニ關スルコト
九　師範學校、中學校及高等女學校ノ教員ノ檢定及免許ニ關スルコト
十　學校教練及配屬將校ニ關スルコト（大學ヲ除ク）

十一　教育會ニ關スルコト
庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　市町村義務教育費國庫負擔ニ關スルコト
二　市町村立小學校教育費國庫補助及公立學校職員年功加俸國庫補助ニ關スルコト
三　師範教育費補助ニ關スルコト
四　盲唖教育費補助ニ關スルコト
五　專門學校入學者ノ檢定ニ關スルコト
六　高等試驗令第七條ニ依ル試驗ニ關スルコト
七　法人ニ關スルコト
八　訴願ニ關スルコト
九　他課ニ屬セサル事務

第四條　實業學務局ニ商工教育課及農業教育課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム
商工教育課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　工業專門學校ニ關スルコト
二　商業專門學校ニ關スルコト
三　商船專門學校ニ關スルコト
四　工業學校ニ關スルコト
五　商業學校ニ關スルコト
六　商船學校ニ關スルコト
七　職業學校ニ關スルコト
八　以上ノ諸學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スルコト
九　工業學校、商業學校、商船學校及職業學校ノ教員ノ養成及資格ニ關スルコト
十　航海練習所ニ關スルコト
農業教育課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　農業專門學校ニ關スルコト
二　水產專門學校ニ關スルコト
三　農業學校ニ關スルコト
四　水產學校ニ關スルコト
五　以上ノ諸學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スルコト
六　農業學校及水產學校ノ教員ノ養成及資格ニ關スルコト
七　實業教育費國庫補助ニ關スルコト
八　公立學校職員年功加俸國庫補助ニ關スルコト
九　實業學校卒業程度檢定ニ關スルコト
十　實業學校教員ノ檢定及免許ニ關スルコト
十一　法人ニ關スルコト
十二　他課ニ屬セサル事務

第五條　社會教育局ニ青年教育課、成人教育課及庶務課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム
青年教育課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　青少年團體ニ關スルコト
二　青年學校ニ關スルコト
三　青年學校教員養成所ニ關スルコト
四　青年教育費國庫補助ニ關スルコト
五　壯丁教育調査ニ關スルコト
六　其ノ他青少年教育ニ關スルコト
成人教育課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　成人教育ニ關スルコト
二　圖書館ニ關スルコト
三　博物館其ノ他觀覽施設ニ關スルコト
四　社會教育團體ニ關スルコト
庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　映畫ニ關スルコト
二　民衆娛樂ニ關スルコト
三　圖書ノ認定及推薦ニ關スルコト
四　生活改善ニ關スルコト
五　法人ニ關スルコト
六　他課ニ屬セサル事務

第六條　思想局ニ思想課及調査課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム
思想課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　學校及社會教育團體ニ於ケル思想上ノ指導監督ニ關スルコト
二　其ノ他思想上ノ指導ニ關スルコト
三　國民精神文化研究所ニ關スルコト
四　地方精神文化講習施設ニ關スルコト
五　他課ニ屬セサル事務
調査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　學校及社會教育團體ニ於ケル思想上ノ調査ニ關スルコト
二　其ノ他思想上ノ調査ニ關スルコト
三　內外ニ於ケル社會思想ノ調査ニ關スルコト
四　思想指導圖書ノ調査及刊行ニ關スルコト

第七條　圖書局ニ編修課、發行課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム
編修課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　國定教科用圖書ノ編輯ニ關スルコト

二　諸學校教科用圖書ノ編輯ニ關スルコト
三　教科書調査會ニ關スルコト
四　國語ノ調査ニ關スルコト

發行課ニ於テハ其ノ事務ヲ掌ル

一　國定教科用圖書ノ發行ニ關スルコト
二　諸學校教科用圖書ノ發行ニ關スルコト
三　教科用圖書ノ調査、檢定及認可ニ關スルコト
四　他課ニ屬セサル事務

第八條　宗教局ニ宗務課、保存課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム

宗教課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　教派、宗派、教會、僧侶、教師其ノ他宗教ニ關スルコト
二　寺院、佛堂ニ關スルコト
三　法人ニ關スルコト

保存課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　國寶保存ニ關スルコト
二　史蹟名勝天然記念物保存ニ關スルコト
三　重要美術品等ノ保存ニ關スルコト
四　他課ニ屬セサル事務

●文部省直轄諸學校官制

明治二十六年八月二十五日
勅令第八十六號

沿革　明治二九年五月勅令第二二六號、九月第二九八號、三〇年四月第一〇八號、三二年四月第一一七號、三三年三月第八四號、三四年三月第二四號、五月第九九號、三五年三月第九八號、三六年一二月第二三〇號、三八年二月第四〇號、三月第九六號、三九年三月第四一號、四〇年六月第二四六號、四一年三月第六八號、四二年四月第八六號、四三年三月第六六號、四五年四月第四四號、六月第一二三號、四年一二月第二三五號、八年四月第一一一號、一二月第四八六號、九年一月第一五號、四月第七二號、第一一〇號、八月第二五一號、一一月第五五一號、一〇年三月第四五號、一二月第四五六號、一一年三月第一四二號、八月第三九一號、一〇月第四四一號、一二年三月第九四號、一三年三月第五〇一號、一三年三月第五八號、五月第一二二號、九月第二二二號、一四年二月第六號、四月第八〇號、昭和二年九月第二八七號、一二月第三六五號、三年一〇月第二三九號、第二五六號、四年四月第四〇號、五月第一四四號、五年五月第九七號、六年三月第二四號、一〇年四月第五四號改正

第一條　文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

文部省直轄諸學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京女子高等師範學校　奈良女子高等師範學校
盛岡高等農林學校　鹿兒島高等農林學校
上田蠶絲專門學校　東京高等蠶絲學校
京都高等蠶絲學校　鳥取高等農業學校
三重高等農林學校　宇都宮高等農林學校
岐阜高等農林學校　宮崎高等農林學校
千葉高等園藝學校　東京高等農林學校
長崎高等商業學校　山口高等商業學校
小樽高等商業學校　名古屋高等商業學校
福島高等商業學校　大分高等商業學校
彥根高等商業學校　和歌山高等商業學校
橫濱高等商業學校　高松高等商業學校
高岡高等商業學校　第一高等學校
第二高等學校　第三高等學校
第四高等學校　第五高等學校
第六高等學校　第七高等學校造士館
第八高等學校　新潟高等學校
松本高等學校　山口高等學校

松山高等學校　水戶高等學校
山形高等學校　佐賀高等學校
弘前高等學校　松江高等學校
東京高等學校　大阪高等學校
浦和高等學校　福岡高等學校
靜岡高等學校　高知高等學校
姬路高等學校　廣島高等學校
富山藥學專門學校　熊本藥學專門學校
京都高等工業學校　名古屋高等工業學校
熊本高等工業學校　米澤高等工業學校
桐生高等工業學校　橫濱高等工業學校
廣島高等工業學校　金澤高等工業學校
仙臺高等工業學校　明治專門學校
東京高等工藝學校　神戶高等工業學校
濱松高等工業學校　德島高等工業學校
長岡高等工業學校　福井高等工業學校
秋田鑛山專門學校　東京高等商船學校
神戶高等商船學校　函館高等水產學校
東京外國語學校　大阪外國語學校
東京高等齒科醫學校　東京美術學校
東京音樂學校　東京盲學校
東京聾唖學校

第二條　（削除）

第三條　女子高等師範學校ニ附屬高等女學校附屬小學校及附屬幼稚園ヲ置ク

第四條　名古屋高等工業學校ニ工業教員養成所ヲ附設ス

第五條　橫濱高等工業學校ニ工業教員養成所ヲ附設ス

第五條ノ二　東京高等工藝學校ニ附屬工藝實修學校ヲ置ク

第五條ノ三　東京高等齒科醫學校ニ附屬醫院ヲ置ク

第六條　文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
教授
生徒主事
助教授
書記
生徒主事補

前項職員ノ外文部省直轄諸學校職員定員令ノ定ムル所ニ依リ助手ヲ置クコトヲ得

第七條　校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條　教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條　文部省直轄諸學校職員定員令ニ於テ生徒主事ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事ハ奏任トシ其ノ他ノ學校ノ生徒主事ハ當該學校ノ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒主事ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條　書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第十條ノ二　文部省直轄諸學校職員定員令ニ於テ生徒主事補ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事補ハ判任トシ其ノ他ノ學校ノ生徒主事補ハ當該學校ノ判任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

生徒主事補ハ上官ノ命ヲ承ケ生徒主事ノ職務ヲ助ク

第十條ノ三　助手ハ判任トス教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ從事ス

第十一條　第六條ニ掲クル職員ノ外女子高等師範學校ニ教諭、助教諭、訓導及保姆ヲ置ク

教諭ハ奏任トシ助教諭、訓導及保姆ハ判任トス

教諭及助教諭ハ附屬高等女學校ノ生徒ノ教育ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

訓導ハ附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

保姆ハ附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十二條　第六條ニ掲クル職員ノ外東京高等學校ニ教諭及助教諭ヲ置ク

教諭ハ奏任トシ助教諭ハ判任トス尋常科生徒ノ教育ヲ掌ル

第十二條ノ二　第六條ニ掲クル職員ノ外函館高等水產學校ニ技手ヲ置ク

技手ハ判任トス校長ノ命ヲ承ケ練習船ノ運航ニ關スル職務ニ從事ス

第十三條　東京高等齒科醫學校附屬醫院ニ醫院長及藥局長ヲ置ク同校教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長ハ學校長ノ監督ヲ承ケ醫院ノ事務ヲ掌ル

藥局長ハ醫院長ノ監督ヲ承ケ醫院藥局ノ事務ヲ掌ル

第十四條　第六條ニ掲クル職員ノ外東京高等齒科醫學校附屬醫院ニ技手、藥劑手及看護長ヲ置ク

技手、藥劑手及看護長ハ判任トス

技手ハ醫院長ノ命ヲ承ケ醫院ニ於ケル齒科技工ニ關スル職務ニ從事ス

藥劑手ハ藥局長ノ命ヲ承ケ醫院ニ於ケル調劑ニ關スル職務ニ從事ス

看護長ハ醫院長ノ命ヲ承ケ醫院ニ於ケル看護ニ關スル職務ニ從事ス

第十五條　第六條ニ掲クル職員ノ外東京音樂學校ニ技手ヲ置ク

技手ハ判任トス校長ノ命ヲ承ケ樂器調律ニ關スル職務ニ從事ス

第十六條　東京盲學校及東京聾唖學校ニ教授助教授ヲ置カス教諭助教諭及訓導ヲ置ク教諭ハ奏任トシ助教諭訓導及保姆ハ判任トス

教諭及助教諭ハ教員志望者及中等部生徒ノ教育ヲ、訓導ハ初等部生徒ノ授業ヲ、保姆ハ初等部豫科幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十七條　專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十八條　文部大臣ハ女子高等師範學校名古屋高等工業學校橫濱高等工業學校及東京高等工藝學校ノ教官ノ中ヨリ各其ノ附屬學校主事教員養成所主事附屬幼稚園主事ヲ命シ其ノ事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十九條　文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

附　則

第二十條　本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

附　則（大正九年勅令第二百五十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神戸高等商船學校ニハ當分ノ內甲種商船學校ヲ附設ス

附　則（大正十四年勅令第八十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

商船學校官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ商船學校ノ校長又ハ教授ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各東京高等商船學校ノ校長又ハ教授ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ商船學校ノ助教授又ハ書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各東京高等商船學校ノ助教授又ハ書記ニ同俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

附　則（昭和六年勅令第二百四號）

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ京都高等蠶業學校ノ校長、教授、助教授、助手又ハ書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各京都高等蠶絲學校ノ校長、教授、助教授、助手又ハ書記ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス但シ文官任用ノ資格ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ケス

●航練習所官制

昭和五年五月三十日
勅令第百八號

腋航海練習所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

航海練習所官制

第一條　航海練習所ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ文部大臣ノ指定シタル商船學校ノ本科航海科ヲ卒リタル者ヲ入所セシメ航海ノ練習ヲ爲サシムル所トス

●水產講習所官制

昭和四年三月三十日
勅令第二十二號

沿革　昭和五年四月勅令第七七號、六年三月第三〇號、七年三月第四三號、八年四月第五八號、九年一〇月第三一七號改正

腋水產講習所官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

水產講習所官制左ノ通改正ス

水產講習所官制

第一條　水產講習所ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ水產ニ關スル學理及技術ノ教授及攻究ヲ掌ル

第二條　水產講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	專任三十人	奏任內一人ヲ勅任トスルコトヲ得
教授	專任三人	奏任
技師	專任二十五人	判任
助教授	專任八人	判任
屬	專任五人	判任
技手		

第三條　所長ハ教授ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條　教授ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第五條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第六條　助教授ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク

第七條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

附　則

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國民精神文化研究所官制

昭和七年八月二十三日
勅令第二百三十三號

沿革　昭和九年三月勅令第四〇號改正

腋國民精神文化研究所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

國民精神文化研究所官制

第一條　國民精神文化研究所ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ國民精神文化ニ關スル研究、指導及普及ヲ掌ル

第十九章　諸規程及官制

第二條　國民精神文化研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　　專任十一人　　奏任內三人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

所員　　專任十四人　　判任

助手　　專任三人　　判任

書記

第三條　所長ハ勅任所員ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

所長ハ文部大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　所員ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條　助手ハ上司ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第六條　書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國民精神文化研究所處務規程

昭和七年九月九日
官報

文部省ニ於テ國民精神文化研究所處務規程ヲ左ノ通定メタリ

國民精神文化研究所處務規程

第一章　總則

第一條　所務ハ總テ所長ノ裁決ヲ經テ之ヲ施行ス

第二條　部長ハ所長ノ指揮ヲ承ケ所管ノ部務ヲ掌理シ部員ヲ指揮監督シ意見アルトキハ所長ニ具申ス部員ハ當該部長ノ指揮ヲ受ケ其ノ部務ニ從事ス但シ所長ノ命ニ依リ部長、部員ハ他ノ部ノ部務ニ從事スルコトアルヘシ

第三條　部長故障アルトキハ所屬部員中ノ上席者其ノ事務ヲ代理ス但シ時宜ニ依リ特ニ代理者ヲ命スルコトアルヘシ

第四條　所務ヲ分チテ研究部、事業部及庶務係トス

研究部ハ學科ニ從ヒ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ科ニ分ツコトヲ得

事業部ヲ分チテ教員研究科及研究生指導科トス

第五條　各部ニ部長ヲ置ク所長之ヲ命ス

事業部ノ各科竝庶務係ニ主任ヲ置ク所長之ヲ命ス

第六條　各部、係ノ分掌事務ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、研究部

國體觀念、國民精神ニ關スル全般的研究

哲學、歷史、教育、宗教方面ヨリノ研究

政治、經濟、法律方面ヨリノ研究

文學、藝術方面ヨリノ研究

二、事業部

教員ノ研究科

教員ノ研究ノ指導

研究生指導科

研究生ノ思想上ノ指導

三、庶務係

官印ノ保管ニ關スル事項

文書ニ關スル事項

會計ニ關スル事項

右ノ外他部ニ屬セサル事項

第二章　研究

第七條　研究部ノ研究事項ハ所長ノ決裁ヲ經テ之ヲ定ムヘシ但シ場合ニ依リテハ所長ヨリ事項ヲ定メテ研究ヲナサシムルコトアルヘシ

第八條　研究ノ進程ハ適宜之ヲ所長ニ報告スヘシ

研究ノ結果ヲ發表セントスルトキハ所長ノ許可ヲ受クヘシ

第三章　普及

第九條　研究ノ結果ハ出版、講演會、講習會等適當ナル方法ニ依リ其ノ普及ヲ圖ルヘシ

第四章　教員研究科

第十條　教員研究科ニ若干名ノ研究員ヲ入所セシム

第十一條　研究員ハ學校教員ニシテ學校長又ハ地方長官ノ推薦シタル者ニ付所長之ヲ決定ス所長ハ前項ノ規定ニ依ルモノノ外特ニ適當ト認メタル者ヲ研究員ト爲スコトヲ得

第十二條　研究員ノ員數、入所期、在所期間及學資補給竝教員研究科ノ學科目ニ關シテハ文部大臣ノ認可ヲ經テ所長之ヲ定ム

第十三條　部長ハ必要アルトキハ各研究員ニ對シ指導主任ヲ定ムルコトヲ得

第十四條　研究員ニハ其ノ在所期間中學資ヲ補給スルコトアルヘシ

第十五條　研究員ハ研究ノ結果ヲ文書ヲ以テ所長ニ報告スヘシ

第十六條　研究員ニシテ研究ニ適セスト認メタルトキハ所長ニ於テ退所ヲ命スルコトヲ得

第五章　研究生指導科

第十七條　研究生指導科ニ若干名ノ研究生ヲ入所セシムルコトヲ得

第十八條　研究生ノ資格ハ大學、高等學校、專門學校ノ學生又ハ生徒ニシテ思想上ノ理由ニ依リ其ノ學籍ヲ喪ヒタルモノトス

所長ハ前項ノ規定ニ依ルモノノ他適當ト認メタル者ハ之ヲ研究生トシテ入所セシムルコトヲ得

第十九條　研究生トシテ入所ヲ希望スル者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ所長ニ願出ツヘシ

第二十條　所長ハ前條ノ志望者ニ付銓衡ノ上之ヲ許可ス

第二十一條　研究生ノ在所期間ハ一年以內トス但シ所長ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ本人ノ希望ニ依リ一年以上ニ亙リ繼續スルコトヲ許可スルコトヲ得

研究生指導科ノ學科目ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ所長之ヲ定ム

第二十二條　研究生ハ隨時之ヲ入所セシメ成業シタルトキ、所長ニ於テ必要ヲ認メタルトキ又ハ本人ノ願ニ依リ之ヲ退所セシム

第二十三條　研究生ニシテ成業シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ依リ證明書ヲ交付ス

第二十四條　研究生ニシテ指導ノ見込ナシト認ムル者ハ退所ヲ命スルコトアルヘシ

第六章　服務

第二十五條　職員病氣其ノ他ノ事故ニヨリ出勤スルコト能ハサルトキハ事由ヲ具シ遲滯ナク屆出ツヘシ

第二十六條　職員出張シタルトキハ歸廳後一月以內ニ復命書ヲ差出スヘシ但シ簡單ナル事項ハ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

附　則

第二十七條　本規程ニ定メタルモノノ外必要ナル規程ハ別ニ之ヲ定ム

●體育運動審議會官制

昭和七年十二月二十四日
勅令第三百七十九號

第一條　體育運動審議會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

體育運動審議會官制

第一條　體育運動審議會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シテ體育運

動ニ關スル事項ヲ審議ス

第二條　體育運動審議會ハ體育運動ニ關スル重要ナル事項ニ付文部大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　體育運動審議會ハ會長一人及委員四十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第四條　會長ハ文部大臣ヲ以テ之ニ充ツ委員及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ文部大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第六條　文部大臣ハ必要ニ依リ又ハ會長ノ請求アルトキハ文部省高等官其ノ他適當ト認ムル者ヲシテ會議ニ出席シ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得

第七條　體育運動審議會ニ幹事ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ文部省高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第八條　體育運動審議會ノ議事ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第九條　體育運動審議會ニ書記ヲ置ク文部大臣之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●地方官官制

大正十五年六月四日
勅令第百四十七號

施行　昭和二年六月勅令第一八五號、三年三月第二四號、七月第一三八號、九月第二二三號、四年七月第二四五號、九月第二六七號、一二月第三六二號、五年四月第六四號、七月第一四一號、六年一二月第二八八號、七年一〇月第三〇四號、八年五月第七九號、九年六月第一六七號、一〇年一月第四號、二月第一六號、四月第一〇四號、一一年七月第一五八號、八月第二八四號改正

廢地方官官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方官官制

第一條　府縣ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

知事		勅任
書記官		奏任
地方事務官	專任三百七十人	奏任
地方視學官	專任四十六人	奏任
地方警視	專任二百六十三人	奏任
地方小作官	專任三十七人	奏任
地方技師	專任二百六十一人	奏任
視學	專任二十一人	判任
屬	專任二千七百八十七人	判任
警部	專任千四百十一人	判任
小作官補	專任三十九人	判任
技手	專任千五十二人	判任
通譯	專任十三人	判任
警部補		判任

書記官ハ東京府ニ在リテハ專任三人、其ノ他ノ府縣ニ在リテハ各專任四人ヲ以テ定員トス

警部補ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ知事之ヲ定ム

第二條　前條ノ定員外ニ於テ府縣ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

視學屬	專任三百五十人以内	判任
技手	專任三千七百人以内	判任

第三條　知事、書記官及警部補ヲ除クノ外第一條ノ職員竝ニ前條職員ノ各府縣内ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

第四條　大正九年勅令第二百六十二號第一條ノ規定ニ依リ俸給最低額ヨリ低キ俸給ヲ受クル地方技師及技手ニシテ他ノ職務ニ從事スル者ノ員數ハ主トシテ從事スル職務ノ職員ノ定員ノ内トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第五條　知事ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ付テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス

第六條　知事ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

第七條　知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得但シ東京府知事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八條　知事ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

東京府知事ハ其ノ主務ニ付テハ東京府下ノ警察署長ヲ指揮監督ス

第九條　知事ハ支廳長又ハ警察署長ノ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

知事ハ行政事務ニ付其ノ部内ノ市町村長ヲ指揮監督シ其ノ處分ニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第十條　知事事故アルトキハ官等ノ順序ニ從ヒ書記官其ノ職務ヲ代理ス

知事及書記官共ニ事故アルトキハ内務大臣ニ於テ他ノ高等官ノ一人ヲシテ知事ノ職務ヲ代理セシム

知事ハ府縣ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十一條　知事ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ支廳長、警察署長又ハ市町村長ニ委任スルコトヲ得

第十九章　諸規程及官制

第十二條　各府縣ニ知事官房及左ノ四部ヲ置ク但シ東京府ニハ警察部ヲ置カス

總務部
學務部
經濟部
警察部

内務大臣ハ須要ニ依リ府縣ヲ指定シテ土木部又ハ衛生部ヲ置クコトヲ得

第十三條　知事官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　官印府縣印ノ管守ニ關スル事項
二　文書ノ往復及記錄編纂ニ關スル事項

第十四條　總務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　官吏ノ進退及身分ニ關スル事項
二　褒賞ニ關スル事項
三　統計ニ關スル事項
四　議員選舉ニ關スル事項
五　府縣ノ行政ニ關スル事項
六　會計ニ關スル事項
七　市町村共ノ他公共團體ノ行政ノ監督ニ關スル事項
八　他ノ主管ニ屬セサル事項

第十五條　學務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　教育學藝ニ關スル事項
二　社寺及宗教ニ關スル事項
三　兵事ニ關スル事項
四　社會事業ニ關スル事項
五　職業紹介法施行ニ關スル事項

六　史蹟名勝天然紀念物ニ關スル事項

東京府ノ學務部ニ於テハ前項ノ外衛生ニ關スル事務ヲ掌ル

第十五條ノ二　經濟部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　農工商森林水産ニ關スル事項

二　小作爭議調停ニ關スル事項

三　度量衡ニ關スル事項

四　土木ニ關スル事項

五　土地收用ニ關スル事項

六　水陸運輸ニ關スル事項

七　水面埋立ニ關スル事項

第十六條　警察部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　警察ニ關スル事項

二　衛生ニ關スル事項

三　工場法施行ニ關スル事項

四　鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事項

五　砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル勞働者災害扶助法施行ニ關スル事項

六　砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル勞働者災害扶助責任保險ニ關スル事項

七　勞働爭議調停ニ關スル事項

八　健康保險法施行ニ關スル事項

第十六條ノ二　知事ハ警察部ニ於テ健康保險ニ關スル會計事務ノ一部又ハ全部ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十七條　土木部ニ於テハ第十五條ノ二第四號乃至第七號ノ事務ヲ掌ル

衛生部ニ於テハ第十六條第二號ノ事務ヲ掌ル

第十八條　部ニ部長ヲ置ク總務部、學務部、經濟部及警察部ニ在リテハ書記官ヲ以テ、土木部及衛生部ニ在リテハ書記官又ハ地方技師ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第十九條　部長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第二十條　警察部長ハ警察事務ノ執行ニ關シ知事ノ命ヲ承ケ地方警視、警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十一條　知事ハ知事官房及各部ニ分課ヲ設クルコトヲ得

第二十二條　地方事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第二十二條ノ二　地方視學官ハ學務部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他教育ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十三條　地方警視ハ警察部ニ屬シ又ハ內務大臣ノ指定シタル警察署ノ署長ト爲リ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ部署ノ事務ヲ掌理ス

警察部ニ屬スル地方警視ハ警察事務ノ執行ニ關シ上官ノ指揮ヲ承ケ警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十四條　地方小作官ハ上官ノ命ヲ承ケ小作爭議調停ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十五條　地方技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十六條　視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他教育ニ關スル庶務ニ從事ス

第二十七條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十八條　警部ハ上部ノ指揮ヲ承ケ警察、衛生、徵發及召集ニ關スル事務ヲ分掌シ部下ノ警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十九條　小作官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ小作爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

第三十條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十一條　通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ飜譯通緯ニ從事ス

第三十二條　警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察、衛生、徵發及召集ニ關スル事務ニ從事シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第三十三條　各府縣ニ工業組合監督官及工業組合監督官補ヲ置クコトヲ得

工業組合監督官ハ地方事務官又ハ地方技師ヲ以テ、工業組合監督官補ハ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ工業組合法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第三十四條　各府縣ニ商業組合監督官及商業組合監督官補ヲ置クコトヲ得

商業組合監督官ハ地方事務官ヲ以テ、商業組合監督官補ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ商業組合法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第三十五條　東京府ヲ除クノ外各府縣ニ工場監督官及工場監督官補ヲ置クコトヲ得

工場監督官ハ地方事務官又ハ地方技師ヲ以テ、工場監督官補ハ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ工場法施行竝ニ鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第三十六條　東京府ヲ除クノ外各府縣ニ建築監督官及建築監督官補ヲ置クコトヲ得

建築監督官ハ地方事務官、地方警視又ハ地方技師ヲ以テ、建築監督官補ハ屬、警部、技手又ハ警部補ヲ以テ之ニ充ツ警察部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ市街地建築物法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第三十七條　東京府ヲ除クノ外各府縣ニ調停官及調停官補ヲ置クコトヲ得

調停官ハ地方事務官又ハ地方技師ヲ以テ、調停官補ハ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ勞働爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

第三十八條　大阪府ニ監察官一人ヲ置キ警察部ニ屬スル地方警視ヲ以テ之ニ充ツ

監察官ハ上官ノ命ヲ承ケ警察事務ノ實況ヲ監察ス

第三十九條　各府縣管內ニ警察署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ知事之ヲ定ム

第四十條　警察署長ハ地方警視ヲ以テ充ツル場合ヲ除クノ外警部ヲ以テ之ニ充ツ但シ地方ノ狀況ニ依リ警部補ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

警察署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ部內ノ警察、衛生、徵發及召集ニ關スル事務(市ニ於ケル徵發及召集ニ關スル事務ヲ除ク)ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第四十一條　警察署長ハ徵發及召集ニ關スル事務ニ付部內ノ町村長ヲ指揮監督ス

第四十二條　各府縣ニ巡査ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡査ニ關スル規程ハ內務大臣之ヲ定ム

第四十三條　島地其ノ他交通不便ノ地ニ府縣支廳ヲ置クコトヲ得其ノ位置、名稱及管轄區域ハ內務大臣之ヲ定ム

知事必要アリト認ムルトキハ支廳出張所ヲ置クコトヲ得

第四十四條　支廳長ハ地方事務官ヲ以テ之ニ充ツ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部內ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

支廳出張所長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ知事ノ定ムル所ニ依リ出張所主管ノ事務ヲ處理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第四十五條　支廳長ハ行政事務ニ付其ノ部內ノ町村長ヲ指揮監督ス

第四十六條　支廳長ハ町村長ノ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ

得

第四十七條　支廳長事故アルトキハ其ノ廳勤務ノ上席屬其ノ職務ヲ代理ス

第四十八條　支廳長ハ其ノ廳勤務ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第四十八條ノ二　內務大臣ハ健康保險ニ關スル事務ノ一部ヲ分掌セシムル爲必要ニ應シ府縣出張所ヲ置クコトヲ得其ノ位置、名稱及管轄區域ハ內務大臣之ヲ定ム

出張所長ハ地方事務官又ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ所主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第四十九條　本令中市長トアルハ市制第六條及第八十二條第三項ノ市ノ區長ヲ、町村長トアルハ之ニ準スヘキモノヲ包含ス

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第百三十一號及明治四十二年勅令第五十四號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ本令ニ依ル廢官ニ係ル官ニ在リ休職中ナル者竝ニ大正十三年勅令第三百九十六號施行ノ際同令ニ依ル廢官ニ係ル官ニ在リ現ニ休職中ナル者ニ付テハ其ノ休職滿期ニ至ル迄ノ間臨時其ノ官ヲ置カレタルモノトス

●文官任用令

大正二年八月一日
勅令第二百六十一號

沿革　大正七年一月勅令第一〇號、九年五月第一五九號、九月第三五五號、一〇年四月第一一六號、一一年三月第一一六號、一一月第七四三號、一二年九月第四二七號、一三年二月第二八號、一二月第四〇二號、一五年六月第一六七號、昭和五年三月第四七號、九年二月第五八號、一二月第三七五號、一〇年五月第一二一號改正

樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官任用令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　文官ノ任用ハ親任式ヲ以テ任スル官及特別ノ規程ヲ設クルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　勅任文官ハ第五條第一項ノ資格ヲ有シ一年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者又ハ奏任文官トシテ二年以上高等官三等ノ職ニ在リタル者ヨリ之ヲ任用ス

第三條　第五條第一項ノ資格ヲ有セス二年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者又ハ奏任文官トシテ二年以上高等官三等ノ職ニ在リタル者ハ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

第三條ノ二　左ニ揭クル勅任文官ハ前二條ノ規定ニ依ル資格ヲ有セサルモ各其ノ職務ニ必要ナル學識、技能及經驗ヲ有スル者ヨリ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

內閣調査局長官
海外駐劄財務官
專賣局長官
內閣印刷局長
造幣局長
專賣局部長
千住製絨所長
臺灣總督府專賣局長

第四條　陸海軍將官ハ各其ノ部內ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

第五條　奏任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一　高等試驗行政科試驗ニ合格シタル者

二　高等試驗外交科試驗ニ合格シ二年以上外交官又ハ領事官ノ職ニ在リタル者

三　二年以上判事又ハ檢事ノ職ニ在リタル者

四　裁判所構成法ニ依リ判事、檢事又ハ司法官試補タル資格ヲ有シ二年以上陸軍法務官若ハ海軍法務官、朝鮮總督府若ハ南洋廳ノ判事若ハ檢事又ハ臺灣總督府法院若ハ關東法院ノ判官若ハ檢察官ノ職ニ在リタル者

二年以上奏任教官ノ職ニ在リタル者ハ之ヲ文部部內ノ奏任文官ニ任用スルコトヲ得

第六條　判任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一　中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認定シタル學校ヲ卒業シタル者

二　高等試驗令第七條ノ規定ニ依リ高等試驗豫備試驗ヲ受クルコトヲ得ル者

三　專門學校令ニ依リ法律學、政治學、行政學又ハ經濟學ヲ教授スル學校ニ於テ三年ノ課程ヲ履修シ其ノ學校ヲ卒業シタル者

四　普通試驗ニ合格シタル者

五　高等試驗ニ合格シタル者

六　二年以上文官ノ職ニ在リタル者

七　四年以上雇員タル者

第七條　教官、技術官其ノ他特別ノ學術技藝ヲ要スル文官ハ高等官ニ在リテハ高等試驗委員、判任官ニ在リテハ普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス

學校長ハ前項ノ規定ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ文官タル資格ヲ有スル者ハ仍其ノ規定ニ依リ之ヲ任用ス

ルコトヲ得

附　則　（大正七年勅令第一七號）

本令ハ大正七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

文官高等試驗ニ合格シタル者ハ高等試驗行政科試驗、文官普通試驗ニ合格シタル者ハ普通試驗ニ合格シタル者ト看做ス

他ノ勅令中文官高等試驗委員トアルハ高等試驗委員、文官普通試驗委員トアルハ普通試驗委員トス

附　則　（大正十一年勅令第百十六號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

理事又ハ主理ノ職ニ在リタル者ハ之ヲ陸軍法務官又ハ海軍法務官ノ職ニ在リタル者ト看做ス

附　則　（昭和九年勅令第三百七十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前關東廳法院ノ判官又ハ檢察官ノ職ニ在リタル者ハ之ヲ夫々關東法院ノ判官又ハ檢察官ノ職ニ在リタル者ト看做ス

●奏任文官特別任用令（抄錄）

大正九年五月十五日
勅令第百六十號

沿革略ス

樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ奏任文官特別任用令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

奏任文官特別任用令

左ニ揭クル奏任文官ハ五年以上判任以上ノ官ニ在職シテ行政事務ニ從事シ判任官五級俸以上ノ俸給ヲ受ケタル者ヨリ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

文部理事官

傳染病研究所事務官
航空研究所事務官
氣象臺事務官
北海道廳事務官
地方事務官

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●北海道廳視學官、地方視學官、北海道廳視學及府縣視學ノ任用ニ關スル件

昭和三年三月九日
勅令第二十六號

樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ北海道廳視學官、地方視學官、北海道廳視學及府縣視學ノ任用ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　北海道廳視學官及地方視學官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

一　二年以上官立公立ノ大學、高等師範學校、女子高等師範學校、高等學校、專門學校、實業專門學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校其ノ他文部大臣ニ於テ之ト同等ト認ムル學校ノ奏任官若ハ奏任官待遇以上ノ校長、教官若ハ教員又ハ教育事務ニ從事スル奏任官若ハ奏任官待遇以上ノ職ニ在リタル者

二　二年以上私立ノ大學ノ校長若ハ專任教員又ハ私立ノ高等學校、專門學校、實業專門學校其ノ他文部大臣ニ於テ之ト同等ト認ムル學校ノ校長ノ職ニ在リタル者又ハ二年以上高等學校教員免許狀ヲ有シ若ハ三年以上教育事務ニ從事スル判任官若ハ判任官待遇以上ノ職員ノ職ニ在リタル者

三　四年以上北海道廳視學又ハ府縣視學ノ職ニ在リテ判任官五級俸以上ノ俸給ヲ受ケタル者

四　五年以上第一號ノ學校ノ判任官若ハ判任官待遇ノ校長、教官若ハ教員又ハ教育事務ニ從事スル判任官若ハ判任官待遇ノ職員ノ職ニ在リテ月額八十五圓以上ノ俸給ヲ受ケタル者

五　五年以上高等學校教員免許狀若ハ教員免許令ニ依ル教員免許狀ヲ有シ又ハ專門學校令若ハ實業學校令ニ依ル教員ノ資格ヲ有シ私立ノ高等學校專科、中學校、高等女學校、實業學校（實業專門學校ヲ除ク）其ノ他文部大臣ニ於テ之ト同等ト認ムル學校ノ校長又ハ專任教員ノ職ニ在リタル者

第二條　北海道廳視學及府縣視學ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ普通試驗委員ノ銓衡ヲ經之ヲ任用ス

一　二年以上前條第一號ノ學校ノ判任官又ハ判任官待遇以上ノ校長、教官又ハ教員ノ職ニ在リタル者

二　前條第二號ニ該當スル者又ハ二年以上前條第五號ノ教員免許狀若ハ教員ノ資格ヲ有シ同號ノ職ニ在リタル者

三　二年以上高等學校教員免許狀若ハ教員免許令ニ依ル教員免許狀ヲ有シ又ハ專門學校令若ハ實業學校令ニ依ル教員ノ資格ヲ有シ小學校（文部大臣ニ於テ之ト同等ト認ムル學校ヲ含ム以下之ニ同シ）ノ校長、教官又ハ教員ノ職ニ在リタル者

四　三年以上小學校本科正教員タル資格ヲ有シ小學校ノ校長、教官若ハ教員ノ職ニ在リタル者又ハ三年以上教育事務ニ從事スル判任官若ハ判任官待遇以上ノ職員ノ職ニ在リタル者

五　四年以上小學校正教員（小學校本科正教員ヲ除ク）タル資格ヲ有シ小學校ノ教官又ハ教員ノ職ニ在リタル者

第三條　前二條中同條ニ規定シタル各職ノ在職年數ハ之ヲ通算ス但シ所要ノ在職年數ヲ異ニスル各職ノ在職年數ヲ通算スル場合ニ於テハ甲職ノ在職年數ノ其ノ職ノ所要在職年數ニ對スル比率ヲ乙職ノ所要在職年數ニ乘シテ得タル年數ヲ甲職ノ在職年數トシ之ヲ乙職ノ在職年數ニ通算ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年勅令第二百六十號ハ之ヲ廢止ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳視學又ハ府縣視學ニ任用セラレタル者ハ本令第二條ノ規定ニ拘ラス北海道廳視學又ハ府縣視學ニ之ヲ任用スルコトヲ得

●北海道廳視學官、地方視學官、北海道廳視學及府縣視學ノ任用ニ關スル件ニ依ル認定學校

昭和五年十二月二十九日
文部省告示第二百四十五號

昭和三年勅令第二十六號北海道廳視學官、地方視學官、北海道廳視學及府縣視學ノ任用ニ關スル件ニ依リ學校ヲ認定スルコト左ノ如シ

第一條第一號ニ依リ大學、高等師範學校、女子高等師範學校、高等學校、專門學校、實業專門學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校（實業專門學校ヲ除ク）ト同等ト認ムル學校

一　臨時教員養成所
二　學習院高等科及中等科

三　女子學習院高等科及本科（前期及中期第二學年迄ヲ除ク）
四　神宮皇學館
五　水產講習所
六　實業補習學校教員養成所
七　盲學校及聾唖學校（豫科、初等部、別科ヲ除ク）
八　專門學校入學者檢定規程ニ依リ卒業者ニ付一般ノ專門學校入學ニ關シ中學校若ハ修業年限四年ノ高等女學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者トシテ指定ヲ受ケタル學校
九　兵役法施行令第百條第三號竝ニ文官任用令第六條第一號ニ依ル中學校ノ學科程度同等以上ト認定セラレタル學校
十　朝鮮教育令ニ依ル高等普通學校及女子高等普通學校
十一　中學校、高等女學校又ハ實業學校ノ數科ヲ授クル在外指定學校

同條第五號ニ依リ高等學校令第一條、中學校、高等女學校、實業學校（實業專門學校ヲ除ク）ト同等ト認ムル學校

一　學習院初等科
二　女子學習院本科（中期第三學年以後及後期ヲ除ク）
三　盲學校及聾唖學校ノ初等部
四　高等學校及中學校ノ豫科
五　朝鮮教育令ニ依ル普通學校
六　臺灣教育令ニ依ル公學校
七　小學校ノ教科ヲ授クル在外指定學校

●水産試驗場練習生規程

昭和四年六月二十八日
農林省告示第百八十三號

追加　昭和九年三月農林省告示第九九號改正

水産試驗場練習生規程左ノ通定ム

水産試驗場練習生規程

第一條　水産試驗場ニ於テ水産ニ關スル技術ヲ練習セシムル爲本規程ニ依リ練習生ヲ養成ス

第二條　練習生ハ身體强健ニシテ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ之ヲ採用ス

一　水産學校ノ本科若ハ專修科又ハ府縣水産講習所ヲ卒業シタル者

二　水産學校以外ノ實業學校ノ本科ヲ卒業シタル者又ハ中學校第三學年ヲ修了シタル者

三　二年以上水産ノ業務ニ從事シタル者

四　水産試驗場長ニ於テ前各號ニ揭クル者ト同等以上ト認メタル者

第三條　練習生ノ定員、練習場所、練習科目、練習期間及練習開始期日其ノ他必要ナル事項ハ募集ノ都度水産試驗場長之ヲ定ム

第四條　練習生タラムトスル者ハ樣式第一號ニ依ル練習生採用願書ニ履歷書、資格證明書（在學中ノ者ニ在リテハ當該學校長又ハ講習所長ノ卒業又ハ修業見込證明書）及醫師ノ健康診斷書ヲ添ヘ水産試驗場長ニ差出スヘシ

第五條　練習生トシテ採用セラレタル者ハ樣式第二號ニ依ル誓約書ヲ水産試驗場長ニ差出スヘシ

前項ノ誓約書ニ署名スヘキ保證人ハ練習生トシテ採用セラレタル者ノ本籍地、寄留地又ハ練習地ノ公民タルコトヲ要ス

第六條　練習ハ實習ヲ主トシ適宜必要ナル知識ノ大意ヲ授ク

練習細目ハ水産試驗場長別ニ之ヲ定ム

第七條　練習期間ハ二年以內トス

第八條　練習生ノ費用ハ練習生ノ負擔トス

第九條　練習生ニシテ成業ノ見込ナキモノト認ムルトキハ練習生ヲ免スルコトアルヘシ

第十條　練習ヲ修了シタルトキハ修了證書ヲ交付ス

附　則

本規程施行ノ際現ニ水産試驗場ニ於テ養成中ノ練習生ハ本規程ノ規定ニ依リ採用セラレタルモノト看做ス

樣式第一號

練習生採用願

私儀貴場練習生（志望科目）志願ニ付御採用相成度別紙履歷書、資格證明書及健康診斷書相添此段及御願候也

本籍、族稱、職業、戶主トノ續柄
現住所
年月日　氏　名印　年月日生

水産試驗場長　殿

樣式第二號

誓約書

私儀今般練習生ニ御採用相成候ニ付テハ諸規則命令等遵守可致此段誓約候也

本籍、族稱、職業、戶主トノ續柄
現住所
年月日　氏　名印　年月日生

水産試驗場長　殿

●水産講習所規程

昭和四年三月三十日
農林省令第三號

水産講習所規程左ノ通定ム

水産講習所規程

第一條　水産講習所ハ水産ニ關スル學理及技術ヲ敎授シ兼テ德性ノ涵養ニ努ム

第二條　水産講習所ニ本科、專攻科及遠洋漁業科ヲ置ク

本科及專攻科ノ學科ヲ分チテ漁撈科、製造科及養殖科トス

第三條　本科ニ於テハ漁撈、製造又ハ養殖ニ關シ各必要ナル學理及技術ヲ習得セシム

專攻科ニ於テハ本科ノ課程ニ照シ一層精深ナル程度ニ於テ漁撈、製造又ハ養殖ニ關シ各必要ナル學理及技術ヲ習得セシム

遠洋漁業科ニ於テハ遠洋漁業ニ關シ必要ナル學理及技術ヲ習得セシム

第四條　水產講習所ニ入學スル者ハ男子ニシテ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一　本科ニ在リテハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者

（イ）中學校第四學年ヲ修了シタル者

（ロ）高等學校豫科ヲ修了シタル者

（ハ）高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者

（ニ）專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者

（ホ）文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者

漁撈科

（ヘ）文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

二　專攻科ニ在リテハ水產講習所本科ヲ卒業シタル者又ハ水產講習所長ニ於テ之ト同等以上ノ學術技能ヲ有スル者ト認ムル者

三　遠洋漁業科ニ在リテハ水產講習所本科ノ漁撈科ヲ卒業シタル者又ハ水產講習所長ニ於テ之ト同等以上ノ學術技能ヲ有スル者ト認ムル者

第五條　本科ノ修業年限ハ四年、專攻科ノ修業年限ハ二年トス

遠洋漁業科ノ修業年限ハ三年以內ニ於テ水產講習所長之ヲ定ム

第六條　本科ノ學科目及其ノ程度左ノ如シ

學科目＼學年	第一學年毎週授業時間數		第二學年毎週授業時間數		第三學年毎週授業時間數		第四學年毎週授業時間數	
	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
修身	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	四	四	四	四	二	二	二	二
獨逸語	三	三	三	三	三	二	二	二
數學	七	七	二	二	三	三	三	三
物理學			三	三				
化學	二	二						
普通動物學	三	三						
水產動物學								
水產生物生態學								
普通植物學	二	二						
水產植物學			一	一				
法學通論	二	二						
水產法制			二	二				
經濟原論	二	二						
水產經濟學			二	二				
水產通論	二	二						
氣象學								
漁具材料學	一	一	二	二				
漁具構成學			二	二				
漁撈論			二	二				
海洋漁場學								
航海學			二	二				
運用學								
漁船論								

學科目＼學年	第一學年毎週授業時間數		第二學年毎週授業時間數		第三學年毎週授業時間數		第四學年毎週授業時間數	
	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
修身	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	四	四	四	四	二	二	二	二
獨逸語	三	三	三	三	三	二	二	二
數學	七	七	二	二	三	三	三	三
物理學			三	三				
化學	二	二						
普通動物學	三	三						
水產動物學								
水產生物生態學								
普通植物學	二	二						
水產植物學			一	一				
法學通論	二	二						
水產法制			二	二				
經濟原論	二	二						
水產經濟學			二	二				
水產通論	二	二						
氣象學								
漁具材料學	一	一	二	二				
漁具構成學			二	二				
漁撈論			二	二				
海洋漁場學								
航海學			二	二				
運用學								
漁船論								

學科目	第一學年第一學期	第一學年第二學期	第二學年第一學期	第二學年第二學期	第三學年第一學期	第三學年第二學期	第四學年第一學期	第四學年第二學期
機械學					二	二		
機關學					一	一	二	二
救急療法							一	一
水產製造概論							二	二
體操	二	二	二	二	二	二		
物理學實驗					三	三		
化學實驗	二	二	二	二				
普通動物學實驗	三	三						
水產動物學實驗					二	二		
水產生物生態學實驗							二	二
普通植物學實驗	三	三						
漁具材料學實驗			二	二				
漁具構成學實驗			二	二				
氣象學實習							不定	不定
遠洋漁業實習							不定	不定
海洋漁場學實習							不定	不定
航海學實習							不定	不定
運用學實習	不定	不定	二	二	二	二	不定	不定
漁船論實習					三	三		
機關學實習							二	二
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	二四	二四

所外ニ於ケル實驗實習及調査

學年	日數	事項
第一學年	三〇	水泳及操縦並動植物學實驗
第二學年	三〇	漁船運用實習及沿岸漁業實習
第三學年	一五	漁業調査
	四〇	航海、運用及機關實習、測量實習並近海漁業實習
	一五	定置漁業調査

製造科

學科目＼學年	第一學年每週授業時間數 第一學期	第一學年每週授業時間數 第二學期	第二學年每週授業時間數 第一學期	第二學年每週授業時間數 第二學期	第三學年每週授業時間數 第一學期	第三學年每週授業時間數 第二學期	第四學年每週授業時間數 第一學期	第四學年每週授業時間數 第二學期
修身	一	一	一	一	一	一		
英語	四	四	三	三	三	三		
獨逸語	三	三	三	三	二	二	一	一
數學	六	六	二	二				

物理學			三	三	三	三		
無機化學	三	三						
有機化學			三	三				
生物化學					二	二		
物理化學					一	一		
食品化學							二	二
製造化學			二	二	二	二	二	二
普通動物學	三	三						
水產動物學			二	二				
動物組織學					一	一		
普通植物學	三	三						
水產植物學			一	一				
法學通論					二	二		
水產法制							二	二
經濟原論					二	二		
水產經濟學							二	二
水產通論	二	二						

商業概論							二	二
細菌學							二	二
水產製造學			二	二	三	三	二	二
水產商品學							二	二
機械學					二	二	四	四
體操	二	二	二	二	二	二		
物理學實驗			三	三				
無機化學實驗	六	六						
有機化學實驗			六	六				
生物化學及物理化學實驗					六	六		
食品化學實驗							三	三
製造化學實驗							三	三
普通動物學實驗	三	三						
水產動物學實驗			三	三				
動物組織學實驗					二	二		
普通植物學實驗	三	三						
細菌學實驗							三	六

學科目	學年	第一學年每週授業時間數		第二學年每週授業時間數		第三學年每週授業時間數		第四學年每週授業時間數	
	修身	一	一	一	一	一	一		
	英語	五	五	四	四	二	二		
	獨逸語	三	三	二	二	二	二		
	數學	六	六	二	二				
養殖科	物理學								
	無機化學	二	二						
	有機化學			二	二				
	生物化學								
	物理化學								
	藻養化學								
	地質學	二	二						
	普通動物學	四	四						
	水產動物學			四	四				
	動物生理學								
	組織發生學								
	浮游生物學								
	普通植物學			三	三				
	水產植物學								
	海洋及湖沼學	二	二						
	法學通論								
	水產法制								
	計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
所調外ニ於ケル實驗實習及	學年日數事項	第一學年 三〇 水泳及操艇竝動植物學實驗		第二學年 二〇 製繩實習		第三學年 四〇 水產製造實習		第四學年 二五 水產製造實習 四二 水產製造及商取引調査	

學科目	學年	第一學年每週授業時間數		第二學年每週授業時間數		第三學年每週授業時間數		第四學年每週授業時間數	
	修身	一	一	一	一	一	一		
	英語	五	五	四	四	二	二		
	獨逸語	三	三	二	二	二	二		
	數學	六	六	二	二				
養殖科	物理學								
	無機化學	二	二						
	有機化學			二	二				
	生物化學								
	物理化學								
	藻養化學								
	地質學	二	二						
	普通動物學	四	四						
	水產動物學			四	四				
	動物生理學								
	組織發生學								
	浮游生物學								
	普通植物學			三	三				
	水產植物學								
	海洋及湖沼學	二	二						
	法學通論								
	水產法制								
	計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
所調外ニ於ケル實驗實習及	學年日數事項	第一學年 三〇 水泳及操艇竝動植物學實驗		第二學年 二〇 製繩實習		第三學年 四〇 水產製造實習		第四學年 二五 水產製造實習 四二 水產製造及商取引調査	

經濟原論																									
水産經濟學																									
水産通論	二	二																							
細菌學																									
魚病學																									
淡水養殖論			二																						
鹹水養殖論																									
蓄殖保護論																									
餌料學																									
土木學																									
體操	二	二	二																						
物理學實驗																									
無機化學實驗	五	五																							
有機化學實驗			五																						
生物化學實驗																									
榮養化學及物理化學實驗																									
普通動物學實驗	五	九																							

水産動物學實驗			三																						
動物生理學實驗																									
組織發生學實驗																									
浮游生物學實驗																									
普通植物學實驗			五																						
水産植物學實驗																									
細菌學實驗																									
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

所外ニ於ケル實																									
學年	第一學年			第二學年					第三學年																
日數	三〇	七	二	五	二〇	一四	二〇	一〇																	
事項	水泳及操艇竝動植物學實驗	動物學實驗	地質學實習	動植物野外採集	海洋及湖沼學實驗	動植物學實驗	養魚實習及調査	養蠣實習																	

實驗實習及調査	第四學年
人工孵化實習及調査	一五
養鰻實習	七
海魚及海藻發生實習	一四
淺海養殖實習	三
養魚、土木、天然餌料及魚病實習	二一
養殖法實習及調査	一四

備考

一　本表ノ外各學年ニ於テ四日以上ノ兵式野外教練ヲ課ス

二　本表ノ外必要ニ應シテ課外講義ヲ課スルコトアルヘシ

三　各學年ノ授業學科目及其ノ授業時間數竝所外ニ於ケル實驗、實習及調査ノ日數ハ時宜ニ依リ之ヲ變更スルコトアルヘシ

四　漁撈科第四學年ノ授業ハ實習船ニ於テ之ヲ行フ

第七條　專攻科ノ學科目ハ之ヲ必修科目、選擇科目及隨意科目ニ分ツ

一　必修科目及選擇科目竝其ノ程度左ノ如シ

漁撈科

	學科目 ＼ 學年	第一學年每週授業時間數 第一學期	第一學年每週授業時間數 第二學期	第二學年每週授業時間數 第一學期	第二學年每週授業時間數 第二學期
必修科目	漁法學	二	二	二	二
	漁具學	二	二	二	二
	漁撈生物學	四	四	四	
	水産史	二	二		
	統計學	二	二		
	漁具學實驗	二	二	二	二
	漁撈生物學實驗	三	三	三	
選擇科目	漁撈物理學	三	三	二	二
	漁撈化學	二	二		
	漁具材料學	三	三	三	三
	漁船學	二	二	四	四
	漁船設計論	二	二	四	
	漁船機關學	二	二		
	漁撈機械學	四	四		
	比較漁業學	二	二		
	水産法制	四	四		
	水産經濟學	三	三	三	三
	財政學	二	二		
	水産政策	二	二		
	民法	二	二	二	二

製造科

科目	學年	第一學年每週授業時間數		第二學年每週授業時間數	
	學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
商法					
水產金融論					
水產市場論					
漁業組合論					
漁業經營論					
漁撈物理學實驗					
漁撈化學實驗					
漁船設計實習		二	二	三	三
水產製造學		二	二		
水產製造原料學		二	二		
水產史		二	二		
水產商品學		二	二		
統計學		二	二		
水產製造學實習		二	二	不定	不定

必修科目

選擇科目

科目	學年	第一學年每週授業時間數		第二學年每週授業時間數	
	學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
水產商品學實習		三	三		
製造物理學		三	三		
物理化學					
製造化學		三	三		
藥養化學					
水產製造機械學		三	三		
工場設計法					
工場經營論		二	二		
水產法制		四	四		
水產經濟學		三	三		
財政學		二	二		
水產政策		二	二		
民法		二	二		
商法					
水產金融論					
工場法制		三	三		
水產市場論		三	三		

科目	第一學年每週授業時間數 第一學期	第一學年每週授業時間數 第二學期	第二學年每週授業時間數 第一學期	第二學年每週授業時間數 第二學期
產業組合論			二	二
製造物理學實驗	三	三		
物理化學實驗				
製造化學實驗	六	六	六	六
榮養化學實驗				
水產製造機械設計實習	三	三	三	三
工場設計法實習			三	三

養殖科

科目	第一學年每週授業時間數 第一學期	第一學年每週授業時間數 第二學期	第二學年每週授業時間數 第一學期	第二學年每週授業時間數 第二學期
必修 水產增殖論	三	三		
養殖生物學	二	二		
動物生態學			二	二
水質學	三	三		
種苗改良論			三	三
餌料學	三	三		
水產生物生理學			二	二

科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
水產史				
統計學	二	二	二	二
生物計測學				
水質學實驗	三	三	三	三
水產生物生理學實驗				
養殖物理學	二	二	三	三
物理化學			二	二
魚病學	一	一		
比較發生學	三	三		
養殖場設計法			二	二
養殖土木學	三	三		
水產法制	四	四		
水產經濟學	三	三	三	三
財政學	二	二		
水產政策			二	二
民法	二	二	二	二
商法			四	四

科目				
水産金融論	二	二		
水産市場論			三	三
漁業組合論			二	二
養殖經營論	二	二		
養殖物理學實驗	三	三		
物理化學實驗			六	六
魚病學實驗	六	六		
比較發生學實驗	不定	不定		
養殖場設計法實習			五	五
養殖土木學實習	六	六		

備考

各學年ノ授業學科目及其ノ授業時間數ハ時宜ニ依リ之ヲ變更スルコトアルヘシ

選擇科目ノ選擇方法竝隨意科目ノ種類及授業時間數ハ水産講習所長之ヲ定ム

第八條　本科又ハ專攻科ノ學科目中一科目又ハ數科目ヲ選擇シテ學修セムトスル者ハ選科生トシテ入學ヲ許可スルコトヲ得

第九條　水産ニ關スル特殊ノ科目ヲ限リ必要ナル學理及技術ヲ習得セシムル爲別科ヲ置クコトヲ得

第十條　臺灣人、朝鮮人及外國人ノ特別入學ニ關シテハ水産講習所長ノ定ムル所ニ依ル

第十一條　本則施行ニ關シ必要ナル事項ハ水産講習所長之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ專攻科ニ關スル規定ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

水産講習所講習規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ本科ニ在學スル者ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ水産講習所長之ヲ定ム

●水産講習所入學試業料ニ關スル件

大正六年二月二十六日
農商務省令第四號

水産講習所入學試業料ニ關スル件左ノ通相定ム

水産講習所入學試業料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

前項ノ收入印紙ハ之ヲ入學願書ニ貼付シ消印ヲ爲サスシテ差出スヘシ水産講習所長ハ其ノ收受スヘキモノナルヲ認メタル後願書ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印ヲ押捺スヘシ但シ志願者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ之ヲ妨ケス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●府縣水産講習所規程

明治三十二年八月一日
農商務省令第二十三號

沿革　明治四〇年五月農商務省令第一一號、大正元年一〇月第一一號、九年八月第一四號、昭和九年六月農林省令第一四號改正

府縣水産講習所規程左ノ通相定ム

府縣水産講習所規程

第一條　本規程ニ於テ府縣水産講習所ト稱スルハ府縣勸業費ヲ以テ設立スル水産講習所ヲ謂フ

第二條　府縣水産講習所（第三條第四項ノ府縣水産講習所ヲ除ク）ハ一府縣ニ一箇所ヲ限リ設立スルコトヲ得但分所ヲ設クルコトヲ妨ケス

第二條ノ二　府縣水産講習所（第三條第四項ノ府縣水産講習所ヲ除ク）ノ地方産業職員左ノ如シ

所　長
技　師
技　手
主事補

第二條ノ三　第三條第四項ノ府縣水産講習所ノ地方産業職員左ノ如シ

所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ但シ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

場　長
主　事
技　師
主事補
技　手

場長ハ主事又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ其ノ他ノ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三條　府縣水産講習所ハ漁撈、製造、蕃殖等ニ必要ナル講習ヲ爲サシムルヲ以テ目的トス

府縣水産講習所ハ數學、物理、化學、動物、植物、氣象、地文、圖畫等ノ補助科目ヲ設クルコトヲ得

府縣水産講習所ニ於テ遠洋漁業科ヲ設クル場合ニ於テハ航海ニ關スル補助科目ヲ加フヘシ

漁村中堅人物養成ノ目的ヲ以テ漁業ヲ中心トシテ實習的訓練及漁民精神ノ陶冶ヲ主トスル府縣水産講習所ハ之ヲ漁村修錬場ト稱スルコトヲ得

第四條　地方長官必要ト認ムルトキハ府縣水産講習所ノ職員ヲシテ水産ニ關スル巡回講話試驗又ハ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條　府縣水産講習所ノ修業年限ハ二年以内トス但遠洋漁業科ニ付テハ五年以内ト爲スコトヲ得

第六條　府縣水產講習所ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス分所ヲ設ケントスルトキ亦同シ

一　名稱及ヒ位置
二　講習所規則
三　實習用地ノ種類及ヒ其面積
四　飛物ノ種類及ヒ其坪數
五　職員ノ職名、其員數及ヒ俸給額
六　收支豫算書

第七條　（削除）

第八條　府縣水產講習所每年度ノ業務功程ハ地方長官ヨリ翌年度五月限リ之ヲ農林大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第九條　府縣水產講習所又ハ其分所ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

附　則

第十條　本規程ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　本規程施行前ニ設立シタル府縣立水產講習所ニ付テハ地方長官ハ明治三十二年十月三十一日マテニ第六條ニ揭ケタル事項ヲ農林大臣ニ届出ルコトヲ要ス

●帝國美術院展覽會規則及帝國美術院授賞規則

昭和十年九月十三日　官報

今般帝國美術院ニ於テ帝國美術院展覽會規則、帝國美術院授賞規則ヲ左ノ如ク定メタリ

帝國美術院展覽會規則

第一章　總則

第一條　本會ノ定期開設ハ每年一回トス出品ノ種別、會場、事務所及會期ハ其ノ都度之ヲ公告ス

第二條　本會ハ出品ノ種別ニ依リ之ヲ左ノ四部ニ分ツ

第一部　繪畫
第二部　繪畫（油繪、水彩畫、パステル畫、素描、創作版畫等）
第三部　彫塑（甲種　彫刻　乙種　鑄造）
第四部　美術工藝

第三條　出品ハ鑑査ヲ經タルモノニ限リ之ヲ陳列ス

出品人ニシテ左ニ列擧スル資格ノ一ニ該當スルトキハ其ノ專門技術ニ依ル出品ニ限リ鑑査外トス但シ第四部ニ於ケル綜合製作ニ依ル出品ハ總テ鑑査ヲ經ヘキモノトス

一　帝國美術院會員及展覽會參與
二　帝國美術院授賞規則（大正十三年制定ニ係ルモノヲモ含ム）ニ依リ授賞セラレタル者
三　帝國美術院ニ於テ指定セラレタル者

前項第三號ノ指定ハ各部所屬會員三分ノ二以上出席セル部會ニ於テ出席會員三分ノ二以上ノ投票ヲ得タル者ニ就キ會員會議ニ於テ之ヲ決スルモノトス

第四條　出品ノ荷造及運送費ハ總テ出品人ノ負擔トス但シ遠隔ノ地ニ在ル出品團體ニ對シテハ文部省ヨリ特ニ其ノ費用ノ一部ヲ補助スルコトアルヘシ

第五條　本會ハ出品ノ保管ニ關シ十分ノ注意ヲ爲スト雖モ出品ノ紛失又ハ損害ニ對シ一切其ノ責ニ任セス

第六條　出品人ノ承諾ヲ得且帝國美術院ノ許可ヲ得ルニ非サレハ出品ノ撮影又ハ模寫ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ許可ヲ得タル者會場ニ於テ出品ノ撮影又ハ模寫ヲ爲サントスルトキハ許可證ヲ掛員ニ提示シテ其ノ指揮ヲ受クヘシ

文部省ハ出品ヲ撮影、模寫シ又ハ之ヲ刊行スルコトアルヘシ

第二章　出品

第七條　出品ハ自己ノ製作シタルモノニ限ル

故人ノ製作ニ係ルモノハ其ノ相續人ニ於テ之ヲ出品スルコトヲ得

第八條　第三部ノ出品ニシテ原型製作者ト實材製作者ト其ノ人ヲ異ニスルトキハ原型製作者ヲ以テ其ノ出品人ト爲ス

第四部ノ出品人ニシテ綜合製作ナルトキハ其ノ代表製作者一名ヲ以テ出品人ト爲ス但シ代表製作者ハ共同製作者ノ氏名ヲ附記スルコトヲ得

第九條　同一人ノ出品ハ第一乃至第四ノ各部ニ付二點以內トス但シ第三條第二項及第四十條ニ該當スル出品ハ一點ニ限ル

第十條　出品ノ形狀表裝等ノ如何ニ拘ラス同一意匠ニ依レル一箇ノ作品ト認メ得ヘキモノハ二箇以上ニ分離セルモノト雖モ之ヲ一點ト看做ス

第十一條　同一意匠ニ依ラサル數箇ノ作品ト雖モ一箇ニ合裝シタルモノハ之ヲ一點ト看做ス

第十二條　第一部ノ出品ハ一點ニ付縱十尺橫十二尺以內（裝飾設備ヲ含ムノトシ出品人ノ占メ得ヘキ陳列壁面ハ橫十三尺迄トス

第三條第二項ニ依ル出品ハ縱十尺橫二十五尺以內（裝飾設備ヲ含ム）トス

第四部ノ出品ハ一點ニ付立體ニ在リテハ十尺平方以內ノ場所ニ陳列シ得ルモノト其ノ他ハ縱十二尺橫十二尺以內（裝飾設備ヲ含ム）トス

第二部及第三部ノ出品ハ適宜トス

第十三條　會場ノ都合ニ依リ出品ノ全部ヲ同時ニ陳列スルコト能ハスト認ムルトキハ一定日數每ニ陳列替ヲ爲スコトアルヘシ

陳列替ニ關スル事項ハ當該部審査員ニ於テ之ヲ定ム

出品ノ陳列上必要アリト認メタルトキハ裝飾設備ヲ適宜變更セシムルコトアルヘシ

第十四條　左ニ揭クルモノハ出品スルコトヲ得ス

一　製作後五年以上經タルモノ
二　本會ニ陳列シタルコトアルモノ
三　風敎ニ害アリト認ムルモノ

第十五條　出品ヲ爲サントスル者ハ作品一點ニ付金一圓ノ手數料ヲ納付スヘシ既納ノ手數料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

第十六條　出品ヲ爲サントスル者ハ手數料ヲ添ヘ所定書式ノ申込書ト共ニ作品ヲ受付掛ニ差出スヘシ

其ノ期日等ハ別ニ之ヲ公告ス

故人ノ作品ヲ出品スル場合ニハ第一項ノ申込書中解說書欄ニ製作者ノ氏名及履歷ヲ記入スヘシ

第十七條　事務所ニ於テ出品ヲ受理シタルトキハ直ニ受領證ヲ交付スヘシ

第十八條　出品ハ撤回スルコトヲ得ス但シ帝國美術院長ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　第一部及第二部ノ出品ハ額面ト爲シ又ハ枠緣ヲ附スル等出品人ニ於テ適當ノ裝飾設備ヲ爲スヘシ

第二十條　鑑査ノ上陳列スルコトニ決定シタル出品以外ノモノハ展覽會開會一週間後ヨリ二十日以內ニ出品人ニ於テ之ヲ撤出スヘシ

前項ノ期間內ニ撤出セサルモノハ本會ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十一條　本會ニ於テ定メタル陳列品ノ位置、配列等ニ對シ出品人ハ異

議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三章　鑑査及審査

第二十二條　審査員ハ帝國美術院會員中ヨリ之ヲ定ム

各部ノ審査主任ハ帝國美術院長之ヲ指名ス

第二十三條　鑑査ハ出品ニ就キ陳列スヘキモノヲ定メ審査ハ陳列品ニ就キ優秀ナルモノヲ推奨スルモノトス

第二十四條　陳列品ハ總テ審査ヲ受クルモノトス

第三條第二項ニ該當スル出品ハ審査外トス

第二十五條　鑑査及審査ハ各部ニ就キ審査員之ヲ行フ

鑑査及審査ノ方法ハ各部審査員ニ於テ之ヲ定ム

第二十六條　鑑査及審査ノ結果ハ各部審査主任ヨリ之ヲ帝國美術院長ニ報告スヘシ

第二十七條　出品人ハ鑑査及審査ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四章　賣約及搬出

第二十八條　陳列品ハ本會ニ於テ其ノ賣買契約ヲ取扱フモノトス出品人ニ於テ本會ヲ經スシテ賣買契約ヲ爲サントスルトキハ本會ノ承認ヲ經ヘシ

第二十九條　陳列品ヲ購買セントスル者ハ代金ヲ添ヘテ事務所ニ申出ツヘシ

第三十條　即時ニ代金ヲ支拂ハサルトキハ手附ヲ以テ賣買契約ヲ爲スコトヲ得手附ノ金額ハ代價ノ三分ノ一以上トス

前項ノ買主カ會期中ニ殘餘代金ノ支拂ヲ爲ササルトキハ手附金ハ之ヲ拋棄シタルモノト看做ス但シ拋棄シタル手附金ハ當該出品人ノ所得トス

第三十一條　賣買契約ヲ爲シタルトキハ出品ニ其ノ旨ヲ貼紙スヘシ

第三十二條　出品人ニ於テ陳列品ノ代價ヲ變更セントスルトキハ事務所ニ届出ツヘシ

第三十三條　出品人ニ於テ出品及代金受領等ノ爲特ニ代理人ヲ置キタルトキハ其ノ住所氏名ヲ具シ事務所ニ届出ツヘシ

第三十四條　出品ノ撤出期間ハ閉會後三日以内トス若期間内ニ撤出セサル者アルトキハ本會ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第三十五條　陳列品中賣約濟ノモノハ閉會後買主ニ於テ之ヲ撤出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ代金受領證ヲ提出シ自己ノ買主タルコトヲ證明スルコトヲ要ス

第三十六條　閉會後陳列品ノ撤出運送等ニ關シ買主ノ依頼アルトキハ事務所ハ買主ノ費用ヲ以テ之ニ應スルコトアルヘシ

第五章　觀覽

第三十七條　觀覽時間ハ開會中毎日午前九時ヨリ午後五時迄トス但シ都合ニ依リ之ヲ伸縮シ又ハ觀覽ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十八條　觀覽人ハ陳列品ニ觸ルルコトヲ得ス

觀覽人ハ靜肅ヲ旨トシ且掛員ノ指揮ニ從フヘシ

第三十九條　觀覽人ニシテ秩序風俗ヲ紊ルノ虞アリト認ムル者ハ入場ヲ禁シ又ハ退場セシムルコトアルヘシ

附　則

第四十條　左ニ揭クル者ノ出品ハ第三條ノ規定ニ拘ラス今後二回ノ展覽會ニ於テ之ヲ陳列スルコトヲ得

一　從前帝國美術院美術展覽會ノ出品ニ付無鑑査ノ取扱ヲ受ケタル者

二　前號ニ準スヘキ者

前項第二號ニ該當スヘキ者ハ各部會ニ於テ之ヲ決定シ會員會議ノ議決ヲ經ヘシ

（所定書式）

出品申込書

私儀帝國美術院展覽會規則ニ依リ左記目錄ノ通リ出品致度ニ付手數料相添ヘ此段申込候也

※昭和　年　月　日

※原籍

帝國美術院長殿

※住所

※職業

※氏名　※雅號

號	第	部	第	部	番號受付
目錄	部名	命題	代價又ハ賣非	寸法	京都出品承諾ノ有無	備考
		※		縱尺寸	承諾	
			※	※	※	
				橫尺寸	（希望セサルトキハ承諾ヲ抹消スヘシ）	

解說書	命題ノ說明	※	師承若ハ履歷	※

出品預リ證

號	部名	部	形體及寸法	縱尺寸	横尺寸
第	命題	※第	※		
番號					
受付	※			一	點

※右第　回帝國美術院展覽會ヘ出品相成正ニ預リ申候也

※昭和　年　月　日

※出品人氏名殿

帝國美術院

注意

一、現品受取ノ際ハ本證ヲ持參スヘシ

二、本證紛失シタル時ハ直ニ本院ニ屆出ツヘシ若シ紛失シタル時ハ現品又ハ賣渡代金ヲ相渡ササルコトアルヘシ、屆出ヲ怠タリシ爲生シタル事件ニ關シテハ本院ハ其ノ責ニ任セス

三、入選セサルモノハ開會一週間後ヨリ二十日以内ニ出品人ニ於テ之ヲ搬出スヘシ右期間中ニ搬出セサルトキハ荷造費及運賃先拂ヲ以テ返戻ス

四、出品ニ對シテ本院ハ充分ナル注意ヲナスト雖モ萬一出品ノ滅失又ハ毀損セル場合本院ハ一切其ノ責ニ任セス

五、本院ノ印章ナキモノハ無效トス

號	部名	部	種類	數
	※第		※	

第	命題	作者
受付番號	※	※

注意

一、出品ノ申込ハ一點ニ付本紙一枚ヲ使用シ、※印ノ欄ハ出品人ニ於テ必ス記入スヘシ

二、出品ハ申込書及手數料ト共ニ必ス　月　日ヨリ　月　日マテ（毎日午前九時ヨリ午後五時迄）ノ間ニ差出スヘシ、時間經過後ハ絶對ニ受理セス

三、讀ミ難キ命題氏名雅號等ニハ振假名ヲ付スヘシ

四、文部省美術展覽會又ハ帝國美術院美術展覽會ニ入選シタルコトアル者ハ履歴ニ其ノ旨ヲ必ス記載スヘシ

帝國美術院授賞規則

第一條　帝國美術院ハ卓絶セル美術作品ニ對シテ賞ヲ授ク

前項ノ外帝國美術院ハ美術ノ進歩ニ貢獻スヘキ顯著ナル業績アリト認ムル者ニ對シテハ賞ヲ授クルコトヲ得

第二條　賞ハ賞狀及賞金トス

第三條　賞ハ帝國美術院會員ニ非サル者ニ之ヲ授ク

第四條　賞ヲ授クルハ會員三名以上ノ推薦ニ依リ帝國美術院會議ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ議決ヲ爲スタメ毎年少クトモ一回會議ヲ開ク

第五條　前條ノ議決ハ會員三分ノ二以上ノ出席及出席會員三分ノ二以上ノ賛成アルコトヲ要ス

必要アル場合ニ於テハ會議ノ議決ニ依リ缺席シタル會員ニ對シ賛否ノ表決ヲ求ムルコトヲ得

第六條　賞ヲ授クヘキ者推薦アリタル後死亡シタル場合ニ於テハ帝國美術院ハ授賞ノ旨ヲ公示シ且其ノ者ニ授クヘキ賞ノ處分ヲ定ム

（賞記樣式）

賞記

帝國美術院ハ何誰君ノ何々ニ對シ本院授賞規則第一條第何項ニ依リ玆ニ帝國美術院賞ヲ授與ス

昭和　年　院月印　日

割印　番號

帝國美術院長位勳爵氏名官印

第十九章　諸規程及官制

●貴族院令

明治二十二年二月十一日勅令第十一號

追加　明治三八年三月勅令第五八號、四二年四月第九二號、大正七年三月第二二號、一四年五月第一七四號改正

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ（明治二十三年二月二十八日詔勅ヲ以テ同年ヨリ施行）

貴族院令

第一條　貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一　皇族

二　公侯爵

三　伯子男爵各々其ノ同爵中ヨリ選擧セラレタル者

四　國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五　帝國學士院ノ互選ニ由リ勅任セラレタル者

六　北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人又ハ二人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條　皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條　公侯爵ヲ有スル者滿三十歲ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

前項ノ議員ハ勅許ヲ得テ議員タルコトヲ辭スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ議員タルコトヲ辭シタル者ハ勅命ニ依リ再ヒ議員トナルコトヲ得

第四條　伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿三十歲ニ達シ各々其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ定數ハ伯爵十八人、子爵六十六人、男爵六十六人トス

第五條　國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歲以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

前項議員ノ數ハ百二十五人ヲ超過スヘカラス

第一項ノ議員身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ貴族院ニ於テ其ノ旨ヲ議決シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

前項ノ議決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第五條ノ二　滿三十歲以上ノ男子ニシテ帝國學士院會員タル者ノ中ヨリ四人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其ノ會員タルノ間七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　滿三十歲以上ノ男子ニシテ北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者百人ノ中ヨリ一人又ハ二百人ノ中ヨリ二人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ總數ハ六十六人以內トシ其ノ北海道各府縣ニ於ケル定數ハ通常選擧毎ニ人口ニ應シ勅命ヲ以テ之ヲ指定ス

第七條　（削除）

第八條　貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條　貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選擧ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條　議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ確定シタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條　議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラルヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ

第十二條　此ノ勅令ニ定ムルモノノ外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條　將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ增補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

附　則（大正十四年勅令第百七十四號）

本令中第四條ノ改正規定竝第一條第六號及第六條ノ改正規定ハ各大正十四年ニ於テ行フ通常選擧ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ改正規定ハ其ノ最初ニ行フ通常選擧ノ期日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ改正規定施行ノ際現ニ第一條第二號ノ規定ニ依リ議員タル者ハ第三條第一項ノ改正規定ニ拘ラス議員タルヘシ

從前ノ第一條第五號ノ規定ニ依リ勅任セラレタル議員ニシテ大正十四年ニ於テ任期終了スヘキ者ノ任期ハ仍從前ノ規定ニ依ル其ノ任定ノ終了カ同年ニ於テ行フ同條第六號ノ改正規定ニ依ル議員ノ通常選擧ノ期日ヨリ前ナル場合ニ於テハ其ノ期日ノ前日迄任期ヲ延長ス

●新潟縣臨時教育調査會規程

昭和九年六月二十二日
新潟縣告示第六百六十一號

新潟縣臨時教育調査會規程左ノ通定ム

新潟縣臨時教育調査會規程

第一條　本會ハ新潟縣臨時教育調査會ト稱ス

第二條　本會ハ本縣ニ於ケル教育施設ニ關スル重要事項ヲ調査ス

本會ハ前項ノ事項ニ付知事ノ諮問ニ應シ又ハ知事ニ建議スルコトヲ得

第三條　本會ハ會長一人及委員二十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第四條　會長ハ知事ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ縣官吏、縣會議員及學識經驗アル者ノ中ヨリ知事之ヲ命シ又ハ委囑ス

第五條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ知事ノ指定シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第六條　本會ニ幹事及書記ヲ置ク

幹事及書記ハ縣官吏ノ中ヨリ知事之ヲ命ス

第七條　幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ會務ヲ掌理ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　本會ハ委員中ヨリ小數委員ヲ選出シ議案ヲ審議セシムルコトヲ得

●教育關係思想問題研究會會則

昭和九年七月十六日
新潟縣告示第七百五十三號

教育關係思想問題研究會會則左ノ通定ム

教育關係思想問題研究會會則

第一條　本會ハ教職員、學生、生徒及青年團員等ノ教育關係者ヲ中心トスル思想問題ニ關スル研究調査ヲ行ヒ且之ニ基キ本縣教育關係者ノ思想運動對策ヲ講究ス

第二條　本會ハ會長一人副會長一人委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ知事、副會長ハ學務部長ヲ以テ之ニ充テ委員ハ關係官吏又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ知事之ヲ命シ又ハ委囑ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス
副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
會長副會長共ニ事故アルトキハ會長ノ指定シタル委員其ノ職務ヲ代理ス
第五條　本會ニ幹事若干人ヲ置キ知事之ヲ命シ又ハ委嘱ス
幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ事務ヲ整理ス
第六條　本會ニ顧問ヲ置クコトヲ得
顧問ハ知事之ヲ委嘱ス
第七條　委員會ハ會長ニ於テ必要ト認ムルトキ隨時之ヲ招集ス

●新潟縣國民精神文化講習所規程

昭和九年六月二十六日
新潟縣告示第六百八十號

新潟縣國民精神文化講習所規程左ノ通定ム

新潟縣國民精神文化講習所規程

第一條　本講習所ハ小學校、實業補習學校、中等學校ノ教職員、青少年團ノ指導者、青年訓練所職員其ノ他教育關係者ヲシテ國民精神文化ニ關スル研究ヲ爲サシメ且之ニ對シ日本精神ニ關スル研究的講習ヲ施シ又思想問題ニ關スル知識ヲ與ヘ以テ教育者トシテ必要ナル知識識見實力ヲ涵養セシムルヲ以テ目的トス
第二條　本講習所ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ
一　國民精神文化及思想問題ノ研究調査
一　國民精神文化講習會ノ開催
一　思想問題講習會ノ開催
一　座談會講習會資料展觀ノ開催
一　パンフレットノ刊行竝ニ配付
一　研究會、講習會ヘ講師派遣
第三條　本講習所ハ事務所ヲ新潟縣總學務課内ニ、研究室ヲ各師範學校内ニ置ク
第四條　本講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	一人
主事	二人
書記	若干人
研究室主任	三人
研究員	若干人
講師	若干人

本講習所ニハ必要ニ應ジ嘱託ヲ置クコトヲ得
第五條　所長ハ學務部長主事ハ學務課長及視學官ヲ以テ之ニ充ツ
書記ハ屬ノ中ヨリ知事之ヲ命ス
研究室主任ハ師範學校長ヲ以テ之ニ充ツ
研究員ハ國民精神文化研究所修了者公立中等學校修身公民科、哲學、國語、歷史科擔任教諭其ノ他所方面ニ造詣アル教育關係者中ヨリ知事之ヲ命シ又ハ委嘱ス
講師ハ國民精神文化研究所員、官公私立ノ大學、高等學校、專門學校ノ教職員、關係官吏、本講習所研究員其ノ他學識經驗アル者ノ中ヨリ知事之ヲ命シ又ハ委嘱ス
第六條　所長ハ所務ヲ總理ス
主事ハ所長ノ命ヲ承ケテ所務ヲ整理シ所長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

書記ハ所長主事ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス
研究室主任ハ研究室ヲ管理ス
研究員ハ研究調査ニ從事ス
講師ハ講習會ニ於テ講習員ノ指導ニ當ル

●新潟縣博物調査會規程

明治四十年五月三日
新潟縣告示第百六十一號

新潟縣博物調査會規程左ノ通リ定ム

新潟縣博物調査會規程

第一條　新潟縣博物調査會ハ縣知事ノ監督ニ屬シ本縣内ニ於ケル動物、植物及鑛物岩石ニ關スル事項ヲ調査ス
第二條　新潟縣博物調査會ハ會長一人委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス
第三條　會長及委員ハ本縣事務官縣郡立學校博物科擔任教員及斯學ニ經驗アル人ニ就キ縣知事之ヲ命ス
第四條　本會ハ主事一人主査委員三人ヲ置キ主事ハ縣知事主査委員ハ會長ニ於テ委員中ヨリ之ヲ命ス
第五條　會長ハ會務ヲ處理シ委員會ノ議長トナリ調査ノ結果ヲ縣知事ニ具申ス
會長事故アル時ハ主事其事務ヲ代理ス
主事及主査委員ハ會長ノ指揮ヲ受ケ調査ニ關スル庶務ヲ整理ス
第六條　本會ニ書記二人ヲ置キ會長之ヲ命ス
書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第十九章　諸規程及官制

●新潟縣勤儉奬勵地方委員會規程

大正十三年十一月一日
新潟縣告示第七百八十八號

改正　昭和三年二月告示第一五一號改正

新潟縣勤儉奬勵地方委員會規程左ノ通定ム

新潟縣勤儉奬勵地方委員會規程

第一條　勤儉ノ實ヲ擧クルニ付諸般ノ調査攻究竝實行ニ關スル事項ヲ協定及宣傳ノ爲縣廳内ニ新潟縣勤儉奬勵地方委員會ヲ置ク
第二條　新潟縣勤儉奬勵地方委員會ハ會長一名副會長二名委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス
第三條　會長ハ知事之ニ當リ會務ヲ統理ス副會長ハ委員中ヨリ知事之レヲ嘱託シ會長ヲ補佐ス
會長事故アルトキハ副會長ノ一人之ヲ代理ス
委員ハ學識經驗アル者及官吏員中ヨリ知事之ヲ嘱託シ又ハ之ヲ命ス
第四條　委員中ニ常任委員三名ヲ置ク常任委員ハ會長之ヲ委嘱ス
第五條　委員中ニ幹事六名ヲ置ク幹事ハ會長之ヲ委嘱ス
幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ委員ニ屬スル事務ヲ斡旋準備シ常任委員ト共ニ事務ノ打合セヲ爲シ其ノ進捗ヲ圖ルモノトス
第六條　常任委員及幹事ハ時々相會シ事務ノ打合ヲナス
第七條　常任委員ハ會長副會長ノ指揮ヲ受ケ調査宣傳及庶務ノ事務ヲ分掌シ會議ニ於テ議案ヲ說明シ報告及主管事務ニ關シ交涉ノ任ニ當ル
調査係ノ管掌事務左ノ如シ
一、貲澤品ノ輸入竝ニ消費ニ關スル統計調査
二、能率增進ニ關スル調査
三、其ノ他勤儉奬勵諸施設ニ關スル調査

宣傳係ノ管掌事務左ノ如シ

一、新聞雜誌ト連絡シテ宣傳ノ協力ヲ求ムル事務

二、勤儉奬勵ニ就イテノ册子作製頒布ニ關スル事務

三、勤儉奬勵ニ關スル講演會活動寫眞會ニ關スル事務

四、勤儉奬勵ニ關スルポスター標語竝ニ唱歌民謠ノ懸賞募集竝ニ之カ發表ニ關スル事務

五、汽車、電車、自動車及停車場學校寺院等適當ノ場所ニポスター揭示ニ關スル事務

六、劇場、活動寫眞館寄席等ニ於テ幕間ヲ利用シ幻燈其ノ他ノ方法ヲ以テ勤儉奬勵趣旨徹底ニ關スル事務

七、文書其ノ他ノ印刷物ニスタンプ其ノ他ノ方法ニ依リ成ルヘク勤儉奬勵ノ標語記入ニ關スル事務

八、勤儉週間設定ニ關スル事務

九、各學校生徒兒童ニ一層勤儉鼓吹ニ關スル事務

一〇、生活改善實施ニ關スル事務

一一、勤儉實行ニ關スル機關設置奬勵事務

一二、既設勤儉奬勵機關ト連絡ニ關スル事務

庶務係管掌事務左ノ如シ

一、庶務及會計ニ關スル事務

第八條　新潟縣勤儉奬勵委員會ニ書記ヲ置キ知事之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第九條　各市町村ニ本委員會ニ準シ新潟縣勤儉奬勵市町村委員會ヲ置クコトヲ得

會長ハ各市町村長ヲ以テ之ニ充ツ

第十條　新潟縣勤儉奬勵市町村委員會長ハ民心作興會又ハ既設勤儉奬勵團體ト連絡ヲ執リ委員竝ニ常任委員幹事ヲ委囑ス

第十一條　新潟縣勤儉奬勵委員會及新潟縣勤儉奬勵市町村委員會ハ常ニ相互ノ連絡ヲ保チテ其ノ成績ノ向上ヲ期スルモノトス

●東亞同文書院派遣生規程

明治三十五年二月二十八日
新潟縣令第十六號

追加　明治四一年三年縣令第一二號、四一年　月第二號、六正四年四月第二七號、八年三月第　號
一五年一二月第九九號改正

東亞同文書院派遣生規程左ノ通相定ム

東亞同文書院派遣生規程

第一條　東亞同文書院派遣生ハ東亞同文書院ニ就キ同院所定ノ學科課程ヲ履修スルモノトス

第二條　東亞同文書院派遣生ニハ縣費ヲ以テ學費、旅費ヲ支給ス

但旅費ハ入學及卒業歸朝ノ時ニ限リ支給ス

第三條　東亞同文書院派遣生ヘ左記各號ノ資格ヲ有スル者ニ就キ選拔ス

但シ志願者ノ數豫定人員ニ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行フ

一　從來本縣ニ本籍ヲ有スル者ニシテ公私立中學校又ハ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五箇年乃至高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三箇年ノ實業學校卒業者及專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者若ハ同規程第八條第一號ニ依リ一般專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スト指定セラレタル者

二　年齡滿二十五歲以下ニシテ身體强健、品行方正、志操堅固ニシテ派遣中家事ニ繫累ナク專心學業ニ從事シ得ヘキ者

第四條　東亞同文書院派遣生ノ募集手續及人員ハ其都度告示ス

第五條　東亞同文書院派遣生志願書ハ募集期日マテニ第一號書式ノ願書ニ第二號乃至第四號書式ノ學業履歷書、身體檢査書、學業成績書及戶籍吏ノ認證シタル戶籍謄本ヲ添ヘ市町村長ノ證明ヲ受ケ縣知事ニ差出スヘシ

第六條　東亞同文書院派遣生ニ選拔セラレタル者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ一週日間ニ第五號書式ニ依リ保證人二名連署シタル誓約書ヲ差出スヘシ

但時宜ニ依リ必要ヲ認ムルトキハ保證人ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　前條ノ保證人ハ左記各號ノ資格ヲ有スルコトヲ要ス

一　本縣下ニ住シ本籍ヲ有スル戶主ニシテ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子

二　曾テ破產若クハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケサル者

三　直接國稅年額拾圓以上ヲ納ムル者

第八條　保證人ニシテ死亡シ又ハ前條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ遲滯ナク代員ヲ定メ市町村長ノ證明ヲ受ケ關係者連署ノ上屆出ツヘシ

但本縣內ニ於ケル轉籍若クハ氏名改稱等ハ關係者ノ連署ヲ要セサルモ其都度本人ヨリ屆出ツヘシ

第九條　東亞同文書院派遣生在學中ハ遲滯ナク左記ノ報告ヲ爲スヘキモノトス

一　每學期學年ノ終ニ於テ試驗成績表及學期間修學ノ狀況

但試驗成績表ニハ院長ノ證明ヲ受クヘシ

二　〔清國〕ノ事情ニ關シ調査シタルコトアルトキハ其狀況

三　一ケ月以上疾病ノ爲メ入院治療ヲ受ケタルトキハ醫師ノ診斷書及病狀

四　特別ノ事情ニ依リ通學ヲ許可セラレタル場合ニ在リテハ其事由

第十條　東亞同文書院派遣生ハ卒業ノ日ヨリ向五ケ年間知事ノ命ニ從ヒ相當ノ事務又ハ職務ニ從事スルノ義務ヲ有ス

第十一條　留學生卒業後本縣ニ於テ直ニ就職セシムル必要ナキトキハ本縣ノ承認ヲ經テ他ニ就職スルコトヲ得但本縣ニ於テ就職ヲ指定シタルトキハ直ニ其ノ現職ヲ辭スルヲ要ス

前項ニ依リ他ニ就職ノ場合ニ於テ其職務及住居地身分等ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度縣知事ニ屆出ツヘシ

第十二條　卒業生ニシテ疾病其他ノ事故ニ依リ第十條ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ其狀ヲ具シ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第十三條　東亞同文書院派遣生及卒業生ハ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ學資ノ給與ヲ停止シ或ハ既ニ給與セル縣費ノ全部若クハ幾分ヲ償還セシム

一　自己ノ便宜ニ依リ退學スル者

二　同文書院章程ニ依リ退學ヲ命セラレタル者

三　卒業後謂レナク義務ヲ履ササル者

四　卒業生タル者ノ體面ヲ汚辱スル行爲アル者

第十四條　東亞同文書院派遣生ニシテ內地出發、渡航歸朝其他在學中旅行セントスルトキハ行先地及旅行日數ヲ定メ遲滯ナク屆出ツヘシ

書式第一號

留學生御採用願　用紙
美濃紙

某儀在〔清國〕東亞同文書院留學生志願ニ候間御採用被成下度別紙履歷書、體格檢查書、學業成績書、戶籍謄本相添ヘ此段奉願候也

縣郡市町村大字番戶
族籍某何男又ハ戶主　何　某㊞

年　月　日

明治年月日生
明治何年四月
當何年何ケ月

新潟縣知事氏名殿

前記何某ハ從來本縣ニ本籍ヲ定メ居住シ品行方正志操堅固ニシテ且ツ家事ニ繫累ナキモノニ相違無之依テ證明候也

年　月　日　　縣郡市町村長　何　　某印

書式第二號

履歷書　用紙　美濃紙

縣郡市町村大字番戶
族籍某何男又ハ戶主
何　　某
明治年月日生
明治何年四月
當何年何ケ月

一　住所　縣郡市町村
一　卒業證書　明治何年何月何日何學校卒業證書ヲ受ク　明治何年何月何日何學校何科卒業證書ヲ受ク
一　學業　明治何年何月ヨリ同何年何月迄何處何某ニ就キ何々科ヲ修メ同何年何月ヨリ何年何月マテ何處何某ニ就キ何科ヲ修ム　明治何年何月何々學校ニ入學シ何年何月卒業
一　職業

明治何年何月ヨリ何年何月マテ何業ニ從事シ又ハ何職ヲ奉ス

一　兵役　明治何年何月現役兵ニ徵募セラレ何師團何聯隊ヘ入營在役何年何月ニシテ退營現ニ豫備役タリ又ハ明治何年何月徵兵檢查ヲ受ケ何々ニ依リ（或ハ滿十七歲ニ達シ）第二國民兵ニ編入セラル
一　賞罰　明治何年何月何日何々ニ依リ何某ヨリ何賞ヲ受ク又ハ何罰ヲ受ク
以上
右之通相違無之候也

明治　年　月　日　　右　何　　某㊞

書式第三號

身體檢查書　用紙　美濃紙

新潟縣士族（平民）
何　　某
明治年月日生

一　體格
一　身長
一　體重
一　胸圍　盈虛ノ差
一　中心視力
一　色盲
一　眼病
一　聽力　耳疾
一　呼吸器
一　神經系
一　皮膚
一　言語
一　既往現在ノ疾病又ハ畸形
一　四肢運動障害ノ有無

右相違無之候也

年　月　日　檢查

住所
何學校醫　何　　某㊞

書式第四號

學業成績書　用紙　美濃紙　新潟縣士族（平民）

何　　某
明治年月日生

一　明治何年何月入學
一　一學年試業成績平均點　、、
　　席次何十名ノ內何番
一　二學年試業成績平均點　、、
　　席次何十名ノ內何番
一　三學年試業成績平均點　、、
　　席次何十名ノ內何番
一　四學年試業成績平均點　、、
　　席次何十名ノ內何番
一　五學年試業成績平均點　、、

第十九章　諸規程及官制

席次何十名ノ內何番

右之通候也

年　月　日　　何々學校長　何　　某印

書式第五號

印紙貳錢

誓約書　用紙　美濃紙

某儀在清國（東亞同文書院何科縣費留學生トシテ御採用被成下候ニ付テハ御規則堅ク相守リ可申ハ勿論卒業ノ日ヨリ五ケ年間御命令ノ職務ニ從事可仕且ツ給費償還ヲ要スル場合ハ無遲滯返納シ萬一自分ニ於テ返納難致トキハ保證人ニ於テ屹度辨納可致其他自分一身上ニ關シテハ一切保證人ニ於テ引受可申依テ雙方連署誓約候也

明治　年　月　日

新潟縣郡市町村大字番戶
族籍某何男又ハ戶主
職業　　本人　何　　某㊞
明治年月日生

保證人　何　　某㊞
明治年月日生

新潟縣知事氏名殿

前記保證人誰某ハ現ニ當市町村ニ居住シ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子ニシテ直接國稅年額金何圓ヲ納メ本文保證人タルノ資格ヲ有シ其責ニ任シ得ルモノト認ム依テ證明候也

年　月　日　　縣郡市町村長　何　　某㊞

●哈爾濱學院派遣生規程

新潟縣令第四十四號（大正九年六月二十五日）

哈爾濱學院派遣生規程左ノ通リ相定ム

哈爾濱學院派遣生規程

第一條　哈爾濱學院派遣生ハ哈爾濱學院ニ就キ同校所定ノ學科課程ヲ履修スルモノトス

第二條　哈爾濱學院派遣生ニハ縣費ヲ以テ學費及旅費ヲ支給ス但旅費ハ入學及卒業歸朝ノ時ニ限リ支給スルモノトス

第三條　哈爾濱學院派遣生ハ左記各號ノ資格ヲ有スル者ニ就キ選拔ス但志願者ノ數豫定人員ヲ超過シ順位判定シ難キトキハ選拔試驗ヲ行フ

一、從來本縣ニ本籍ヲ有スル者ニシテ中學校又ハ甲種商業學校卒業ノ者專門學校入學者檢定規定ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者若クハ同規程第八條第一號ノ指定ヲ受ケタル者

二、年齡滿二十五歲以下ノ男子ニシテ身體强健品行方正志操堅固ニシテ派遣中家事ニ繫累ナク專心學業ニ從事シ得ヘキ者

第四條　哈爾濱學院派遣生ノ募集ニ關シテハ其都度告示ス

第五條　哈爾濱學院派遣生志願者ハ第一號書式ノ願書ニ第二號及第三號書式ノ履歷書身體檢查書及戶籍謄本ヲ添ヘ出身學校長ニ差出スヘシ出身學校長ハ募集期日マテニ之ニ第四號書式ノ學業成績書ヲ添ヘ知事ニ差出スヘシ

第六條　哈爾濱學院派遣生ニ選拔セラレタル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一週間內ニ第五號書式ニ依リ保證人二名連署シタル誓約書ヲ差出スヘシ但時宜ニ依リ必要ヲ認ムルトキハ保證人ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　前條ノ保證人ハ左記各號ノ資格ヲ有スルコトヲ要ス

一、本縣ニ本籍ヲ有シ本縣下ニ住スル戶主ニシテ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子

二、曾テ破產若クハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナキ者

三、直接國稅年額拾圓以上ヲ納ムル者

第八條　保證人ニシテ死亡シ又ハ前條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ遲滯ナク代員ヲ定メ市町村長ノ證明ヲ受ケ關係者連署ノ上屆出ツヘシ但本縣內ニ於ケル轉籍若クハ氏名改稱等ハ關係者ノ連署ヲ要セサルモ其ノ都度本人ヨリ屆出ツヘシ

第九條　哈爾濱學院在學中ハ遲滯ナク左記ノ報告ヲナスヘキモノトス

一、每學期、學年ノ終リニ於テ試驗成績表及學期間修學ノ狀況、但試驗成績表ニハ學校長ノ證明ヲ受クヘシ

二、一ケ月以上疾病ノ爲メ入院治療ヲ受ケタルトキハ醫師ノ診斷書及病狀

三、哈爾濱地方ノ事情ニ關シ調查シタルコトアルトキハ其狀況

四、特別ノ事情ニ依リ通學ヲ許可セラレタル場合ニアリテハ其ノ事由

第十條　哈爾濱學院派遣生ハ卒業ノ日ヨリ向フ三箇年間知事ノ命ニ從ヒ相當ノ職務ニ從事スルノ義務ヲ有ス

第十一條　哈爾濱學院派遣生卒業後本縣ニ於テ直チニ就職セシムル必要ナキトキハ本縣ノ承認ヲ經テ他ニ就職スルコトヲ得但服務義務年限中本縣ニ於テ就職ヲ指定シタルトキハ其ノ現職ヲ辭スルヲ要ス

前項ニ依リ他ニ就職ノ場合ニ於テ其ノ職務及住居地身分等ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度速ニ知事ニ屆出ツヘシ

第十二條　哈爾濱學院卒業生ニシテ疾病其他ノ事故ニ依リ第十條ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第十三條　哈爾濱學院派遣生及卒業生ハ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ學費ノ給與ヲ停止シ或ハ既ニ給與セル學費ノ全部若クハ一部ヲ償還セシムル

一、自己ノ便宜ニ依リ退學スル者

二、哈爾濱學院規則ニ依リ退學ヲ命セラレタル者

三、卒業後故ナクシテ義務ヲ盡ササル者

四、卒業生タルノ體面ヲ汚辱スルノ行爲アル者

第十四條　哈爾濱學院派遣生ニシテ內地出發渡航歸朝其他在學中旅行セントスルトキハ其ノ行先地及旅行日數ヲ定メ遲滯ナク屆出ツヘシ

書式第一號

派遣生採用願（用紙美濃紙）

某儀在哈爾濱哈爾濱學院派遣生志願ニ付御採用被成下度別紙履歷書身體檢查書學業成績書戶籍謄本相添へ此段相願候也

年　月　日

新潟縣郡市町村大字番地（戶）

族籍　某何男又ハ戶主　何　某㊞

年月日生

新潟縣知事氏名殿

前記何某ハ從來本縣ニ本籍ヲ有シ且ツ居住シ品行方正志操堅固ニシテ家事ニ繫累ナキモノニ相違無之依テ證明候也

年　月　日

新潟縣郡市町村長　何　某㊞

書式第二號

履歷書（用紙美濃紙）

一、學業

何年何月ヨリ何年何月マテ何地何學校ニ入リ何學科修業

何年何月何地何學校ニ入リ何年何月卒業

一、職業

何年何月何官職ニ就ク若クハ何業ニ從事ス

何年何月退官廢業若クハ現今在職從事等

一、兵役

來ル何年徵兵適齡又ハ何年何月ヨリ何年何月マテ陸軍現役ニ服ス或ハ何年何月何地ニ於テ徵兵檢查ヲ受ケ何々ニ付國民軍ニ編入セラル等

一、賞罰

何年何月何々ノ廉ニヨリ何々ヨリ何賞罰ヲ受ク等

右之通リ相違無之候也

年　月　日

何　某㊞

書式第三號

身體檢查書（用紙美濃紙）

何　某

何歲何月

一、體　格

一、身　長

一、體　重
一、胸　圍
　盈虛ノ差
一、中心視力
　色　盲
　眼　疾
一、聽　力
　耳　疾
一、呼　吸　器
一、神　經　系
一、皮　膚
一、言　語
一、既往現在ノ疾病又ハ畸形
一、四肢運動障害ノ有無
右相違無之候也
年　月　日檢査
住所
何々學校醫　何　某㊞

書式第四號
學業成績書
族籍
何　某
年月日生

修身	國語	漢文	何々	何々	何々	何々	、、	、、	、、	席次	何人中 何番	備考

第一年學	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年

前書之通リ相違無之候也
年　月　日
何々學校長　何　某㊞

書式第五號
誓約書（用紙 美濃紙）
某儀在哈爾濱哈爾濱學院本科縣費派遣生トシテ御採用被成下候ニ付テハ御規則堅ク相守リ可申ハ勿論卒業ノ日ヨリ參箇年御命令ノ職務ニ從事可仕但給費償還ヲ要スル場合ハ無遲滯返納シ萬一自分ニ於テ返納難致トキハ保證人ニ於テ屹度辨納可致其他自分一身上ニ關シテハ一切保證人ニ於テ引受ケ可申依テ雙方連署誓約候也
年　月　日
新潟縣郡市町村大字番地（戸）
族籍　某何男又ハ戸主
本人　何　某㊞
年月日生
新潟縣郡市町村大字番地（戸）
族籍　戸主
職業

保證人　何　某㊞
年月日生
、、、、、、、、、、、、、
、、、、
、、
保證人　何　某㊞
年月日生
新潟縣知事氏名殿
前記保證人誰某ハ現ニ當市町村ニ居住シ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子ニシテ直接國稅年額何圓ヲ納メ本文保證人タルノ資格ヲ有シ其ノ責ニ任シ得ルモノト認ム依テ證明候也
年　月　日
縣郡市町村長　何　某㊞

●普通試驗令

大正七年一月十八日
勅令第八號

地方　昭和一一年二月勅令第一五號改正

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ普通試驗令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

普通試驗令

第一條　特別ノ規程アルモノヲ除クノ外判任文官ノ任用資格試驗ハ普通試驗ト稱シ本令ニ依リ之ヲ行フ

第二條　普通試驗ハ各官廳ノ須要ニ應シ其ノ廳ノ普通試驗委員之ヲ行フ其ノ期日及場所ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告シ東京以外ノ地ニ於テ行フ試驗ニ在リテハ尙其ノ地方ノ新聞紙ニ公告ス

第三條　普通試驗ヲ受ケムトスル者ハ手數科トシテ二圓ヲ納ムヘシ

第四條　普通試驗ハ中學校ノ學科目中五科目以上ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ外各官廳所掌ノ事務ヲ斟酌シ別ニ科目ヲ加フルコトヲ得

前二項ノ科目ハ普通試驗委員之ヲ定メ高等試驗委員ノ承認ヲ經ヘシ

第五條　高等試驗令第三條及第十九條乃至第二十一條ノ規定ハ普通試驗ニ之ヲ準用ス

第六條　普通試驗ニ關スル細則ハ普通試驗委員之ヲ定メ高等試驗委員ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ大正七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前文官普通試驗ノ期日及場所ヲ公告シタルモノニ付テハ其ノ試驗ハ仍從前ノ例ニ依ル

●新潟縣普通試驗細則

大正十三年九月十二日
新潟縣告示第六百七十八號

新潟縣普通試驗細則左ノ通改正ノ旨普通試驗委員長ヨリ報告アリタルニ依リ明治四十年告示第三十七號新潟縣文官普通試驗細則ハ之ヲ廢止ス

新潟縣普通試驗細則

第一條　試驗ヲ分チテ筆記及口述トス筆記試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第二條　筆記試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一　修身
二　國語及漢文
三　算術（筆算及珠算）
四　地理（日本及外國）

五　歷史（日本外國近世史）
六　經濟大意
七　憲法
八　行政法
以上ノ科目ハ必須トス
九　民法（總則）
十　刑法
以上ノ科目ハ受驗者ヲシテ豫メ其ノ一ヲ選擇セシム

第三條　試驗ノ期日、場所及科目等ハ豫メ官報、新潟縣公報及本縣下ニ於テ發行スル二種以上ノ新聞紙ニ之ヲ公告ス

第四條　試驗ヲ受ケムトスル者ハ別紙書式ニ依リ受驗願書ニ履歷書、戶籍抄本、高等試驗令第三條ノ各號ニ關スル市町村長ノ證明書（現ニ官公署ニ奉職スル者ニ在リテハ所屬長官ノ許可書）及最近撮影ノ寫眞ヲ添ヘ試驗委員長ニ差出スヘシ

第五條　受驗手數料ハ收入印紙ヲ用ヰ受驗願書ニ貼付スヘシ
受驗手數料ハ試驗ヲ受ケサルコトアルモ之ヲ還付セス

第六條　受驗願書及添付書類ハ之ヲ還付セス

第七條　試驗委員長ハ受驗者名簿ヲ調製シ各受驗者ノ番號ヲ定メテ之ヲ記入スルモノトス
受驗者ハ試驗前日午後四時迄ニ當廳ニ出頭シ試驗係員ニ就キ前項各自ノ受驗番號ヲ承合スルト共ニ受驗ニ關シ必要ナル指示ヲ受クヘシ

第八條　受驗者所定ノ日時ニ試驗場ヘ出席セス又ハ試驗半途ニテ休止シタルトキハ其ノ期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第九條　筆記試驗ハ受驗者總員ヲ一室又ハ數室ニ入場セシメ試驗委員監視シテ之ヲ行フ

第十條　口述試驗ハ試驗委員二人以上列席シ受驗者一人毎ニ之ヲ行フ

第十一條　受驗者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ
一　試驗ニ關スル規定其ノ他試驗係員ノ指示ニ違フヘカラサルコト
二　各試驗開始定刻十分前迄ニ受驗者控所ヘ參集スルコト
三　試驗時間中ハ各自　受驗番號ニ該當スル机席ニ著キ猥リニ自席ヲ離ルヘカラサルコト
四　試驗室內ニ在リテハ靜肅ヲ旨トシ互ニ言語ヲ交フヘカラサルコト
五　試驗問題ノ意義ニ就キ質問スヘカラサルコト
六　答案ハ楷書又ハ行書ヲ以テ明瞭ニ記載スルコト
七　答案ニハ一葉毎ニ各自ノ受驗番號ヲ記シ其ノ氏名ヲ記スヘカラサルコト
八　試驗室內ニハ毛筆、鉛筆、算盤、墨、硯、墨汁、ペン、インキ、小刀ノ外一切携帶セサルコト
九　試驗室ノ出入ハ試驗係員ノ指揮ニ從フコト
十　和服ノトキハ袴ヲ著用スルコト

第十二條　前條各號ノ一ニ違背シ其ノ他不都合ノ行爲アリタルトキハ受驗ヲ禁止スルコトアルヘシ

第十三條　試驗委員試驗ノ成績ヲ査定シタルトキハ之ヲ試驗委員長ニ報告スヘシ其ノ期限ハ試驗委員長ノ定ムル所ニ依ルモノトス

第十四條　試驗委員長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ試驗委員ノ會議ニ付シ合格者ヲ定ム

第十五條　筆記試驗合格者ノ番號ハ之ヲ當廳內ニ揭示ス

第十六條　試驗合格者ニハ合格證書ヲ付與シ其ノ氏名ハ官報及新潟縣公報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十七條　本細則ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ其ノ都度試驗委員長之ヲ定ム

書式

受驗願（用紙美濃判紙）

貳圓收入印紙

本籍
現住所　　氏　　名
生年月日

選擇科目　何々

私儀今般貴縣ニ於テ施行ノ普通試驗相受度候ニ付別紙履歷書、戶籍抄本、證明書、寫眞（受驗許可書）相添此段相願候也

年　月　日

氏　　名㊞

新潟縣普通試驗委員長　氏　名殿

履歷書（用紙美濃判紙）

本籍
現住所　　氏　　名
族籍
生年月日

一　學　事
何年何月何地官公私立何學校ニ入學何年何月卒業
何々

一　職　業
何年何月何官拜命何年何月轉官、退官何年何月何地何會社又ハ何某ニ雇ハレ何々ノ業務ニ從事シ何年何月解雇又ハ辭職

第十九章　諸規程及官制

何々

一　賞　罰
何年何月何地ニ於テ何々事由ノ爲メ賞ヲ受ク
何年何月何地ニ於テ何々事由ノ爲メ罰ヲ受ク
右之通相違無之候也

年　月　日

氏　　名㊞

合格證書　第　　號

府縣族籍
氏　　名
生年月

本廳ニ於テ施行ノ普通試驗ニ合格シタルコトヲ證ス

年　月　日

新潟縣普通試驗委員長　位勳　氏　　名㊞

●鑑病豫防講習規程

大正七年十二月六日
新潟縣告示第五百七十一號

鑑病豫防講習規程左ノ通定ム

鑑病豫防講習規程

第一條　鑑病ニ關スル學理及技術ノ一斑ヲ講習スル爲鑑病豫防講習會ヲ開設ス

第二條　鑑病豫防講習會ノ開設場所及講習期間ハ其ノ都度之ヲ告示ス

第三條　講習生志願者ハ左ノ資格ヲ有スル者タルヘシ
一　滿十六歲以上ノ女子ニシテ高等小學卒業若クハ之ト同等以上ノ學力

ヲ有スル者

二　品行方正ニシテ身體强健殊ニ視力完全ナル者

第四條　講習生ノ費用ハ自辨トス但シ講習料ヲ徵セス

第五條　講習科目左ノ如シ

畫業汎論、養蠶法、蠶體生理、蠶體病理、蠶病消毒法、蠶絲業法規、顯微鏡使用法、微粒子檢査實習

第六條　講習終了シタルトキハ試驗ノ上合格シタル者ニ修業證ヲ授與ス

第七條　講習志願ノ者ハ左記樣式ニ據ル講習願書ニ履歷書ヲ添ヘ願出ツヘシ

蠶病豫防講習願

某儀蠶病豫防講習生志願ニ付御許可相成度此段相願候也

年　月　日　　縣郡市町村字　　何　　某㊞

知事　宛

履歷書

住所

氏名㊞

生年月日

一　何年何月何學校卒業

一　何年何月ヨリ何年何月マテ何某ニ就キ何々ヲ修ム

一　何年何月ヨリ何年何月迄何々ニ就業

一　何年何月何々ノ廉ニ依リ何賞ヲ受ク又ハ何々ノ罰ヲ受ク

●新潟縣水產試驗場講習規程

大正十年一月二十八日
新潟縣告示第八十一號

新潟縣水產試驗場講習規程左ノ通相定ム

新潟縣水產試驗場講習規程

第一條　新潟縣水產試驗場ハ本規程ニ依リ水產ニ關スル技術及學理ノ講習ヲ爲ス

第二條　講習ノ科目、期間、人員等ハ募集ノ都度之ヲ定メ公示ス

第三條　講習生ハ次ノ資格ヲ有スル者ニ限ル但シ課目ノ種類ニヨリ更ニ資格ヲ限定スルコトアルヘシ

一、年齡滿十六歲以上ニシテ一ケ年以上本縣內ニ在住スル者

二、普通假名交リ文ヲ綴リ得ル者

三、身體强健ニシテ品行方正ナル者

第四條　講習料其ノ他講習ニ要スル費用ハ之ヲ徵收セス

第五條　講習生ニ對シテハ手當金ヲ給與スルコトアルヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ豫メ之ヲ公示ス

第六條　講習生各自ニ要スル費用ハ總テ自辨トス

第七條　講習志願者ハ募集ノ都度指定セル期日迄ニ到達スル樣願書（第一號樣式）ニ履歷書、第二號樣式）ヲ添ヘ所轄町村役場及郡市役所ヲ經テ場長ニ差出スヘシ

第八條　講習志願者募集豫定人員ニ超過シタルトキ又ハ資格審查ノ結果不適當ト認メタルトキハ入場ヲ許ササルコトアルヘシ

第九條　講習生入場ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ保證書（第三號樣式）ヲ提出スヘシ

第十條　講習生ハ已ムヲ得サルニ非サレハ中途退場スルコトヲ得ス

第十一條　疾病怠惰又ハ品行不良ニシテ成業ノ見込ナキ者ハ退場セシムルコトアルヘシ

第十二條　第六條ノ手當金ヲ受ケタル者ニシテ前條ニ依リ退場ヲ命セラレタルトキハ既ニ受ケタル手當金ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトアルヘシ

第十三條　講習終了シテ其ノ成績善良ナル者ニハ修業證書ヲ授與ス

第十四條　本規程施行ニ關スル細則及心得ハ場長之ヲ定ム

附　則

第十五條　本規定ハ大正十年二月一日ヨリ施行ス

第十六條　明治三十六年三月六日告示第十六號本場傳習規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

新潟縣水產試驗場講習規程ニ依ル樣式

第一號樣式（用紙半紙）

講習願書

私儀貴場講習規程ニ依リ講習生トシテ入場致度候ニ付御許可相成度別紙履歷書相添ヘ此段相願候也

年　月　日

現住所　職業　族籍（戶主又ハ戶主トノ續柄）　何　某印

生年月日

新潟縣水產試驗場長何某殿

第二號樣式（用紙半紙）

履歷書

本籍地

第十九章　諸規程及官制

一、何年何月何學校卒業

一、何々

職業

一、何年何月ヨリ何年何月迄何業ニ從事ス

一、何々

賞罰

一、何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ賞ヲ受ク

一、何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ罰ヲ受ク

右之通相違無之候也

年　月　日

現住所　職業　族籍（戶主又ハ戶主トノ續柄）　何　某印

生年月日

新潟縣水產試驗場長何某殿

第三號樣式（用紙半紙）

保證書

講習生　何　某

右者今般貴場講習生トシテ入場御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク爲相守可申且講習中本人ニ係ル一切ノ事件ハ保證人ニ於テ引受可申此段保證候也

年　月　日

現住所　職業　族籍（講習生トノ關係）　保證人　何　某印

新潟縣水產試驗場長何某殿

●新潟縣産業組合講習所規程

昭和三年二月十四日
新潟縣告示第百二十號

追加　昭和四年三月縣令第一一七號改正

新潟縣産業組合講習所規程左ノ通定ム

新潟縣産業組合講習所規程

第一條　本所ハ産業組合及農業倉庫ニ關スル知識技能ヲ授クルヲ以テ目的トス

第二條　講習期間ハ其ノ都度之ヲ定ム

第三條　講習科目左ノ如シ

一　法制經濟大意
一　産業組合概論、同法規、同經營、同簿記、同諸屆手續、同監査方法
一　農業倉庫概論、同法規、同經營、同諸屆手續、同帳簿記載方法
一　指導聯絡機關及各種聯合會
一　金融取引竝保險
一　米穀ノ調製、貯藏及檢査
一　肥料及釀造物ノ簡易鑑定
一　實務練習
一　科外講演（産業一般）

第四條　入所ヲ許可スヘキ者ハ品行方正身體强健ナル年齢十八歳以上ノ者ニシテ高等小學校第二學年修了又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ現ニ産業組合又ハ農業倉庫ノ實務ニ從事シ若ハ修了後直ニ該事務ニ從事シ得ル見込確實ニシテ産業組合中央會新潟支會長ノ推薦シタル者タルコトヲ要ス

第五條　講習生ノ定員ハ三十名トス

入所志願者前項ノ定數ヲ超過シタルトキハ銓衡ノ上入所者ヲ定ム

第六條　入所志願者ハ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ履歴書ヲ添ヘ産業組合中央會新潟支會長ノ推薦ヲ得テ四月十日迄ニ提出スヘシ

第七條　講習生ニシテ不都合ノ行爲アリタルトキ又ハ成業ノ見込ナシト認メタルトキハ退所セシムルコトアルヘシ

第八條　講習生ニハ學資補給トシテ講習期間中三十圓以内ヲ支給ス但シ自宅ヨリ通學スル者ニハ減額スルコトアルヘシ

第九條　中途退所セル者ニハ補給金ノ一部又ハ全部ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第十條　講習期間末ニ於テ各科目ノ試驗ヲ行ヒ合格ト認定シタル者ニハ修了證書ヲ授與ス

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式（用紙半紙）

入所願

私儀貴所ヘ入所志願ニ付御許可相成度別紙履歴書相添此段及御願候也

年　月　日

住　所
職業何某何男（弟）等　氏　名

新潟縣産業組合講習所長殿

第二號書式（用紙半紙）

履歴書

本　籍
住　所　氏　名
生年月日

學　業

一　何年何月ヨリ何年何月迄何地公（私）立學校ニ於テ何々修業又ハ卒業（證書又ハ證明書別紙通）
一　何年何月ヨリ何年何月迄何々
賞　罰
一　何年何月何々ニ於テ何々ヨリ賞或ハ罰ヲ受ク
家　業（又ハ就職）
一　家業（又ハ就職）何々

右之通相違無之候也

年　月　日

右　　氏　　名印

●新潟縣農事試驗場農業技術員養成規程

大正十年二月十五日
新潟縣告示第百十六號

追加　大正一三年二月告示第七一號、昭和六年一月第六七號改正

大正八年新潟縣告示第九十五號新潟縣農事試驗場農業技術員養成規程左ノ通改正ス

新潟縣農事試驗場農業技術員養成規程

第一條　新潟縣農事試驗場ハ本規程ニヨリ農業技術員ヲ養成ス

第二條　修業年限ハ一ケ年トシ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第三條　定員ハ三十名トシ内十名ハ自費生トス但シ時宜ニ依リ增減スルコトアルヘシ

第四條　修業科目左ノ如シ

一、修　身
二、農業經濟及農政
三、作　物
四、育　種
五、園　藝
六、肥料及肥料取締法
七、土　壤
八、害蟲及植物病理
九、農　具
十、氣　象
十一、農會經營
十二、町村行政
十三、農事調査及統計
十四、産業組合農業倉庫及農産物取引場
十五、副　業
十六、穀物檢査
十七、數　育
十八、林學、畜産、養蠶及耕地整理ニ關スル重要事項
十九、實　習
二十、其ノ他必要ナル事項

第五條　入場ヲ許可スヘキ者ハ本縣ニ住所ヲ有シ品行方正思想堅實ナル男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ且入場試驗ニ合格シタル者トス

一　尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五箇年ノ農學校又ハ之ト同等以上ノ農學校ヲ卒業シ當該學校長ノ推薦ニ係ル者但シ

現ニ學校在學者ニシテ其ノ年ノ三月三十一日迄ニ前記ノ資格ヲ得ル見込ノ者ハ當該學校長ノ卒業見込證明書ヲ添附出願スル事ヲ得

二　實業學校卒業程度檢定規程ニ依リ農業科ノ試驗檢定ニ合格セル年齡滿十八年以上ノ者ニシテ郡市農會長ノ推薦ニ係ル者

三　前各號ト同等以上ノ學力及實地經驗ヲ有スル年齡滿十八年以上ノ者ニシテ郡市農會長ノ推薦ニ係ル者

第六條　入場志願者ハ第一號樣式ニ據ル願書ニ自筆履歷書、戶籍謄本竝出身學校長又ハ郡市農會長ノ推薦書ヲ添ヘ其ノ年ノ二月末日迄ニ農事試驗場長宛提出スヘシ

第七條　入場試驗ハ學科試驗、口頭試問及身體檢查トシ學科試驗ハ國語、數學、農學ノ三科目ニツキ之ヲ行フ但シ第五條第三號該當者ニ對シテハ前記ノ外更ニ農業學校規程ニ據ル學科目中數科目ヲ選定シ試驗ヲ行フモノトス

第七條ノ二　前條ノ試驗學科目竝施行期日ハ每年一月生徒募集ノ都度之ヲ公示ス

第八條　入場許可ヲ得タル者ハ保證人ヲ定メ第二號樣式ニ據ル保證書ヲ差出スヘシ

第九條　保證人ハ本縣內ニ居住シ成年以上ノ男子ニシテ一戶ヲ構ヘ保證ノ責ニ任シ得ヘキ者ナルヲ要ス

第十條　技術生ニハ一人ニ對シ月額拾圓ノ手當ヲ給ス但シ自費生ハ此限ニアラス

第十一條　手當支給ヲ受ケタル者ハ學業修得後滿一箇年以上本縣內農業技術員タルノ義務ヲ負フモノトス

第十二條　修業中成業ノ見込ナキ者ハ退場ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條　疾病其他ノ事項ニヨリ退場セムトスル時ハ其事由ヲ具シ保證人連署ノ上場長ニ出願スヘシ但シ疾病ノ場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スルヲ要ス

第十四條　手當支給者ニシテ前二條ニヨリ退場シタルモノハ其支給金額ノ全部返納セシム但シ特別ノ事情アルモノハ此限ニアラス

第十五條　缺席二十日以上ニ及フ時ハ休學ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條　休學中ハ手當ノ支給ヲ停止スルモノトス

第十七條　入場許可ヲ得タルモノハ本場所定ノ寄宿舍ニ寄宿スルモノトス但シ特別ノ事情アルモノニ限リ場長ノ許可ヲ得テ外泊スルコトヲ得

第十八條　入場者ニシテ所定ノ科目ヲ修得シタル時ハ第三號樣式ニヨル修得證ヲ授與ス

第十九條　前各條ノ外農事技術員養成ニ關シ必要ナル事項ハ農事試驗場長別ニ之ヲ定ム

附　則

本規程第十條ノ手當ハ大正十年度ヨリ支給ス

第一號樣式　（用紙半紙）

入場願

私儀

本縣內ニ於テ農業技術員志望ニ付貴場農業技術員養成部（給費生又ハ自費生）ニ入場ノ儀御許可相成度別紙履歷書戶籍謄本竝學校長（郡市農會長）ノ推薦書相添ヘ此段相願候也

年　月　日

本　籍
現住所
族　籍（戶主又ハ戶主トノ關係）
何　某印

場　長　宛

第二號樣式　（用紙半紙）

保證書

本　籍
現住所
族　籍（戶主又ハ戶主トノ關係）
何　某㊞　生年月日

右者今般貴場農業技術員養成部（給費生又ハ自費生）ニ入場御許可相成候ニ就テハ御規定確ク爲相守可申且修業中本人ニ係ル一切ノ事件ハ擔者ニ於テ引受可申候

右保證候也

年　月　日

現住所
保證人　何　某㊞

場　長　宛

第三號樣式

修得證

何　某

右者本場所定ノ農業技術員養成科目ヲ修得セリ仍テ之ヲ證ス

年　月　日

新潟縣農事試驗場長　何　某印

●新潟縣蠶業試驗場講習規程

昭和七年二月二十六日
新潟縣告示第二百七十三號

新潟縣蠶業試驗場講習規程左ノ通相定ム

新潟縣蠶業試驗場講習規程

第一章　總則

第一條　新潟縣蠶業試驗場ハ本規程ニ依リ蠶業ニ關スル必須ナル學理及技術ノ講習ヲ行フ

第二條　講習ハ之ヲ分チテ左ノ二科トス

一　講習科　蠶業ニ從事スヘキ者ノ養成

二　補習科　蠶業技術員タルヘキ者ノ養成

第三條　講習期間ハ講習科、補習科各一箇年トス

第四條　入場セシムヘキ講習生ノ員數ハ其ノ都度之ヲ公告ス

第五條　講習生ノ學資ハ自辨トス但シ講習料ハ之ヲ徵セス

第六條　講習生ハ總テ本場寄宿舍ニ入舍セシムルモノトス但シ本場ノ都合ニ依リ外宿セシムルコトアルヘシ

第二章　講習課程

第七條　講習課程左ノ如シ

一　講習科

學科　養蠶法、桑樹栽培法、蠶體生理解剖、蠶體病理、蠶種論、顯微鏡使用法、土壤肥料、農業大意、修身科

實習　桑樹栽培、春蠶飼育、夏秋蠶飼育、蠶病消毒、蠶體解剖、蠶種製造、蠶具製造、顯微鏡使用法

二　補習科

學科　養蠶法、桑樹栽培法、蠶體生理解剖、蠶體病理、蠶種論、顯微鏡使用法、蠶桑審査法、製絲論、蠶業經營論、農業大意、農蠶業關係法規、修身科

實習　桑樹栽培、春蠶飼育、夏秋蠶飼育、蠶病消毒、蠶體解剖、蠶種製造、蠶具製造、蠶桑審査

第三章　講習及休日

第八條　講習ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第九條　休日ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ實習其ノ他ノ都合ニ依リ休日ヲ廢止シ臨時休業ヲ爲スコトアルヘシ

一　日曜日

二　大祭祀日

三　冬期休業（自十二月二十五日至翌年一月十日）

第四章　募集及入場

第十條　入場志願者ハ品行方正、志操堅實、身體强健ニシテ左ノ資格ヲ具備スルヲ要ス

一　講習科ニ在リテハ滿十六歳以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルコト

（一）尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トセル修業年限三箇年以上ノ實業學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

（二）高等小學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

二　補習科ニ在リテハ滿十七歳以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルコト

（一）本場講習科又ハ本縣農事講習所講習科ヲ卒業シタル者

（二）高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トセル修業年限三箇年以上ノ實業學校卒業者又ハ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トセル修業年限三箇年以上力ヲ有スル者ニシテ更ニ二箇年以上養蠶業ニ從事シタル者

第十一條　入場志願者ハ毎年三月二十日迄ニ入場願書（第一號樣式）ニ履歷書（第二號樣式）竝戸籍抄本ヲ添ヘ本場ニ差出スヘシ

第十二條　入學志願者ニ對シテハ左ノ科目ニ付試驗ヲ行フ

一　講習科　算術、作文、養蠶法、口頭試問

二　補習科　算術、作文、養蠶法、口頭試問

講習科卒業者ニシテ補習科ニ入ラムトスル者ニ對シテハ試驗ヲ行ハサルコトアルヘシ

第十三條　入場試驗ノ場所及期日ハ其ノ都度之ヲ公告ス

第十四條　入場ノ許可ヲ受ケタル者ハ保證人ヲ定メ十日以内ニ誓書（第三號樣式）ヲ差出スヘシ

第十五條　保證人ハ本縣内ニ住所ヲ有スル親權者、後見人又ハ公民權ヲ有スル者ニシテ場長ノ指示ニ從ヒ一切ノ責任ヲ負フニ足ルヘキ者タルヲ要ス

第十六條　場長ニ於テ保證人ヲ不適當ト認ムルトキハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ

保證人死亡其ノ他ノ事情ニ依リ變更ノ必要ヲ生シタルトキハ更ニ保證人ヲ定ムヘシ

前二項ニ該當スル場合ハ第十四條ノ誓書ヲ十日以内ニ差出スヘシ

第五章　試驗及卒業

第十七條　試驗ヲ分チテ卒業試驗及臨時試驗ノ二種トシ卒業試驗ハ講習年度末ニ之ヲ行ヒ臨時試驗ハ隨時之ヲ行フ

第十八條　疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ依リ屆出ノ上試驗ニ缺席シタルモノハ願ニ依リ特ニ試驗ヲ行フコトアルヘシ

第十九條　講習課程ヲ終了シ卒業試驗ニ合格シタル者ニハ卒業證書（第四號樣式）ヲ授與ス

第二十條　在場中品行方正、學術優等ナル者ニハ賞狀ヲ授與ス

第六章　懲戒及退場

第二十一條　場長ハ講習生ニシテ其ノ本分ヲ失シ不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ左ノ懲戒處分ヲ行フコトヲ得

一　謹愼　一　停學　一　退場

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退場ヲ命ス

一　性行不良若ハ身體虛弱ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

二　學術劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三　正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者又ハ出席常ナラサル者

第七章　手當及義務

第二十三條　補習科生ニハ手當ヲ支給スルコトアルヘシ

第二十四條　手當ノ支給ヲ受ケタル者ハ卒業後二箇年以上本縣内ニ於テ蠶業技術員タル義務ヲ負フモノトス但シ時宜ニ依リ之ヲ免除スルコトアルヘシ

第二十五條　手當ノ支給ヲ受ケタル者ニシテ中途退場シタルトキハ支給金額ノ全部又ハ一部ヲ返納セシムルコトアルヘシ但シ特別ノ事情アリト認ムルトキハ此限ニ在ラス

（第一號樣式）

入場願書（半紙自筆タルヘシ）

私儀貴場補習科ヘ入場志願ニ付御許可相成度別紙履歷書及戸籍抄本相添ヘ此段相願候也

年　月　日

現住所　何　某㊞

新潟縣蠶業試驗場長氏名宛

（第二號樣式）

履歷書（用紙半紙自筆タルヘシ）

本籍地

現住所

族籍職業戸主又ハ戸主トノ續柄

何　某　生年月日

一　何年何月ヨリ何年何月迄何學校若ハ何某ニ就キ何學修業

一　何年何月何學校ニ於テ第何學年ノ課程又ハ全課卒業

一　何年何月ヨリ何年何月迄何所ニ於テ養蠶ニ從事ス

一　何年何月何々ニ付賞又ハ罰

右之通相違無之候也

年　月　日　右　何　某㊞

（第三號樣式）

三錢收入印紙

誓書（用紙半紙）

私儀今般貴場講習科補習科へ入場御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク遵守可仕候仍テ保證人連署ノ上誓書差入候也

本籍地

族籍職業戶主又ハ戶主トノ續柄
何　某㊞　生年月日

右某今般入場御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク相守ラセ且同人在場中ニ係ル一切ノ事件ヲ私ニ於テ引受可申仍テ保證候也

年　月　日

現住所
族籍職業入場者トノ關係
何　某㊞　生年月日

新潟縣種鷄場長　殿

（第四號樣式）

新潟縣種鷄業試驗場長氏名宛

卒業證書

場印

氏　名
生年月日

右ハ本場所定ノ（講習科／補習科）課程ヲ修了シタリ仍テ之ヲ證ス

年　月　日

場長　名㊞

（番號）

●新潟縣種鷄場養雞技術練習生採用規程

昭和四年三月八日
新潟縣告示第百二十四號

新潟縣種鷄場養鷄技術練習生採用規程左ノ通定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

養鷄技術練習生採用規程

第一條　新潟縣種鷄場ニ於テ養鷄ノ技術ヲ傳習セムトスル者ノ爲本規程ニ依リ練習生ヲ採用ス

第二條　練習生ハ年齡滿三十歲以下ノ者ニシテ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上ノ學業ヲ修メタル者ノ中ヨリ採用ス

第三條　練習生ノ定員ハ每年二月中新潟縣報ニ公告ス

第四條　練習生タラムトスル者ハ第一號樣式ノ養鷄技術練習生採用願ニ履歷書、學業成績證明書（最後ノ出身學校長ノ證明書）ヲ添ヘ每年三月十日迄ニ種鷄場長ニ差出スヘシ

第五條　練習生ノ採用ヲ許可シタルトキハ其ノ旨出願人ニ通知ス

第六條　練習生ニ採用ノ許可ヲ得タル者ハ保證人連署ヲ以テ第二號樣式ノ誓約書ヲ差出スヘシ

前項ノ保證人ハ本縣內ニ住居ヲ有スル市町村公民タルコトヲ要ス

第七條　練習生ノ練習期間ハ每年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條　練習生ノ練習科目左ノ如シ但シ必要ニ依リ變更スルコトアルヘシ

一　一般畜産ニ關スル事項
一　鷄ノ飼養管理ニ關スル事項
一　孵卵ニ關スル事項
一　育雛ニ關スル事項
一　鷄ノ飼料ニ關スル事項
一　鷄ノ疾病治療ニ關スル事項
一　其ノ他各種實習

第九條　練習生ノ練習中ニ要スル一切ノ經費ハ總テ本人ノ負擔トス

第十條　練習生ニシテ成業ノ見込ナシト認メタルトキハ練習生ヲ免スルコトアルヘシ

トアルヘシ

第十一條　練習ヲ終了シタルトキハ終了證書ヲ授與ス

第十二條　練習生ノ服務心得ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本規程第四條ニ依ル出願期限ハ昭和四年度ニ限リ昭和四年三月二十日迄トス

（第一號樣式）

養鷄技術練習生採用願

私儀今般養鷄技術練習生志願致度ニ付御採用相成度別紙履歷書、學業成績證明書相添ヘ此段相願候也

本籍地
現住所　氏　名㊞

年　月　日

新潟縣種鷄場長　殿

（第二號樣式）

誓約書

私儀今般養鷄技術練習生ニ御採用許可相成候ニ付テハ養鷄技術練習生採用規程其ノ他練習ニ關スル諸規則ヲ遵守致スヘク此段及誓約候也

本籍地
現住所　氏　名㊞

年　月　日

前記何某ノ養鷄技術練習ニ關スル諸規則ノ遵守ニ付テハ拇者ニ於テ其ノ責ニ任スヘク此段保證候也

本籍地
現住所　職業　氏　名㊞

年　月　日

新潟縣種鷄場長　殿

●新潟縣金工試驗場講習生規程

昭和四年七月一日
新潟縣告示第五百七十四號

新潟縣金工試驗場講習生規程左ノ通定ム

新潟縣金工試驗場講習生規程

第一條　新潟縣金工試驗場ニ於テ金工ニ關スル技術ヲ修得セムトスル者ノ爲講習生ヲ置クコトアルヘシ

第二條　講習期間ハ一箇年トス

第三條　講習生タラムトスル者ハ年齡滿十六歲以上ニシテ義務敎育ヲ修了シ一箇年以上金工業ニ經驗ヲ有スル者タルヲ要ス

第四條　講習生タラムトスル者ハ第一號書式願書ニ履歷書ヲ添ヘ保證人連署ノ上場長ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第五條　講習生ハ總テ場長ノ指揮ヲ受クヘシ

第六條　講習生ニシテ成績優良ト認メタル者ニハ證明書ヲ授與スルコトアルヘシ

第七條　講習生ニシテ場務ニ從事シタルトキハ手當ヲ支給スルコトアルヘシ

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退場ヲ命スルコトアルヘシ

一　品行不良
二　疾病又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ成業ノ見込無シト認メタル者